まちづくり町民アンケート

結果報告書

平成２９年１０月

音 更 町

も　く　じ

Ⅰ　調査の概要 1

Ⅱ　回答者の属性 4

1　性別 4
2　年齢 6
3　居住歴 8
4　音更町での居住年数 10
5　勤務地または通学地 12
6　居住地 14
7　職業 16

Ⅲ　設問別調査結果 18

1　暮らしの満足度・重要度（【問１】） 18
（１）満足度について（％での比較） 18
（２）重要度について（％での比較） 18
（３）満足度・重要度について（加重平均値でのマトリックス分析） 21
（４）満足度について（加重平均での比較） 23
（５）重要度について（加重平均での比較） 26
2　今後のまちづくりで特に重要だと思うもの（【問１】） 29
3　住み良さ（【問２】） 50
4　定住意向（【問３】【問４】） 53
（１）音更町に住み続けたいか 53
（２）町外に移りたい理由 56
5　産業の振興（【問５】【問６】【問７】） 60
（１）産業全般について 60
（２）農業の振興について 64
（３）農業とのかかわりを深めるためにできること 69
6　まちづくりへの関心や参加（【問８】【問９】【問 10】） 73
（１）まちづくりや町民参加に関する考え方について 73
（２）町民協働によるまちづくりを進めるうえで重要だと思うこと 81
（３）参加したい（している）まちづくり活動 84
7　広報、情報提供（【問 11】【問 12】【問 13】） 89
（１）情報を伝える方法として充実すべきもの 89
（２）「広報おとふけ」と町のホームページについて 91
（３）まちづくりや地域に関する情報で望む内容 96
8　移住・定住（【問 14】） 100
9　行政改革（【問 15】【問 16】） 104
（１）行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目 104
（２）なくしたり廃止しても良いと思う制度や施設、事業など 107
10　まちづくりへのアイデアや提案（【問 17】） 109

Ⅳ　調査票 121

Ⅰ　調査の概要

このアンケートは、「第５期音更町総合計画」（平成 23 年度～平成 32 年度）を推進するうえで、音更町での暮らしや課題などについて、町民の皆様からご意見や評価をいただくために実施しました。調査の実施概要については、次のとおりです。

対象	音更町に在住する 18 歳以上の町民 1,000 名（無作為抽出） （対象者が回答できない場合は、ほかのご家族の方（18 歳以上の方）が回答）
配布・回収方法	郵送にて配布、回収
調査時期	平成 29 年６月
回収数	431 票（回収率 43.1%）

報告書の集計・表記方法についての留意点は、次のとおりです。

・比較や順位付けは、回答数ではなく「回答率」や「加重平均値」で行っています。そのため、「多い・少ない」ではなく、「高い・低い」と表記しています。

・説明は「全回答者（431 人）」の説明（○の部分）のほか、男女や年齢など「属性別」の説明（●の部分）を記載しています。すべての属性ごとに集計していますが、この報告書では、「全体」と「性別・年齢別」の集計結果を中心に説明しています。

・グラフの中に［　］で示している数は、回答者の数です。性別、年齢別ごとの回答者数は、「無回答」を除いて表示しているため、合計が全体数（431 人）にはなりません。

・集計結果は、小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位までを百分率(%)で表示しています。そのため、選択肢から１つだけ選択する設問では、%を合計しても 100.0%にならないことがあります。

・実際に用いた調査票の言葉が長い選択肢については、グラフや文章で示す際、文章を短縮しているものがあります。

・その他に記載のあった内容については、同じ内容のものについてはまとめ、回答数を（　）で示しています。

・自由記載の回答については、記述事項を一部整理・要約して掲載しています。

調査の企画・編集：音更町役場　企画財政部企画課企画調整係
結果の集計・分析：株式会社　日本コンサルタントグループ

属性別の回収票内訳

（単位：票）

全　　体		431
１）性別	男性	168
	女性	253
２）居住歴	音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる	66
	音更町生まれ、転出後、再び音更町に住んでいる	50
	音更町外で生まれ、現在音更町に住んでいる	311
３）居住年数	5 年未満	31
	5 年以上 10 年未満	30
	10 年以上 20 年未満	91
	20 年以上	241
４）勤務・通学先	音更町内	158
	帯広市	104
	その他	91
５）居住地	農村部	42
	駒場地区	12
	音更市街	69
	木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区含む）	231
	宝来・ひびき野市街	64
	十勝川温泉市街	3
６）年齢	18～29 歳	34
	30 歳代	48
	40 歳代	71
	50 歳代	76
	60 歳代	107
	70 歳代以上	91
７）職業	農林漁業	36
	製造業・建設業	49
	商業・サービス業・金融業など	61
	医療・福祉関係	45
	公務・団体等勤務	34
	その他の職業	46
	学生	3
	家事専業（主婦・主夫）	77
	無職	62

前回との比較について

比較が可能な設問については、昨年実施した「町民アンケート」との比較を行っています。前回実施のアンケートの概要については、次のとおりです。

前回のアンケートの概要

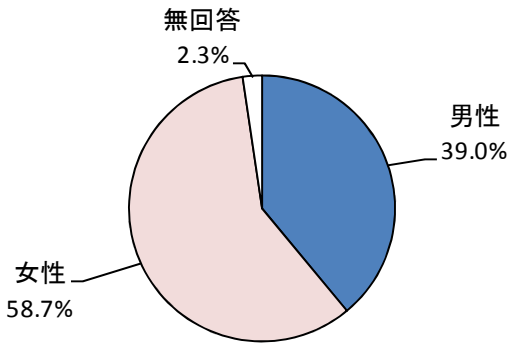
対象	音更町に在住する 18 歳以上の町民 1,000 名（無作為抽出） （対象者が回答できない場合は、ほかのご家族の方（18 歳以上の方）が回答）
配布・回収方法	郵送にて配布、回収
調査時期	平成 28 年８月
回収数	415 票（回収率 41.5%）

Ⅱ　回答者の属性

1　性別

○「男性」が 39.0%、「女性」が 58.7%で、女性が約６割を占めます。

1）性別（431人）



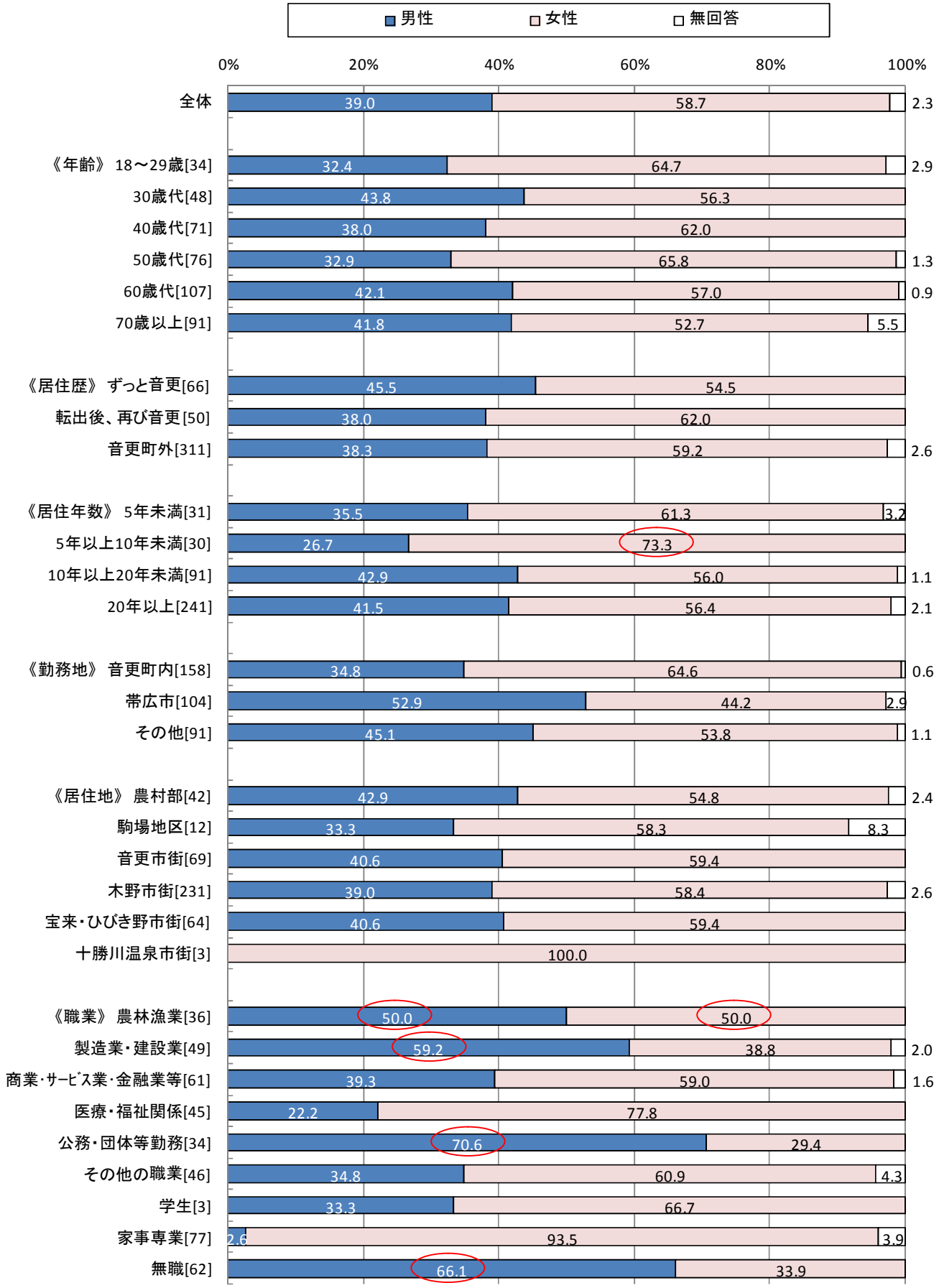
●年齢別でみると、いずれも「女性」の割合が高くなっています。

●居住歴別でみると、いずれも「女性」の割合が高くなっています。

●居住年数でみると、５年以上 10 年未満は、「女性」が７割以上を占めます。

●職業別でみると、製造・建設業、公務･団体等勤務、無職は「男性」が高くなっています。
農林漁業は男女同率です。

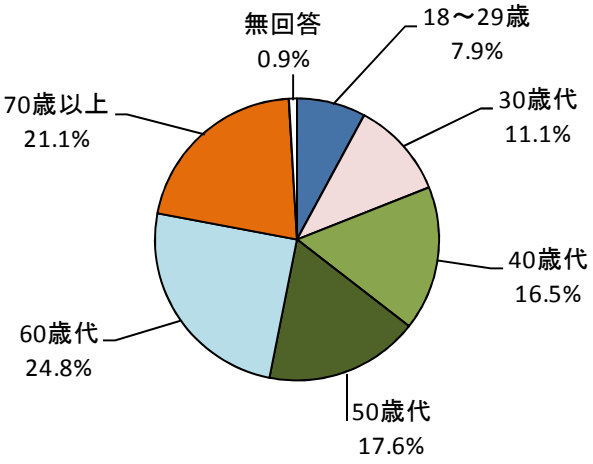
1）性別（属性別）


男性
女性
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 39.0 58.7 2.3
《年齢》 18～29歳[34] 32.4 64.7 2.9
30歳代[48] 43.8 56.3
40歳代[71] 38.0 62.0
50歳代[76] 32.9 65.8 1.3
60歳代[107] 42.1 57.0 0.9
70歳以上[91] 41.8 52.7 5.5
《居住歴》 ずっと音更[66] 45.5 54.5
転出後、再び音更[50] 38.0 62.0
音更町外[311] 38.3 59.2 2.6
《居住年数》 5年未満[31] 35.5 61.3 3.2
5年以上10年未満[30] 26.7 73.3
10年以上20年未満[91] 42.9 56.0 1.1
20年以上[241] 41.5 56.4 2.1
《勤務地》 音更町内[158] 34.8 64.6 0.6
帯広市[104] 52.9 44.2 2.9
その他[91] 45.1 53.8 1.1
《居住地》 農村部[42] 42.9 54.8 2.4
駒場地区[12] 33.3 58.3 8.3
音更市街[69] 40.6 59.4
木野市街[231] 39.0 58.4 2.6
宝来・ひびき野市街[64] 40.6 59.4
十勝川温泉市街[3] 100.0
《職業》 農林漁業[36] 50.0 50.0
製造業・建設業[49] 59.2 38.8 2.0
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[61] 39.3 59.0 1.6
医療・福祉関係[45] 22.2 77.8
公務・団体等勤務[34] 70.6 29.4
その他の職業[46] 34.8 60.9 4.3
学生[3] 33.3 66.7
家事専業[77] 2.6 93.5 3.9
無職[62] 66.1 33.9

２　年齢

○「60 歳代」（24.8%）が最も高く、「70 歳以上」（21.1%）、「50 歳代」（17.6%）、「40 歳代」（16.5%）、「30 歳代」（11.1%）と続きます。最も低いのは「18～29 歳」（7.9%）です。

2）年齢（431人）



●性別でみると、男女とも「60 歳代」が最も高くなっています。男性は「60 歳代」と「70 歳以上」で約半数を占めている一方、女性は男性より「40 歳代」や「50 歳代」の割合が高くなっています。

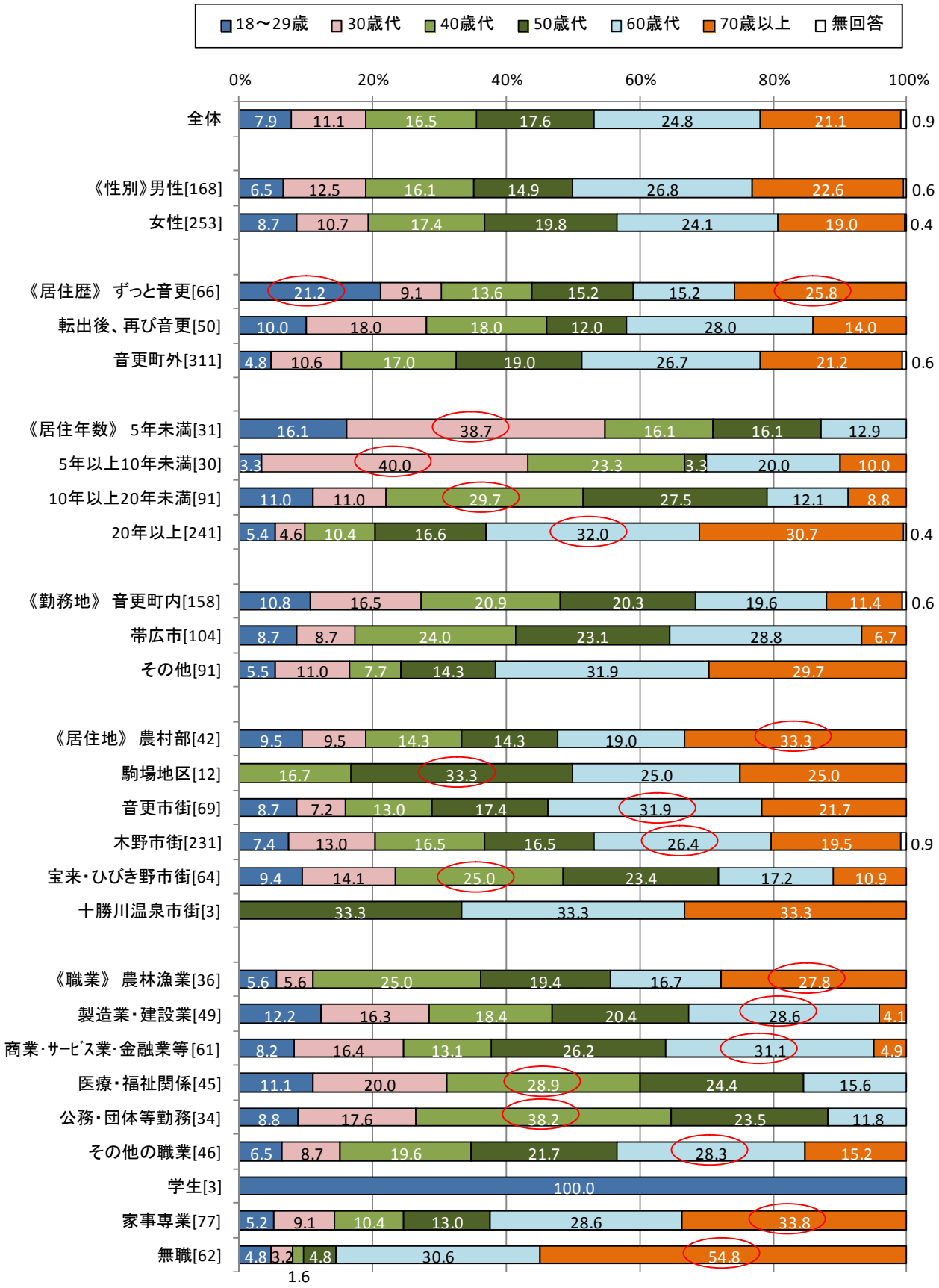
●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は「70 歳以上」が約４分の１を占め最も高くなっています。また、「18～29 歳」も約２割を占め、他に比べて高くなっています。

●居住年数別でみると、20 年以上は「60 歳代」が最も高くなっていますが、5 年未満と 5 年以上 10 年未満は「30 歳代」、10 年以上 20 年未満は「40 歳代」が、それぞれ最も高くなっています。

●居住地別でみると、音更市街と木野市街は「60 歳代」が最も高くなっていますが、農村部は「70 歳以上」、駒場地区は「50 歳代」、宝来・ひびき野市街は「40 歳代」がそれぞれ最も高くなっています。十勝川温泉市街は「50 歳代」「60 歳代」「70 歳以上」が同率です（回答者数が３人のため１人ずつ）。

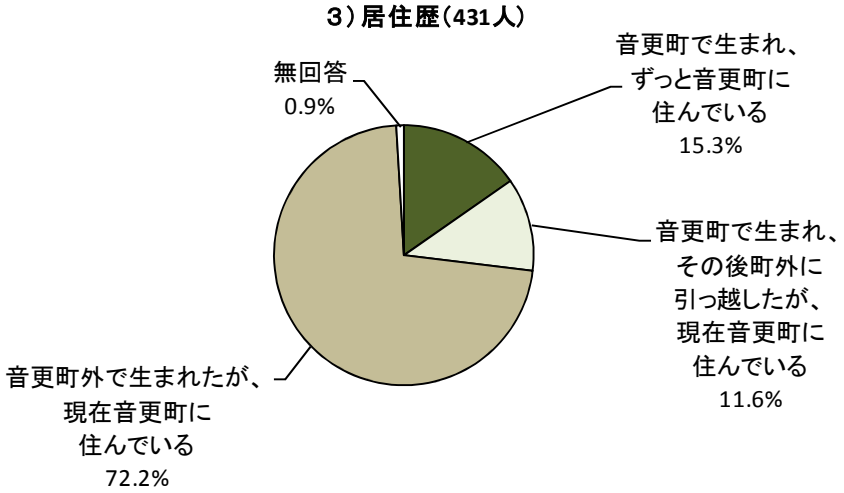
●職業別でみると、製造業・建設業、商業・サービス業・金融業等、その他の職業は「60 歳代」が最も高くなっていますが、農林漁業、家事専業、無職は「70 歳以上」、医療･福祉関係と公務・団体等勤務は「40 歳代」が、それぞれ最も高くなっています。

2）年齢（属性別）


18～29歳
30歳代
40歳代
50歳代
60歳代
70歳以上
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 7.9 11.1 16.5 17.6 24.8 21.1 0.9
《性別》男性[168] 6.5 12.5 16.1 14.9 26.8 22.6 0.6
女性[253] 8.7 10.7 17.4 19.8 24.1 19.0 0.4
《居住歴》 ずっと音更[66] 21.2 9.1 13.6 15.2 15.2 25.8
転出後、再び音更[50] 10.0 18.0 18.0 12.0 28.0 14.0
音更町外[311] 4.8 10.6 17.0 19.0 26.7 21.2 0.6
《居住年数》 5年未満[31] 16.1 38.7 16.1 16.1 12.9
5年以上10年未満[30] 3.3 40.0 23.3 3.3 20.0 10.0
10年以上20年未満[91] 11.0 11.0 29.7 27.5 12.1 8.8
20年以上[241] 5.4 4.6 10.4 16.6 32.0 30.7 0.4
《勤務地》 音更町内[158] 10.8 16.5 20.9 20.3 19.6 11.4 0.6
帯広市[104] 8.7 8.7 24.0 23.1 28.8 6.7
その他[91] 5.5 11.0 7.7 14.3 31.9 29.7
《居住地》 農村部[42] 9.5 9.5 14.3 14.3 19.0 33.3
駒場地区[12] 16.7 33.3 25.0 25.0
音更市街[69] 8.7 7.2 13.0 17.4 31.9 21.7
木野市街[231] 7.4 13.0 16.5 16.5 26.4 19.5 0.9
宝来・ひびき野市街[64] 9.4 14.1 25.0 23.4 17.2 10.9
十勝川温泉市街[3] 33.3 33.3 33.3
《職業》 農林漁業[36] 5.6 5.6 25.0 19.4 16.7 27.8
製造業・建設業[49] 12.2 16.3 18.4 20.4 28.6 4.1
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[61] 8.2 16.4 13.1 26.2 31.1 4.9
医療・福祉関係[45] 11.1 20.0 28.9 24.4 15.6
公務・団体等勤務[34] 8.8 17.6 38.2 23.5 11.8
その他の職業[46] 6.5 8.7 19.6 21.7 28.3 15.2
学生[3] 100.0
家事専業[77] 5.2 9.1 10.4 13.0 28.6 33.8
無職[62] 4.8 3.2 4.8 30.6 54.8
1.6

３　居住歴

○「音更町外で生まれたが、現在音更町に住んでいる（音更町外）」（72.2%）が最も高く、「音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる（ずっと音更）」（15.3%）、「音更町で生まれ、その後町外に引っ越したが、現在音更町に住んでいる（転出後、再び音更）」（11.6%）の順です。



●性別でみると、「ずっと音更」は男性の方がやや高くなっています。

●年齢別でみると、18～29 歳は「音更町外」が４割程度で、「ずっと音更」が同じく約４割を占めます。

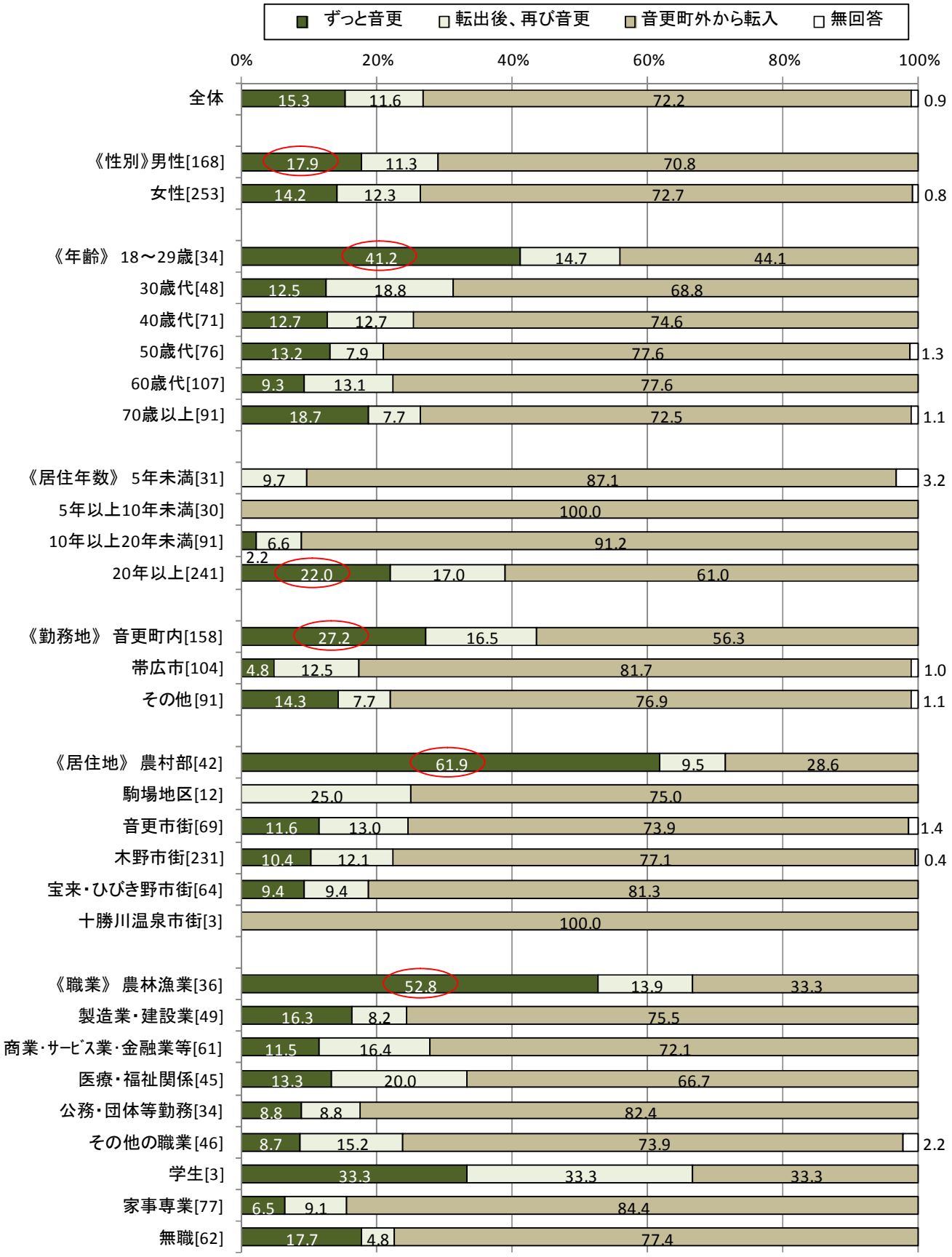
●居住年数別でみると、20 年以上は「ずっと音更」が約２割を占め、他より高くなっています。

●勤務地別でみると、音更町内に通勤の回答者は「ずっと音更」が約３割を占め、他より高くなっています。

●居住地別でみると、農村部は「ずっと音更」が約６割を占めます。

●職業別でみると、農林漁業は「ずっと音更」が約半数を占めます。

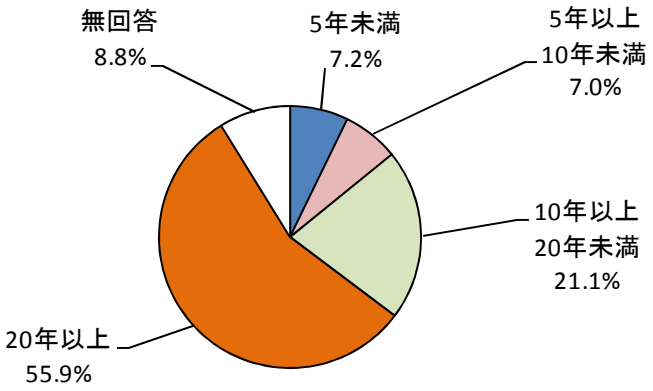
3）居住歴（属性別）


ずっと音更
転出後、再び音更
音更町外から転入
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 15.3 11.6 72.2 0.9
《性別》男性[168] 17.9 11.3 70.8
女性[253] 14.2 12.3 72.7 0.8
《年齢》 18～29歳[34] 41.2 14.7 44.1
30歳代[48] 12.5 18.8 68.8
40歳代[71] 12.7 12.7 74.6
50歳代[76] 13.2 7.9 77.6 1.3
60歳代[107] 9.3 13.1 77.6
70歳以上[91] 18.7 7.7 72.5 1.1
《居住年数》 5年未満[31] 9.7 87.1 3.2
5年以上10年未満[30] 100.0
10年以上20年未満[91] 2.2 6.6 91.2
20年以上[241] 22.0 17.0 61.0
《勤務地》 音更町内[158] 27.2 16.5 56.3
帯広市[104] 4.8 12.5 81.7 1.0
その他[91] 14.3 7.7 76.9 1.1
《居住地》 農村部[42] 61.9 9.5 28.6
駒場地区[12] 25.0 75.0
音更市街[69] 11.6 13.0 73.9 1.4
木野市街[231] 10.4 12.1 77.1 0.4
宝来・ひびき野市街[64] 9.4 9.4 81.3
十勝川温泉市街[3] 100.0
《職業》 農林漁業[36] 52.8 13.9 33.3
製造業・建設業[49] 16.3 8.2 75.5
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[61] 11.5 16.4 72.1
医療・福祉関係[45] 13.3 20.0 66.7
公務・団体等勤務[34] 8.8 8.8 82.4
その他の職業[46] 8.7 15.2 73.9 2.2
学生[3] 33.3 33.3 33.3
家事専業[77] 6.5 9.1 84.4
無職[62] 17.7 4.8 77.4

4　音更町での居住年数

○「20 年以上」（55.9%）が最も高く、「10 年以上 20 年未満」（21.1%）が続きます。

4）居住年数（431人）



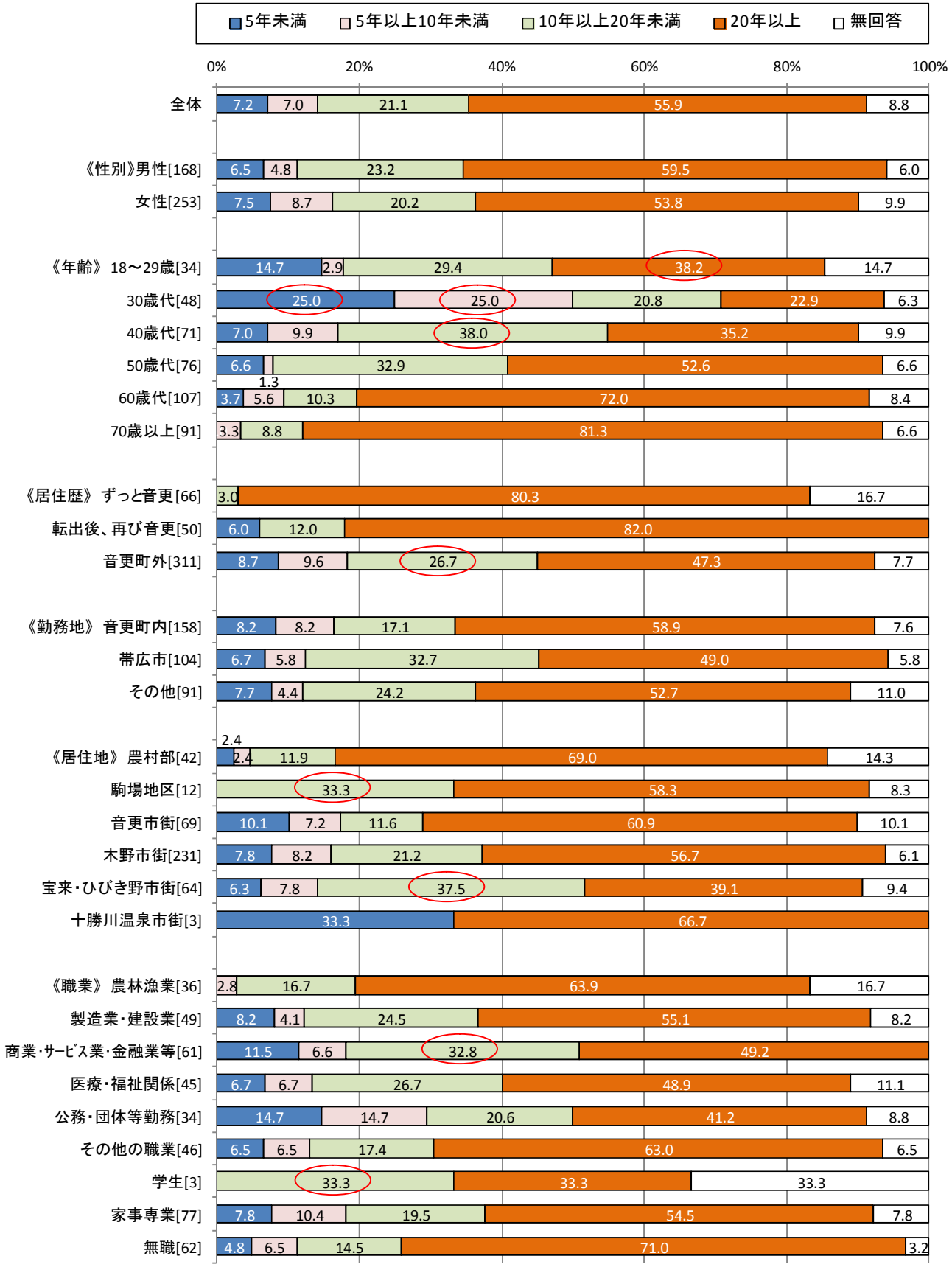
●年齢別でみると、30 歳代と 40 歳代以外は「20 年以上」が最も高くなっています。30 歳代は「５年未満」と「５年以上 10 年未満」が同率で４分の１ずつを占め、40 歳代は「10 年以上 20 年未満」が最も高くなっています。

●居住歴別でみると、いずれも「20 年以上」が最も高く、ずっと音更と転出後再び音更の回答者はそれぞれ約８割を占めます。一方、音更町外の回答者は「10 年以上 20 年未満」が３割弱を占めます。

●居住地別でみると、いずれも「20 年以上」が最も高くなっていますが、駒場地区と宝来・ひびき野市街は「10 年以上 20 年未満」が３割以上を占め、他の地区に比べて高くなっています。

●職業別でみると、学生以外は「20 年以上」が最も高くなっていますが、学生は「10 年以上 20 年未満」「20 年以上」「無回答」が同率です（回答者数が３人のため１人ずつ）。

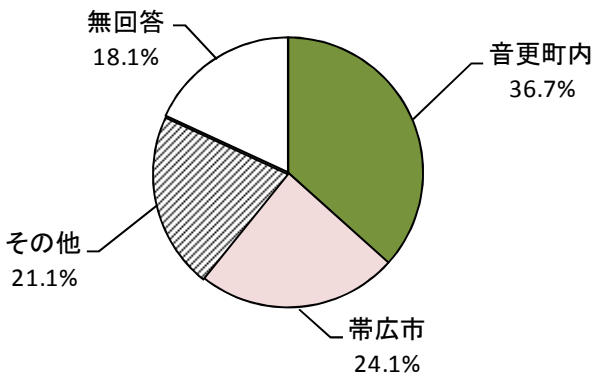
4）居住年数（属性別）


5年未満
5年以上10年未満
10年以上20年未満
20年以上
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 7.2 7.0 21.1 55.9 8.8
《性別》男性[168] 6.5 4.8 23.2 59.5 6.0
女性[253] 7.5 8.7 20.2 53.8 9.9
《年齢》18～29歳[34] 14.7 2.9 29.4 38.2 14.7
30歳代[48] 25.0 25.0 20.8 22.9 6.3
40歳代[71] 7.0 9.9 38.0 35.2 9.9
50歳代[76] 6.6 1.3 32.9 52.6 6.6
60歳代[107] 3.7 5.6 10.3 72.0 8.4
70歳以上[91] 3.3 8.8 81.3 6.6
《居住歴》ずっと音更[66] 3.0 80.3 16.7
転出後、再び音更[50] 6.0 12.0 82.0
音更町外[311] 8.7 9.6 26.7 47.3 7.7
《勤務地》音更町内[158] 8.2 8.2 17.1 58.9 7.6
帯広市[104] 6.7 5.8 32.7 49.0 5.8
その他[91] 7.7 4.4 24.2 52.7 11.0
《居住地》農村部[42] 2.4 2.4 11.9 69.0 14.3
駒場地区[12] 33.3 58.3 8.3
音更市街[69] 10.1 7.2 11.6 60.9 10.1
木野市街[231] 7.8 8.2 21.2 56.7 6.1
宝来・ひびき野市街[64] 6.3 7.8 37.5 39.1 9.4
十勝川温泉市街[3] 33.3 66.7
《職業》農林漁業[36] 2.8 16.7 63.9 16.7
製造業・建設業[49] 8.2 4.1 24.5 55.1 8.2
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[61] 11.5 6.6 32.8 49.2
医療・福祉関係[45] 6.7 6.7 26.7 48.9 11.1
公務・団体等勤務[34] 14.7 14.7 20.6 41.2 8.8
その他の職業[46] 6.5 6.5 17.4 63.0 6.5
学生[3] 33.3 33.3 33.3
家事専業[77] 7.8 10.4 19.5 54.5 7.8
無職[62] 4.8 6.5 14.5 71.0 3.2

５　勤務地または通学地

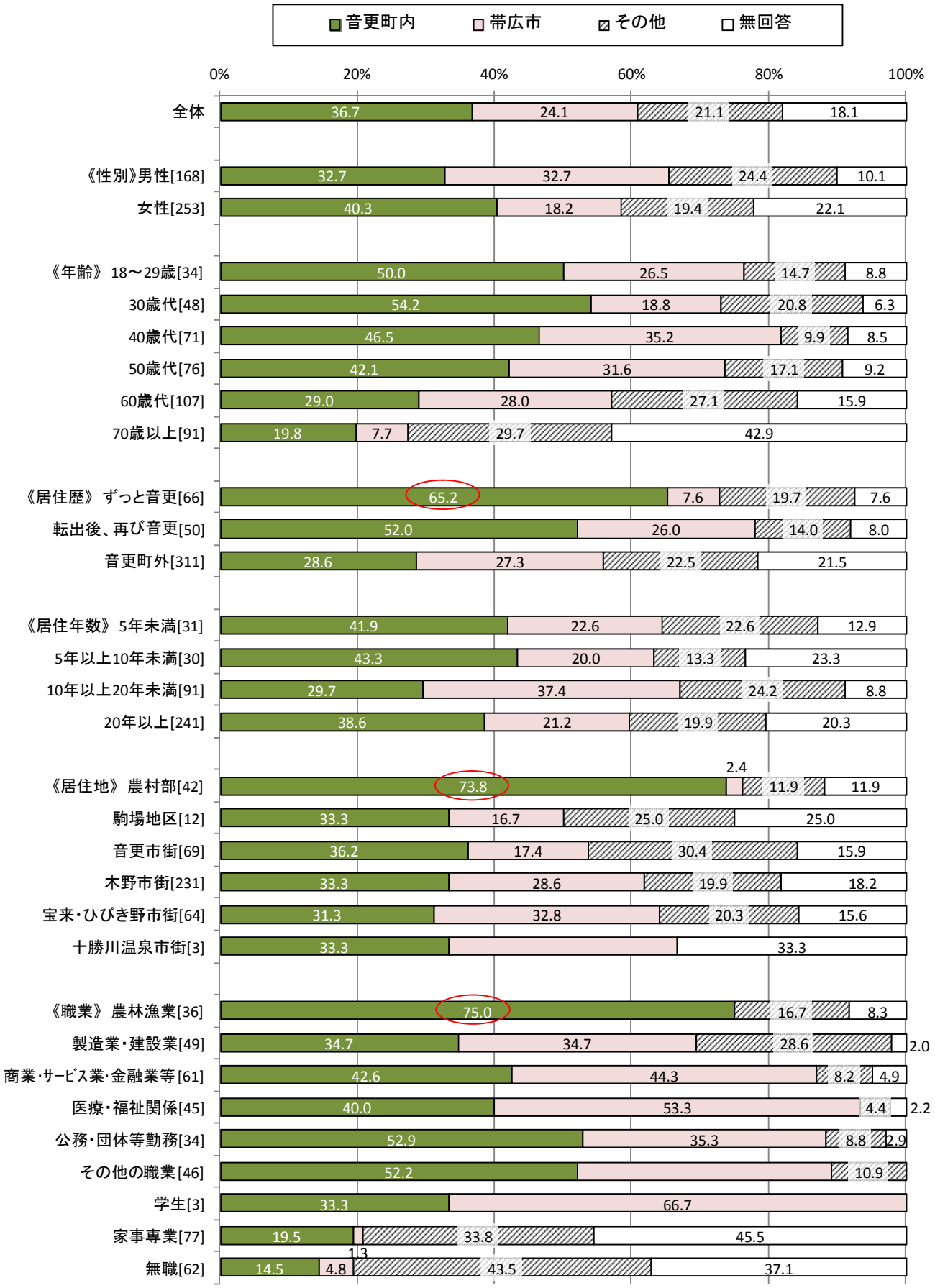
○「音更町内」（36.7%）、「帯広市」（24.1%）、「その他」（21.1%）の順です。

５）勤務または通学先（431人）



●年齢別でみると、18～29 歳と 30 歳代は「音更町内」が半数以上を占めます。
●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は「音更町内」が６割以上を占めます。
●居住地別でみると、農村部は「音更町内」が７割以上を占めます。
●職業別でみると、農林漁業は「音更町内」が４分の３を占めます。

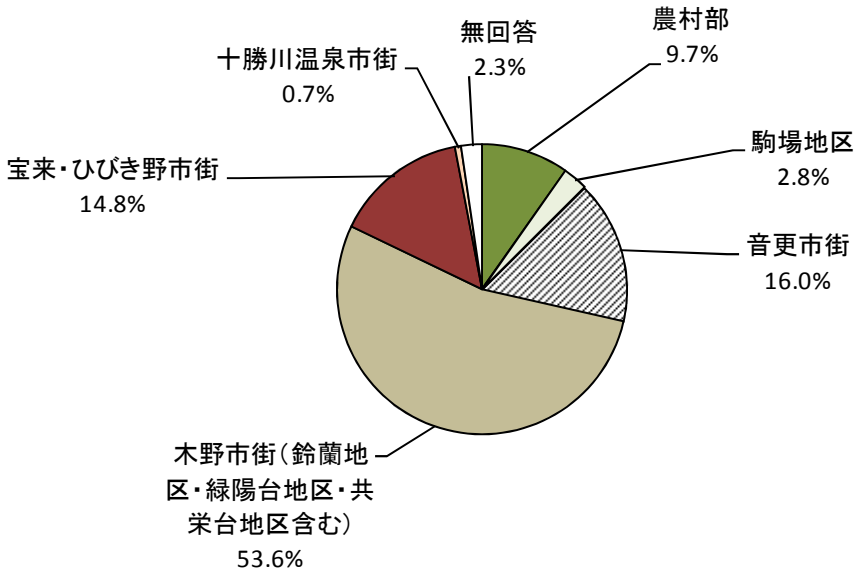
5）勤務または通学先（属性別）



６　居住地

○「木野市街」（53.6%）が最も高く、「音更市街」（16.0%）、「宝来・ひびき野市街」（14.8%）、「駒場地区」（2.8%）、「農村部」（9.7%）、「十勝川温泉市街」（0.7%）です。

６）居住地（431人）



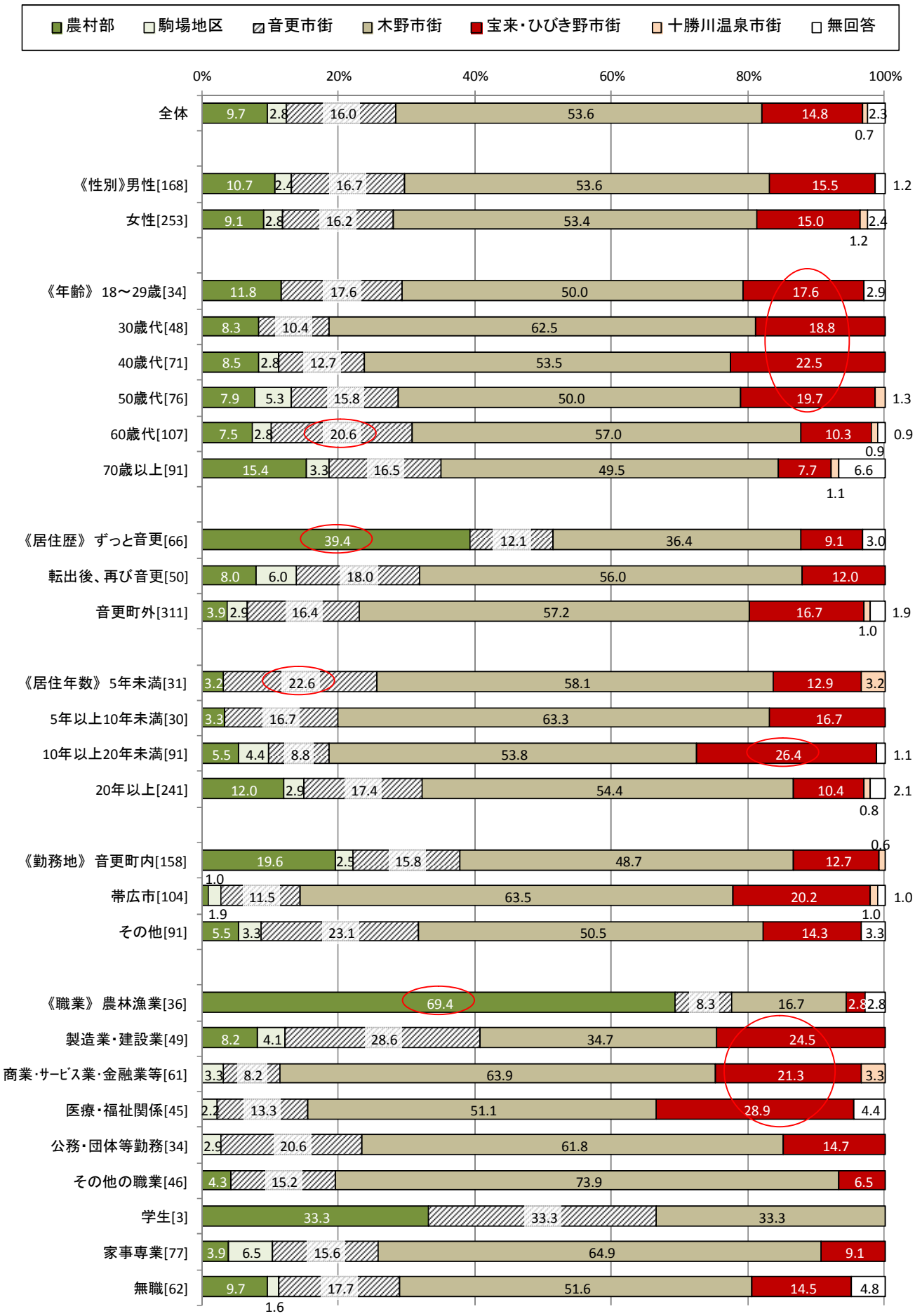
●年齢別でみると、60 歳代は「音更市街」が約２割を占め、他に比べて回答率が高くなっています。また、50 歳代以下の年齢は「宝来・ひびき野市街」が２割前後を占め、60 歳代や 70 歳以上より回答率が高くなっています。

●居住歴別でみると、ずっと音更の回答者は、「農村部」が約４割で最も高くなっています。

●居住年数別でみると、５年未満は「音更市街」、10 年以上 20 年未満は「宝来･ひびき野市街」がそれぞれ２割以上を占め、他に比べて高くなっています。

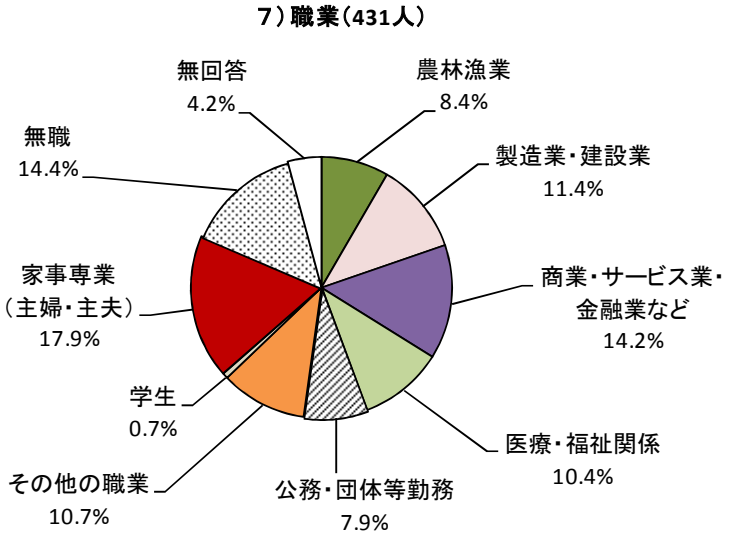
●職業別でみると、農林漁業は「農村部」が約７割を占めます。製造業･建設業、商業･サービス業･金融業等、医療･福祉関係は「宝来･ひびき野市街」が２割以上を占め、他に比べて高くなっています。

6）居住地（属性別）


農村部
駒場地区
音更市街
木野市街
宝来・ひびき野市街
十勝川温泉市街
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 9.7 2.8 16.0 53.6 14.8 2.3 0.7
《性別》男性[168] 10.7 2.4 16.7 53.6 15.5 1.2
女性[253] 9.1 2.8 16.2 53.4 15.0 2.4 1.2
《年齢》18～29歳[34] 11.8 17.6 50.0 17.6 2.9
30歳代[48] 8.3 10.4 62.5 18.8
40歳代[71] 8.5 2.8 12.7 53.5 22.5
50歳代[76] 7.9 5.3 15.8 50.0 19.7 1.3
60歳代[107] 7.5 2.8 20.6 57.0 10.3 0.9 0.9
70歳以上[91] 15.4 3.3 16.5 49.5 7.7 6.6 1.1
《居住歴》ずっと音更[66] 39.4 12.1 36.4 9.1 3.0
転出後、再び音更[50] 8.0 6.0 18.0 56.0 12.0
音更町外[311] 3.9 2.9 16.4 57.2 16.7 1.9 1.0
《居住年数》5年未満[31] 3.2 22.6 58.1 12.9 3.2
5年以上10年未満[30] 3.3 16.7 63.3 16.7
10年以上20年未満[91] 5.5 4.4 8.8 53.8 26.4 1.1
20年以上[241] 12.0 2.9 17.4 54.4 10.4 2.1 0.8
《勤務地》音更町内[158] 19.6 2.5 15.8 48.7 12.7 0.6
帯広市[104] 1.0 11.5 63.5 20.2 1.0 1.9 1.0
その他[91] 5.5 3.3 23.1 50.5 14.3 3.3
《職業》農林漁業[36] 69.4 8.3 16.7 2.8 2.8
製造業・建設業[49] 8.2 4.1 28.6 34.7 24.5
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等[61] 3.3 8.2 63.9 21.3 3.3
医療・福祉関係[45] 2.2 13.3 51.1 28.9 4.4
公務・団体等勤務[34] 2.9 20.6 61.8 14.7
その他の職業[46] 4.3 15.2 73.9 6.5
学生[3] 33.3 33.3 33.3
家事専業[77] 3.9 6.5 15.6 64.9 9.1
無職[62] 9.7 1.6 17.7 51.6 14.5 4.8

7　職業

○「家事専業（主婦・主夫）」（17.9%）が最も高く、「無職」（14.4%）、「商業・サービス業・金融業など」（14.2%）、「製造業・建設業」（11.4%）と続きます。



●性別でみると、男性は「無職」、女性は「家事専業」が最も高くなっています。また「製造業･建設業」や「公務・団体等勤務」は男性、「医療･福祉関係」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

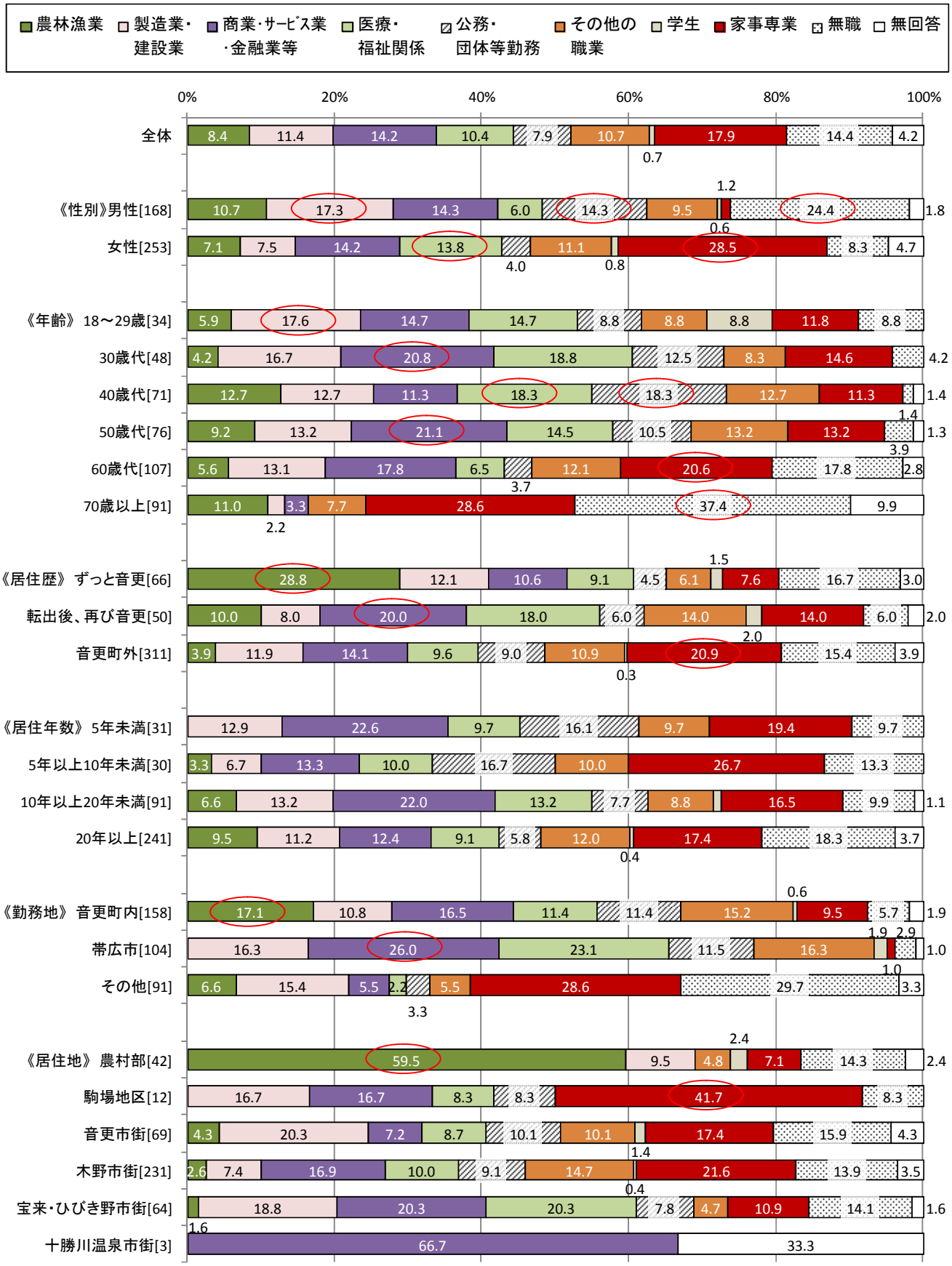
●年齢別でみると、18～29 歳は「製造業･建設業」、30 歳代と 50 歳代は「商業・サービス業・金融業など」、40 歳代は「医療･福祉関係」と「公務・団体等勤務」（同率）、60 歳代は「家事専業」、70 歳以上は「無職」が、それぞれ最も高くなっています。

●居住歴別でみると、ずっと音更町の回答者は「農林漁業」、転出後再び音更町の回答者の回答者は「商業・サービス業・金融業など」、音更町外の回答者は「家事専業」が、それぞれ最も高くなっています。

●勤務地別でみると、音更町内の回答者は「農林漁業」、帯広市の回答者は「商業・サービス業・金融業など」が、それぞれ最も高くなっています。

●居住地別でみると、農村部は「農林漁業」が約６割、駒場地区は「家事専業」が約４割を占め、他に比べて高いのがめだちます。

7）職業（属性別）


農林漁業
製造業・建設業
商業・ｻｰﾋﾞｽ業・金融業等
医療・福祉関係
公務・団体等勤務
その他の職業
学生
家事専業
無職
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体
《性別》男性[168]
女性[253]
《年齢》18～29歳[34]
30歳代[48]
40歳代[71]
50歳代[76]
60歳代[107]
70歳以上[91]
《居住歴》ずっと音更[66]
転出後、再び音更[50]
音更町外[311]
《居住年数》5年未満[31]
5年以上10年未満[30]
10年以上20年未満[91]
20年以上[241]
《勤務地》音更町内[158]
帯広市[104]
その他[91]
《居住地》農村部[42]
駒場地区[12]
音更市街[69]
木野市街[231]
宝来・ひびき野市街[64]
十勝川温泉市街[3]

Ⅲ　設問別調査結果

１　暮らしの満足度・重要度（【問１】）

【問１】音更町での暮らしについておたずねします。

（１）次の分野について、「①現在の満足度」と、「②今後の重要度」を各選択肢（Ａ～Ｅ）からお知らせください。（各項目○は１つ）

（１）満足度について（％での比較）

○「満足」が最も高いのは「34.日常の買い物環境」（23.7%）で、「16.ごみの収集・リサイクル」（14.6%）、「29.上下水道の整備」（13.2%）と続きます。

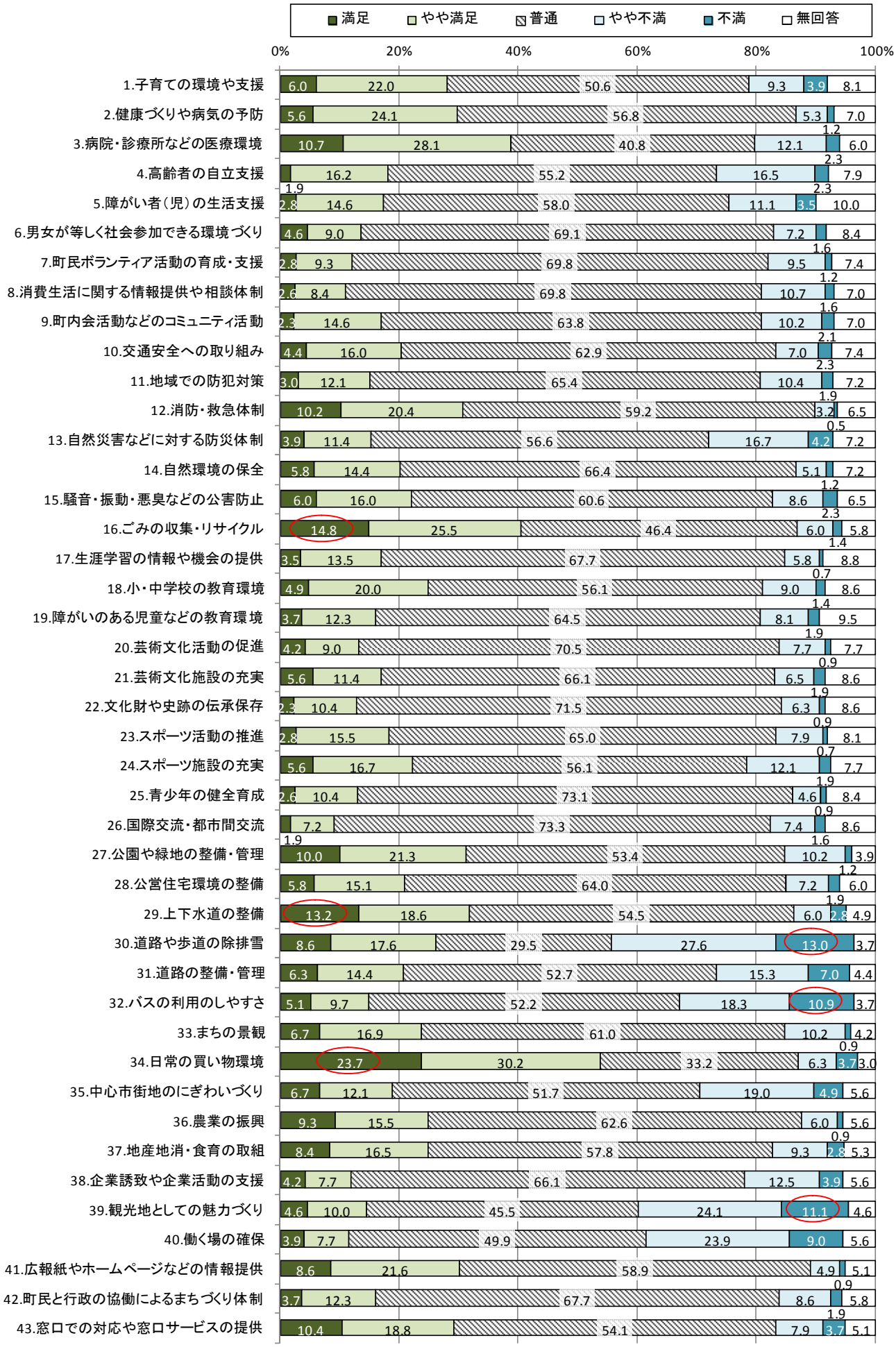
○一方、「不満」が最も高いのは「30.道路や歩道の除排雪」（13.0%）で、「39.観光地としての魅力づくり」（11.1%）、「32.バスの利用のしやすさ」（10.9%）と続きます。

（２）重要度について（％での比較）

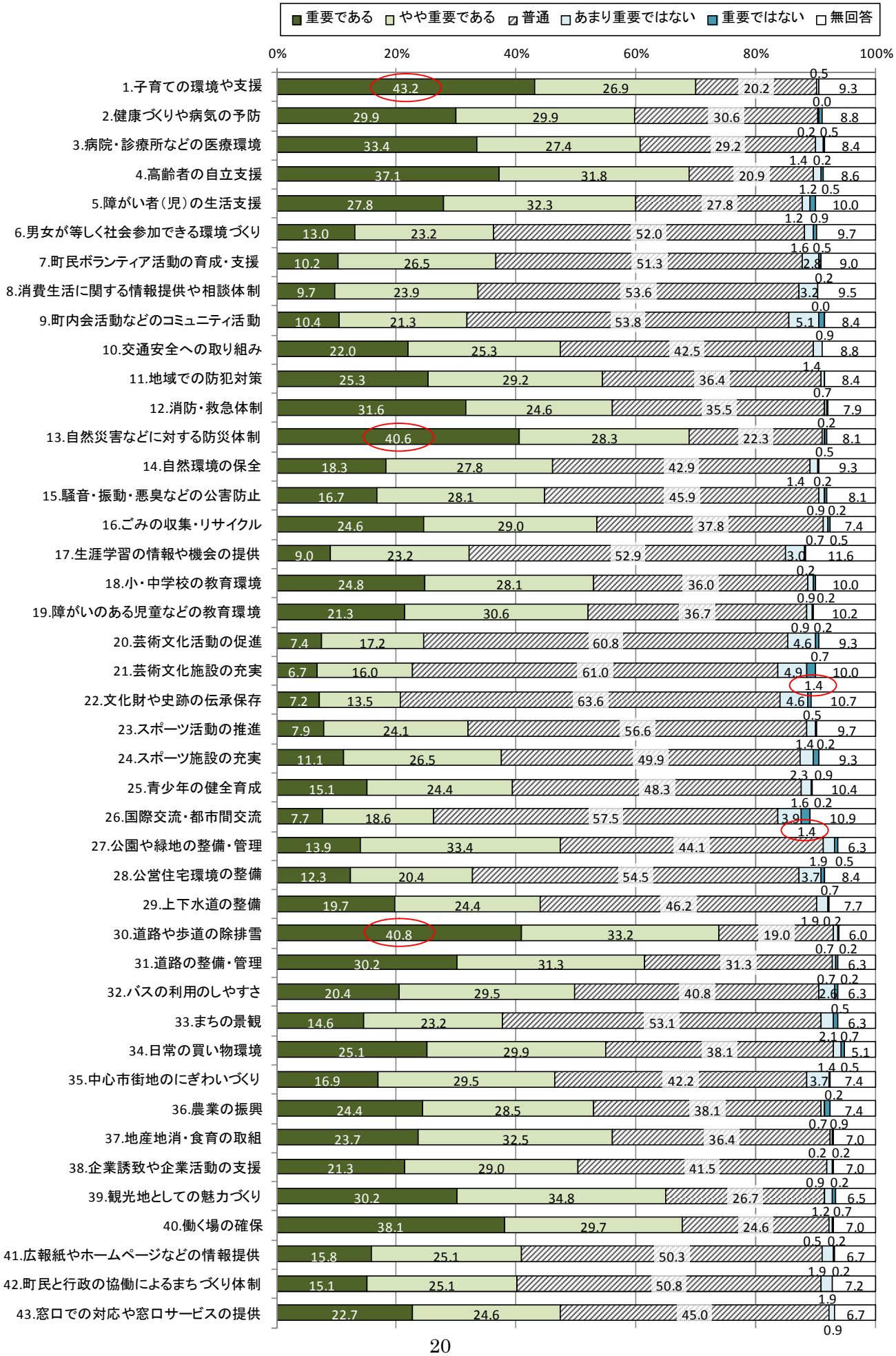
○「重要」が最も高いのは「1.子育ての環境や支援」（43.2%）で、「30.道路や歩道の除排雪」（40.8%）、「13.自然災害などに対する防災体制」（40.6%）と続きます。

○「重要ではない」が最も高いのは「21.芸術文化施設の充実」と「26.国際交流・都市間交流」（同率）ですが、1.4%と低い数値です。

【問１】暮らしの満足度について（431人）



【問１】暮らしの重要度について（431人）



（３）満足度・重要度について（加重平均値でのマトリックス分析）

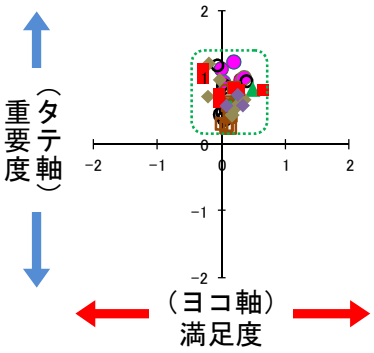
○満足度の加重平均値※が最も高いのは、「34.日常の買い物環境」で、「16.ごみの収集・リサイクル」が続きます。最も低いのは「39.観光地としての魅力づくり」と「40.働く場の確保」（同数値）です。

○重要度の加重平均値は全項目プラスです。最も高いのは「1.子育ての環境や支援」で、「30.道路や歩道の除排雪」が続きます。最も低いのは「21.芸術文化施設の充実」です。

※「加重平均値」とは回答者が選んだ選択肢から平均を算出した数値です。算出方法は次のとおりです。
満足度：｛(満足×2) +(やや満足×1)+(普通×0)+(やや不満×-1)+(不満×-2)｝÷回答者数
重要度：｛(重要×2) +(やや重要×1)+(普通×0)+(あまり重要ではない×-1)+(重要ではない×-2)｝÷回答者数
数値は－２から＋２の範囲で、－２に近いほど低く、＋２に近いほど高い、とみます。

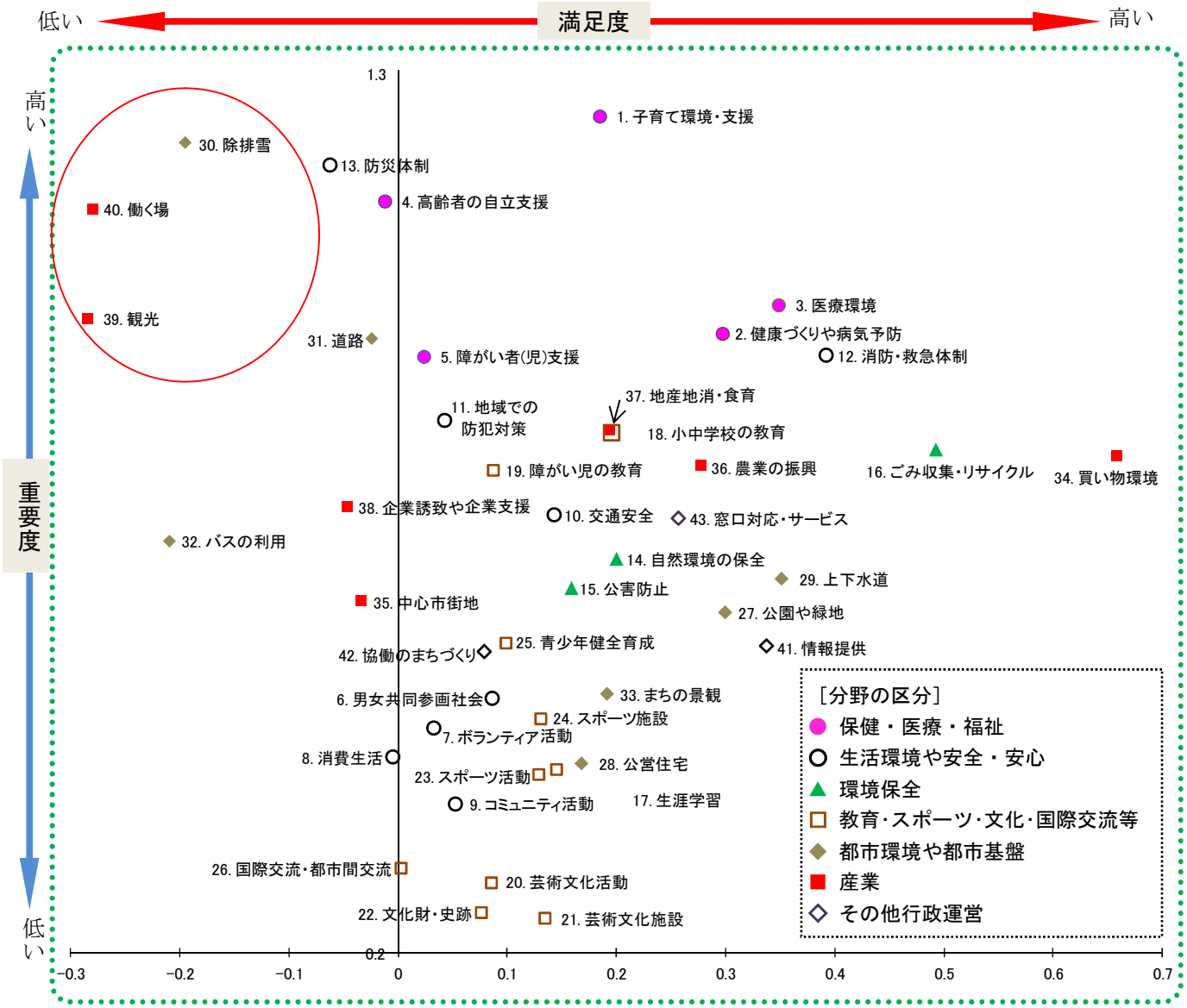
暮らしの項目	満足度	重要度
1. 子育ての環境や支援	0.18	1.24（最高）
2. 健康づくりや病気の予防	0.30	0.97
3. 病院・診療所などの医療環境	0.35	1.01
4. 高齢者の自立支援	-0.01	1.14
5. 障がい者(児)の生活支援	0.02	0.94
6. 男女が等しく社会参加できる環境づくり	0.09	0.52
7. 町民ボランティア活動の育成・支援	0.03	0.48
8. 消費生活に関する情報提供や相談体制	0.00	0.44
9. 町内会活動などのコミュニティ活動	0.05	0.38
10. 交通安全への取り組み	0.14	0.75
11. 地域での防犯対策	0.04	0.86
12. 消防・救急体制	0.39	0.94
13. 自然災害などに対する防災体制	-0.06	1.18
14. 自然環境の保全	0.20	0.69
15. 騒音・振動・悪臭などの公害防止	0.16	0.65
16. ごみの収集・リサイクル	0.49	0.83
17. 生涯学習の情報や機会の提供	0.15	0.43
18. 小・中学校の教育環境	0.20	0.85
19. 障がいのある児童などの教育環境	0.09	0.80
20. 芸術文化活動の促進	0.09	0.29
21. 芸術文化施設の充実	0.13	0.24（最低）
22. 文化財や史跡の伝承保存	0.08	0.25
23. スポーツ活動の推進	0.13	0.42
24. スポーツ施設の充実	0.13	0.49
25. 青少年の健全育成	0.10	0.59
26. 国際交流・都市間交流	0.00	0.30
27. 公園や緑地の整備・管理	0.30	0.62
28. 公営住宅環境の整備	0.17	0.44
29. 上下水道の整備	0.35	0.67
30. 道路や歩道の除排雪	-0.20	1.21
31. 道路の整備・管理	-0.02	0.97
32. バスの利用のしやすさ	-0.21	0.71
33. まちの景観	0.19	0.52
34. 日常の買い物環境	0.66（最高）	0.82
35. 中心市街地のにぎわいづくり	-0.03	0.64
36. 農業の振興	0.28	0.81
37. 地産地消・食育の取組	0.19	0.85
38. 企業誘致や企業活動の支援	-0.05	0.76
39. 観光地としての魅力づくり	-0.28（最低）	0.99
40. 働く場の確保	-0.28（最低）	1.13
41. 広報紙やホームページなどの情報提供	0.34	0.58
42. 町民と行政の協働によるまちづくり体制	0.08	0.58
43. 窓口での対応や窓口サービスの提供	0.26	0.74

○タテ軸を「重要度」、ヨコ軸を「満足度」としてグラフで示すと、タテ軸（重要度）は全てプラスの中に、ヨコ軸（満足度）は-0.3 から+0.7 の中に位置づけられます。



の部分を拡大すると、次のようなグラフになります。

○満足度が低くて重要度が高い位置にあるものは「30.道路や歩道の除排雪」や「39.観光地としての魅力づくり」「40.働く場の確保」などです。

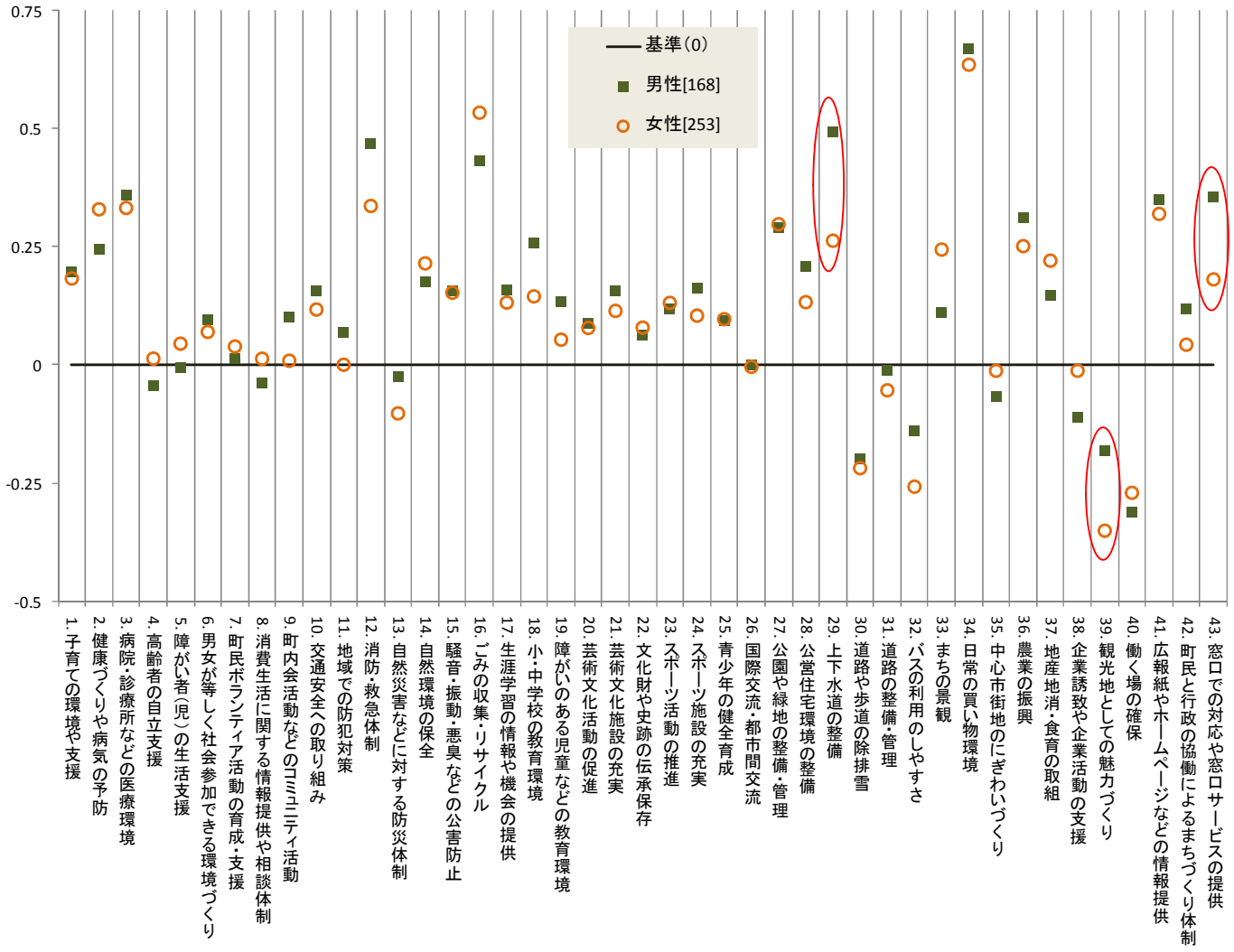


（４）満足度について（加重平均での比較）

<性別での比較>

- 満足度が最も高い項目は、男女とも「34.日常の買い物環境」です。最も低い項目は、男性は「40.働く場の確保」、女性は「39.観光地としての魅力づくり」です。
- 43 項目中、男性の方が高い項目は 26 項目、女性の方が高い項目は 16 項目で、男性の方が多いです。
- 男女で最も差があるのは「29.上下水道の整備」で、「43.窓口での対応や窓口サービスの提供」「39.観光地としての魅力づくり」が続きます。いずれも男性の方が高くなっています。

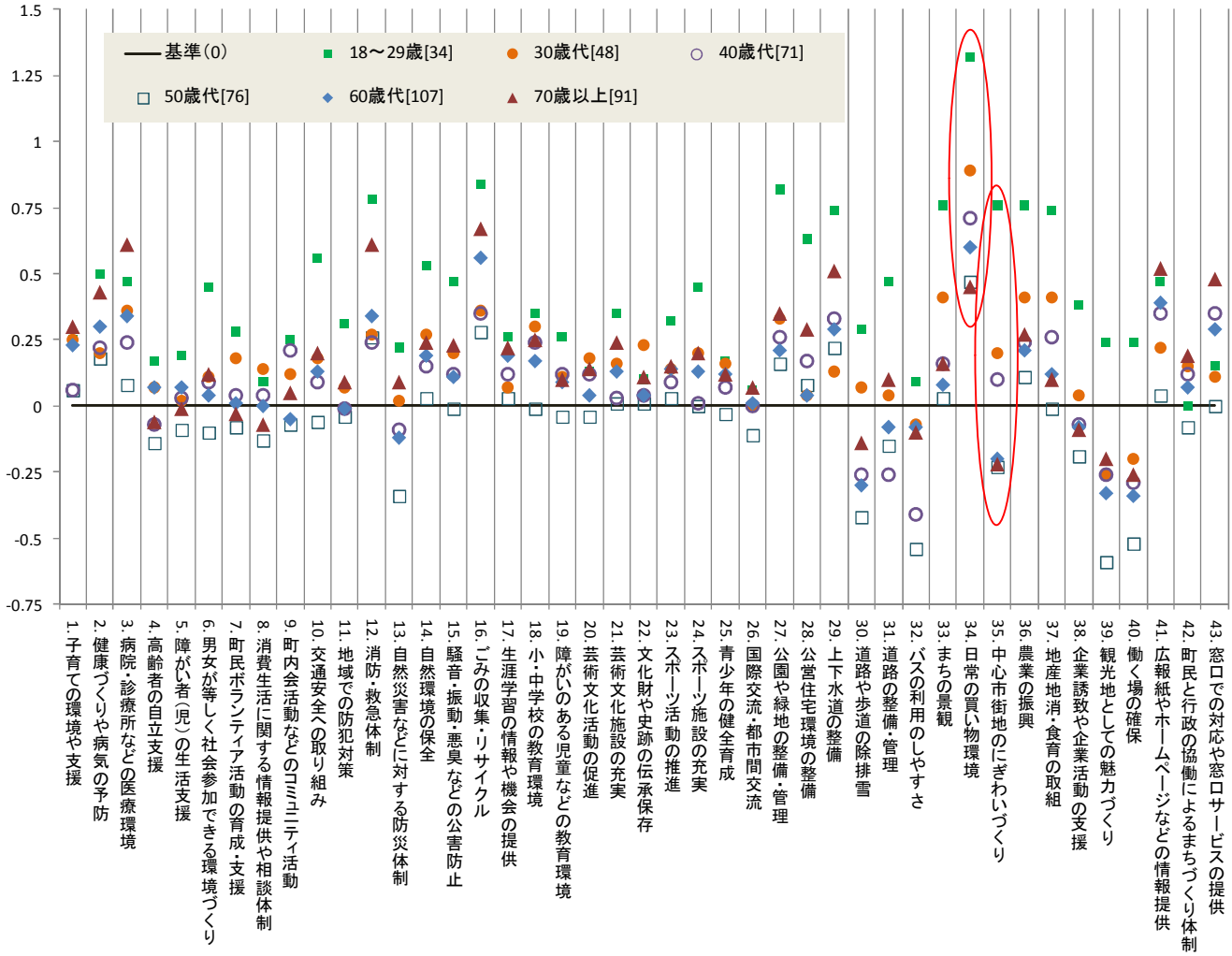
満足度について（性別/加重平均）



<年齢別での比較>

- 最も満足度が高い項目は、60 歳代以下の年齢は「34.日常の買い物環境」で、70 歳以上のみ「16.ごみの収集・リサイクル」です。
- 最も満足度が低い項目は、18～29 歳は「42.町民と行政の協働によるまちづくり体制」、30 歳代と 50 歳代は「39.観光地としての魅力づくり」、40 歳代は「32.バスの利用のしやすさ」、60 歳代と 70 歳以上は「40.働く場の確保」です。
- 年齢別で満足度が最も高い項目が最も多いのは 18～29 歳で、43 項目中 34 項目あります。反対に、年齢別で満足度が最も低い項目が最も多いのは 50 歳代で、43 項目中 38 項目あります。18～29 歳は年齢別で満足度が最も低い項目はなく、40～60 歳代は年齢別で満足度が最も高い項目はありませんでした。
- 年齢で差がめだつ項目は「34.日常の買い物環境」や「35.中心市街地のにぎわいづくり」などです。

満足度について（年齢別/加重平均）



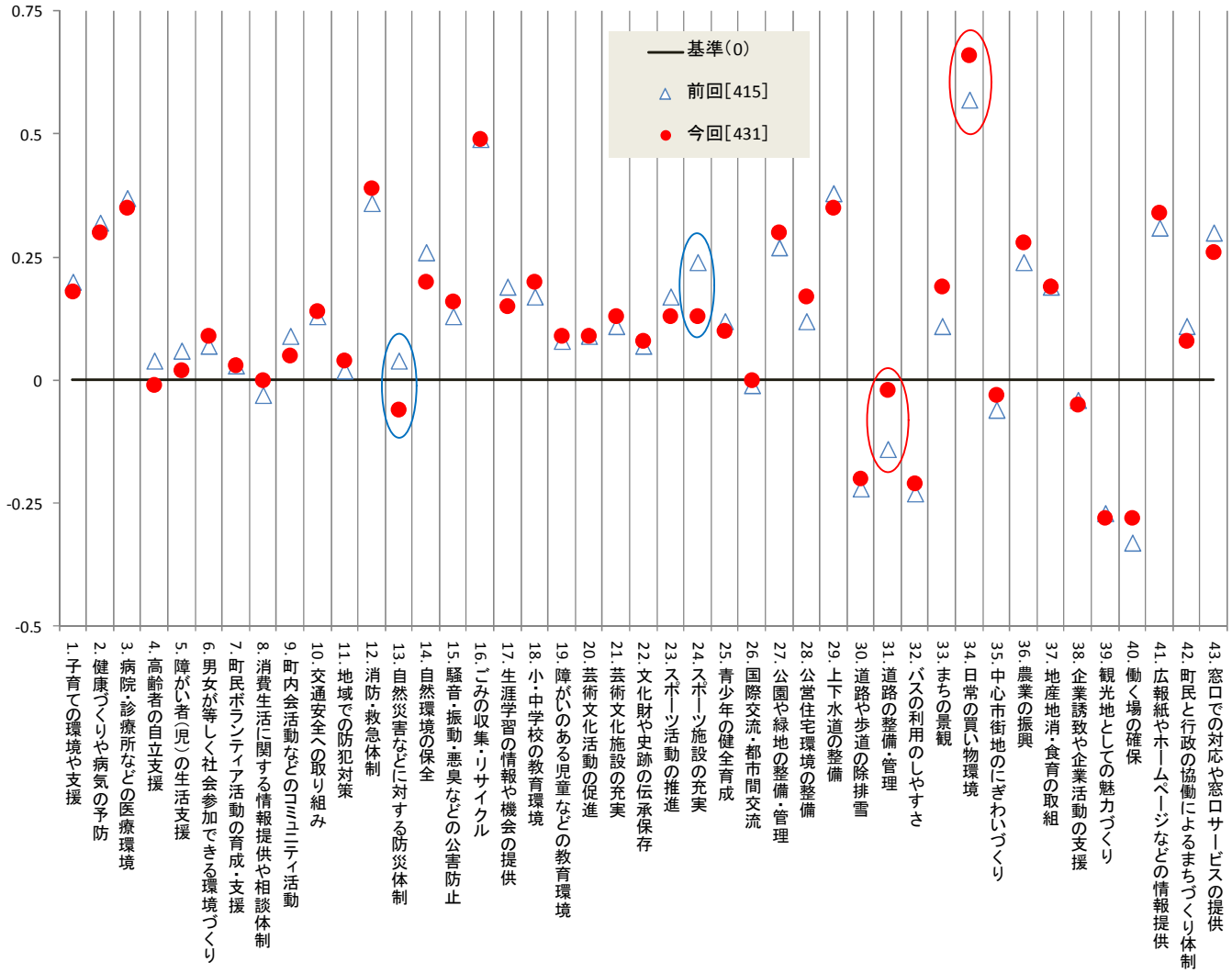
前回との比較（満足度）

前回と比較すると、43 項目中 22 項目で、前回よりも数値が高く、「30.道路や歩道の除排雪」や「34.日常の買い物環境」などで特に前回よりも高くなっています。

一方、43 項目中 17 項目で、前回よりも数値が低く、「13.自然災害などに対する防災体制」や「24.スポーツ施設の充実」などで特に前回よりも低くなっています。

前回と同じ数値だった項目は 43 項目中 4 項目です。

満足度について（前回との比較/加重平均）

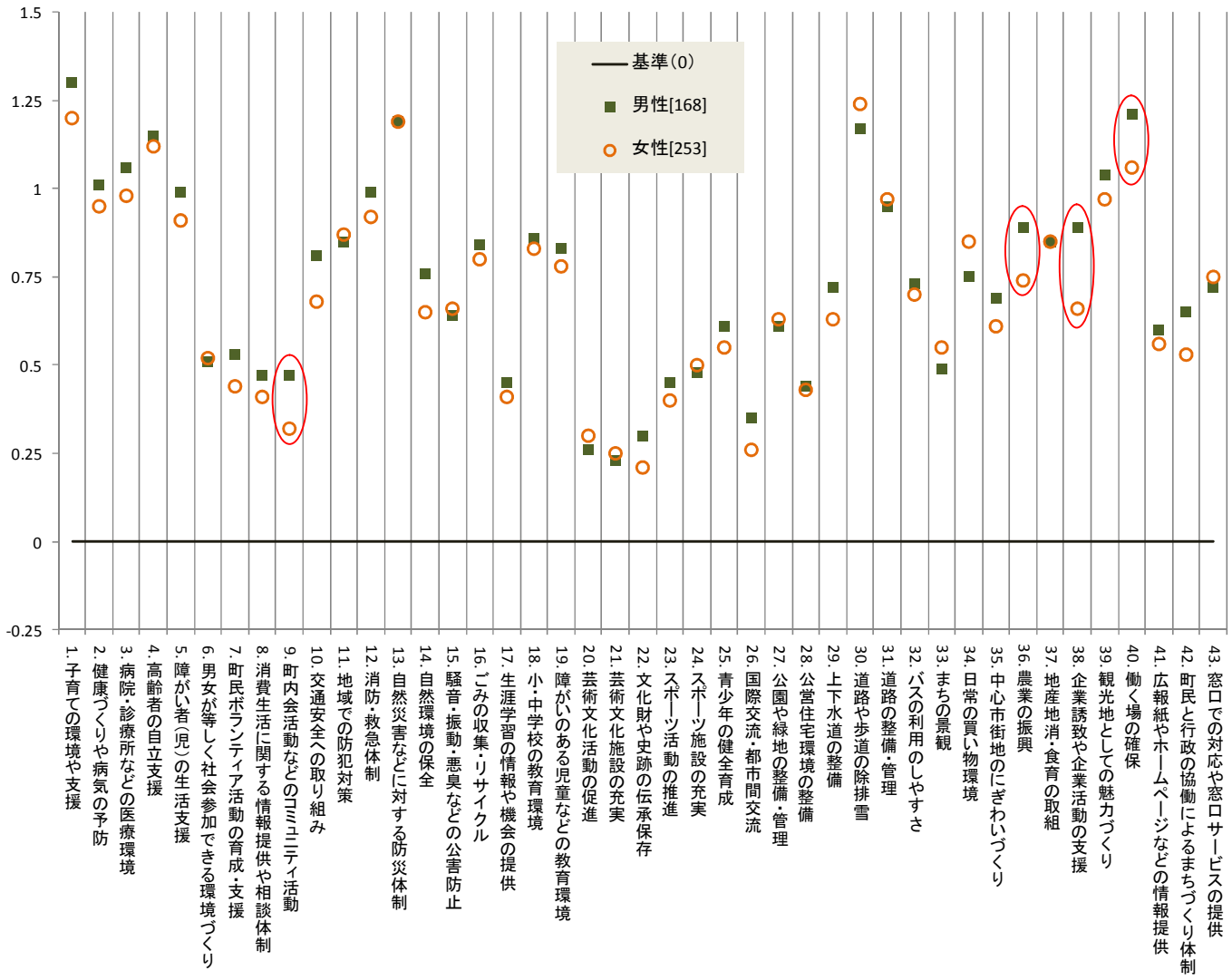


（５）重要度について（加重平均での比較）

<性別での比較>

- 男性で最も重要度が高いのは「1.子育ての環境や支援」、女性は「30.道路や歩道の除排雪」です。
- 43 項目中、男性の方が高い項目は 30 項目、女性の方が高い項目は 12 項目で、男性の方が多いです。（同じ数値の項目は１項目）
- 男女で最も差があるのは「38.企業誘致や企業活動の支援」で、「9.町内会活動などのコミュニティ活動」「36.農業の振興」「40.働く場の確保」が続きます。いずれも男性の方が高くなっています。

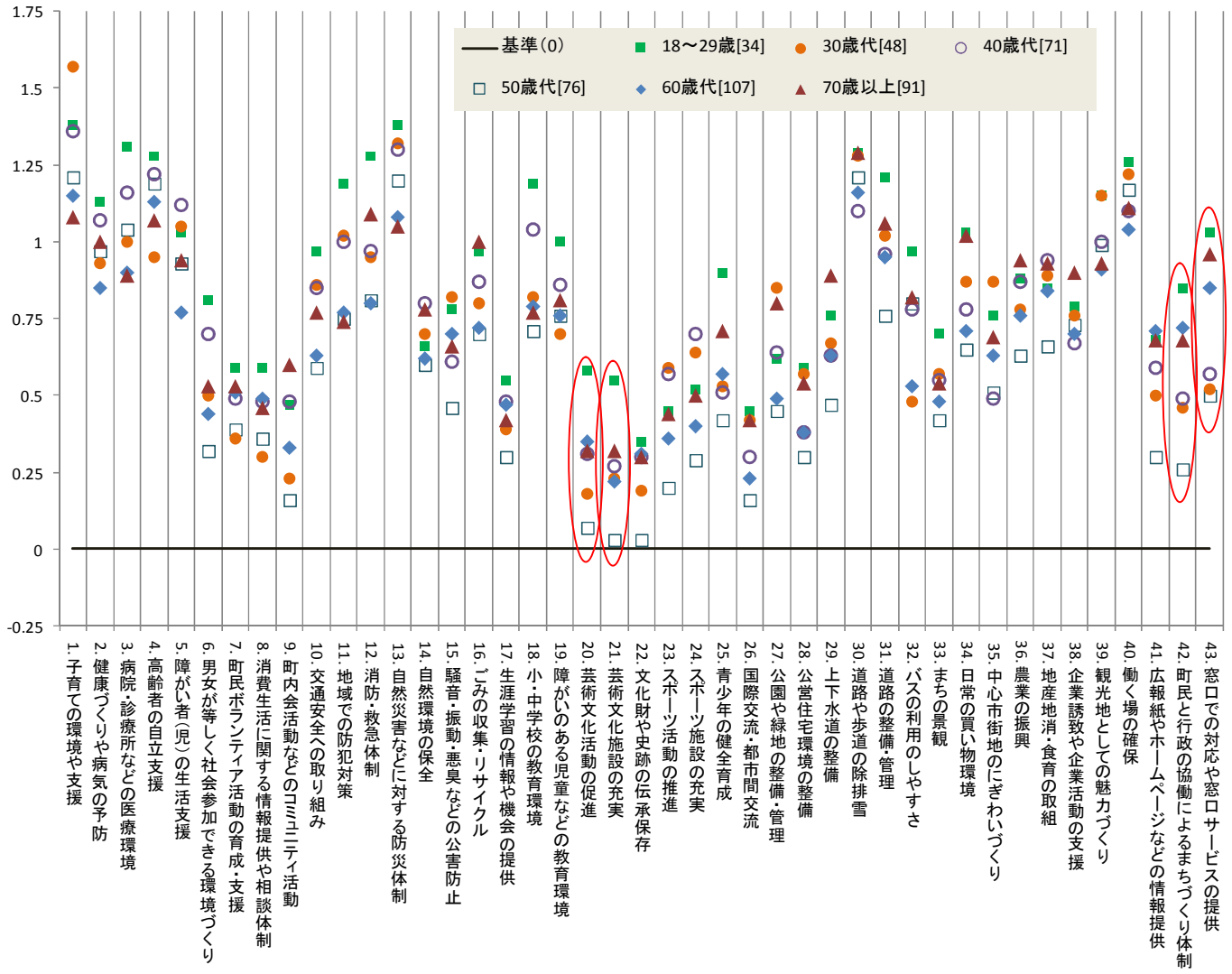
重要度について（性別/加重平均）



<年齢別での比較>

- 年齢別でみると、最も重要度が高い項目は、18～29 歳は「1.子育ての環境や支援」と「13.自然災害などに対する防災体制」（同数値）、30 歳代と 40 歳代は「1.子育ての環境や支援」、50 歳代は「1.子育ての環境や支援」と「30.道路や歩道の除排雪」（同数値）、60 歳代と 70 歳以上は「30.道路や歩道の除排雪」です。
- 年齢別で重要度が最も高い項目が最も多いのは 18～29 歳で、43 項目中 28 項目あります。反対に、年齢別で重要度が最も低い項目が最も多いのは 50 歳代で、43 項目中 26 項目あります。
- 年齢で差がめだつ項目は「20.芸術文化活動の促進」「21.芸術文化施設の充実」「42.町民と行政の協働によるまちづくり体制」「43.窓口での対応や窓口サービスの提供」などです。

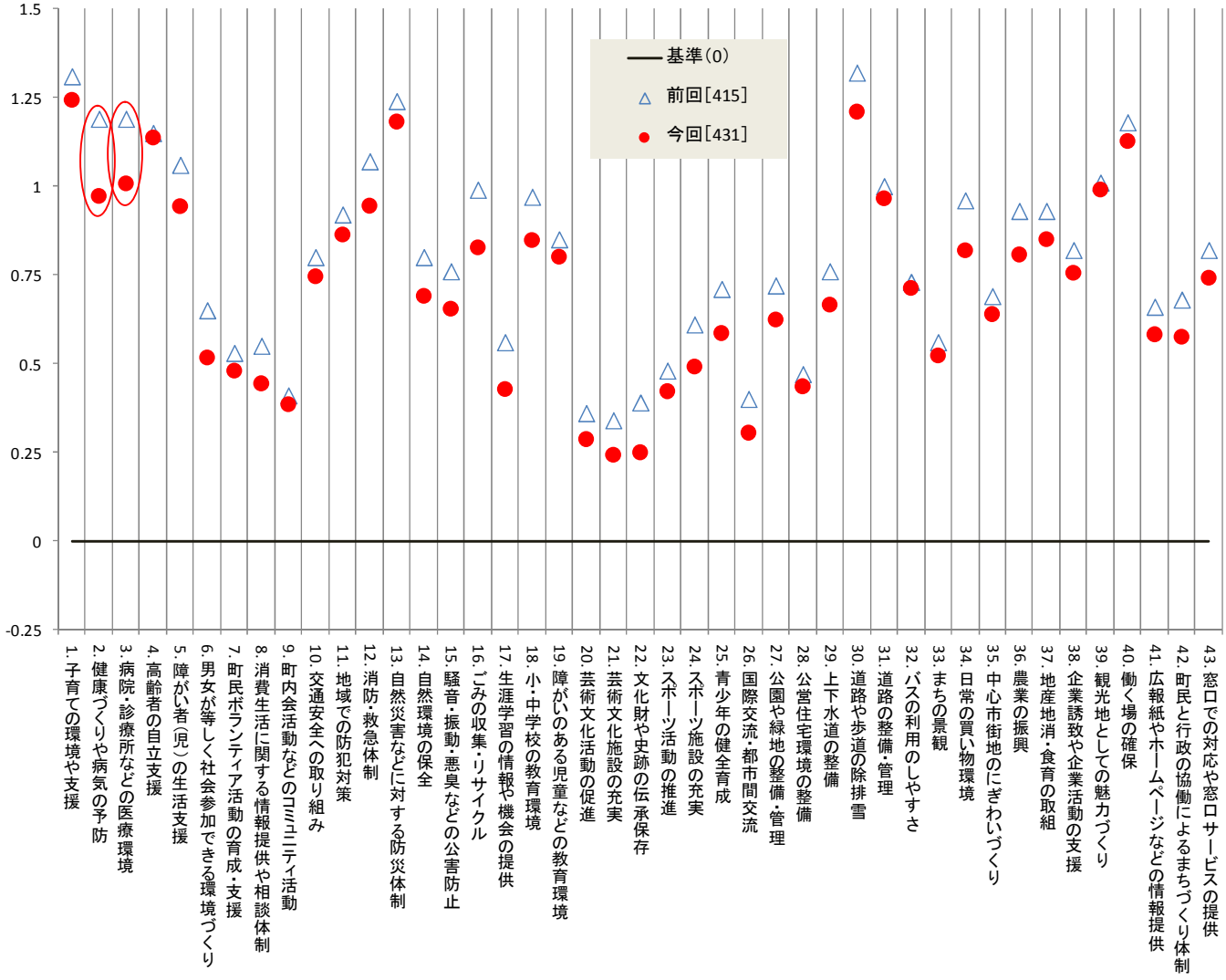
重要度について（年齢別/加重平均）



前回との比較（重要度）

前回と比較すると、すべての項目で前回よりも重要度が低く、「2.健康づくりや病気の予防」「3.病院・診療所などの医療環境」などで特に前回よりも低くなっています。

重要度について（前回との比較/加重平均）

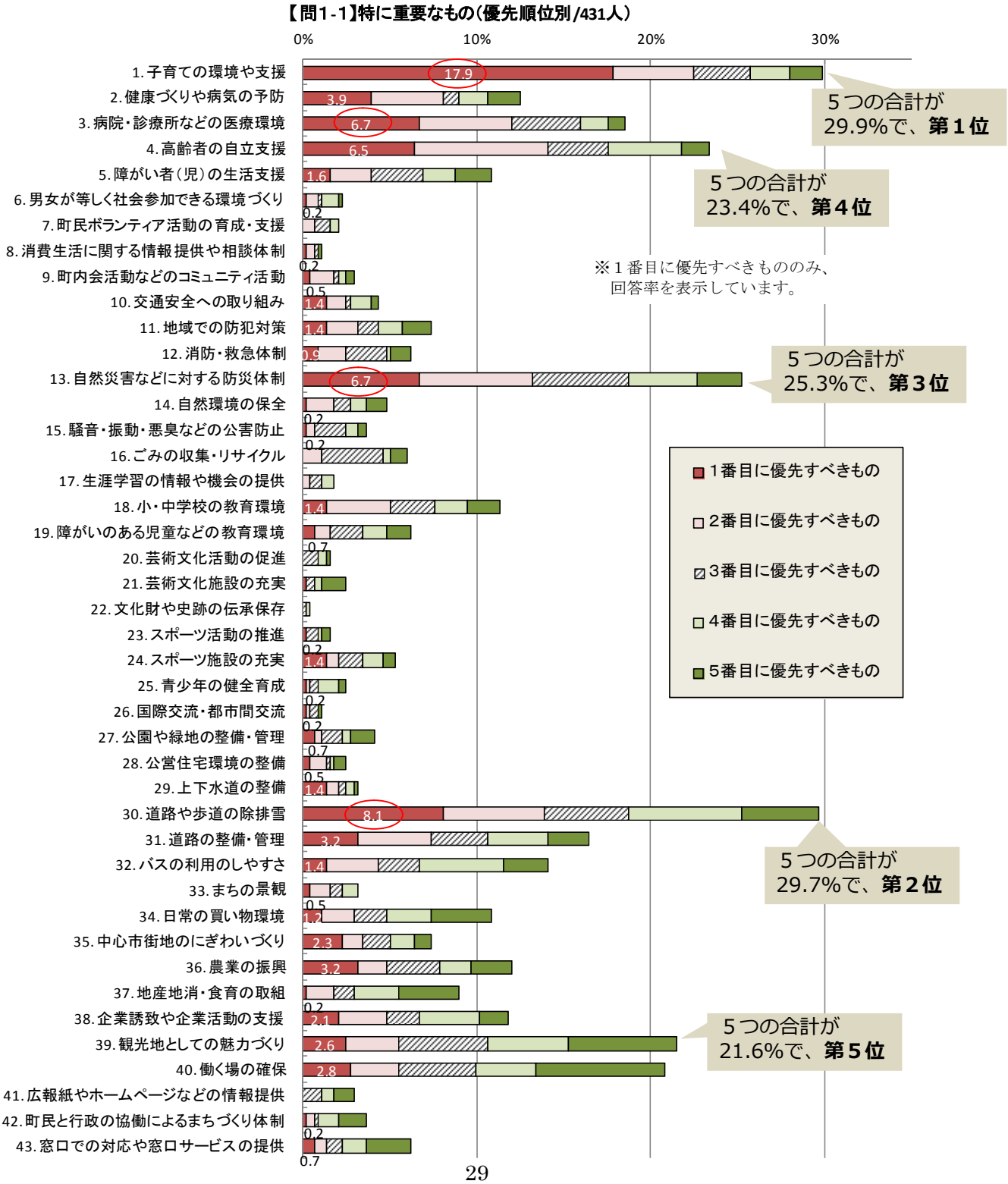


２　今後のまちづくりで特に重要だと思うもの（【問１】）

（２）これまでの全 43 分野の中で、今後のまちづくりに特に重要だと思うものを、優先順位の高いものから順に５つ以内でお知らせください。

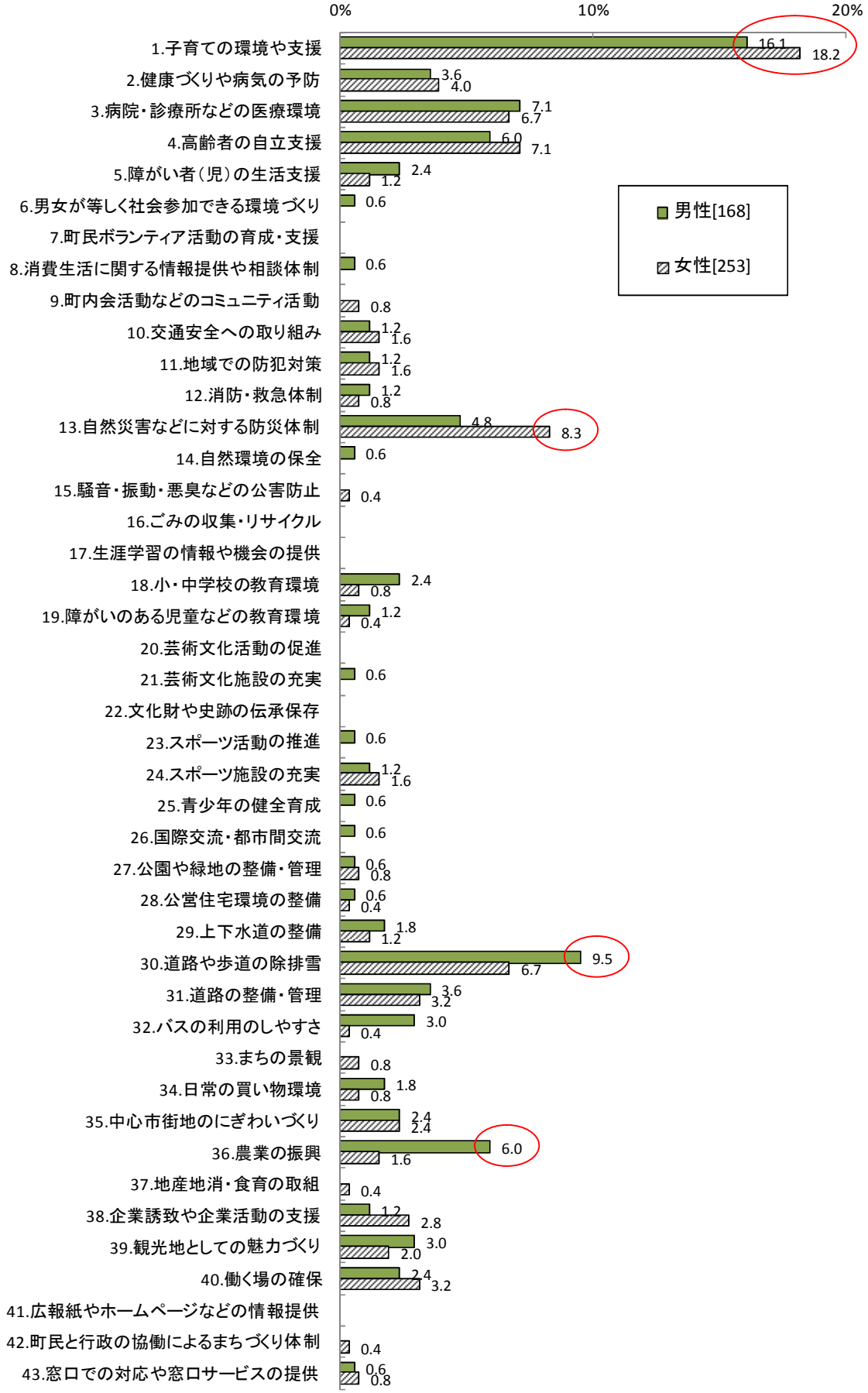
○１番目に優先すべきもので最も高いのは「1.子育ての環境や支援」(17.9%)で、「30.道路や歩道の除排雪」(8.1%)が第２位、「3.病院・診療所などの医療環境」と「13.自然災害などに対する防災体制」(6.7%)が同率で第３位です。

○１番目から５番目までの合計で最も高いのは「1.子育ての環境や支援」で、「30.道路や歩道の除排雪」が２位、「13.自然災害などに対する防災体制」が３位、「4.高齢者の自立支援」が４位「39.観光地としての魅力づくり」が５位です。



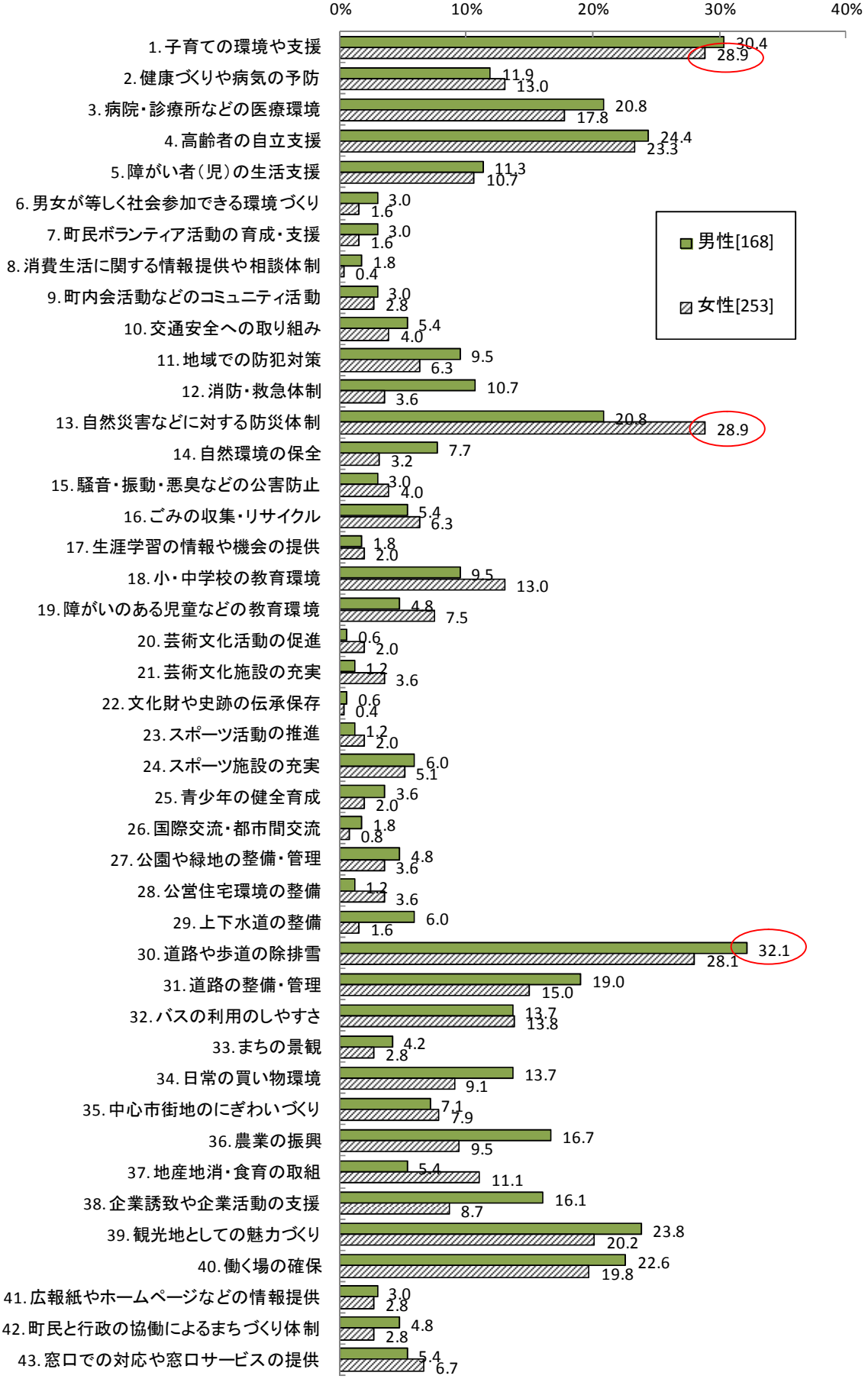
○１番目に優先すべきものを性別でみると、男女とも「1.子育ての環境や支援」です。また、「30.道路や歩道の除排雪」や「36.農業の振興」は男性、「13.自然災害などに対する防災体制」は女性で回答率が高く、男女の差がめだちます。

【問１】1番目に優先すべきもの（性別）



○１番目から５番目の合計を性別でみると、男性は「30.道路や歩道の除排雪」、女性は「1.子育ての環境や支援」と「13.自然災害などに対する防災体制」（同率）をそれぞれ１位にあげています。

【問1-1】1番目～5番の目合計（性別）



● １番目に優先すべきものを年齢別でみると、40 歳代以下の年齢は「1.子育ての環境や支援」、50 歳代は「13.自然災害などに対する防災体制」が第１位です。60 歳代と 70 歳以上は無回答が最多です。

「１番目に優先すべきもの」（年齢別、第５位までの順位表）

［　　］は人数、（　　）は%

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
18～29 歳［34］	1. 子育ての環境や支援（17.6）	40. 働く場の確保（14.7）	3. 病院・診療所などの医療環境 30. 道路や歩道の除排雪　無回答 （３つ同率 8.8）		
30 歳代［48］	1. 子育ての環境や支援（41.7）	無回答（10.4）	3. 病院・診療所などの医療環境（8.3）	5. 障がい者（児）の生活支援 35. 中心市街地のにぎわいづくり 36. 農業の振興 （３つ同率 6.3）	
40 歳代［71］	1. 子育ての環境や支援（28.2）	無回答（11.3）	4. 高齢者の自立支援 30. 道路や歩道の除排雪 （２つ同率 9.9）		24. スポーツ施設の充実（5.6）
50 歳代［76］	13. 自然災害などに対する防災体制（15.8）	1. 子育ての環境や支援（13.2）	30. 道路や歩道の除排雪（9.2）	無回答（7.9）	4. 高齢者の自立支援（6.6）
60 歳代［107］	無回答（17.8）	1. 子育ての環境や支援（11.2）	13. 自然災害などに対する防災体制 30. 道路や歩道の除排雪 （２つ同率 9.3）		4. 高齢者の自立支援（8.4）
70 歳以上［91］	無回答（28.6）	2. 健康づくりや病気の予防（12.1）	3. 病院・診療所などの医療環境（9.9）	1. 子育ての環境や支援（8.8）	30. 道路や歩道の除排雪（7.7）

● １番目から５番目までの合計を年齢別でみると、18～29 歳は「1.子育ての環境や支援」と「30.道路や歩道の除排雪」（同率）、30 歳代と 40 歳代は「1.子育ての環境や支援」、50 歳代は「13.自然災害などに対する防災体制」、60 歳代と 70 歳以上は「30.道路や歩道の除排雪」が、それぞれ第１位です。

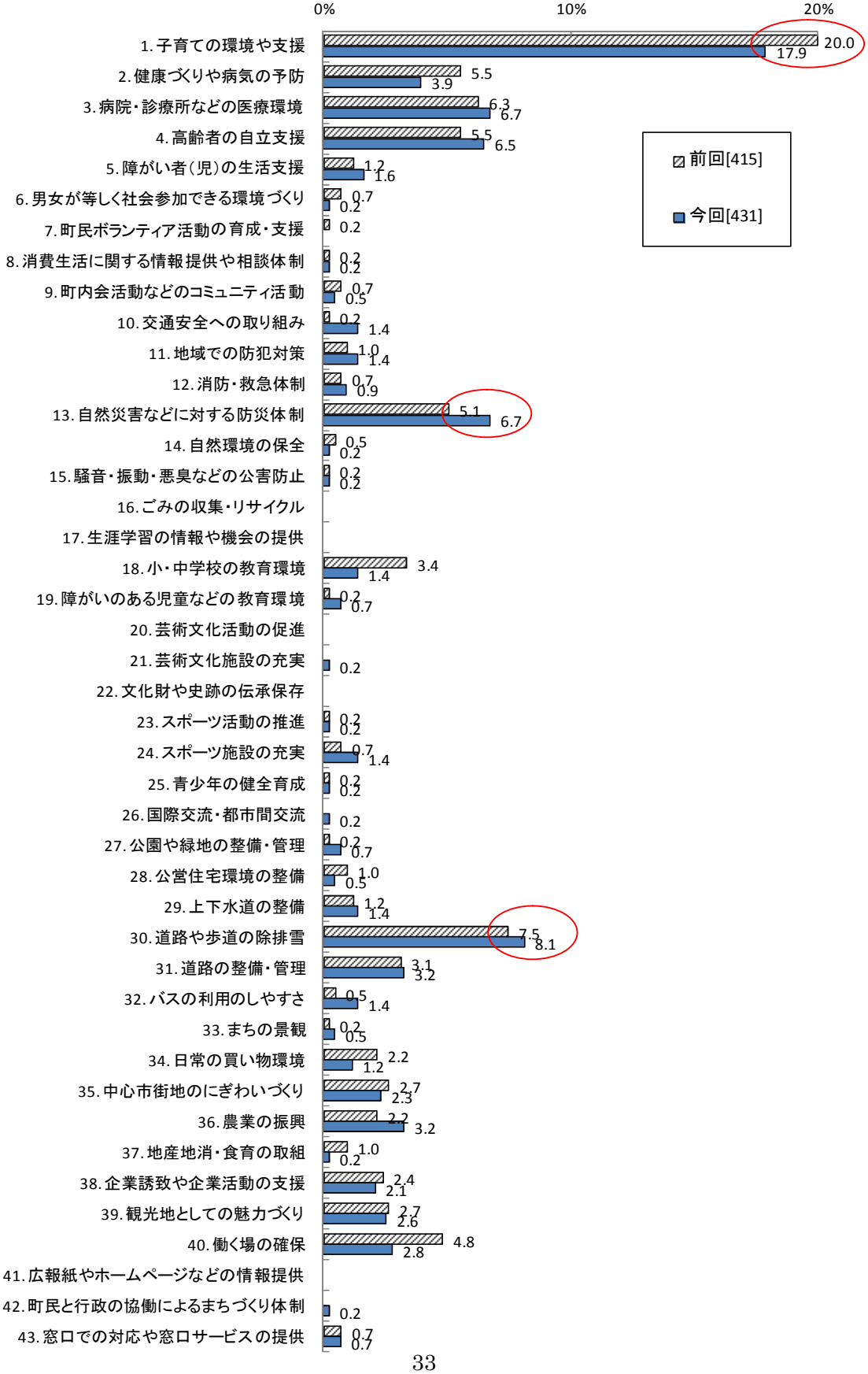
「１番目から５番目までの合計」（年齢別、第５位までの順位表）

［　　］は人数、（　　）は%

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
18～29 歳［34］	1. 子育ての環境や支援 30. 道路や歩道の除排雪 （２つ同率 32.4）		13. 自然災害などに対する防災体制（29.4）	40. 働く場の確保（26.5）	3. 病院・診療所などの医療環境 31. 道路の整備･管理 （２つ同率 23.5）
30 歳代［48］	1. 子育ての環境や支援（62.5）	39. 観光地としての魅力づくり（27.1）	3. 病院・診療所などの医療環境 5. 障がい者（児）の生活支援 （２つ同率 25.0）		31. 道路の整備･管理（22.9）
40 歳代［71］	1. 子育ての環境や支援（35.2）	4. 高齢者の自立支援　13. 自然災害などに対する防災体制 30. 道路や歩道の除排雪 （３つ同率 28.2）			39. 観光地としての魅力づくり（26.8）
50 歳代［76］	13. 自然災害などに対する防災体制（34.2）	1. 子育ての環境や支援 39. 観光地としての魅力づくり （２つ同率 32.9）		30. 道路や歩道の除排雪（28.9）	40. 働く場の確保（23.7）
60 歳代［107］	30. 道路や歩道の除排雪（35.5）	4. 高齢者の自立支援（30.8）	13. 自然災害などに対する防災体制（28.0）	31. 道路の整備・管理 40. 働く場の確保 （２つ同率 23.4）	
70 歳以上［91］	30. 道路や歩道の除排雪（31.9）	無回答（28.6）	4. 高齢者の自立支援（20.9）	2. 健康づくりや病気の予防（18.7）	3. 病院・診療所などの医療環境（17.6）

前回との比較（１番目に重要なもの）
前回と同様「1.子育ての環境や支援」が最も高く、「30.道路や歩道の除排雪」が続きます。「13.自然災害などに対する防災体制」は、前回に比べて回答率が高く、差がめだちます。

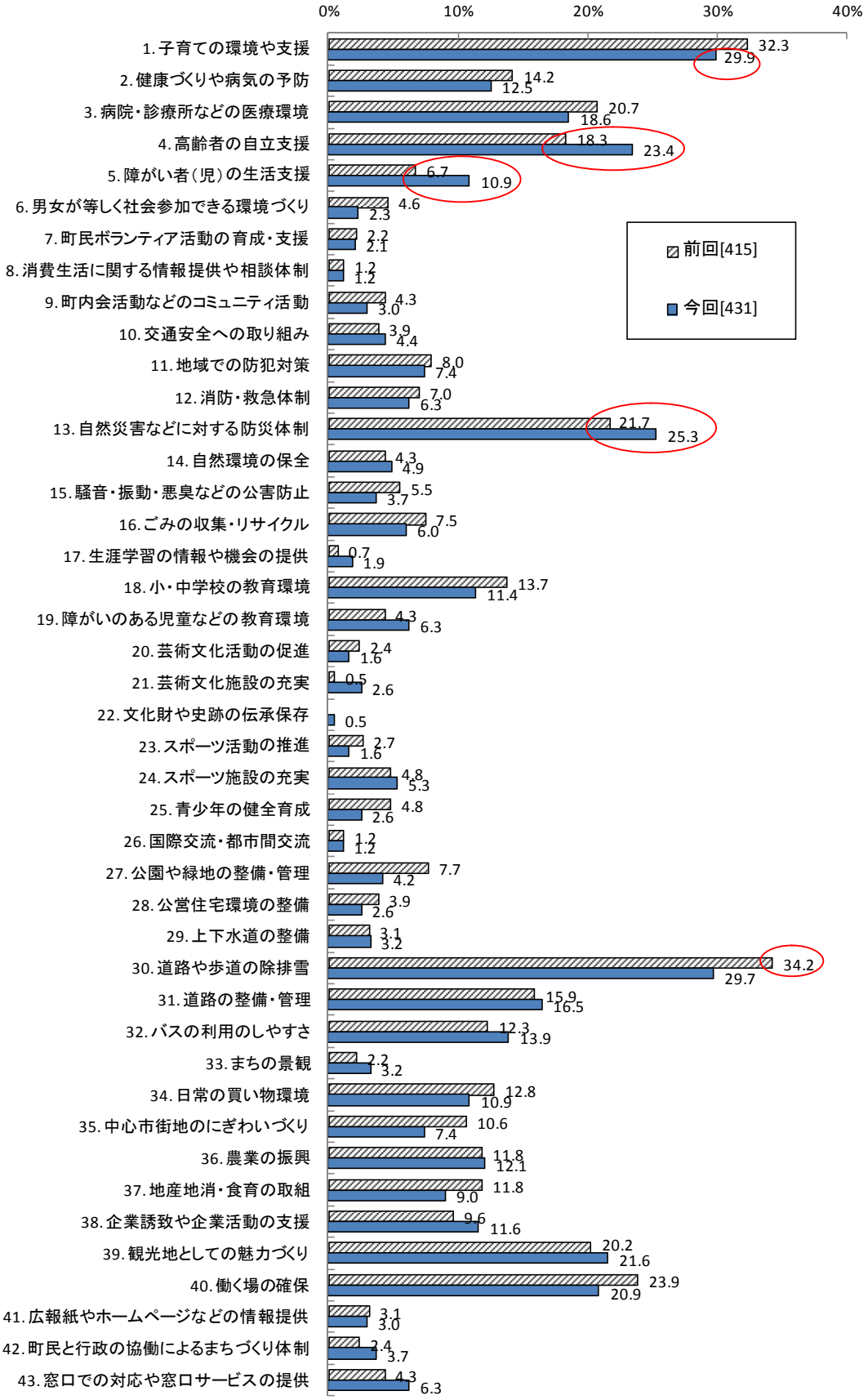
【問1-1】1番目に優先すべきもの（前回との比較）



前回との比較（１番目～５番目の合計）

前回は「30.道路や歩道の除排雪」が最も高かったですが、今回は僅差で「1.子育ての環境や支援」が第１位です。「4.高齢者の自立支援」「5.障がい者（児）の生活支援」療所などの医療環境」「13.自然災害などに対する防災体制」などは、前回に比べて回答率が高く、差がめだちます。

【問1-1】1番～5番までの合計（前回との比較）



（３）（２)で選んだ分野（番号）について、特に実施すべきと思われることがあれば、具体的にお書きください。

※（　）の数字は、複数回答の数です。

子育ての環境や支援	・5 才未満の子を持つ母子が集まり、子育ての勉強会の出きる取り組み。 ・これからの日本を背負う子供達のために。 ・手厚いが、なお必要。 ・子育て支援の場設定。 ・子育て支援の積極的な広報活動。 ・子育て世代が安心して住める街。 ・子育の支援、なんとかしてあげてほしい。 ・子育て支援、得に子育中の母親の支援が大事だと思う。 ・子供を産んだ家庭への支援、産みやすくさせる政策。 ・若い世代の人達から他市町村に比べての不満を耳にします。 ・周辺自治体よりもメリットある支援。 ・将来の社会を作る子供を多く社会全体で育てるため。 ・帯広市の方が（支援の）内容がすぐれている。 ・地域で大切に育てていくべき。 ・働いていても安心して子育てできる環境を整備することで次世代の若い人がくらしやすいまちにする。 ・働く親が子育てしやすい環境づくり（延長保育など）。 ・道内でも子育て支援の充実している町があります。小さな町だから出来る事かも知れないが、少子化の中、音更も考える余地があるかと思います。 ・未来をみすえて考える。 ・大人が働き社会を支え日本をつくっていくためには、保育園の完備や高齢者施設の完備から始まると思います。なので、安心して働ける住みやすいまちを作っていけることが重要だと思います。 ＜遊び場、居場所＞ ・小さな子供が遊べる所を増やしてほしい。雨の日等、室内で遊べる所もあまりなくて困っています。 ・大きいアスレチックをふやすなど。目立つ公園が少ない。 ＜保育、幼稚園＞ ・保育設備、施設不足。 ・保育園など、近場は満員で、遠方になる場合がある。 ・保育園の新設。 ・保育所の充実。 ・保育料が高い ・希望施設に入ることが出来ない。 ・保健師さんの知識レベルが違うのでとまどいます。 ・病児保育の人数をもっと増やしてほしい。パートでも正社員でも、休みはとりづらい。 ・一時保育ができる保育所（託児所）等の増設。 ・学童保育の充実、家庭教育の充実支援、学校教育の充実支援。 ・共働きの家庭にはしばりがきつすぎである。 ・皆が平等に子供を安心してあずけられることは大切、必要。 ・待機児童について問題が解決されていない、今後の見通しもない。 ・幼稚園がもっと音更町内に増えると良い。 ＜無料、無償＞ ・保育料の減免とか。

	・医療費の無料化など。 ・高校まで医療費無償化を。 ・子どもの医療費負担なしの対象拡大。 ・子供にかかる医療費中学校卒業まで負担額なし。 ・子供の医療費負担。家庭への負担。 ・子供に対する医療費は高校卒業まで無料。通学に対する費用も全額補助とすべし。 ・他の市町村は小学生の医療費がかからない。 ・小学生も、乳幼児等医療費受給者証が必要だと思う。 ・他の市町村は小学生の医療費がかからない。 ・中学生（15 才）までの医療を無料にしてほしいです。 ・児童手当ての増額。 ・補助金の額がもう少し増えるとありがたいです。 ・支援の内容、金銭的なものをもっと増やして、若い人が子育てしやすい環境をつくる。 ・音更に住んで子育てをしたい！！と思うような補助や特典。
健康づくりや病気の予防	・食べる事は、生きる事！健康無くしては、何もできない。 ・健康に暮らしたい。 ・人間健康でなければ何もできない。 ・年金額が以前より少なく年金だけで生活出来ない→病院にかかれない。 ・従来通り進めてほしい。 ＜健康づくり＞ ・だれでも参加できるストレッチ体操。 ・高齢者の健康づくり（医療費削減も）。 ・健康維持のための教室をもっと増やす。高齢者向きのもの。 ・健康運動の場設定、啓蒙。 ・健康作りの推進で元気作りです。 ・高齢化（への対応）。年金の心配があるから重要、必須です。 ・高齢者が自立するためには健康寿命が長いことが重要。 ＜病気の予防＞ ・医療抑制につながる様健康作りや病気の予防が重要。 ・日頃病院へは行かない様にしている。予防に力入れて！ ・チラシなどを使って病気予防を教えてほしい。 ・医療費を抑制するため、予防対策を充実させる。 ・専門の方達の話などがきく事が出来る事でより良い予防がわかる。 ＜健診、検診＞ ・人間ドック等個人的受診にも助成金など！！ ・定期健診等の補助増額等。 ・乳がん、子宮がんは 2 年に 1 回なので、1 年に 1 回やってほしい。 ・毎年、無料じゃなくても、健診（色々な検査等）を受けられるように、低料金で実施してほしい。 ・無料クーポンの配布の継続、要介護者ではない人が働けるデイサービスを増やしたらいいと思います（孤立防止のため）。 ・予防接種、検診などの町外以外での対応。
医療環境	・病院、診療所などの医療環境。（２） ・あまり患者の事、考えてくれる病院がない。 ・これから高齢者が多くなるので。 ・医療の充実。 ・地域医療求む。 ・町独自による医療の充実、帯広市に頼りすぎる。

	・検査などお金が高い。 ・高齢者の一人ぐらしの方へのわかりやすい対応を望む。 ・高齢者が増え、いちいち帯広に行かなくともすむ（ように）。 ・似た診療科多い。他科の拡充も必要性あると感じる。 ・車がないと、早く行けず、遅くなり困る。 ・病院が近くに無い。 ・生活には安心できる医療の確保。 ・専門外来は帯広市まで行かなくてはいけない。 ・総合病院など病院が少ない。 ・帯広などに行くのが大変なので音更の方でつくってほしい。 ・帯広に行かなければならない事が多い。 ・日曜日でもやっている病院があると良い。 ・小児科が少ない。 ・病院の増設（眼科と産婦人科、呼吸器科などの専門病院が増えて欲しい）。 ・高齢化が進む中、夜間の救急等に対応してもらえる環境。年金で通院するのも厳しいので負担軽減。
高齢者の自立支援	・１人暮しの高齢者を、地域と町が協力して定期的に見守る（訪問）。 ・デイサービス等の利用料がどれ位必要なのか？不明。 ・高齢者が増えて行くのでホームヘルパー・デイサービス・食事宅配等の充実が必要。 ・ボランティア活動や軽作業等を企業と連携して行う。 ・介護認定を受けていなくても楽しく毎日が送れる場所など。 ・介護保険抑制するにはまず自立支援の充実を図る。 ・健康運動、趣味の場設定、健康寿命をのばす。 ・健康年齢を延ばすには運動教室だけでなく脳と体の両方のプログラムがほしい。 ・行事や軽作業などで老化しない体力づくり。 ・高齢者の自立支援に力を入れてほしい。 ・高齢になっても自立して生活出来るように。 ・高齢や認知症になっても安心して生活できる環境。 ・高齢化社会となり、自立支援が必要と認められる ・高齢者が多くなり、１人暮らしが多くなっている。 ・高齢者が不自由なく生活できる環境。 ・高齢者に対してソフト面、ハード面での支援を充実させる。 ・高齢者の増加に対して、労働人口が減り、介護従事者も減ると予想される。 ・高齢者ほど引きこもりになり大変、介護認定も取りにくい。 ・相談窓口など。 ・団塊の世代を含め高齢者が多くなることにより、医療や介護にかかる費用を抑え、働く世代の負担を少なくするため、自立した生活を送ってもらう。 ・独居人が沢山います。支援は必要。 ・年金などの増額など。 ・階段とか手すり等の必要性をしんけんに考えてほしい（高齢）。 ＜交通＞ ・移動手段の充実等。 ＜施設＞ ・介護施設の充実。 ・施設の充実（料金を含む）。 ・高齢化にともなった高齢者の為の施設やサービスの充実。 ＜働く場＞ ・高齢者に働く場所を。（２） ・働く場所の充実。

	・高齢者が再度仕事など支援できる環境。 ・年とってもまだまだ働けるのに年齢で働けない。
障がい者(児)の生活支援	・きめ細やかな支援の充実。 ・どこで情報が得られるのか？障害者への理解必要。 ・支援学級の充実。 ・受けたい支援が受けられない・情報が少ない。 ・就労支援が必要（無年金にならない為に）。 ・障がい者に安心できる町に。 ・障害児の受け入れが悪い保育、学校。 ・障害者（児）の理解と生活支援。 ・部分的に不親切に思える。自分で動かないと情報が得られない。 ・母に障害があるため、生活もギリギリだから。 ・利用したい（と思っている）施設等の情報が少ない。 ・理解を深めてもらいたい。
町民ボランティア	・町民ボランティア活動の育成、支援。
消費生活	・帯広市に隣接している為か情報提供に一考あれ。 ・不良な勧誘・販売に対する告知、相談。
コミュニティ活動	・顔見知りの慣れ親しんだ人達で構成され、未入会へのアピールもない。 ・地域住民、特に高齢者が容易に、気軽に交流できる場、施設が欲しい。高齢者の孤立化の防止。 ・町内会におけるふれ合いの場をつくる。 ・町内会の必要性を見直す時ではないか。 ・町内活動などみんなで元気に楽しく老いて行こうを合言葉に引きこもり予防の趣味教室、同好会等に力を入れてほしい。 ・町内会活動、年齢が上がれば、いろんな活動はとてもきつい。
交通安全	・学校の近くの道でもガードレールも何もないのは危険。 ・交通安全への取り組み。 ・住宅街の交差点に一時停止が無く事故が多い、危ない。 ・地域の交通安全の係の人が同世代の方では考えもの。
防犯対策	・安心して暮らせる地域作りが必要。 ・街灯が少なく夜はくらくなるのでもっと明るくしてほしい。 ・子供や女性を不審者から守る。空巣が多いことの不安。 ・地域での防犯の具体化。 ・地域の見回り。 ・不審者対策は大事だと思います。少しでも被害者をなくしてほしいです。 ・不審者情報がとても多いので、見守り隊などの強化。 ・夜には真っ暗で街灯の無い歩道が多い。 ・独りで歩ける街（街灯を LED にして増やす）。 ・緑南中学校からトンネル迄の歩道に外灯がほしい。冬期間の下校が真っ暗で怖い。道道なのでむりでしょうか。
消防・救急	・いつ、何があっても、警察、消防、救急があると安心。 ・一人で住んでいるので、なにかがあったらすぐ来てほしい。 ・救急体制の整備。 ・災害時の救急体制が出来ている継続してやってほしい。 ・昨年の災害発生に対して、町の体制が迅速であり、今後行政力を発揮してほしい。 ・消防団の組織づくりの育成。 ・中心部からはなれているので迅速な対応を望みます。
防災	・音更川の氾濫があったので。

	・去年の台風の時は、川など大変だったので防災はしっかりしてほしい。 ・去年の台風の時みたいに、今後また大きな災害が来るかもしれないので。 ・異常気象への対策。 ・今まで安心していた自然災害、昨年はびっくりしました。準備態勢も不十分だったので、町も対策準備に力を入れるべき。 ・今回の雨災害にあわれた方は恐い思いをしたと思う。 ・災害は心配、町でどれくらい見てくれるのかわからない。 ・昨年のような台風で十勝川、音更川が洪水にならないか不安。 ・昨夏の洪水災害時対応の検証を広く町民に情報公開して欲しい。 ・昨年の大災害の恐怖。 ・昨年の風水害にかんがみ、防災体制の確立が重要。 ・自然災害などに対する事。音更でも洪水おきた所があったため、危険地域の早期の注意喚起と防災対策の促進。 ・自然災害等、他人事では無く、体制等望む！ ・水害に対する体制を特に。 ・大雨や地震が心配。 ・地球環境の変化、どんな災害が起こるか予測できない。 ・特に大災害がおきた時、どうすべきか不安。 <対策> ・昨年の水害後の鈴蘭大橋付近の整地。 ・一度に降る降水量増加に伴う河川の整備。 ・河川敷の改修工事が進まない。 ・昨年の大雨をふまえた河川の整備。 ・川の整備をしてほしい。 ・橋など自然災害に十分な備えを。 ・十勝川と音更川の合流地域の立木伐採・河道堀削を早急に実施し流量の確保を図らなければ必ず洪水となる（人災だ）。 ・水害に強い環境整備（異常気象に対応）。 <連絡、情報> ・異常気象が多く発生する中、サイレンの位置が心配。 ・昨年の避難の際、勧告と指示の違いが不明で周りはパニックでした。 ・昨年のような川の氾濫・避難情報を、もっと早く知りたい。 ・豪雨などのとつぜんの情報提供の必要性。 ・昨年の台風での避難時の連絡はわかりにくかった。メール発信では無理。見てない時もある。 ・地区ごとの連絡方法。 <訓練、意識啓発> ・訓練。 ・それぞれの地区での防災訓練など。 ・万が一の時の個々が対応できる最低限の防災体制日頃からのあり方徹底訓練。 ・住民への意識の浸透（啓発活動）。 ・住民へのわかりやすく認識を高めていく。 ・各地域別に防災対策に関する冊子があると良い。 <避難> ・避難しても人が多くムリでした。 ・避難する所が、少ないかも。車やペットの、避難の時どうするべきか。 ・もっと安全な場所を。 ・災害時の安全な場所の確保。 ・昨年の洪水の時逃げる時の車の混雑等。 ・昨年の台風などで自然災害のおそろしさを改めて実感したため具体的にはわかりませんがスムーズな避難体制とか。

	・自然災害に関する備品の備え防災体制の充実。 ・住居地域全戸が避難できる学校があると思えない（不安）。 ・地震や台風時の避難。 ・避難所の確保ができていない。 ・避難所の確保と見直し、公共施設に加え協力施設も必要。 ・避難場所の見直し。 ・避難場所等の明示及び周知。 ・備蓄。 ・防災拠点をつくる。
自然環境の保全	・河岸段丘の保全を今迄とおり。千畳敷公園等市街地の緑地も。 ・自然環境の良さをこわさないでほしい。 ・町内にある残土等産業破棄物置場の現調査。 ・木の伐採により林が無くなり風、砂ぼこりがすごい。
騒音・振動・悪臭	・近所にゴミ屋敷。 ・住み良い環境づくりをめざしてほしい。 ・夜中の暴走車の取り締まりの強化（特に夏期）。 ・酪農家の公道汚染、夜中作業音、汚泥処理の悪臭。
ごみの収集、リサイクル	・ごみの収集をわかりやすくしてほしい。 ・出したゴミを回収していない。生ごみを持って行ってくれずに夕方残されていた。各家庭で出しているが、数軒まとめて出せる、カラスがいたずらできない立派な入れ物を!! ・お正月など長いお休みの時、燃えるゴミを１番初めに収集してほしい。 ・カラス対策。 ・ゴミとする物は、方法によっては大事な資源。お金をかけ無にしない。 ・ごみの軽減をはかるべく、リサイクル化を重視してほしい。 ・ゴミ仕分の経費と利益の公示。老いて仕分ゴミ出し、体が動かん。行政の対応いかに。 ・ゴミとして捨てるか、資源として再生するか？庭木もゴミ袋に入れるのではなく、ある長さにして収拾して、チップ等にして町内に売るとか？もっといろいろ出来る事があると思う。 ・大型ゴミの収集をもっとしやすくしてほしい。 ・定期的な不用品の交換会（ゴミ減少化）。 ・料金を下げてほしい。
生涯学習	・多様な施設開放、講座等の増設。 ・年間通してではなく、１回だけの講習会（手芸）が少ない。
教育	・５年、10 年先を見据え、子供達の競争力を高める。 ・余力があればここ。 ・いじめに対する対応。 ・いじめ問題に対しての徹底（いつ自殺者が出てもおかしくないです）。 ・読書のタイミングを増やす。町内イベント等で交流できる場をつくる。 ・音更町が目指す人間育成目的が見えない。 ・子どもの学力低下が問題になってきているので、親子ともに勉学にとりくめる環境が大事だと思います。 ・勉強を教えてくれるボランティア、相談にのってくれるボランティアがいるといい。 ・貧苦にある子供達に教育の機会均等へ。 ・部活、塾等の送迎がむずかしい。 ＜学校＞ ・小、中学校の教育環境。 ・古くなった学校の整備。 ・グランドがかたい。（外の）トイレ。

	・学校の通学路で歩道の確保、雪への問題。以前から町に PTA としてもお願いしているが改善につながらないという話を聞いた。子供を安心して通学させる事が出来る環境つくり。 ・緑陽台小学校の入学が今年度は 12 名。団体競技もできない状況なので鈴蘭小学校の学区割を考えるべきである。 ・中学校はなぜ、ジャージ登校なのか…疑問です。 ・小中は普通と思うが、高校を中心市街に移転必要。遠すぎる！
障がいのある児童の教育	・学校の中の取りくみがおくれていると思う。 ・共生社会実現のために取り組む。 ・最近は発達障害のお子さんも多いので、そういう家庭の要望、意見を聞いて取りくむべき事もあるかと。 ・支援の教師が足りてないのでは？指導内容に差。 ・障がいがあると診断した後のフォロー。 ・障がい児が持っている能力を見い出し、少しでも自分で社会に貢献している喜びが持てる教育環境作り。 ・障害のある児童などへの理解や環境の充実。 ・先生、保護者の御苦労も多いと思いますが、一搬児童と共に過ごせる環境を。 ・町民相互理解。 ・障がいを児持っている親も支援する為、障がい児教育は必要です。
芸術文化	・地方でも、地元で芸術鑑賞をもっと楽しみたい。 ・心のビタミンが多くほしい。良い施設で演劇やコンサートをたくさん企画してほしい。 ・町内以外団体にも活動の場を広く促進していく。 ・図書館・文化センターの駐車場拡充をして欲しい。 ・美術館。 ・美術館や博物館があったらいい。 ・文化センターの「ふれあいホール」は本格的なクラシック専門のホールに作り直したほうが、利用価値と頻度も上がると思う。
文化財や史跡	・音更町の史跡を後世に伝承するのが大である。 ・町民がまだまだ分っていない文化財や史跡を月 1 回位または半年に 1 回でも小さな欄でもいいので広報に載せる。
スポーツ	・60 才以上の人ができる、ラジオたいそう教室などコミセンでできること。 ・安全に走れる自転車道でサイクリング。ウォーキングの会。 ・住民がスポーツに取り組めば医療代が少なくなる。体力作りです。 ・大きな大会に出場できても、スクールバスが借りられない。他の町村では出してくれるところもある。もっと支援しても良いのではないか。 ・良く学び、良く仕事をし、良くスポーツをする事が基本。 ＜施設＞ ・行きやすく楽しめる施設を。 ・気軽に使える施設数が少なく、週末は団体で混んで使えない。 ・音更川、堤防が使えず困っている団体が多い。 ・河川敷、使わない。代わりにスポーツ出来る場所の確保。 ・河川敷のサッカー場等の復興、トイレの設置 ・中学生の就業中の施設の活用法の創意工夫（そのことが Sports 課設置の目標の大きな責務ではないか）。 ・サンドームしかないのでもう少しあった方がよい。 ・スカッシュコートが遠いので、街中に作ってほしい。 ・パークゴルフ場無料すべき。老人の健康の為にも。 ・運動の出来る場所。パークゴルフ無料に。 ・音更サンドーム・アクリナチャッポの町民 10 回無料券。どちらも使用できる 10 回分。 ・高齢者の自立や健康保持のために軽スポーツをすることがとても大切。現在の軽

	スポでは数が不足しているので増設が必要。 ・施設は本町かたまっており、新興住宅地にも必要。 ・多目的は早い者勝ち状態。 ・駐車場、トイレ、施設が足りない、管理。 ・柳町河川公園の早期工事。 ・陸上競技場は必要。
青少年の健全育成	・活きとした青少年の活動が見えない。 ・現在幼少期の尊徳教育の欠如。 ・町独自の取り組みとして、小学中学と、ボランティアの日を作る（ゴミひろい・清掃・植樹・独居老人の除雪）。
国際交流	・国際交流は何をしているのか分からない。 ・町民の留学を推進し国際化を進める。
公園や緑地	・もっときれいな公園を。 ・花壇の管理がなっていない。草でいっぱい。雑木は不要。町内会に取り組んでもらう（コンテスト）。 ・公園が暗い気がする。 ・公園が少ない地域には増やしてほしい。 ・公園に行くとガラスのこまかい破片が落ちていてそれがなかなかなくならなかったり。 ・公園に人が居なく、さみしく思う。 ・公園は、整備をしないと不審者がいそうでこわい。 ・子供や犬などが遊べるスペースが欲しい。 ・子供達の遊び場の確保、ゴミの、タバコのポイ捨防止の徹底。 ・小さい子供の使いやすい遊具がある所がもっとわかりやすくして欲しい。 ・大型遊具のある公園や緑地、広い公園。 ・団地造成で多くの方が音更町に転入してきたことを忘れず、近隣の公園緑地、樹林の維持にあたる。 ・遊具や水場など大きい公園があるとよい。
公営住宅	・空きがある場合、うめる。 ・空き家になっている住宅は、とりこわしても良いと思う。 ・公住が古すぎる。 ・終のすみかになっているようだ。子育て中の低所得の若者が利用できることが重要ではないか。 ・低所得者も割と多いと思います。 ・様々な年代が住む住宅街がよい。
上下水道	・ライフラインの整備は最も大切。 ・下水道の整備を早くやってほしい。 ・上下、水道の整備。 ・上下水道に関する耐用年数に対する調査と整備。 ・上下水道の整備。 ・上下水道の整備後、舗装道路にして下さい。 ・水道代が高い。 ・他の市町村より水道代が高い。
除排雪	・長い冬期間を快適にすごすため重要。 ・自分で作業（除雪）不能となりつつあるから重要。 ・個人々の協力も必要。大雪の時（50cm 以上）はたいへん。 ・降雪時の早めの出動によりガタガタ路面の解消・拡幅除雪を確実に行い高齢者の安全な足元確保と除雪の負担を軽減すること。 ・住宅や人々の多い地区の交通維持です。音更町の住民税は大半が勤労世帯よりの収入である。帯広市や他町村へ働きに行けるよう配慮願いたい。 ・雪の捨て場の確保。

	・町の都合の除雪であって、町民のための除雪には感じない。 ・町民アンケートに何度か除雪が、非常に雑な事、中々改善されません！ ・通勤、通学前の除排雪をお願いしたい。 ・冬など道路や歩道の除排雪のきめ細かい取り組みに力を入れてほしい。 ・冬期間の歩道の除排雪が不十分。 ・冬季の道路確保。 ・道路の除雪の時、範囲を広く開けるようにする。 ・道路の除雪は農村についてもう少し気配りをしてほしい。 ・特に雪の降り初めの時期の除雪。 ・通勤時坂道のツルツル路面坂道の砂等。 ・冬期間スベリ止として砂まくが春先砂取りしていないところがある。 <仕方> ・除雪が雑。 ・除雪が粗雑、十字路の角の排雪をしてほしい。 ・除雪業者（運転手）による除雪の上手下手。 ・除排雪（道路）について不満を感じます。 ・除排雪～幹線道路入り口は危険。 ・除排雪が出入口に有って入れない。車道に出て除雪はキケン。 ・除雪が下手でわだちが多すぎる。 ・国道の除雪は良いが細い道路の除雪が悪すぎる。 ・業者によって除雪にムラがないように指導する。 ・特に団地内道路等はただ真中の除雪をするのではなく気持の入った喜ばれる除雪を。請負業者の中には民間の駐車場も請けているため早く終らせてそこに行っているということもささやかれています。 ・道路、歩道の除雪排雪。ブルで除雪しても、道路に残っている雪の量、深さが多すぎるので車がかわせなかったり雪量が多くてすすめない。除雪業者が燃費をうかすためにバケットを上げていると思います。 ・高齢者になると個人でできる事は知れてくる。もう少していねいな仕事を。 ・今でも除排雪は本当にきれいで助かっています。継続して下さい。 <角に雪> ・角地の積雪で運転時左右の確認がしづらい。（２） ・冬、最近の雪は重たいですね。角地なので廻りの雪集まって大変。 ・道路の角に残す除雪はやめてほしい。 ・道路への出入口に、半分氷の様な排雪等を置いていかれては、除雪が非常に重労働です。 <時間> ・除排雪が遅い。（２） ・除雪に入るタイミングがおそいと思う。 ・見通しの悪い道の排雪を急いでほしい。 ・小中学校周辺の除雪を早くしてほしい。遅すぎる。 <住宅街、家のまわり> ・住宅街の除雪。 ・住宅街の除雪をしていない。除雪の回数が少ない。 ・年々除雪がつらくなっています。特に戸建て住宅は雪を残されることが多いのでなんとかならないか。 ・住宅地の角が雪で視界がさえぎられる。危ない。町内会でもいいので何とかしてほしい。 ・玄関の前に除雪車が公園前に雪をおして、おいていく。 ・国道に面して住んでいます。2 車線分の雪が置いていかれます。泣…！75 才になります。個人的には限界です。何とかしてください。 ・除雪車が通った後の雪の山がとてもこまる。

	・女性の独居人は、冬は大変。家の前等除雪に気を配って。 ・大きな雪山があると安全確認ができない。家の前に雪のかたまりをおかないでほしい。 ・家と家の間の除雪を広い幅で行ってほしい（車がすれちがえるように）。 ・家の前の道が雪で細くなり車１台通るのがやっとなので雪を排雪してほしい。大雨が降った時など歩道がなくなり車道を歩かなければならない。
道路、歩道	＜渋滞＞ ・渋滞を緩和する。 ・国道が混みすぎ。 ・土･日の国道 38 号線の混雑の緩和。 ・OK ショッピングセンターから帯広市内にむけて朝の通勤通学の混雑を何とかしてほしい。 ・国道、帯広⇔木野 14 までの渋滞をなんとかする。片側 2 車線。 ・国道 241 号の渋滞解消（かなりストレスを感じる）。 ・木野の国道の渋滞を早くなんとかして欲しい。 ＜補修＞ ・市街地なのに砂利道。舗装道路に。 ・バス通りの中央マンホールのアスファルトの割れ段差多い。 ・自宅前の道路が古くて、ホソウがはがれている。 ・春にはアスファルトがデコボコになる。 ・団地も古くなって、所々で舗装のでこぼこが目立ちます。 ・町道の悪い道が多い。国道・道道も改良必要。早期整備必要。 ・道路もうすこしきれいにしてほしい。 ・凸凹が目立ち、妊娠時大変だった。 ・農村地域の道のアスファルト化。 ＜歩道＞ ・交通量が多いのに、歩道がない。 ・通学路の整備。 ・歩道か老朽化し凸凹のひどい所が有る。 ・歩道の整備に力を入れて欲しい。年配者・足の不自由な人は歩きにくい。 ・除排雪も含め、危険な所が多い（特に通学路）。 ＜その他＞ ・温泉（ほうのまい）の坂の所を上にあがった所の十字路の交差点、あぶないと思うので改善できたらいいと思う。短大（帯広大谷短期大学）に通っていたころ雪の日等あぶなかった。 ・道路の拡張が始まるが、その間のくわしい時間や日程などの案内。 ・振動がひどくて窓など開けられない。 ・道路の振動がひどく家の中にいても響く。夜寝ていても地震かと思い目がさめるほど。何とかしてほしい。 ・道路の水はけ悪が多い。 ・住宅街、雨水枡、道路より高い物が多々ある。 ・冬の雪道。国道が一車線になったのは混雑のもととなっている。道路の拡張。
バス	・おじいちゃんおばあちゃんの事故が多い。自家用車がなくても便利になればいい。 ・高齢になり車の免許を返上するとバスの便が気になる。 ・高齢者がスーパーや病院にバスの利用をしやすくする。 ・高齢者の車の事故が、なくなるのではないかと思う。 ・自家用車の運転をできなくなる事も含めて。 ・バスだけでなくタクシーも含めた検討を。自由に移動できるのがタクシーのメリット。 ・コミバス、タクシーの活用が有効と思うが工夫してほしい。特に場所によっては

	タクシー借上げなど。 ・公務員の自動車でタクシーサービスを実施。 ・外出弱者にとってバスは大切。 <高校生> ・高校生の通学の不便。（２） ・土曜日も学校が有るがいつものバスがない、困る。 ・スクールバスの休日運行（部活動支援）。 ・高校生のバス利用を中心に考える事が一番だと思う。送迎でラッシュがなくなると思う。 <不便、便利に> ・田舎では公共の乗物が不便。 ・便数が少なく利用しづらい。 ・これから高齢者自動車免許返納が多くなり、１ 時間に １ 本のバスでは不便である。 ・バスの乗場や時間帯が良くわからない。 ・バスの便が悪い。 ・バスの利用しやすさ。 ・バスを利用しているのでもっと本数があると良い。 ・ひびき野にバスの利用ができるように。 ・北鈴地区のバスの便が不便。 <コミュニティバス> ・100 円バスはこのまま必要、よく利用するので。 ・コミバスの増便。 ・コミバスの本数を増やしてほしい。十勝バス（十勝川温泉線等）など住宅地区の中を走るバスを増やしてほしい。老後のために。 ・コミュニティバスをもっとへき地にも走らせてほしい。 ・コミュニティバス本数増やす（施設の利用（催し物等）の時間あわない）。 ・交通弱者に対応出来るコミバス増便。路線延長。 ・年配者の方が買い物など利用するには不便な所があるコミバスのバス停の再考を！！ ・農村部にもコミバスを。（２） ・市街地はコミバスがあるが町外にもバスを週一度でも。 ・本数も少ないが、周る場所も広くないので増やしてくれると嬉しい。 ・もっと広域的にバス利用できるようにしてほしい。
まちの景観	・（すぐにはムリだと思うが）店の看板等の色がごちゃごちゃして、そこら辺の田舎町とかわらない。条例とかで音更の基本カラーを指定して店や家が統一された、まるでヨーロッパのようなきれいな街並みになってほしい。 ・まちの風景がきれいだと住民の方々もうれしいし、もっと音更に住みたいという人が増えると思うから。 ・商業のカンバンが目立ちすぎる。色が目立ち過ぎる。景観規制必要。 ・道路景観としてポイ捨看板等必要以上に乱立していて景観を阻害している。道路標識等にも平気でくくりつけているのをやめてほしい。 ・利便性良い反面、コンクリート駐車場に占拠された感（木野地区）。 ・立派な（素敵な）景観や箱を作っても、中身がともなわない。
商業、買い物環境	・公園、商業ゾーン、施設等の全体的バランス。 ・買い物しやすいと日常生活が良くなる（便利が良い）。 ・買い物をする場所を考えて。 ・スーパーが無い。 ・スーパーは沢山あるが衣料などのお店少なし。 ・町内を主体に買い物全体の意欲が喚起できない。商業者の意識改革。 ・帯広へ行かなくとも、音更で何でもそろう事がベスト。

	・大型スーパーなどの商業施設が欲しい。帯広まで足を伸ばさなくてすむようもう少し充実してほしい。 ・デパートなどの複合施設がないので、出向きにくい。 ・デパートのような施設あってもいいと思う。 ・店舗が木野にばかり。 ・冬期間の買い物歩きであるので不安。 ・自車で買物にいけなくなるとスーパーまで遠いので大変になる。 ・車が無いと買物難民になる。 ・車の運転も年と共に出来なくなる。コミニバス回数増してほしい。 ・車をやめると大変不便。 ・年をとっても生活できるように（買物できる環境整備）。 ・本町に店が少なく車のない高齢者が困っている。 ・近くに店がない。 ・買物が遠いので近くにスーパーが出来ると良い。郵便局も。 ・町にスーパーが少なくてこまる。 ・音更町商店減少につき移動バス販売車が必要。高齢者や小さな子供がいる家庭もある。
中心市街地	・街の中がにぎやかになってほしい。 ・活気がほしい。 ・市街地は広々してきれいになりましたが高校が近いと若い人も多いのでは。 ・中心市街地がどこかわからない。 ・中心市街地が静かすぎる。農村地域から出てきた時、やすむ場所があればと思う ・町全体が楽しくない。もっと楽しい事が増えること。 ・定期的にイベントはやっているが、その時以外は寂れている。 ・夜は、歩いている人がなく、さびれた印象。 ・年々寂しくなる中心市街地、A コープだけの独占営業はどうなのか？ ・音更本町がまったくにぎわっていない（特に夜）。 ・本町がさびれていくのがさみしい。 ・本町のにぎわいの活性化に向けての工夫が必要。 ・本町のにぎわい不足。
農業	・音更の基幹産業なので重要。（４） ・第１次産業は大事だから。 ・音更ブランドを作る。 ・音更町は農業が主産業だと思うが、EPA 協定により酪農家が元気をなくするのが心配、もっと保護する方向を。 ・自然も変わりゆく中、技術の向上。 ・需要と供給による、町民消費が望ましい。 ・十勝の産業を PR。 ・十勝は農業が大切！農家へのフォローを。 ・食料自給の充実。 ・新たな特産品の確立と農家所得の向上。 ・先が見えない、経費の価格上昇。 ・土地改良などもっと個人で広い面積がやれるように。 ・農業用給水栓の整備。 ・法人化の支援、若手農業者の育成。
地産地消 ・食育	・国産にこだわります。地産地消大いに取り組んで。 ・地産地消が一番の自慢。さらに発展してほしい。 ・地域財産につながる大切な事なので力を入れるべき。 ・地元野菜が全国でどれだけ求められているのか、皆知っているか？もっと、十勝の野菜を愛し、ありがたみを感じられたら。 ・農業が盛んなのに地元の野菜がなかなか手に入らない。

	・地ものであるが金額が高く買えない。 ・北海道や町をアピールするには地産地消製品を求む。 ・直売所もっと身近に増えると良い。 ・音更の作物をつかってイベント。 ・音更町の PR 不足！ ・広報紙に町の特産物や商品の紹介コーナーを設けたり、時には、町民に試供品として配り、どんどん知らしめる。
企業誘致 起業支援	・企業誘致で働く場を確保。 ・企業を誘致してにぎわいのある町づくりの振興。 ・企業誘致することで人口が増える。 ・人口減の解消や子育て世代の安定化には絶対に必要。町の元気さにつながる。 ・企業誘致です。大きい会社を入れる。働く所の確保。 ・企業誘致や活動支援により働く場が人口定着になる。 ・工業団地などの有効活用。 ・工業団地の売買方法、宣伝活動。 ・工業団地への誘致活動。 ・新たな企業を誘致し働く場の提供と人口増加。 ・イオンなどの大型店舗を誘致。（２） ・大型ショッピングモールができると楽しいと思う。 ・イオンモール、無印良品など、ファミリー向けの施設が少ない。 ・コストコやイケアを誘致してほしい。 ・インターチェンジのメリットを全国にアピール。 ・よつ葉など、乳業の発展と、チーズやワインなど観光の味力を作り出す。 ・宣伝、アピールが、出来なさすぎ、若い人の意見とりあげる等。 ・町の発展に向けて都会に向けて、活動、アピールして、物産店など開催して誘致活動を行う。 ・農産物などを加工原料として外に出さないで、加工企業を誘致。
観光地としての魅力づくり	・オススメの観光スポットなどオススメできる場所がない。 ・これと言った物がない。 ・また行きたいと思えない。低料金での娯楽が必要。 ・音更に住んで「これが郷土の作品だ！」といわしめるものがない。 ・音更の観光地はどこ？２～３ヶ所しか知らない。 ・音更の魅力づくり。 ・町の魅力 UP＝人手不足解消のため。 ・魅力ある観光地の整備。 ・魅力づくりが無い。人は集まるのは商業施設のみ。 ・音更へ行こうと思える所が微妙でない。 ・音更町には魅力的な観光地がない。 ・観光地としての行く場所がない。 ・ガーデンスパは失敗だったと思うので、別の作戦で…。 ・観光スポットが増えてほしい。 ・商業・農業を含めた施設。 ・他市町村での十勝全体としての取組。 ・国際化を進めてインバウンドを取り込む。 ・もっと地元に目を向けるべきでは？外にばかりアピールしているように見える。 ＜地域資源＞ ・観光としても、もっと広げられる要素有り。 ・温泉・農作物もおいしいのになぜか知らんぷり。 ・温泉、スイーツ、新鮮野菜、パン、乳製品 etc.の魅力を生かしておしゃれな街のイメージになってほしい。 ・自然観光資源の開発。

	・十勝の立地条件として立ち位置を確立して。 ・十勝川温泉の魅力低い。 ・十勝川温泉を昔のように活気を戻せたらいいと思います（今は景気もかなり悪くむずかしいと思いますが）。 ・地の魅力が有るが人の魅力が無い。人材の確保。 ＜ＰＲ、情報発信＞ ・全国的にも珍しい温泉をもっとピーアールすべき。 ・ホームページを見られない人のために広報車の呼びかけを行ってほしいと思いました。 ・町の観光地の魅力が、まだ町外の人に分かってもらえていないので、他ではない様なインパクトのある広報を町外、全国的に広げて、季節ごとに分けて、春、夏、秋、冬は何々と一年中来たくなるようにしたらいいかなあ～(言うのは、簡単でごめんなさい)。 ＜道の駅＞ ・道の駅の移転。（２） ・道の駅など魅力に欠ける。 ・道の駅の充実。 ・道の駅を大きく。 ・道の駅をきれいにしてほしい。はずかしい。 ・道の駅をもう少し観光地らしく。場所的なこともある。 ・道の駅が遠すぎる。
働く場	・町内で働く場所がもっとあったらいい、雇用の充実。（１０） ・働く場があると人口が増える。 ・働ける場を多くして、沢山音更町に人が住んでほしい。 ・働く場所が近くに沢山あると、生活もしやすい。 ・働く場所が増えると町の財政良くなる。 ・よりよく働ける所が、あれば生活面がかわる。 ・働く者が町の中心。 ・公告を見ると介護職（悪いとは言わないが）ばかり。はっとくるような企業は来ないものか。 ・企業誘致や活動の活性化支援の充実。 ・最初は官民で運営し、自立の目度がつけば、民営や第３セクター方式へと移行していける企業を設立すべき。 ・音更はブラック（企業）が多すぎるのでちゃんとそこらへん考えて。 ＜若者＞ ・若者に働く場所を。（２） ・特に若者が地元で就職し、働ける状況を創るべき。採用された企業等に、助成金を出すなど工夫すべき。 ・若い人が月給をうけとれるような会社がたくさんできればありがたい。 ・若い人が地元で働けるような環境作り。 ・若者に働く機会の提供、インターシップ、短期アルバイト。 ・若年層の定着、年齢構成のバランス。 ・大卒者の就業、UIJ ターンの促進。 ＜高齢者＞ ・高齢者も仕事は必要だが、若いものが日給扱いの会社が多く生活苦となっている。 ・60 歳を過ぎたら働く場所が少ない。 ・行政を含み、高齢者にも仕事を。若者に対しても就労支援が必要。 ・高齢でも町内で短時間でも就業出来る場所。 ・年がとってもいくらでも働けるので、年寄用の仕事があればいい。 ・高齢化社会による働く場。

	＜子育て中＞ ・子供が居ても、働きやすい所が少ない。
広報紙やホームページ	・広報紙の中味にお金かけすぎ。 ・全て義務的に見繕っているだけにしか感じず、読む事にも、参加する事にも、開く事にも興味をそそられない。 ・紙の情報多過ぎて読みきれない。判断に苦しい内容もある。 ・読んでいて楽しくない。 ・町民割引などつくってほしい。 ・広報紙等におしらせ等をもっとのせてほしい。 ・広報紙等の配布方法の一考を。町内会員のみの配布？ ・広報紙の個人への配布が遅すぎます。
協働のまちづくり	・行政に提言できる雰囲気つくりが必要である。 ・若者、子供が大きくなっても又音更町に戻りたい環境作り。 ・住民と行政との意見交換会。 ・町民と行政の意思の疎通を図ることが先決。現場目線による町制の執行がだいじ。相互理解を図ることが大事。 ・町民も一緒に協力し合って町をよくしていく。
役場窓口・サービス	・社会福祉に特化した対応の体制。 ・土日祝や夜間も窓口サービスを希望。 ・対応の仕方について教育の統一を徹底して下さい。すばらしい方はすばらしいですが、ひどい方は本当にひどいです。 ・各窓口、十分な説明のできる人材が少ない。 ・細かな手続きが多いので大変だとは思うが、町民全員が仕組みを理解している訳ではないので、頭にいれて接して欲しい。 ・事務的な無表情の対応にイラッとする時あります。 ・窓口での解答がスムーズに受けられない。 ・窓口では高齢者にやさしく声かけをしてほしい。 ・窓口の対応の悪い部署がある。 ・窓口対応はいいけど、サービスの内容が不満足。親身になってほしい。 ・個人情報的なものを大声で言われ不快だった（木野支所）。 ・木野支所の窓口の対応のしかたがとてもいやだった。 ・木野支所は上司の態度が悪かった。

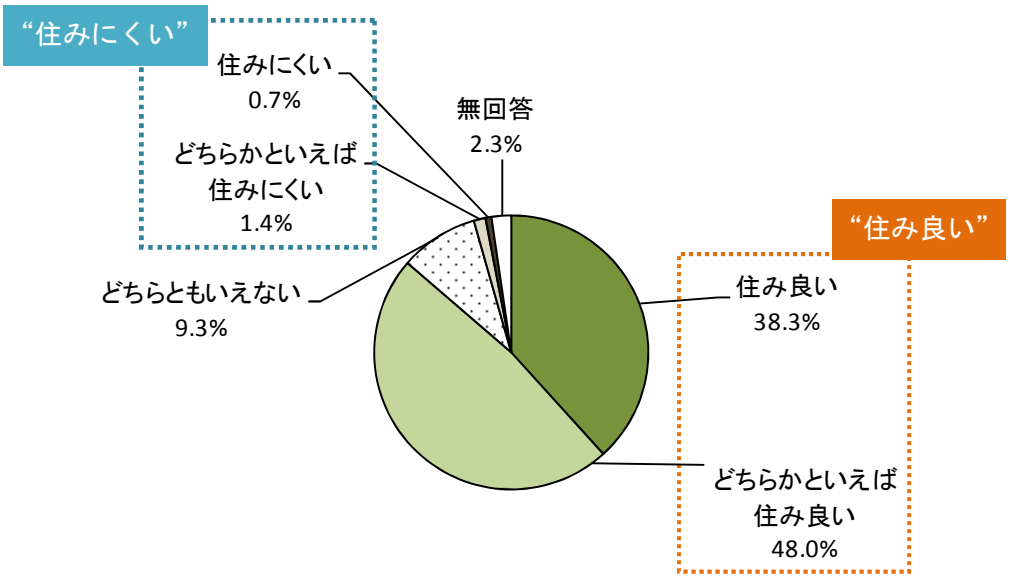
３　住み良さ（【問２】）

【問２】総合的にみて、現在の音更町の住み良さはいかがですか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

○「どちらかといえば住み良い」が 48.0%と過半数を占め、「住み良い」（38.3%）が続きます。この２つを合計すると 86.3%で、程度の差はありますが９割弱は“住み良い”と感じています。

○一方、「どちらかといえば住みにくい」は 1.4%で、「住みにくい」（0.7%）と合わせると、2.1%が“住みにくい”と感じています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（431人）



●性別でみると、「住み良い」は男性、「どちらかといえば住み良い」は女性の方が高くなっています。

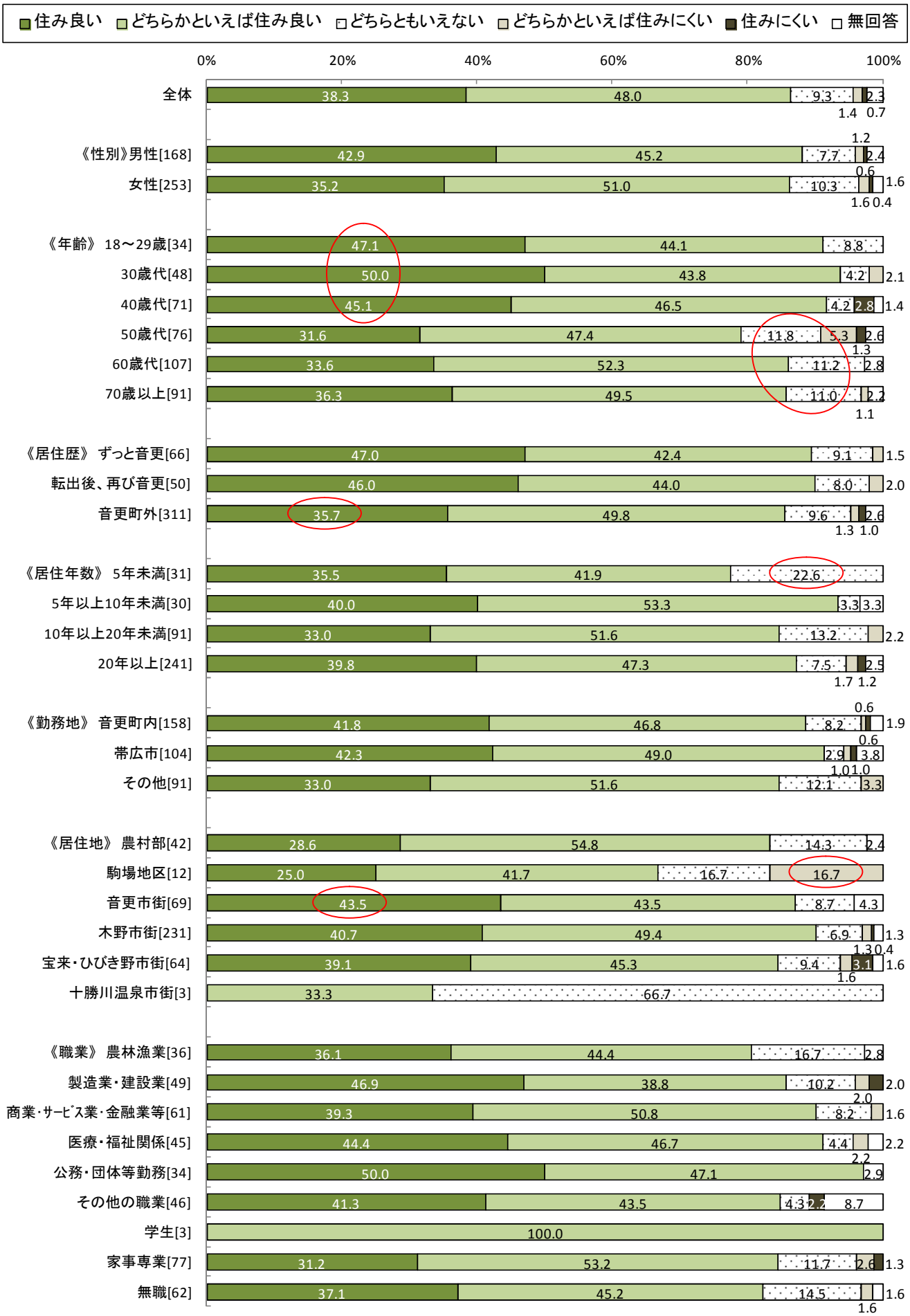
●年齢別でみると、「住み良い」が最も高いのは 30 歳代で半数を占めます。また、「住み良い」は、50 歳代以上の年齢では３割程度にとどまり、「どちらともいえない」が１割以上を占めます。

●居住歴別でみると、音更町外の回答者は、他に比べて「住み良い」が低く、「どちらかといえば住み良い」が高くなっています。

●居住年数別でみると、５年未満は「どちらともいえない」が２割以上を占め、他に比べて高くなっています。

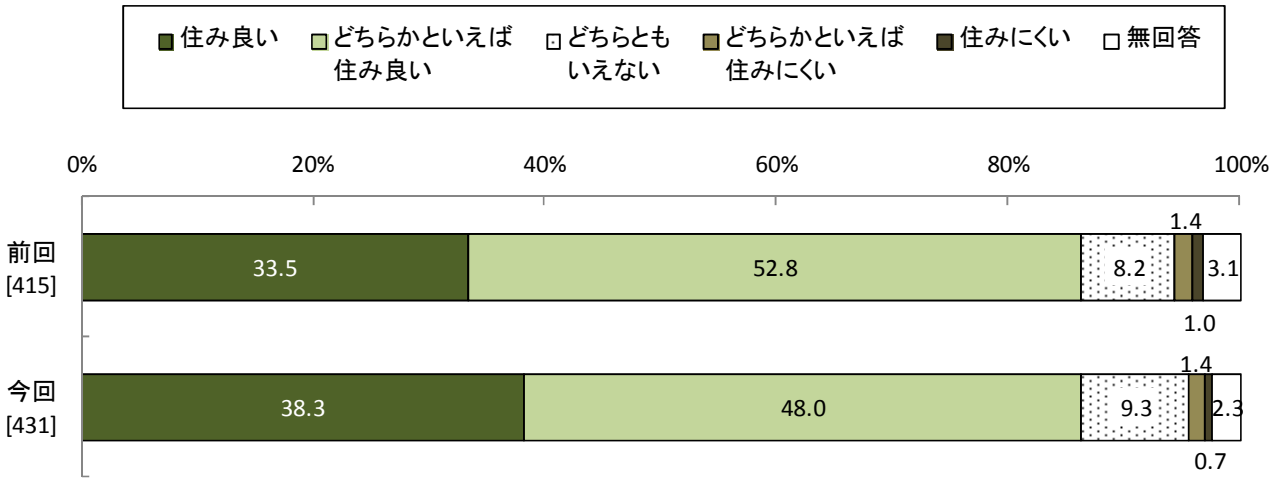
●居住地別でみると、「住み良い」が最も高いのは音更市街です。「どちらともいえない」は農村部と駒場地区で１割以上を占め、また、「どちらかといえば住みにくい」は駒場地区で１割以上を占め、それぞれ、他に比べて高くなっています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（属性別）



前回との比較
「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」の合計は、前回と同じ（86.3%）ですが、今回は「住み良い」の割合が高くなっています。

【問２】現在の音更町の住み良さ（前回との比較）



４　定住意向（【問３】【問４】）

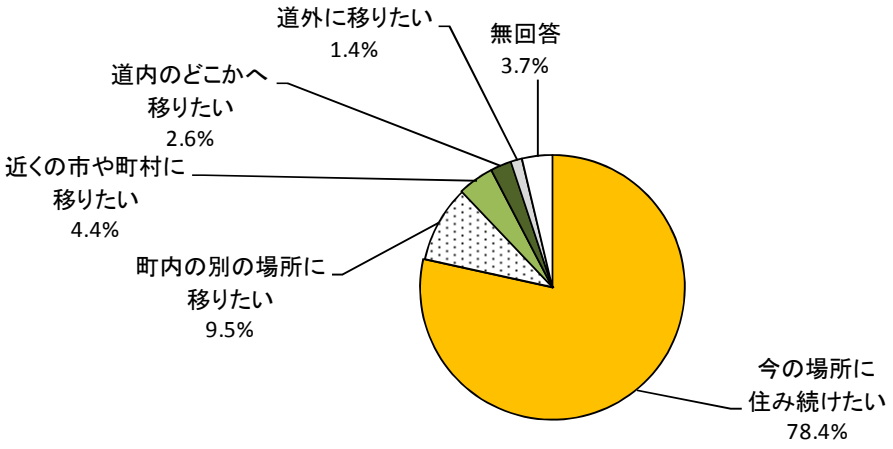
（１）音更町に住み続けたいか

【問３】これからも、音更町に住み続けたいと思いますか。次の中から１つだけお知らせください。（○は１つ）

○「今の場所に住み続けたい」が 78.4%と最も高く、「町内の別の場所に移りたい」（9.5%）が続きます。以下、「近くの市や町村に移りたい」（4.4%）、「道内のどこかへ移りたい」（2.6%）、「道外に移りたい」（1.4%）の順です。

○「今の場所に住み続けたい」と「町内の別の場所に移りたい」を合わせると 87.9%で、約９割は音更町内に“住み続けたい”と考えています。

【問３】音更町への定住意向（431人）



＜「例えば」の記載＞
・帯広市（10）　・札幌市（６）　・札幌市近郊（２）　・幕別町（２）　・芽室（２）　・網走市（２）　・旭川市
・東京周辺　・東北地方　・千葉　・水害のない地　・雪の少ない地域　・老人にやさしい所に

●性別でみると、「今の場所に住み続けたい」は、男性の方がやや高くなっています。

●年齢別でみると、「今の場所に住み続けたい」が最も高いのは 70 歳以上です。一方、18～29 歳は「町内の別の場所に移りたい」が２割以上を占め、他に比べて高くなっています。

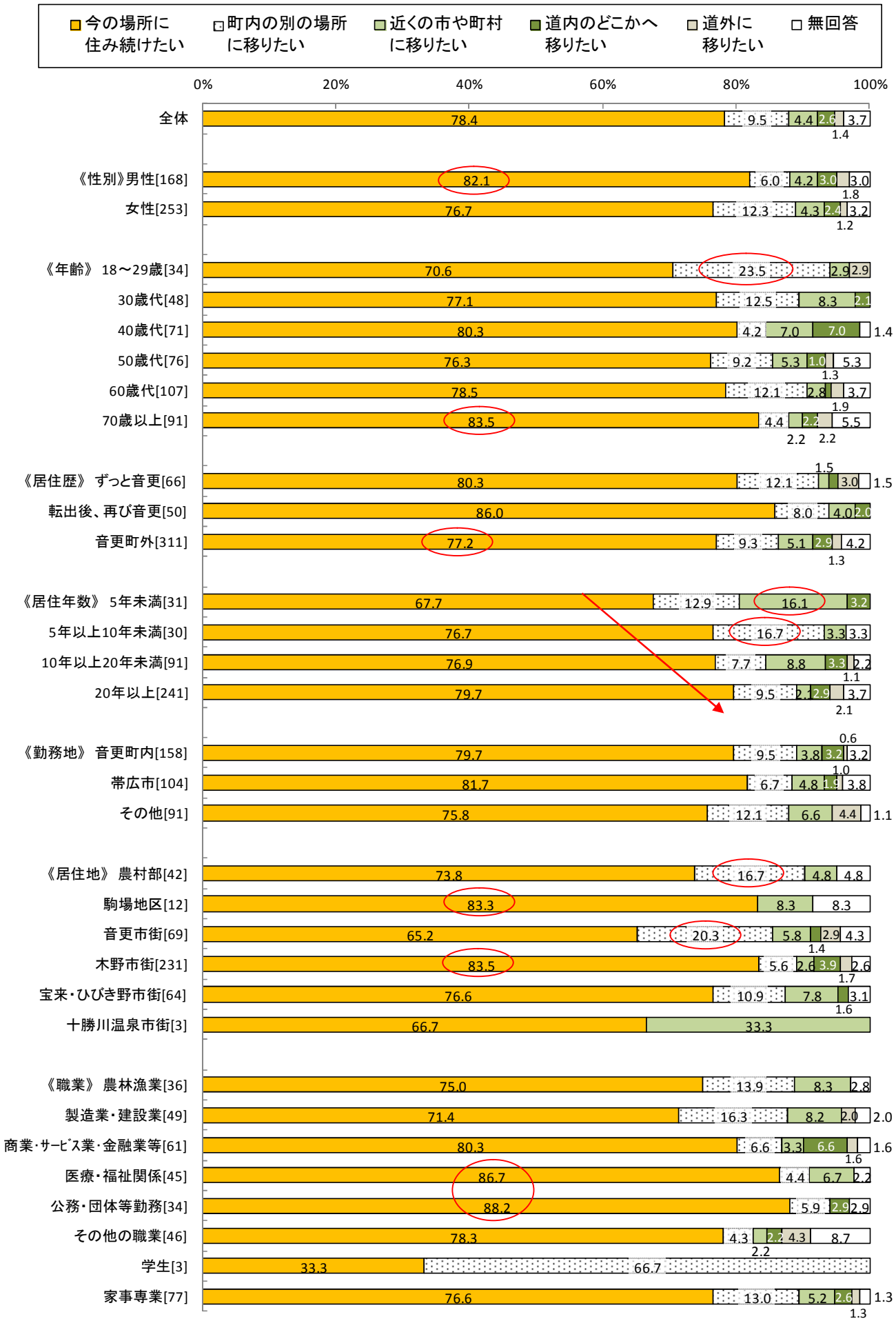
●居住歴別でみると、音更町外の回答者は「今の場所に住み続けたい」が他に比べて低くなっています。

●居住年数別でみると、居住年数が長いほど「今の場所に住み続けたい」が高まります。一方、５年未満は「近くの市や町村に移りたい」、５年以上 10 年未満は「町内の別の場所に移りたい」が他に比べて高くなっています。

●居住地別でみると、「今の場所に住み続けたい」は駒場地区や木野市街で高くなっています。一方、農村部や音更市街では「町内の別の場所に移りたい」が他に比べて高くなっています。

●職業別でみると、「今の場所に住み続けたい」は福祉･医療関係や公務･団体等勤務で高くなっています。

【問3】音更町への定住意向



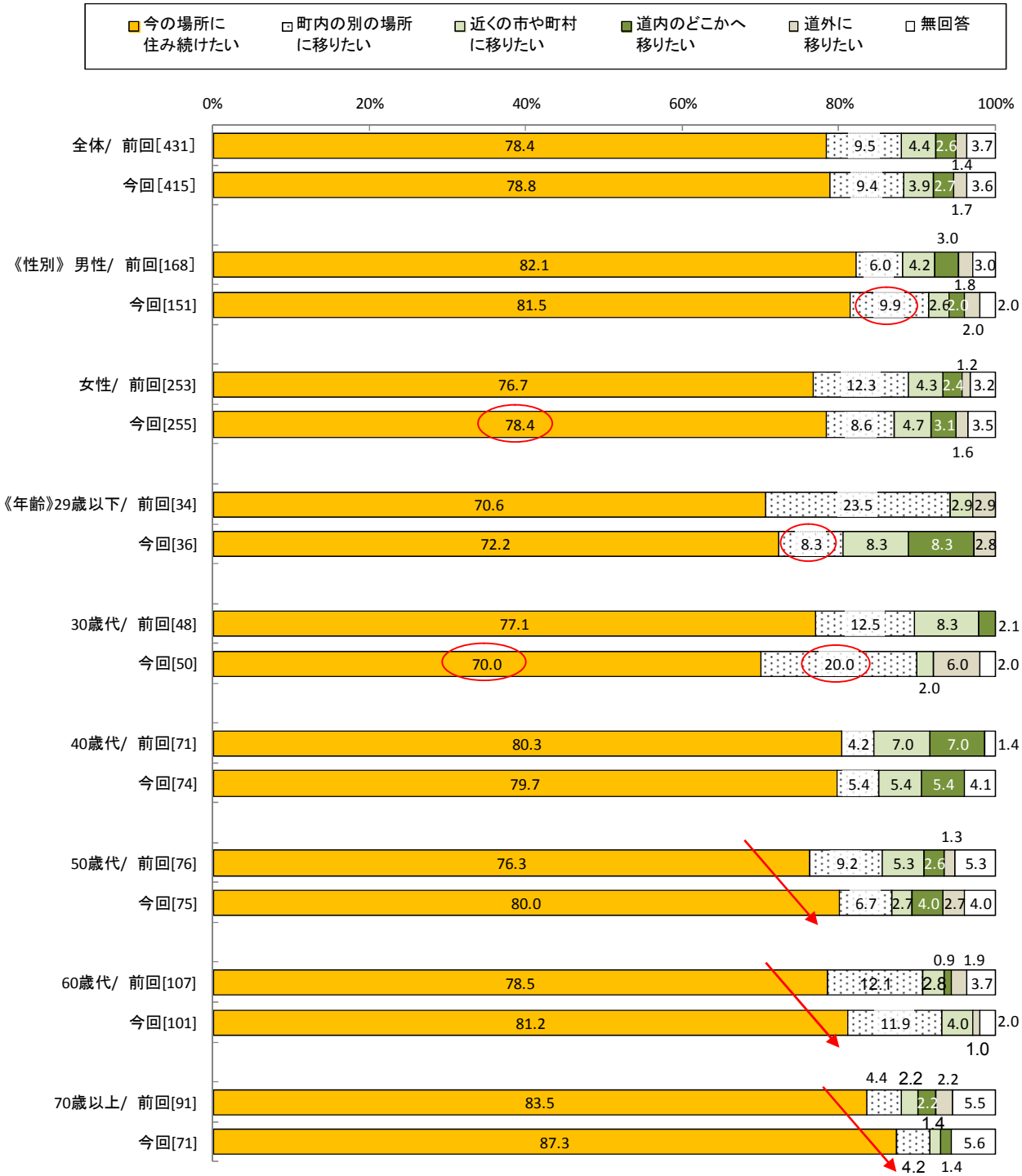
前回との比較

全体的には、前回の回答との差がほぼありません。

性別で比較すると、男性は「町内の別の場所に移りたい」が前回よりやや高くなりましたが、女性は「今の場所に住み続けたい」が高くなっています。

年齢別で比較すると、「今の場所に住み続けたい」は、30 歳代は今回 7 割にとどまり前回との差がめだちますが、40 歳代はほぼ同じで、50 歳代以上では、いずれも前回よりも高くなっています。また、「町内の別の場所に移りたい」は、18～29 歳は前回より低くなっていますが、30 歳代は前回より高くなっています。

【問3】音更町への定住意向（前回との比較）



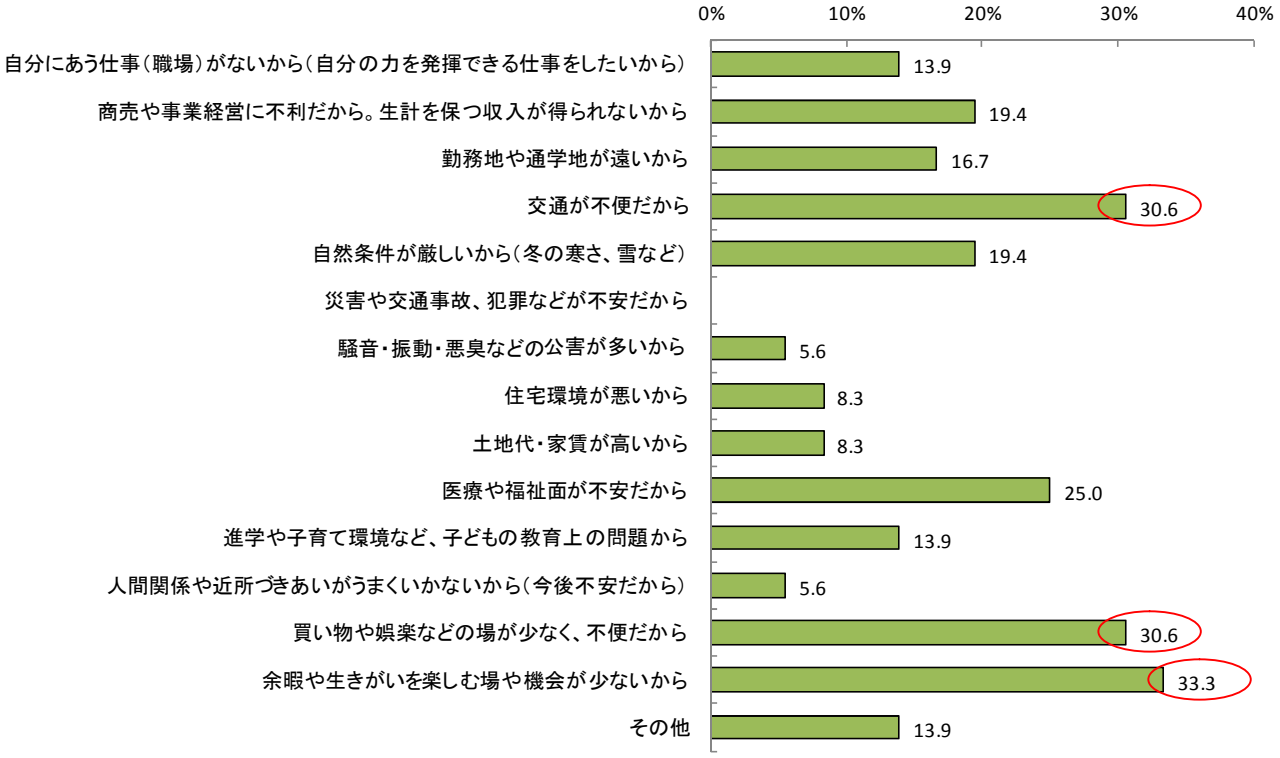
（２）町外に移りたい理由

【問４】前問（問３）で、３～５※に○印をつけられた方におたずねします。町外に移りたいと思うのは主にどのような理由からですか。次の中から３つ以内でお知らください。（○は３つまで）

※３～５の選択肢とは「近くの市や町村に移りたい」「道内のどこかへ移りたい」「道外に移りたい」の３つのことです。

○「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」（33.3%）が最も高く、「交通が不便だから」と「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」が同率で続きます。

【問4】町外に移りたい理由（3つまで選択/36人）

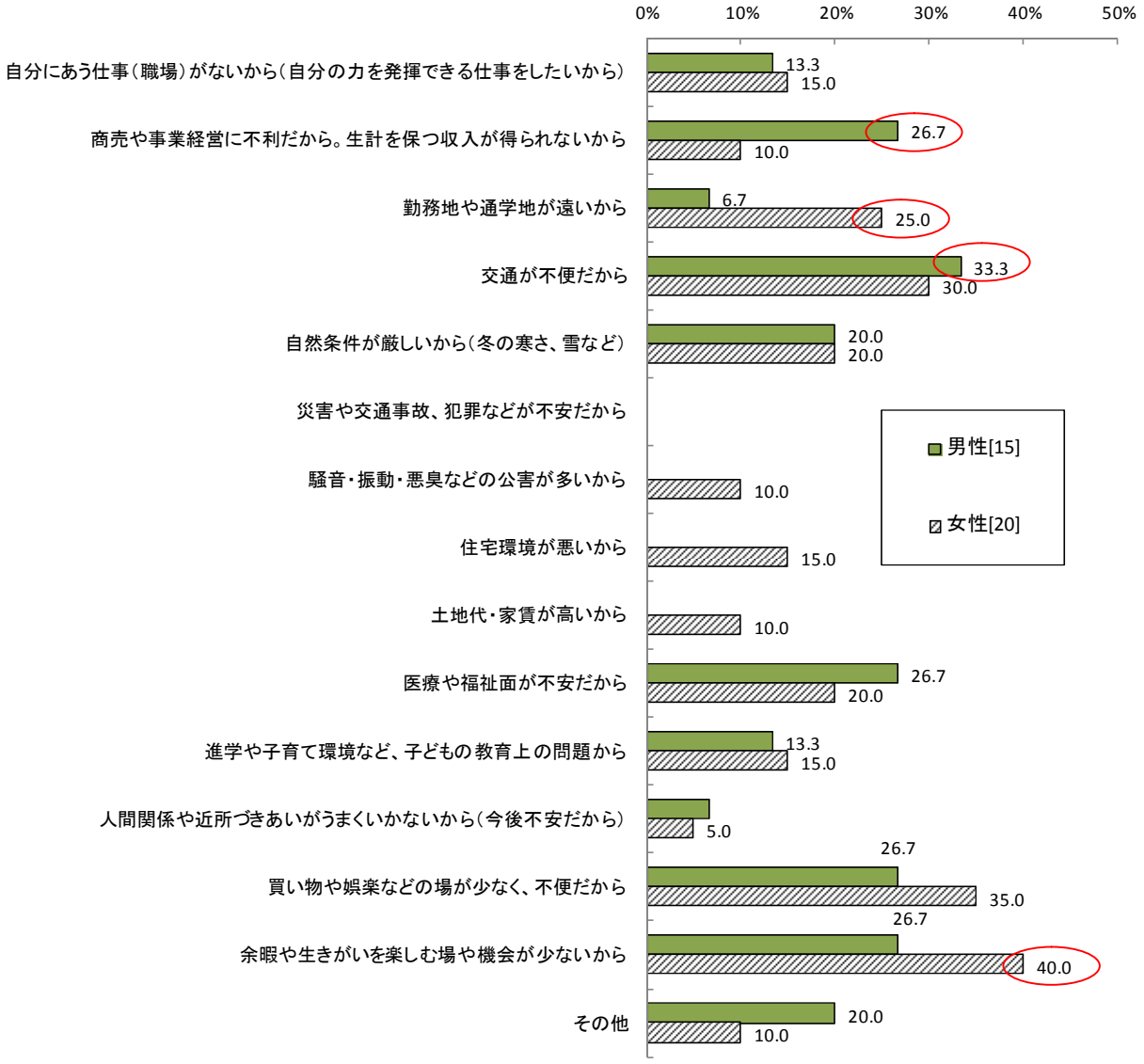


＜「その他」の記載＞
・他市に長く居住していた。　・通院が不便。　・電波が悪い。　・住人が街を愛している人が多いところに行きたい。

●性別でみると、男性は「交通が不便だから」、女性は「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」が第１位です。

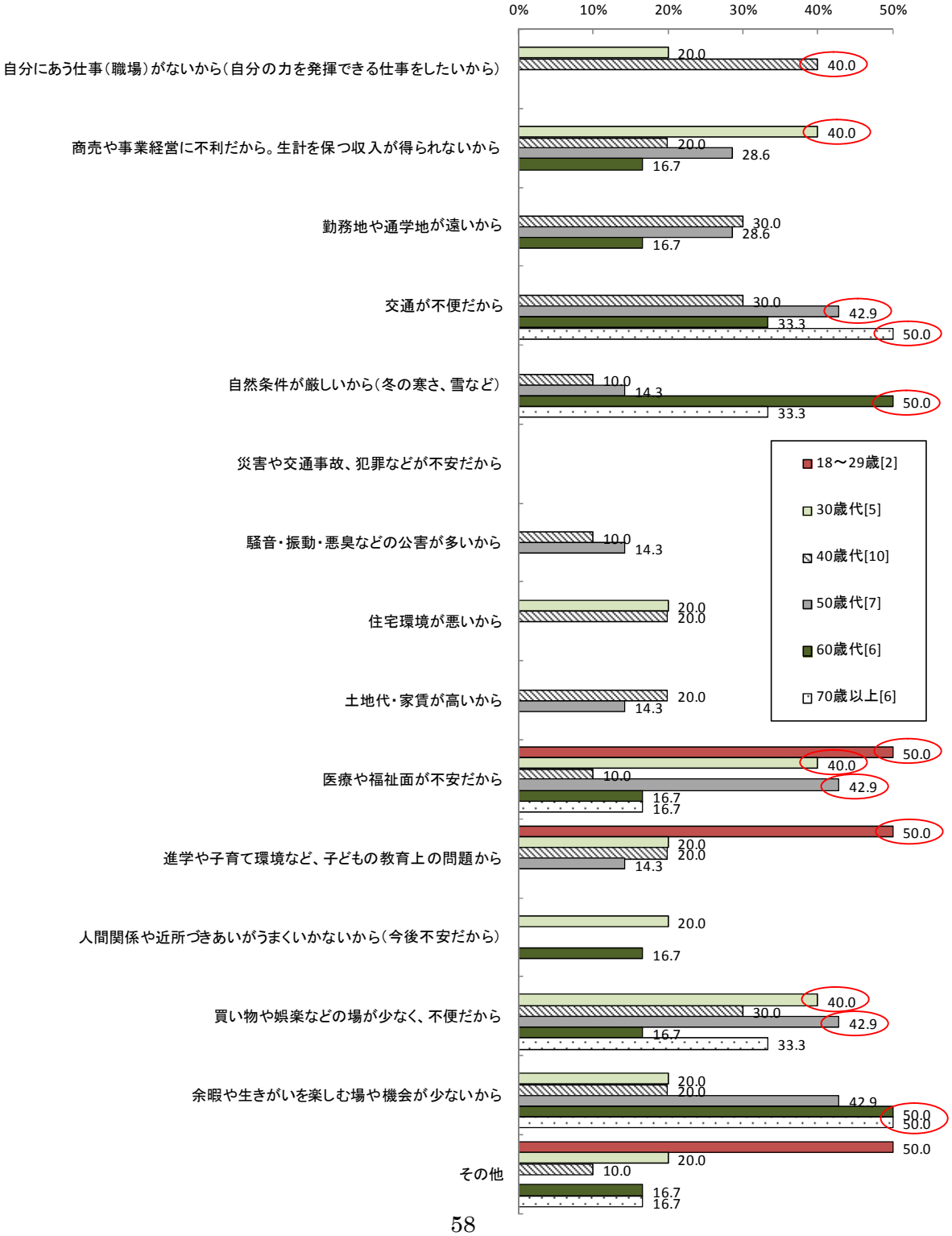
●「商売や事業経営に不利だから。生計を保つ収入が得られないから」は男性、「勤務地や通学地が遠いから」は女性の回答率が高く、男女の差が特に差がめだちます。回答人数が少ない（男女合わせて 36 人）こともありますが、全体的に男女の差が見られます。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/性別）



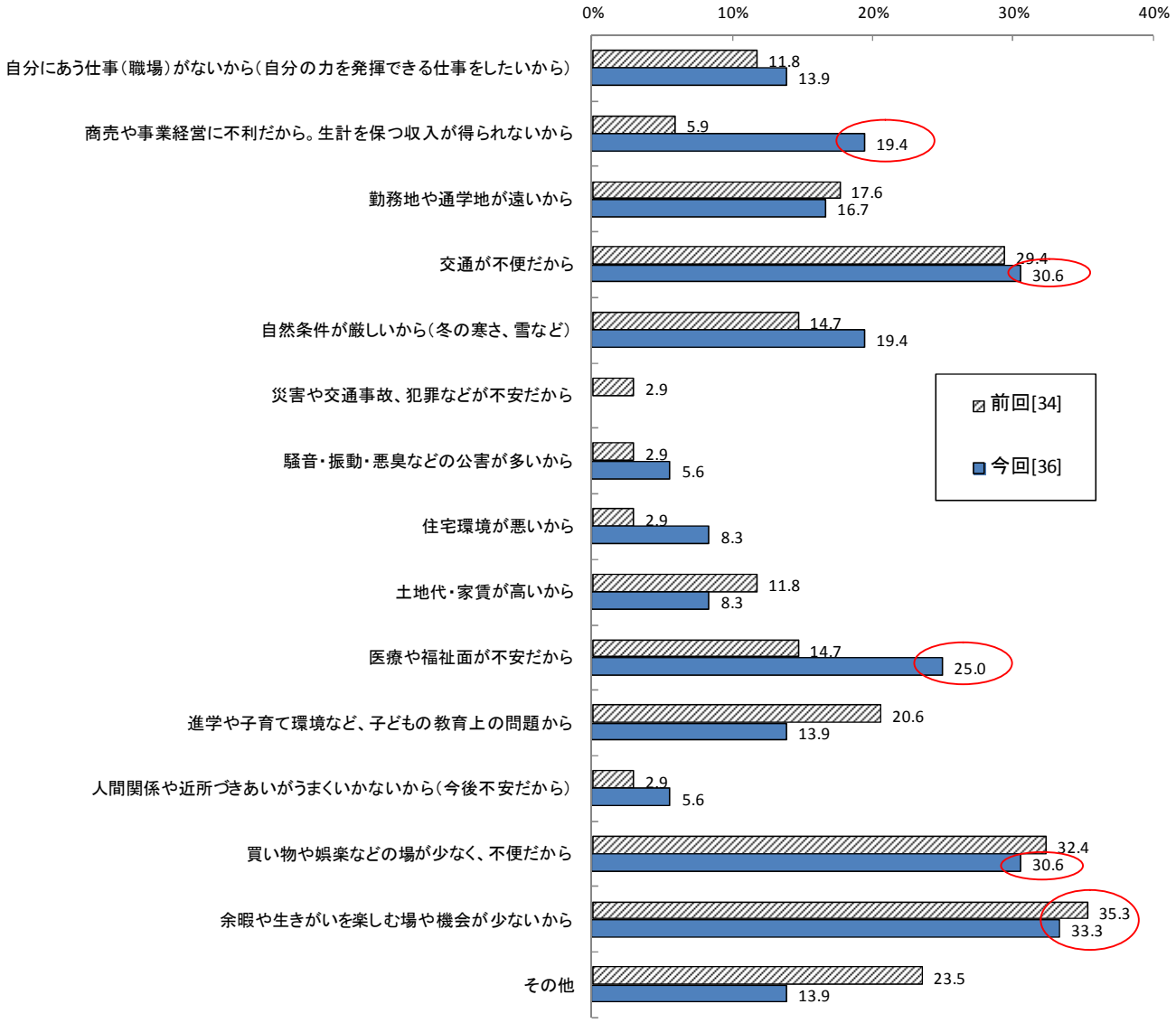
●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「医療や福祉面が不安だから」「進学や子育て環境など、子どもの教育上の問題から」（２つ同率）、30 歳代は「商売や事業経営に不利だから。生計を保つ収入が得られないから」「医療や福祉面が不安だから」「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」（３つ同率）、40 歳代は「自分にあう仕事（職場）がないから（自分の力を発揮できる仕事をしたいから）」、50 歳代は「交通が不便だから」「医療や福祉面が不安だから」「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」（３つ同率）、60 歳代は「自然条件が厳しいから（冬の寒さ、雪など）」と「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」（２つ同率）、70 歳以上は「交通が不便だから」と「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」（２つ同率）を第１位にあげています（それぞれ、その他は除く）。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/年齢別）



前回との比較
前回と同様に「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」が第１位ですが、第２位は、「交通が不便だから」と「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」が同率であげられています。 「商売や事業経営に不利だから。生計を保つ収入が得られないから」や「医療や福祉面が不安だから」は、前回よりも高くなっており、差がめだちます。

【問４】町外に移りたい理由（3つまで選択/前回との比較）

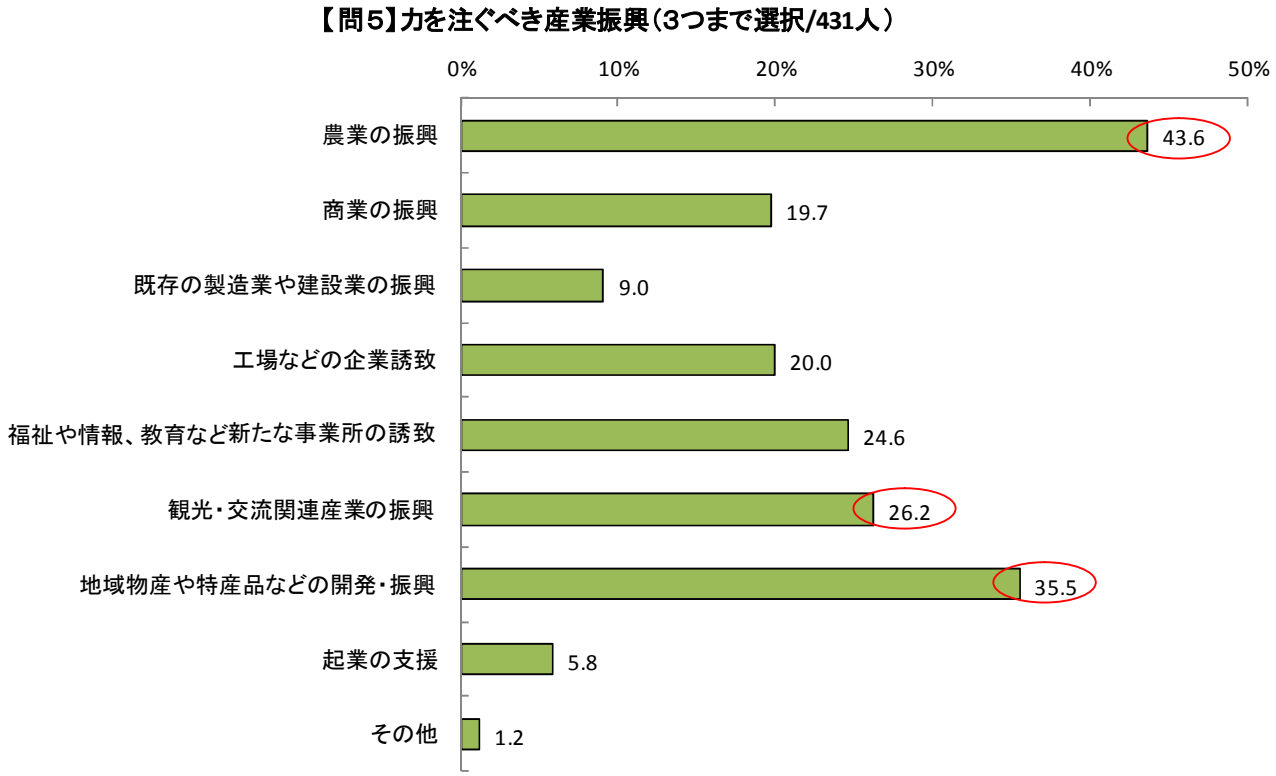


５　産業の振興（【問５】【問６】【問７】）

（１）産業全般について

【問５】音更町の産業を振興するために、どの分野に力を注ぐべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「農業の振興」（43.6%）が最も高く、「地域物産や特産品などの開発・振興」（35.5%）、「観光・交流関連産業の振興」（26.2%）と続きます。

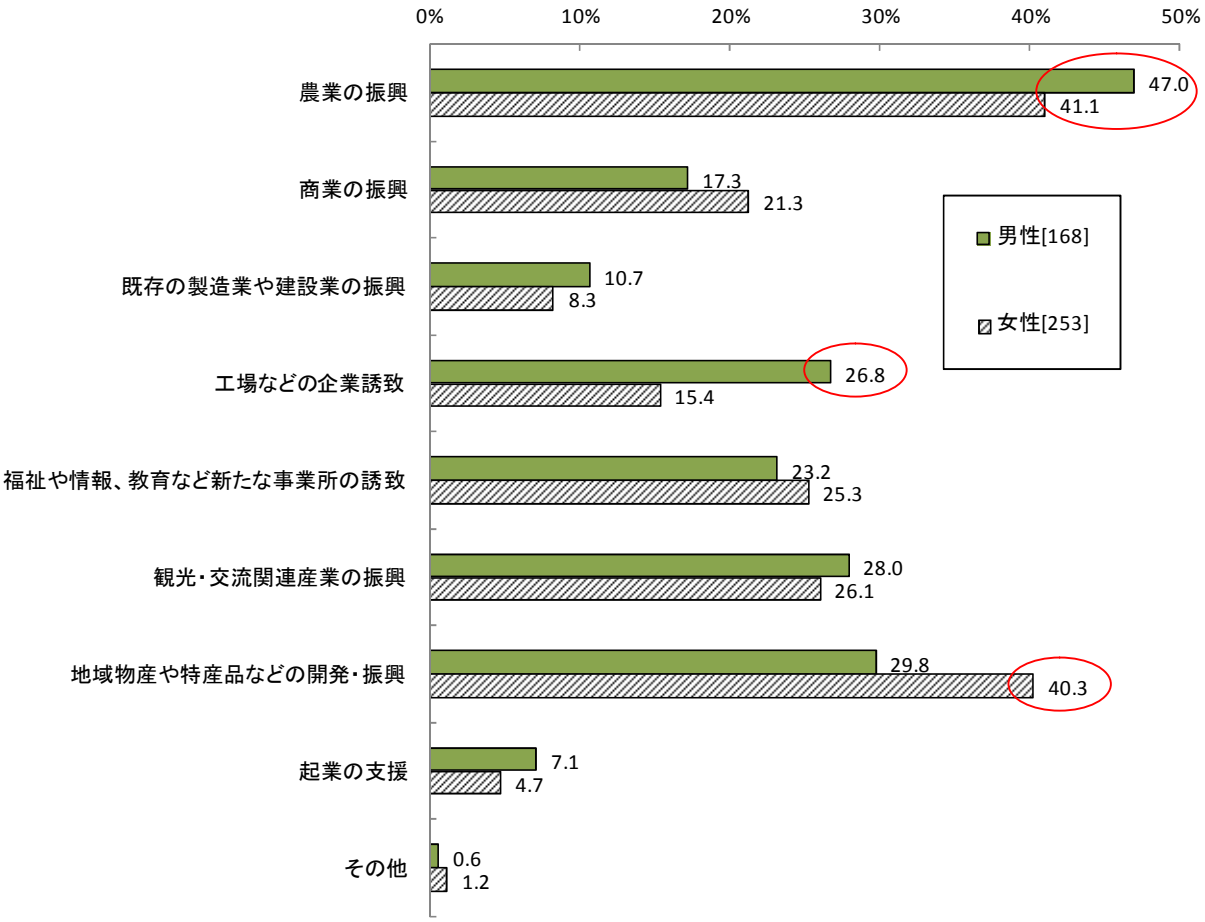


＜「その他」の記載＞
・色々な分野の職業をまんべんなく増えるといい。　・農業で止まらず第６次産業までとり進める。

●性別でみると、男女とも「農業の振興」が第１位、「地域物産や特産品などの開発・振興」が第２位、「観光・交流関連産業の振興」が第３位です。

●「工場などの企業誘致」は男性、「地域物産や特産品などの開発・振興」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

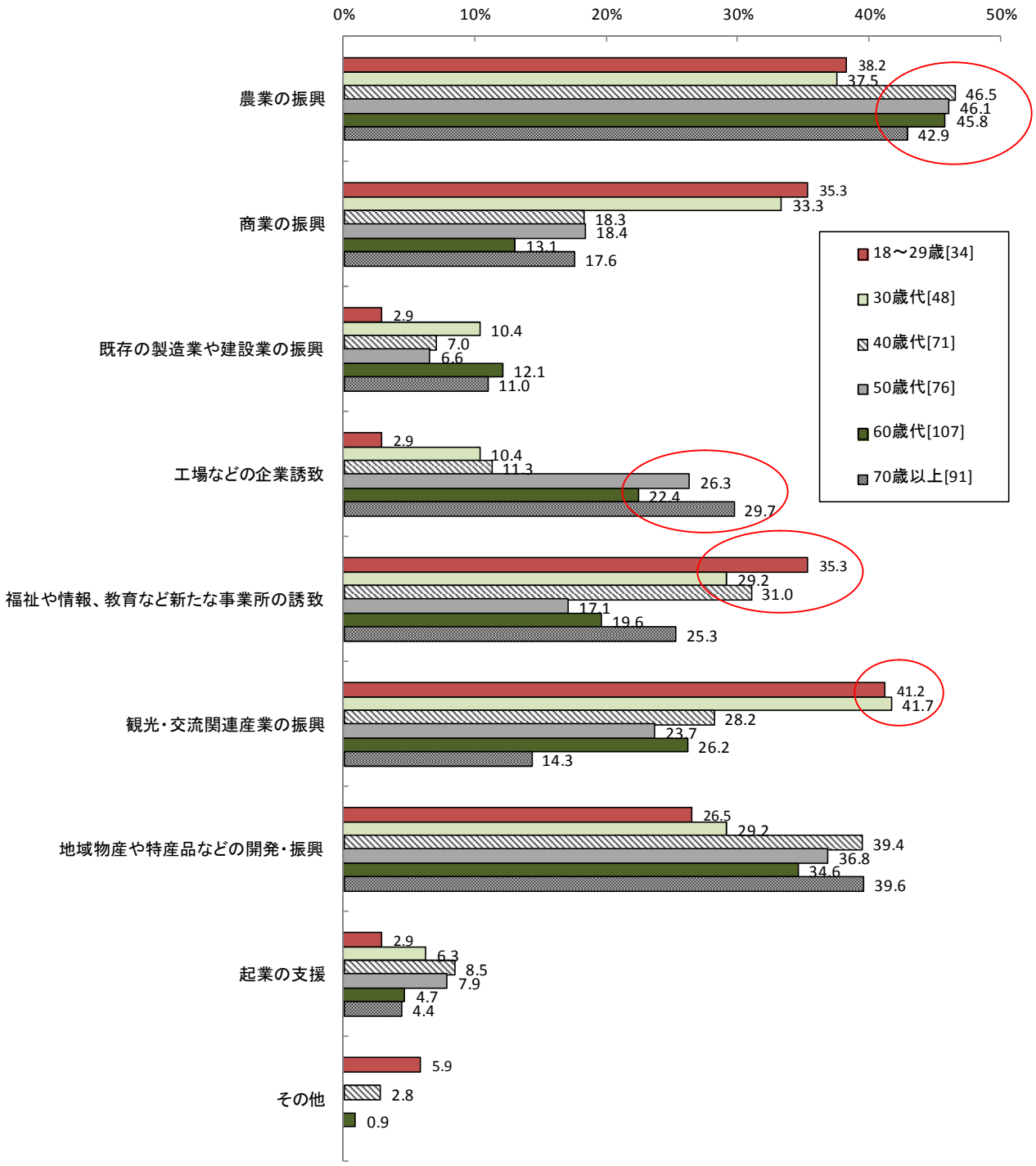
【問５】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/性別）



●年齢別でみると、18～29 歳と 30 歳代は「観光・交流関連産業の振興」、40 歳代以上は「農業の振興」が第 1 位です。第 2 位は、18～29 歳は「商業の振興」と「福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致」（同率）、30 歳代は「商業の振興」、40 歳代以上の年齢は「地域物産や特産品などの開発・振興」です。

●「工場などの企業誘致」は 50 歳代以上の年齢、「福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致」は 40 歳代以下の年齢で高く、それぞれ他との差がめだちます。

【問5】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/年齢別）

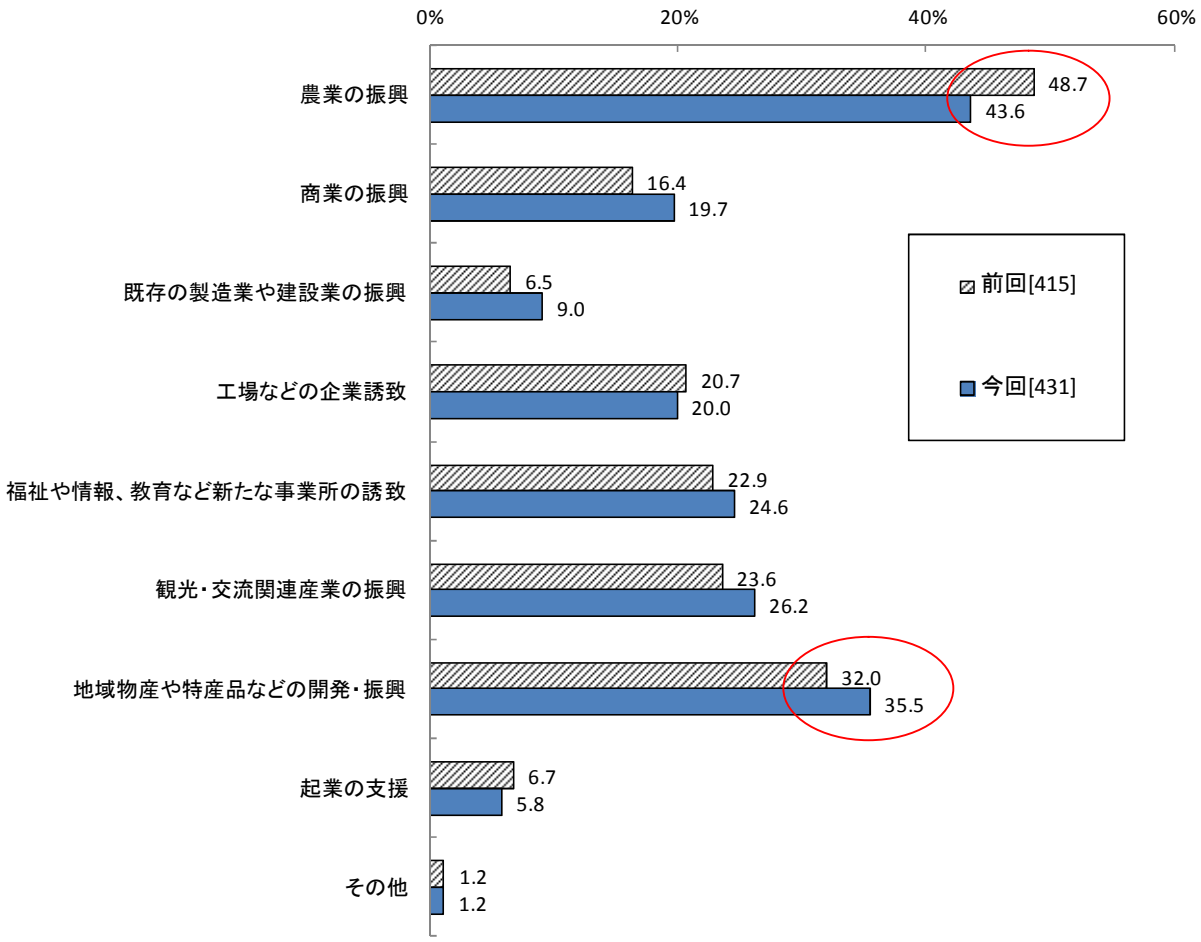


前回との比較

前回と同様「農業の振興」が第１位、「地域物産や特産品などの開発・振興」が第２位ですが、「農業の振興」は前回の方が高く、「地域物産や特産品などの開発・振興」は今回の方が高くなっています。

「農業の振興」「工場などの企業誘致」「起業の支援」以外は前回よりも高くなっていますが、全体的には、回答傾向に大きな違いはありません。

【問5】力を注ぐべき産業振興（3つまで選択/前回との比較）

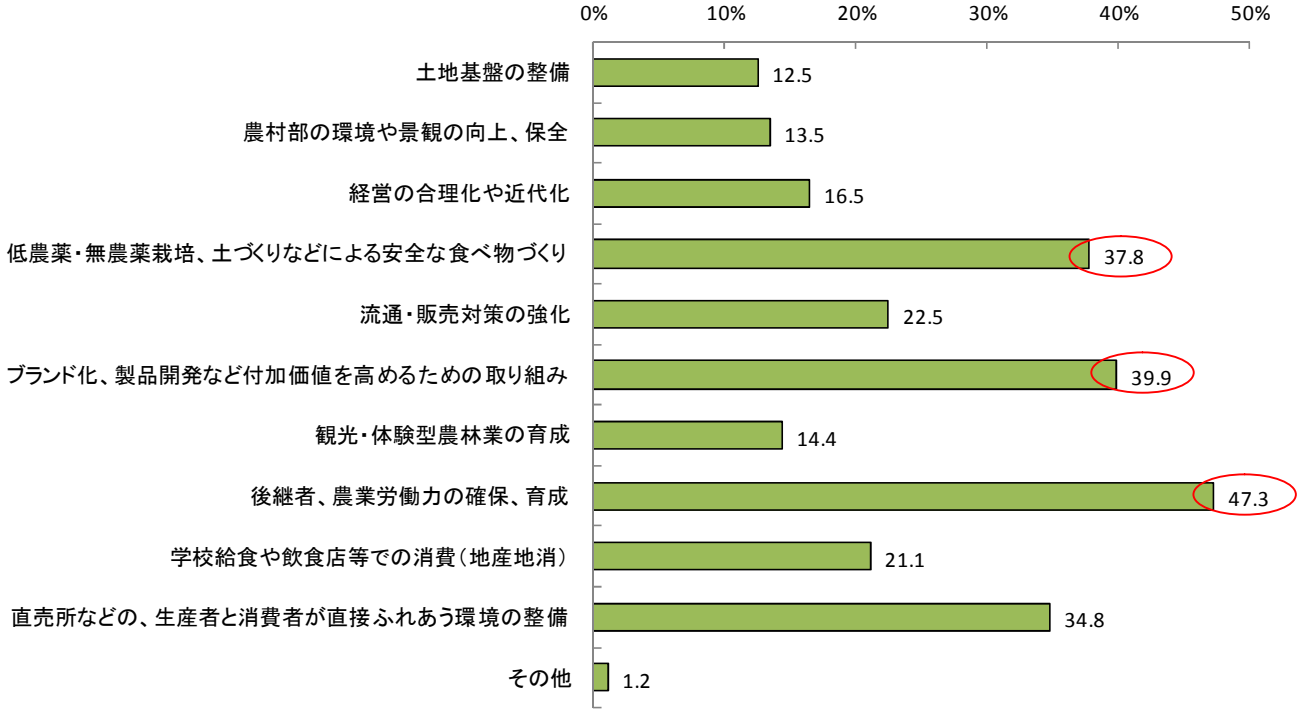


（２）農業の振興について

【問６】音更町の農業を振興するために、どのようなことに力を注ぐべきだと思いますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

○「後継者、農業労働力の確保、育成」（47.3%）が最も高く、「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」（39.9%）、「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」（37.8%）と続きます。

【問6】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/431人）

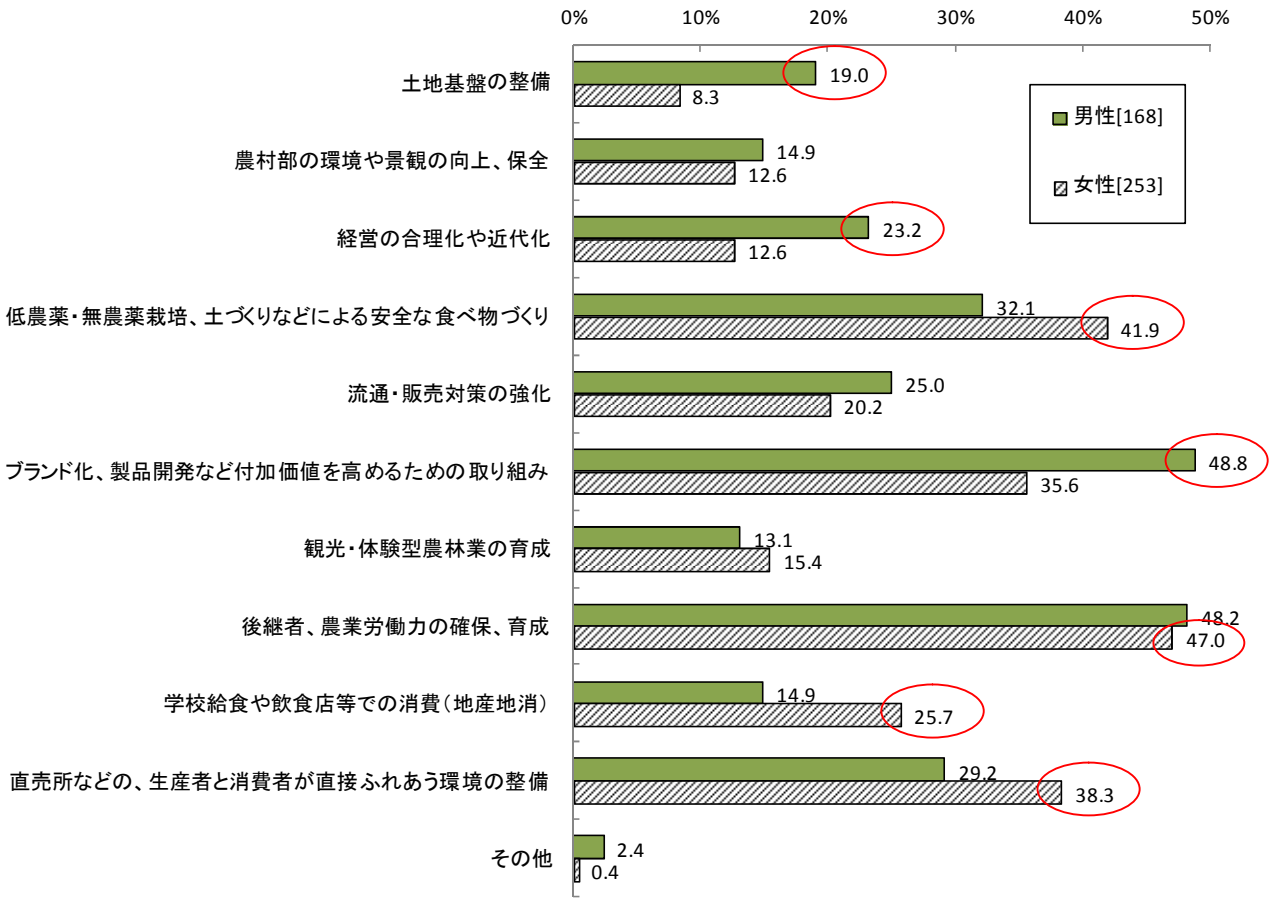


＜「その他」の記載＞
・畜産農家の牛舎が汚れすぎでまず。その指導も必要では。
・農業に役立つ IT との取り組みも必要かと。
・畑作四品目だけでなく、消費者のニーズに合った作物を沢山つくる。
・施設園芸作物の推進、直売、そのため、ハウス施設は町が土地を含めて賃貸と技術指導。
・町で解決は出来ないが農地の貸借が売却しない為地価の数ばいも支払っても自分の土地にならない。
・農協関係の民営化が必要。農家を育てていない。
・インバウンド、観光を重視。

●性別でみると、男性は「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」、女性は「後継者、農業労働力の確保、育成」が第１位です。

●「土地基盤の整備」「経営の合理化や近代化」は男性、「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」「学校給食や飲食店等での消費（地産地消）」「直売所などの、生産者と消費者が直接ふれあう環境の整備」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

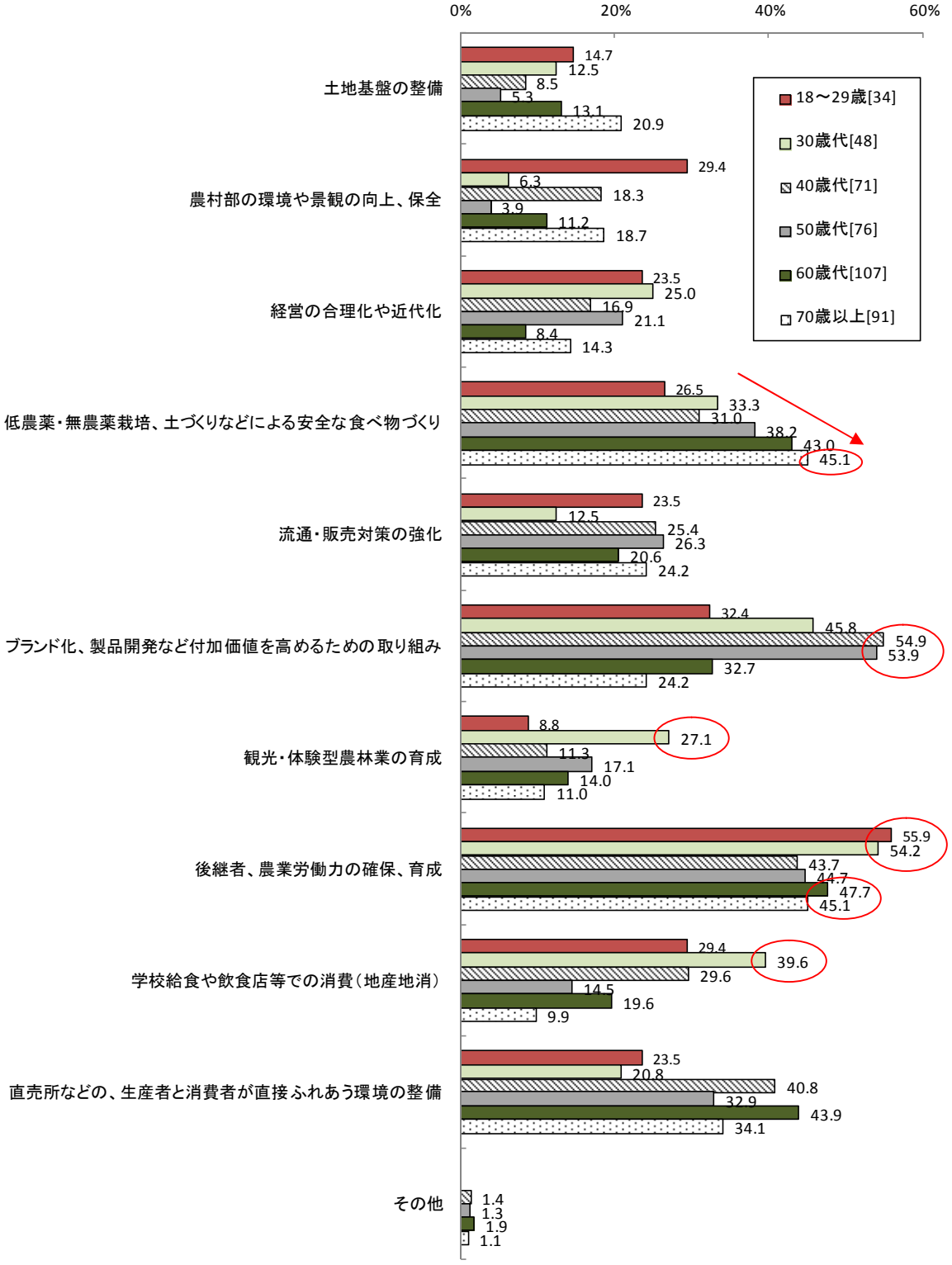
【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/性別）



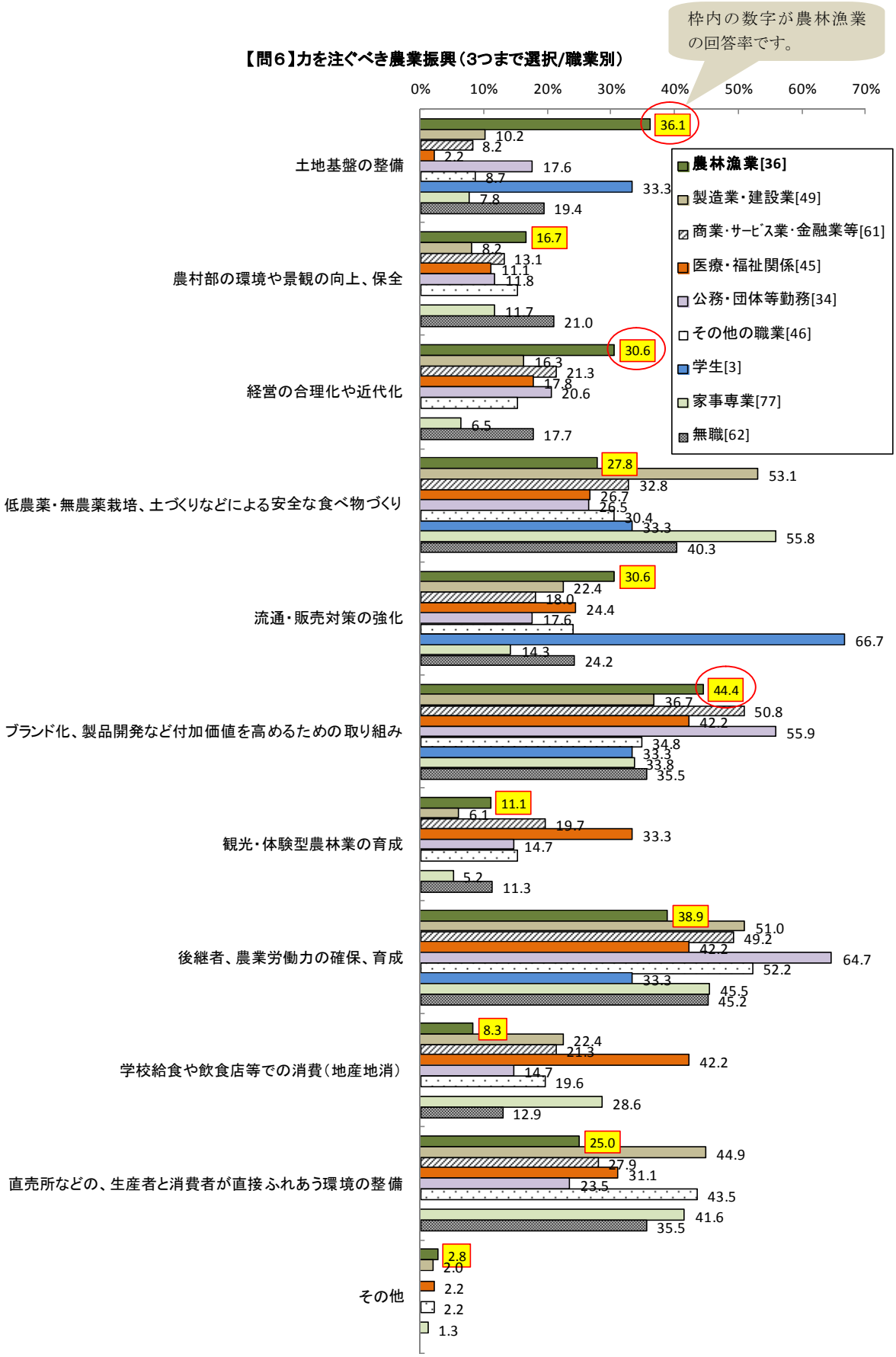
●年齢別に第１位をみると、40 歳代と 50 歳代は「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」、その他の年齢は「後継者、農業労働力の確保、育成」が第１位です。70 歳以上は「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」も同率で第１位です。

●「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」は年齢が高くなるほど回答率が高まる傾向にあります。また、「農村部の環境や景観の向上、保全」は 18～29 歳、「観光・体験型農林業の育成」「学校給食や飲食店等での消費（地産地消）」は 30 歳代で回答率が高く、それぞれ他との差がめだちます。

【問６】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/年齢別）

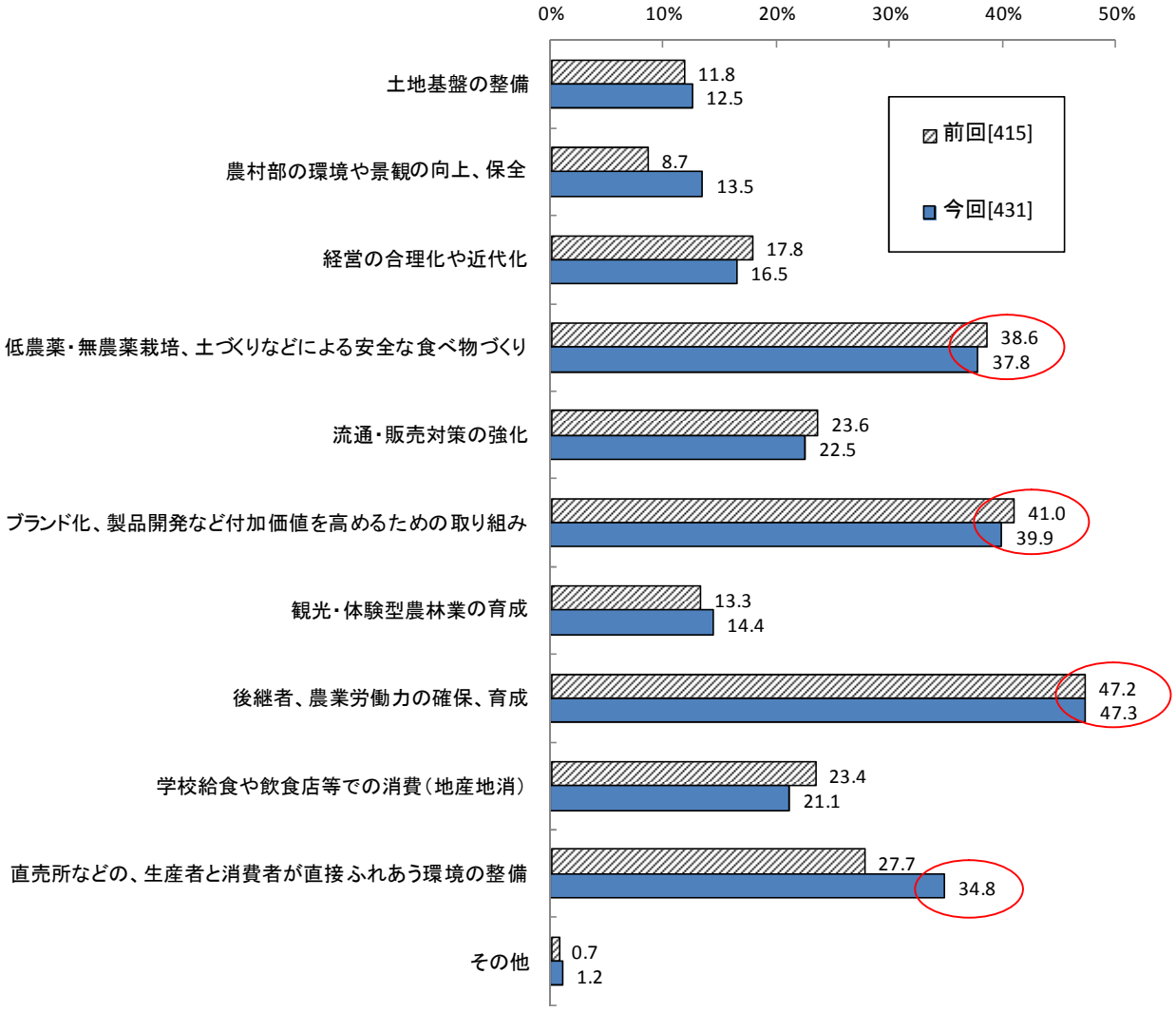


●職業別でみると、農林漁業は「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」が最も高く、「後継者、農業労働力の確保、育成」、「土地基盤の整備」、「経営の合理化や近代化」と「流通・販売対策の強化」（同率）と続きます。「土地基盤の整備」と「経営の合理化や近代化」は、他の職業に比べて高く、差がめだちます。



前回との比較
前回と同様「後継者、農業労働力の確保、育成」が第１位、「ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み」が第２位、「低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり」が第３位です。 「直売所などの、生産者と消費者が直接ふれあう環境の整備」は、前回に比べて高くなっており、差がめだちます。

【問6】力を注ぐべき農業振興（3つまで選択/前回との比較）

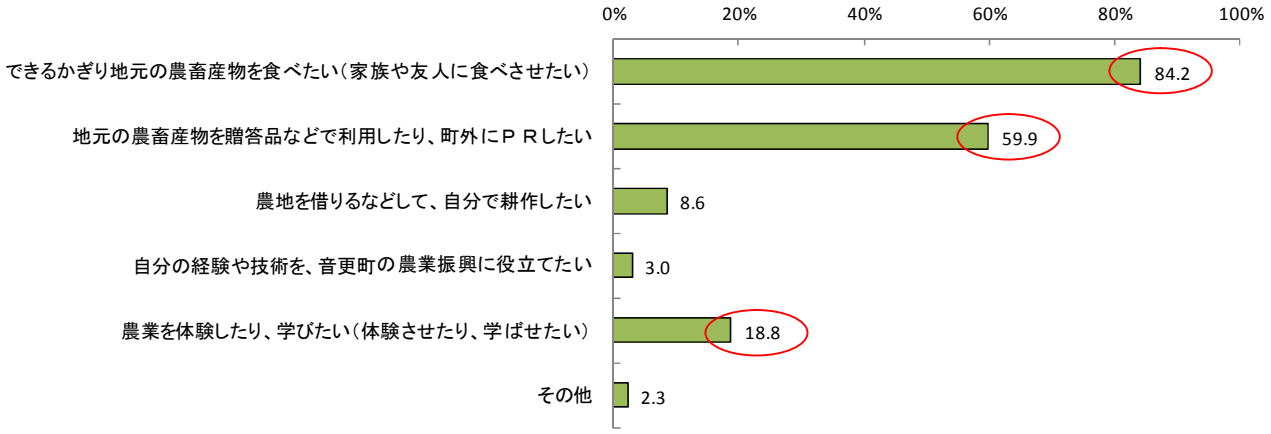


（３）農業とのかかわりを深めるためにできること

【問７】音更町で農業とのかかわりを深めるために、どのようなことがしたい（できる）と思いますか。
次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「できるかぎり地元の農産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）」（84.2%）が最も高く、「地元の農産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」（59.9%）、「農業を体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」（18.8%）が続きます。

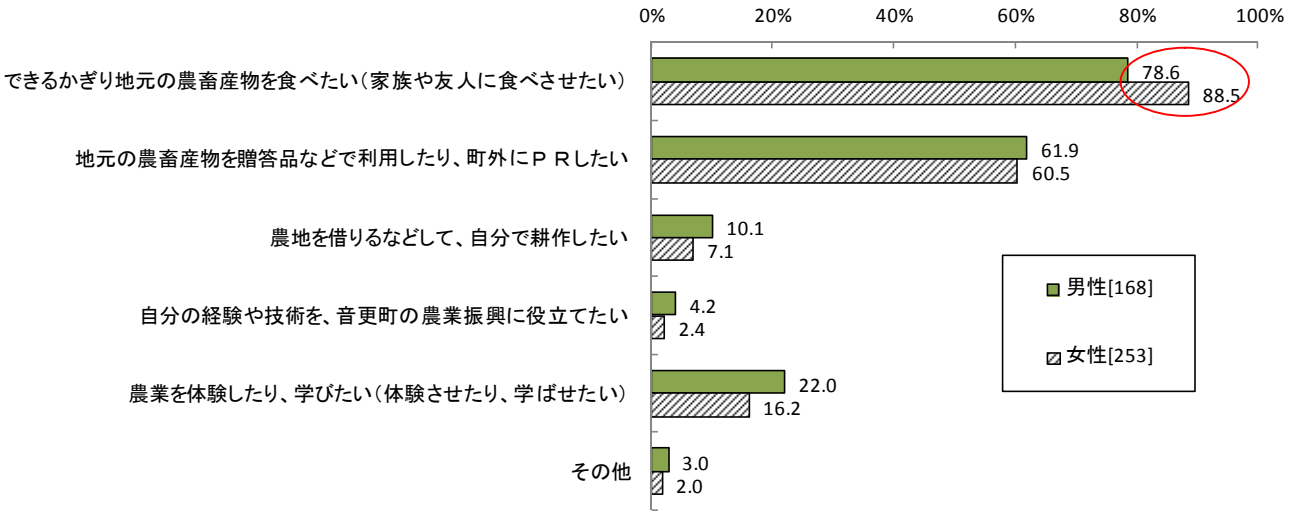
【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/431人）



＜「その他」の記載＞
・規格外品を安く、消費したい。
・よく畑の隅に捨てられている野菜をみかけます。お金を払って食べる身としては「もったいない！！」廃棄する野菜を使ってのイベントできませんかね。毎月 or 毎週変わりでの調理イベントとか！畑訪問とか…特典として安く買えるとか。
・収穫時期を黒板に書いて店頭に並べてみるとか…？！本物の味を覚えてもらうことが大切だと思う。

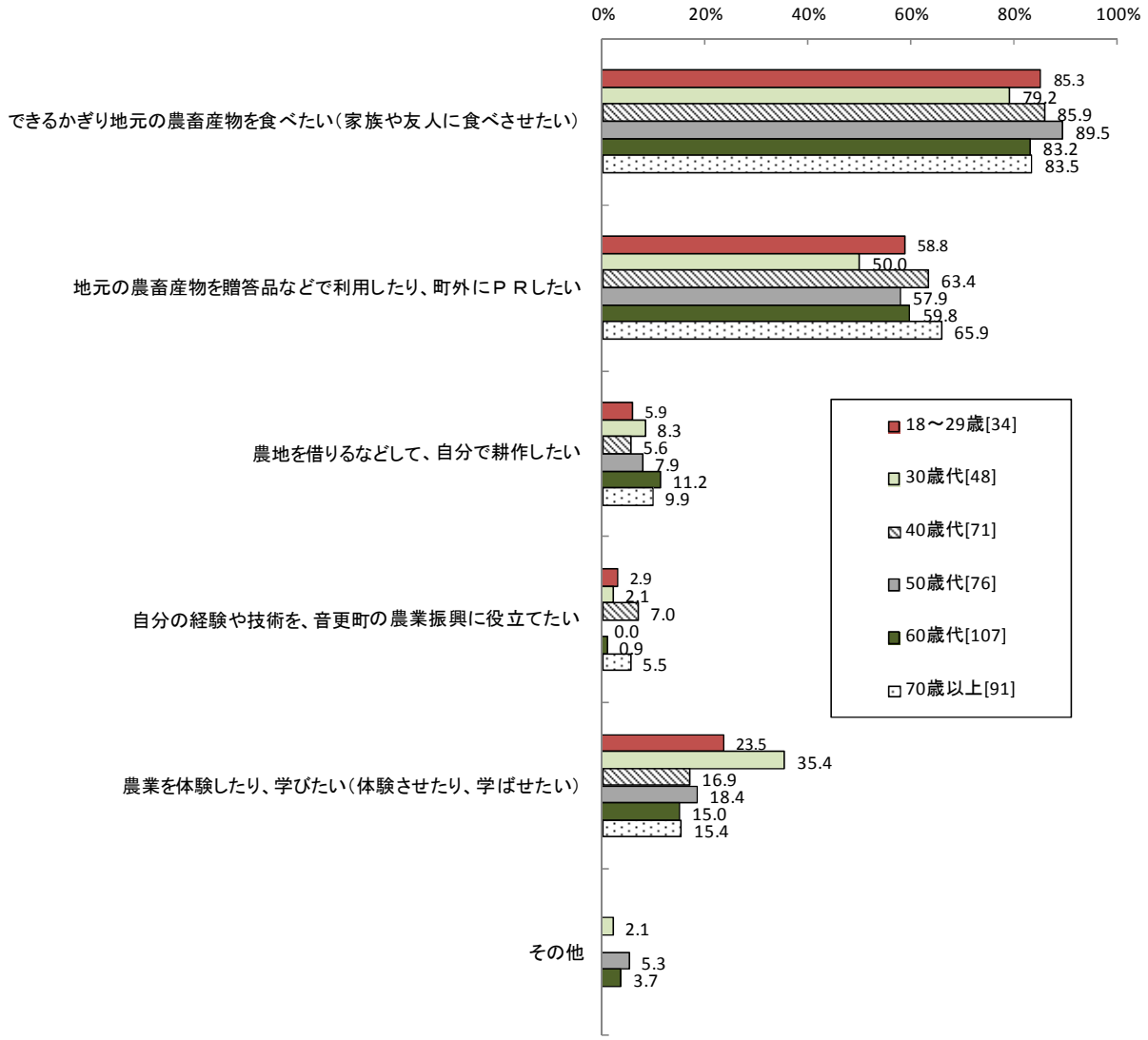
●性別でみると、男女ともに「できるかぎり地元の農産物を食べたい」が第１位ですが、女性の方が高く、男女の差がめだちます。

【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/性別）

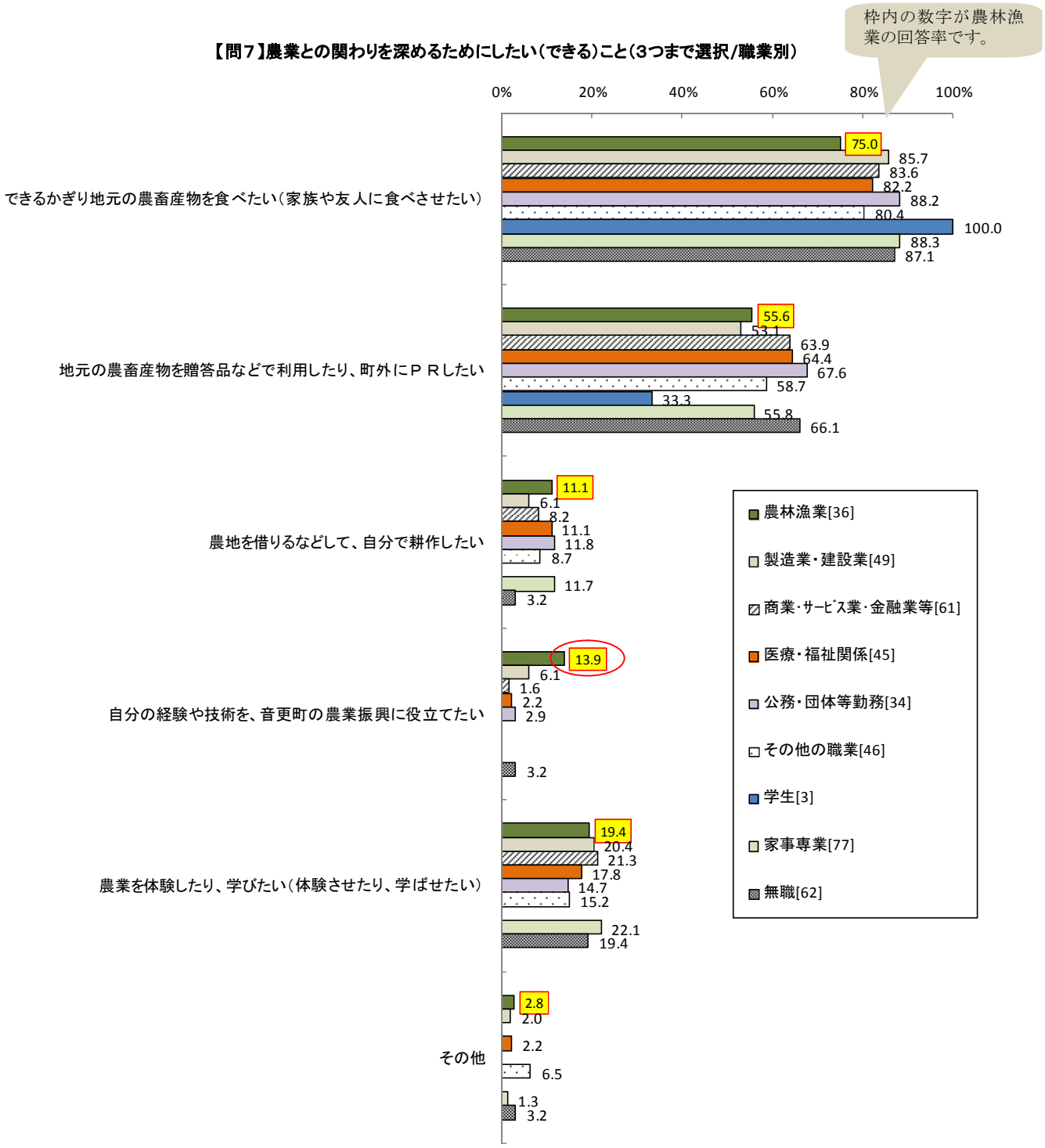


●年齢別でみると、いずれの年齢も第１位から第３位までの順番は同じです。第３位である「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」は、30 歳代で特に高く、他との差がめだちます。

【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/年齢別）

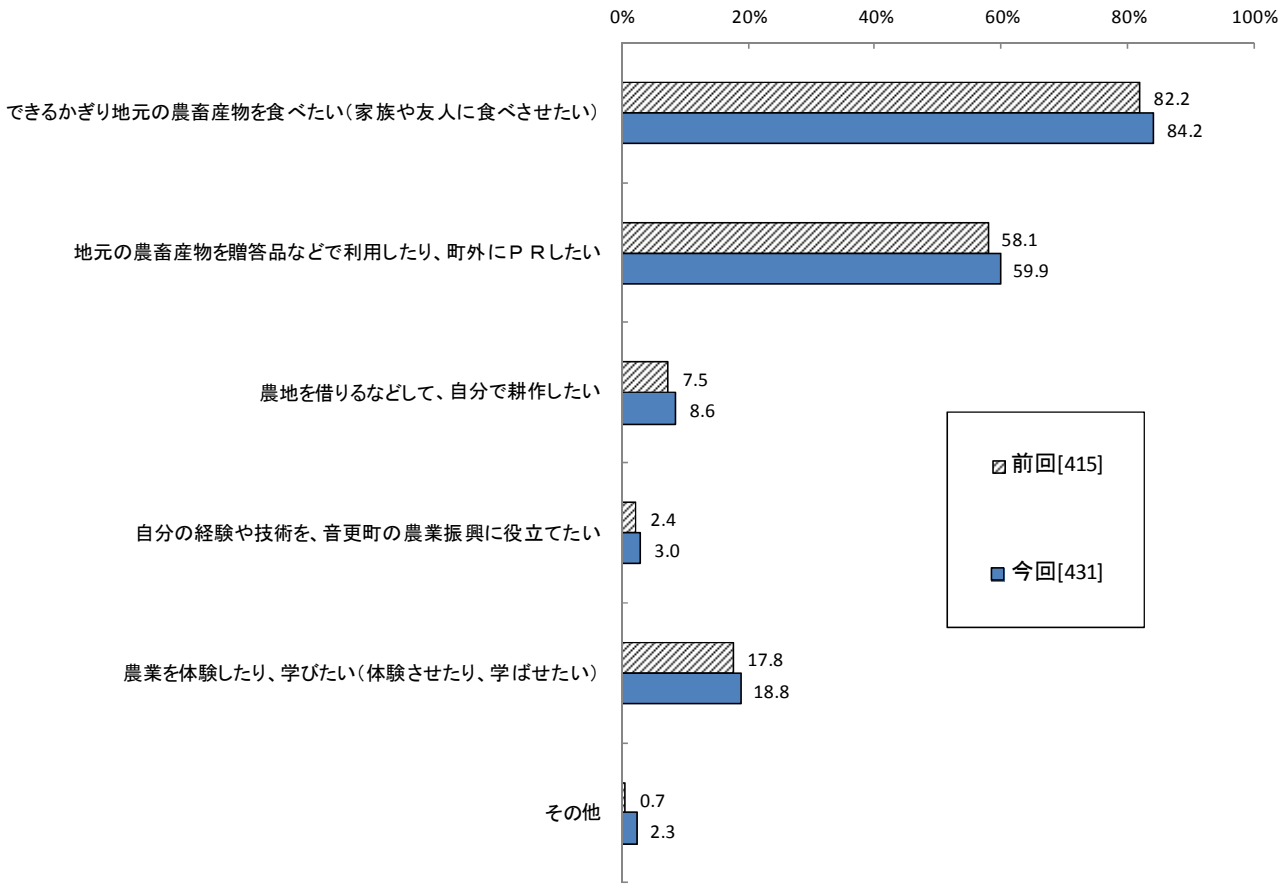


●職業別でみると、農林漁業と他の職業に大きな差はありませんが、「自分の経験や技術を、音更町の農業振興に役立てたい」は、他の職業より高く、差がめだちます。



前回との比較
前回と同様「できるかぎり地元の農産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）」が第１位、「地元の農産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい」が第２位、「農業のことを体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）」が第３位です。 全体的には、回答傾向に大きな違いはありません。

【問７】農業との関わりを深めるためにしたい（できる）こと（3つまで選択/前回との比較）



6　まちづくりへの関心や参加（【問８】【問９】【問 10】）

（１）まちづくりや町民参加に関する考え方について

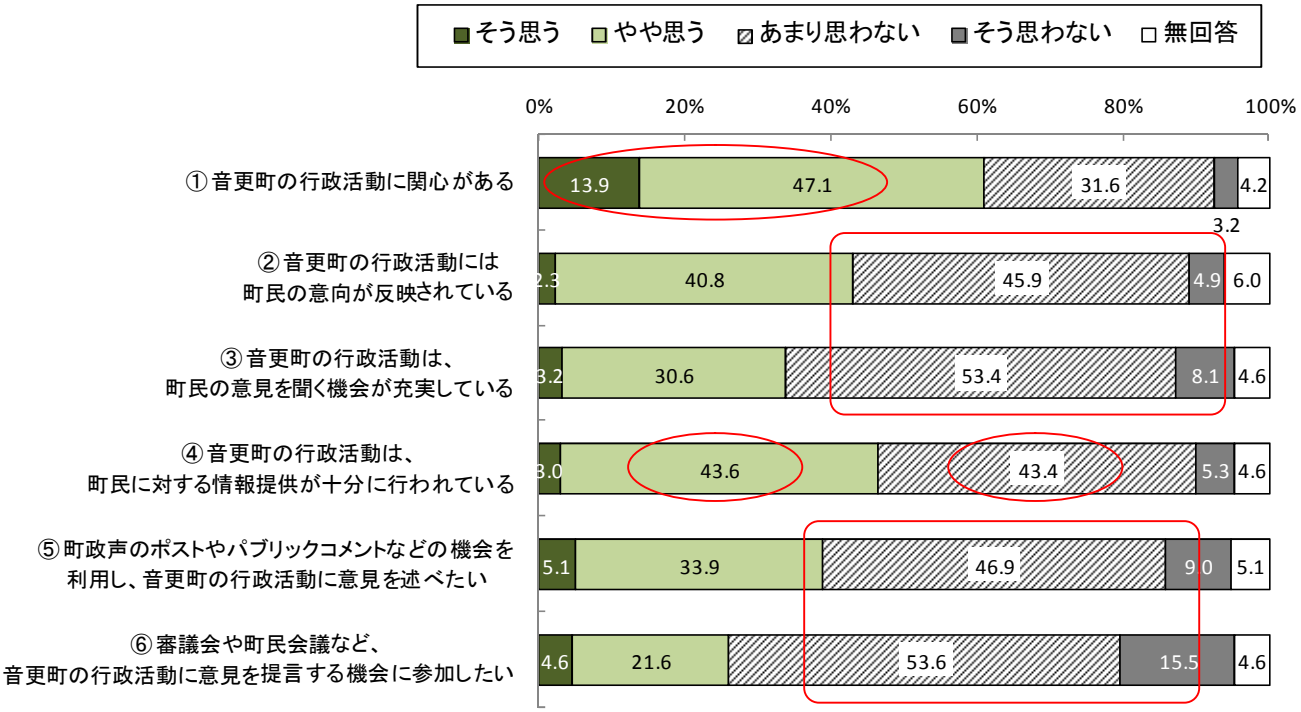
【問８】音更町のまちづくり（行政活動）や町民参加に関する次の項目について、それぞれどのようにお考えですか。各選択肢からお知らせください。（各項目○は１つ）

○「①音更町の行政活動（まちづくり）に関心がある」と「④音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている」は「やや思う」が最も高く、その他の項目は「あまり思わない」が最も高くなっています。

○「そう思う」「やや思う」ともに高いのは「①音更町の行政活動（まちづくり）に関心がある」で、合計すると 61.0%となり、過半数を占めます。

○「④音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている」は「やや思う」と「あまり思わない」が僅差です。

【問8】行政運営（まちづくり）や町民参加について（431人）



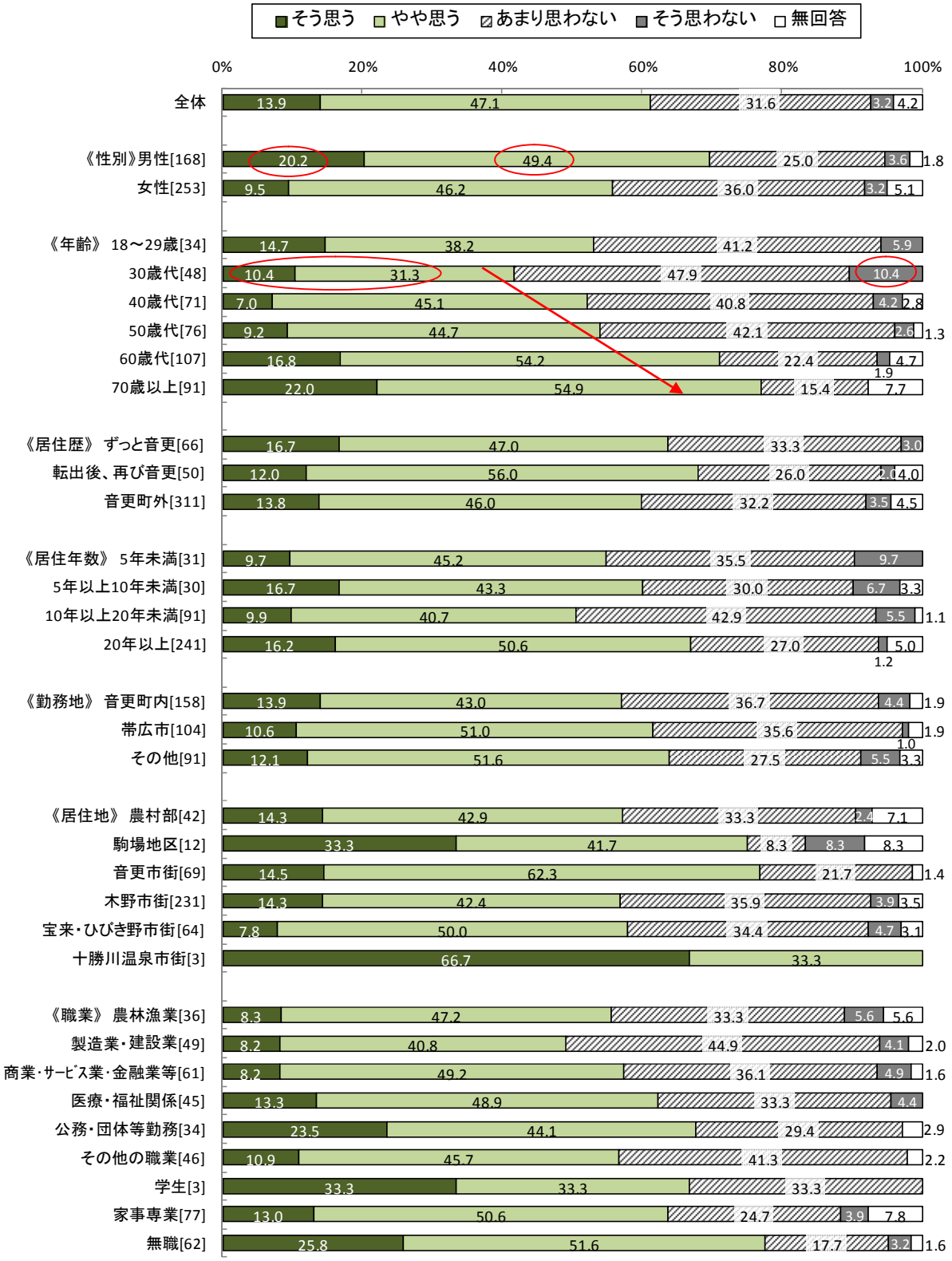
① 行政活動（まちづくり）に関心がある

●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。

●年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計は 30 歳代が最も低く、年齢が高くなるほど高まります。「そう思わない」は 30 歳代で約 1 割を占めます。

●居住年数別でみると、「そう思わない」 5 年未満で高く、 1 割近くを占めます。

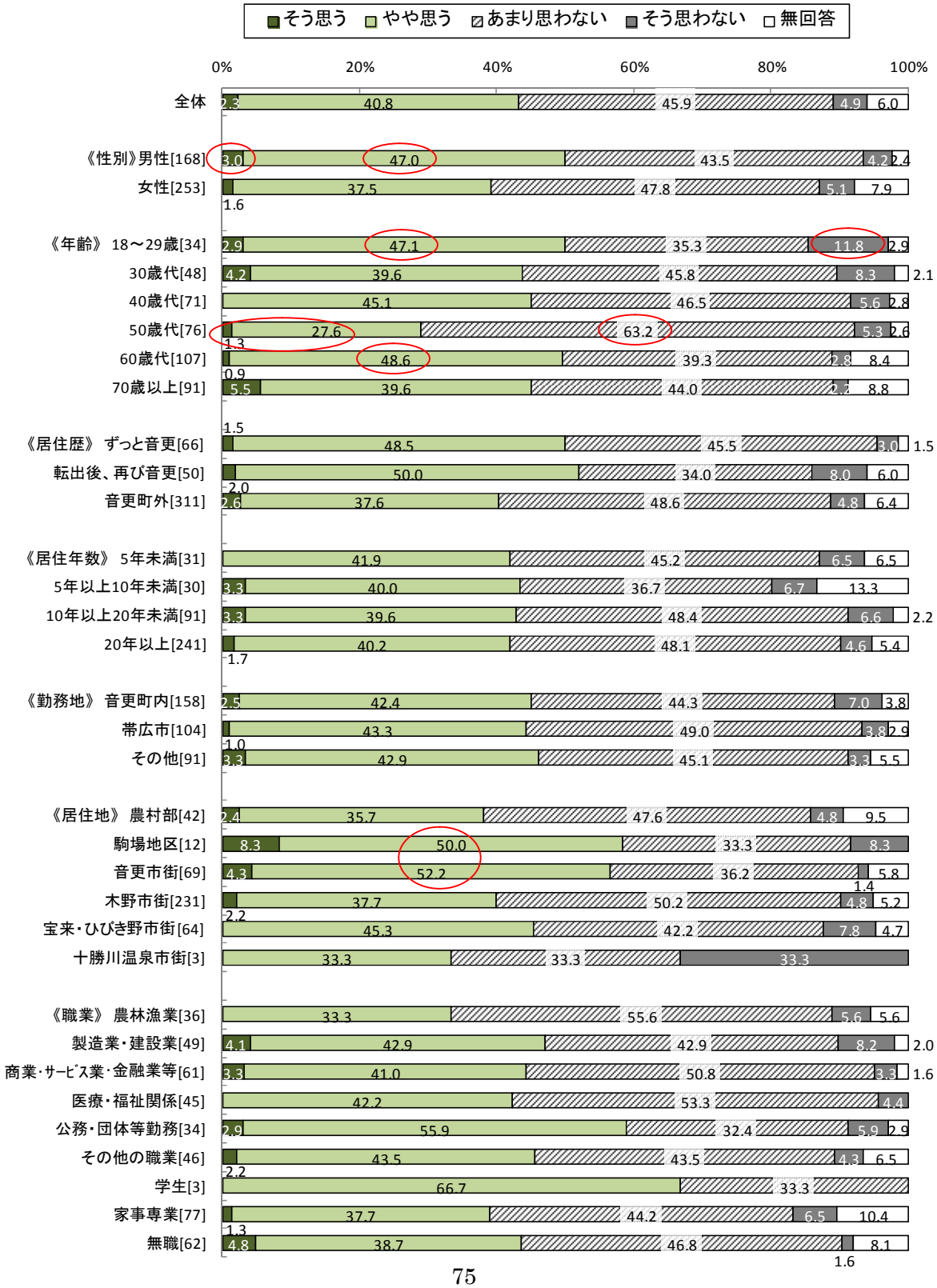
【問8】①音更町の行政活動に関心がある



② 行政活動には町民の意向が反映されている

- 性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。
- 年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計は 50 歳代が最も低く、「あまり思わない」が 6 割以上を占めます。18～29 歳と 60 歳代は「やや思う」が半数近くを占めますが、18～29 歳は「そう思わない」が 1 割以上を占めます。
- 居住地別でみると、「やや思う」は駒場地区で半数、音更市街でも約半数を占めます。

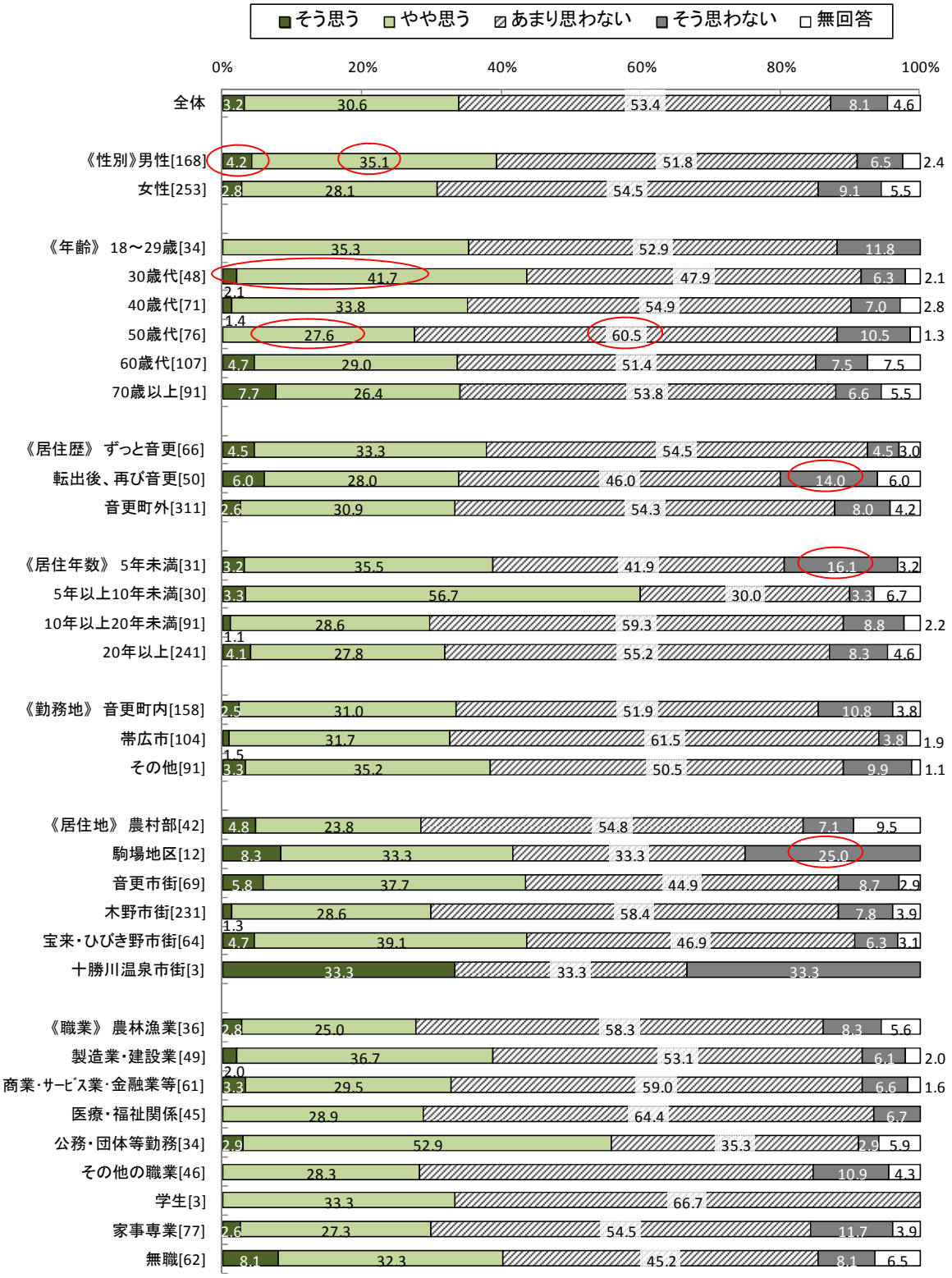
【問8】②音更町の行政活動には町民の意向が反映されている



③ 行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している

- ●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。
- ●年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計が最も高いのは 30 歳代です。反対に、最も低いのは 50 歳代で、「あまり思わない」が約６割を占めます。
- ●居住歴別でみると、「そう思わない」は転出後再び音更の回答者で１割以上を占めます。
- ●居住年数別でみると、「そう思わない」は５年未満で１割以上を占めます。
- ●居住地別でみると、「そう思わない」は駒場地区で４分の１を占めます。

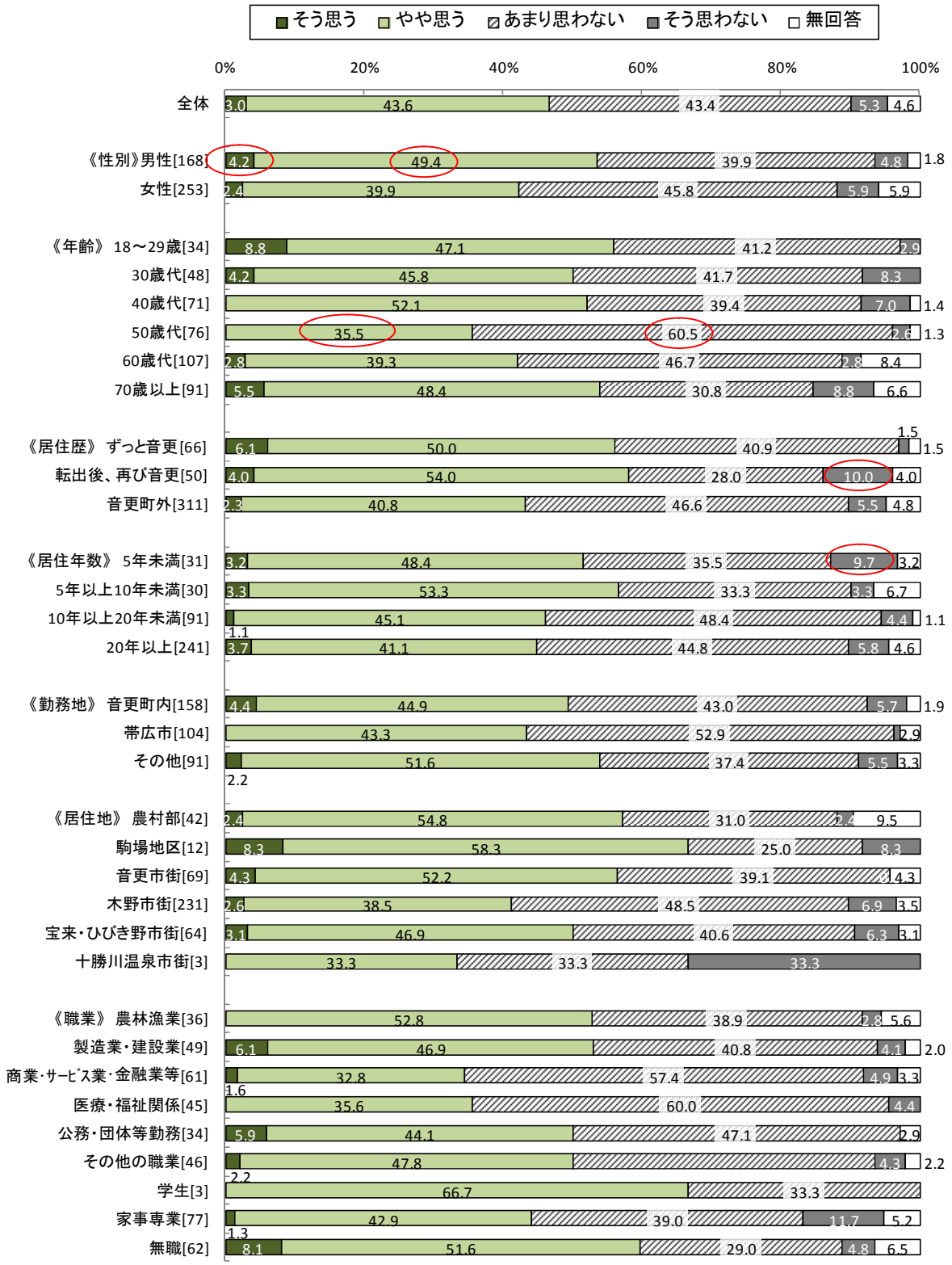
【問8】③音更町の行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している



④ 音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている

- ●性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。
- ●年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計は 50 歳代が最も低く、「あまり思わない」は約６割を占めます。
- ●居住歴別でみると、「そう思わない」は転出後再び音更の回答者で１割を占めます。
- ●居住年数別でみると、「あまり思わない」は５年未満で約１割を占めます。

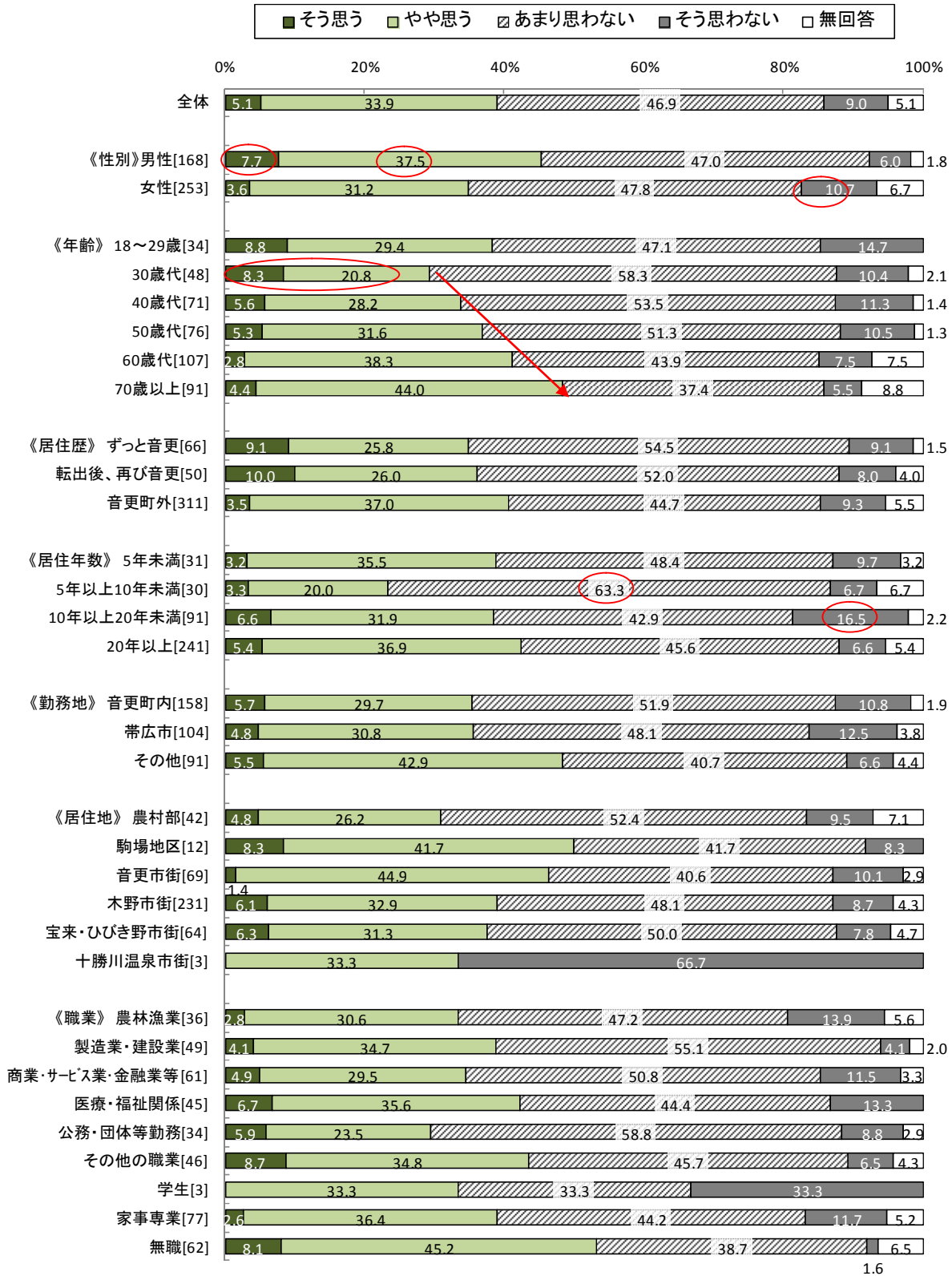
【問8】④音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている



⑤「町政声のポスト」やパブリックコメントなどで行政活動に意見を述べたい

- 性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「そう思わない」が約１割を占めます。
- 年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計は 30 歳代が最も低く、年齢が高くなるほど高まります。
- 居住年数別でみると、「あまり思わない」は 5 年以上 10 年未満で約６割、「そう思わない」は 10 年以上 20 年未満で１割以上を占めます。

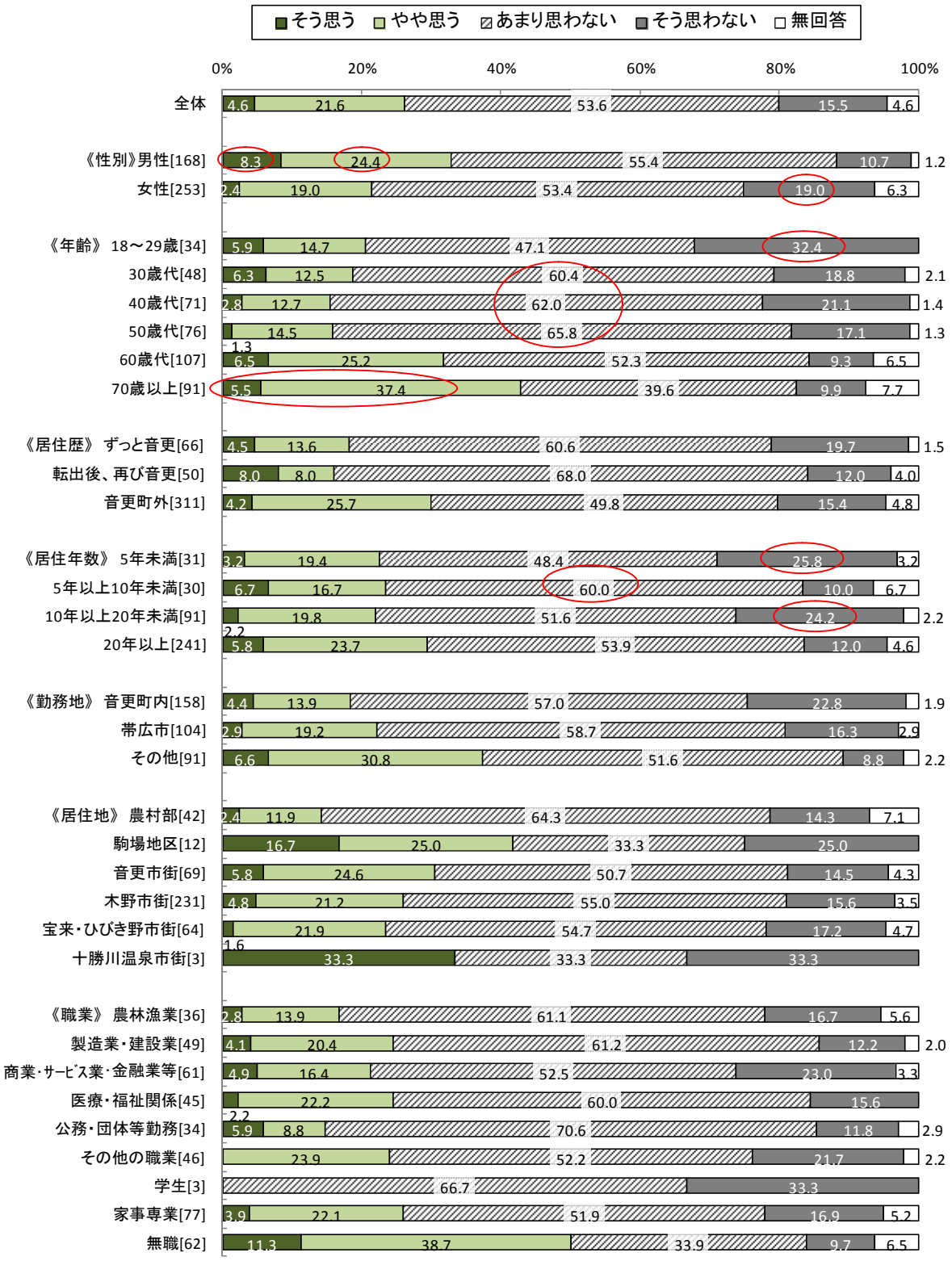
【問８】⑤「町政声のﾎﾟｽﾄ」やﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ等の機会を利用し音更町の行政活動に意見を述べたい



⑥ 審議会や町民会議など、行政活動に意見を提言する機会に参加したい

- 性別でみると、「そう思う」「やや思う」は男性が高くなっています。女性は「そう思わない」が約２割を占めます。
- 年齢別でみると、「そう思う」と「やや思う」の合計が最も高いのは 70 歳以上です。一方、「あまり思わない」は 30～50 歳代で６割以上を占め、「そう思わない」は 18～29 歳で約３分の１を占めます。
- 居住年数別にみると、「あまり思わない」は５年以上 10 年未満で６割を占め、「そう思わない」は５年未満と 10 年以上 20 年未満で２割以上を占めます。

【問8】⑥審議会や町民会議など、音更町の行政活動に意見を提言する機会に参加したい



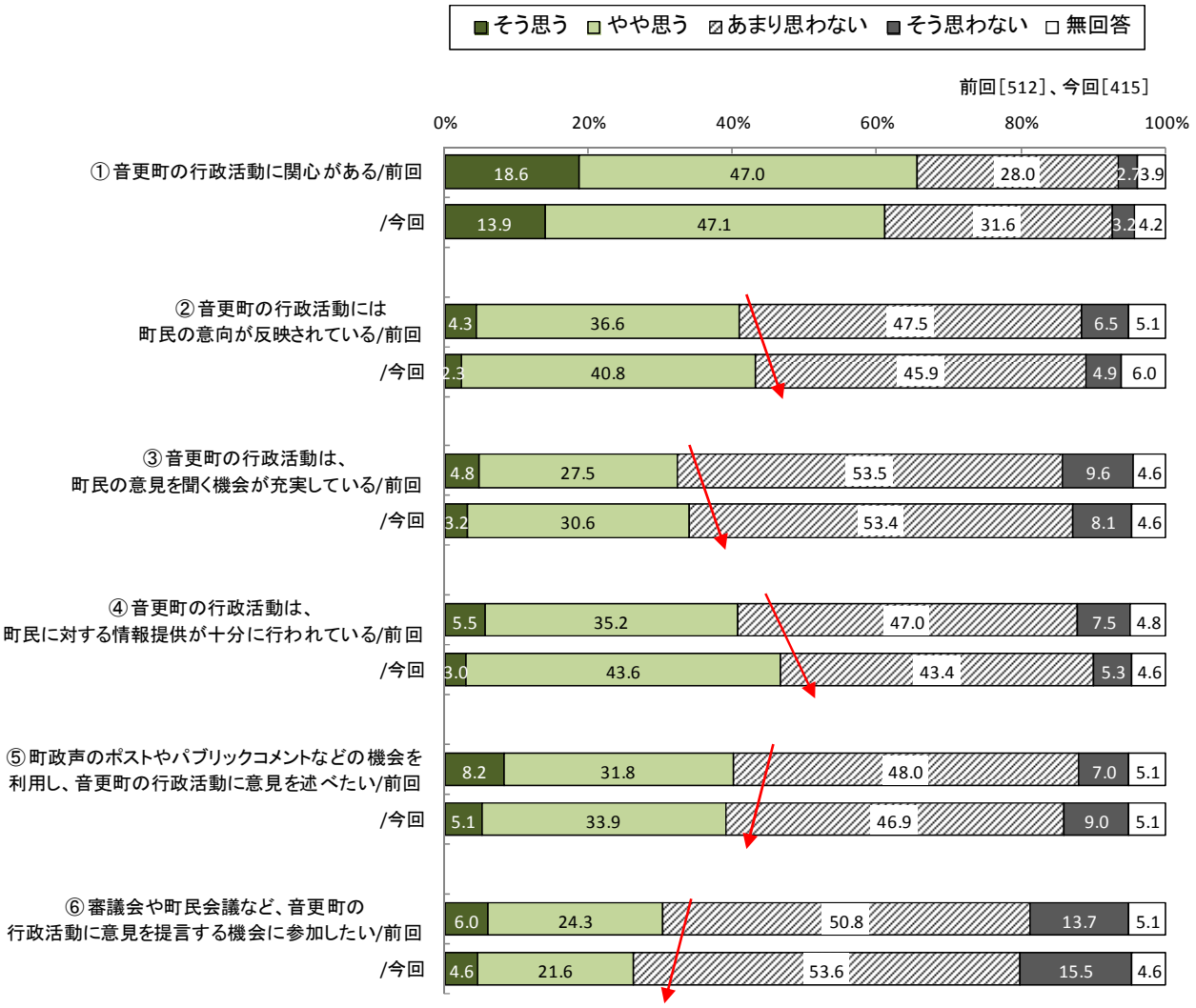
前回との比較

前回と同様、「そう思う」が最も高いのは「①行政活動（まちづくり）に関心がある」ですが、今回は「そう思う」が前回より低くなっています。

「②行政活動には町民の意向が反映されている」「③行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している」「④行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている」は、「そう思う」「やや思う」の合計が、前回よりも高くなっています。

「⑤「町政声のポスト」やパブリックコメントなどで行政活動に意見を述べたい」と「⑥審議会や町民会議など、行政活動に意見を提言する機会に参加したい」は、「そう思う」「やや思う」の合計が、前回よりも低くなっています。

【問8】行政運営（まちづくり）や町民参加について（前回との比較）

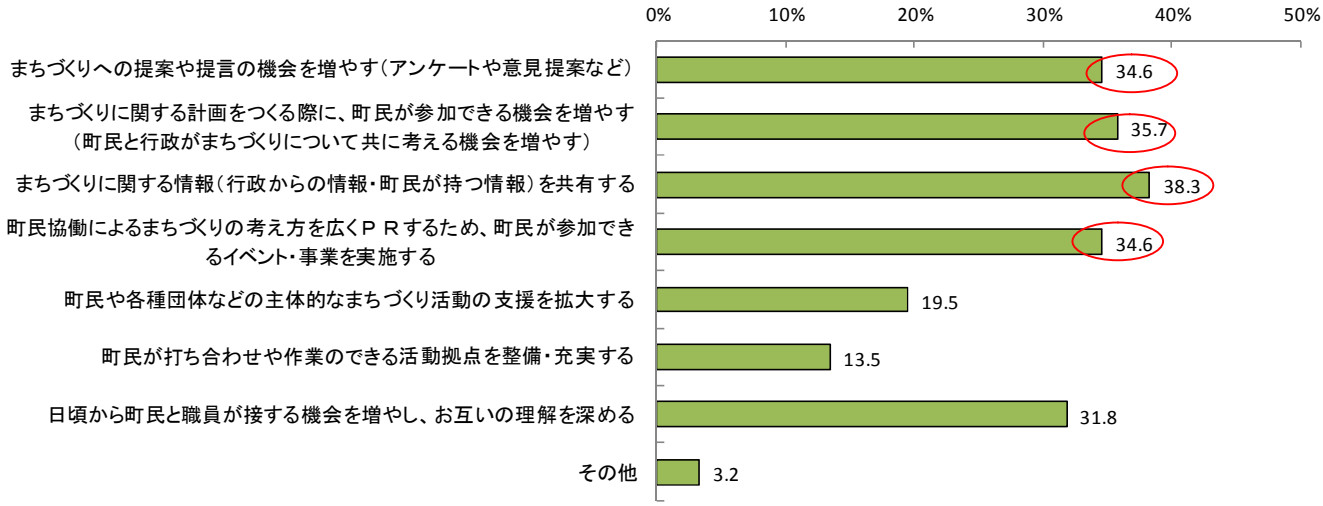


（２）町民協働によるまちづくりを進めるうえで重要だと思うこと

【問９】音更町では、「まちづくり基本条例」を定め、『町民協働によるまちづくり』を進めています。このような「町民協働によるまちづくり」を進めるうえで、重要だと思うことをお知らせください。（○はいくつでも）

○「まちづくりに関する情報を共有する」（38.3%）が最も高く、「まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす」（35.7%）、「まちづくりへの提案や提言の機会を増やす」と「町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する」（同率で 34.6%）と、僅差で続きます。

【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/431人）

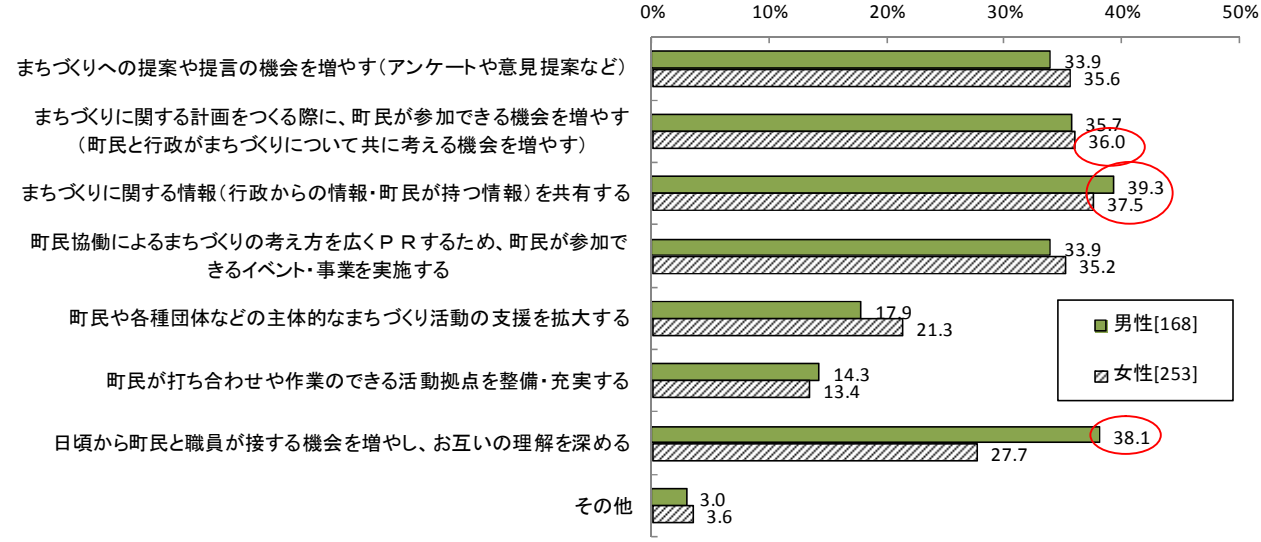


＜「その他」の記載＞
・それぞれの地区で意見を出してもらい町で取りまとめて協議する。
・町民からまちづくりの構想コンテストなどのイベントも必要かも。　・若い人も参加しやすいイベント、大会などを盛り込む。
・若者などこれからの世代の想いを重要視する。　・外部から優秀な人材を取り込み、改革が必要。
・まちづくり計画やイベントを単発で終わらせず連続性のあるものにする。次回に生かしよくしていく。関連部門との連携をとる。
・職員が聞く耳を持たなければ成り立たない。　・町職員の意識改革。　・トップがビジョンを示すこと。

●性別でみると、男女とも「まちづくりに関する情報を共有する」が第１位です。第２位は、男性は「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」、女性は「まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす」です。

●「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」は男性の方が高く、男女の差がめだちます。

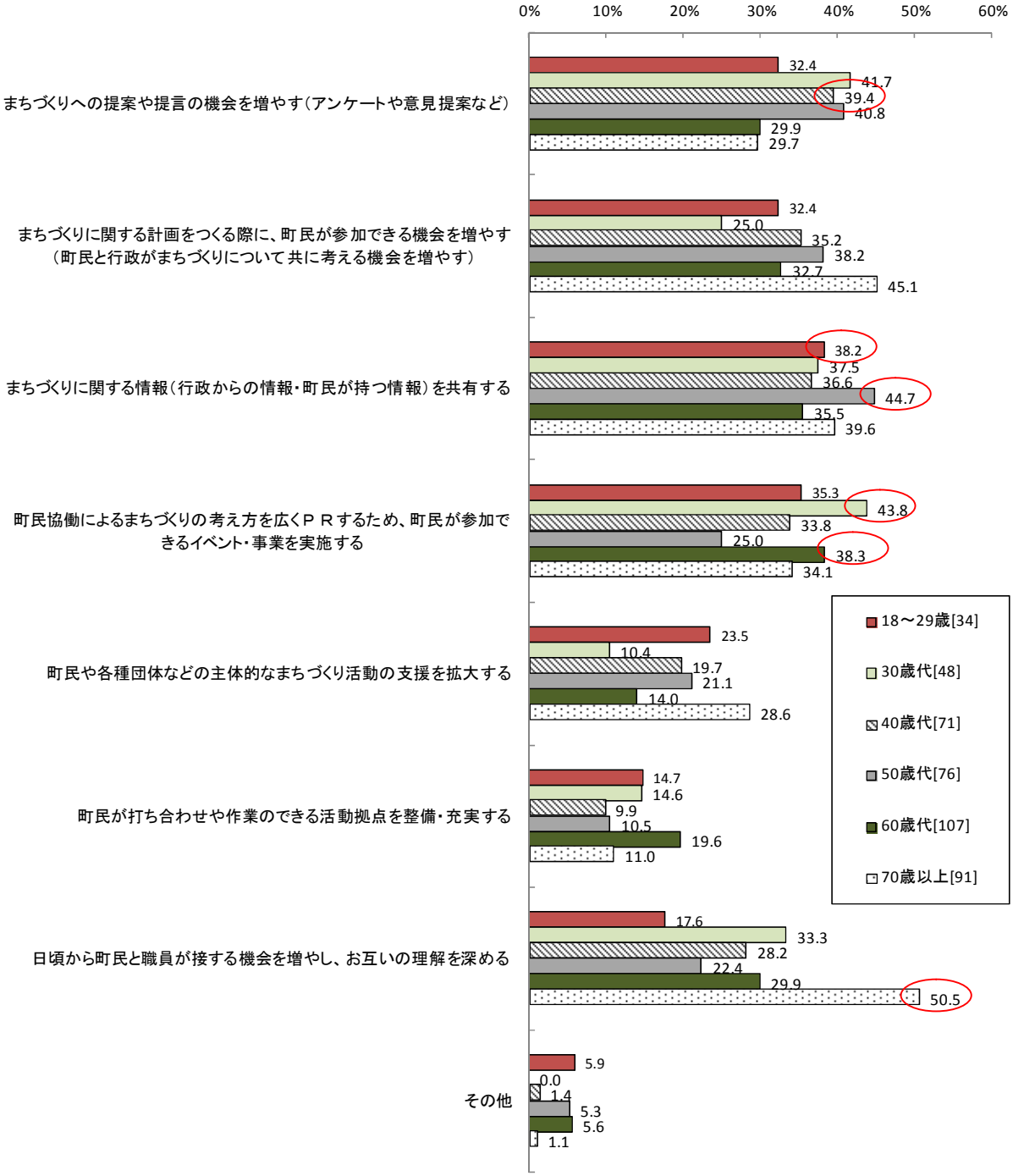
【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳と 50 歳代は「まちづくりに関する情報を共有する」、30 歳代と 60 歳代は「町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する」、40 歳代は「まちづくりへの提案や提言の機会を増やす」、70 歳以上は「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」です。

●「日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」は 70 歳以上の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/年齢別）

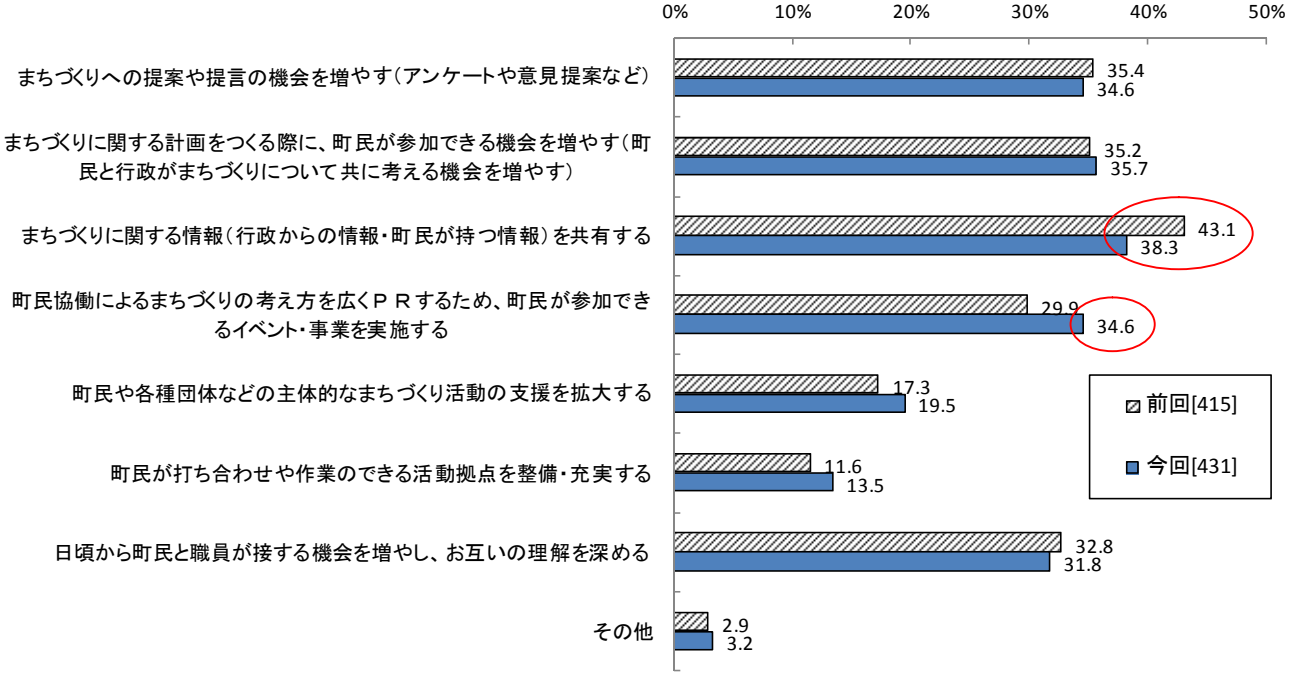


前回との比較

前回と同様「まちづくりに関する情報を共有する」が第１位ですが、前回より回答率は低くなっています。

「町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する」は、今回同率３位になるなど、前回に比べて回答率が高くなっています。

【問９】町民協働のまちづくりに重要なこと（あてはまるものすべて選択/前回との比較）



（３）参加したい（している）まちづくり活動

【問 10】まちづくり活動に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。現在参加されているものも含めてお知らせください。（○はいくつでも）

○「高齢者や困っている人たちの見守り・声かけ、支え合いなど"地域福祉活動"」（38.3%）が最も高く、「資源のムダづかいをなくし環境を守る"リサイクル活動や省資源活動"」（36.2%）、「小さい子どもや子育て中の人を応援する"子育て支援活動"」（34.8%）、「美しいまちをつくるための"花などを植える活動や清掃活動"」（31.1%）と続きます。

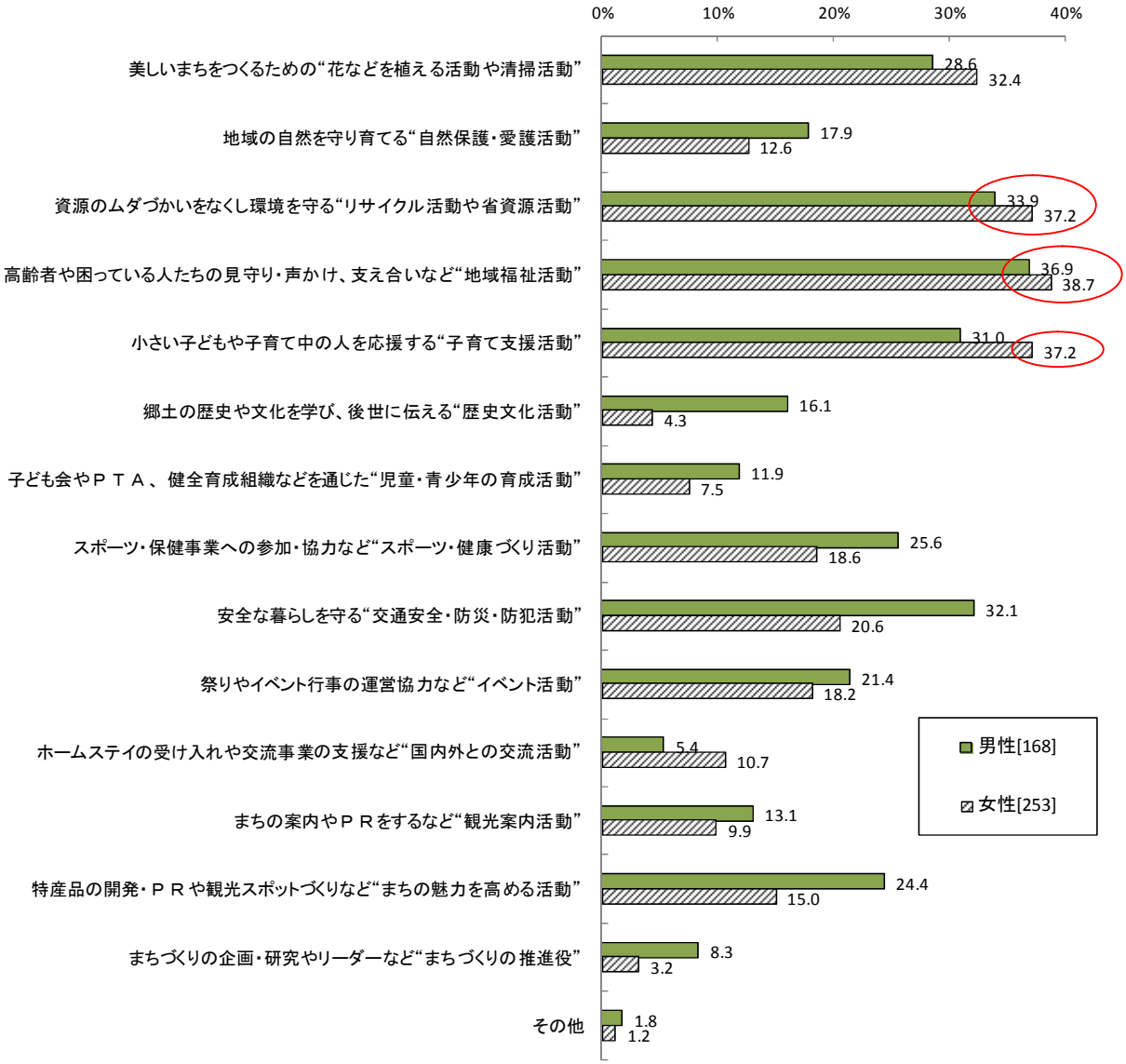
【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/431人）

＜「その他」の記載＞
・高齢化社会に向けた対策。
・道の駅の充実、町民の意見の窓口になれるよう工夫。

●性別でみると、男女とも「高齢者や困っている人たちへの"地域福祉活動"」が第１位です。第２位は、男性は「資源のムダづかいをなくし環境を守る"リサイクル活動や省資源活動"」ですが、女性は、「小さい子どもや子育て中の人を応援する"子育て支援活動"」も同率で第２位にあげています。

●上位３つの活動（地域福祉活動、リサイクル活動や省資源活動、子育て支援活動）と、「美しいまちをつくるための"花などを植える活動や清掃活動"」「ホームステイの受け入れや交流事業の支援など"国内外との交流活動"」以外は、すべて、男性の回答率が女性の回答率を上回っています。

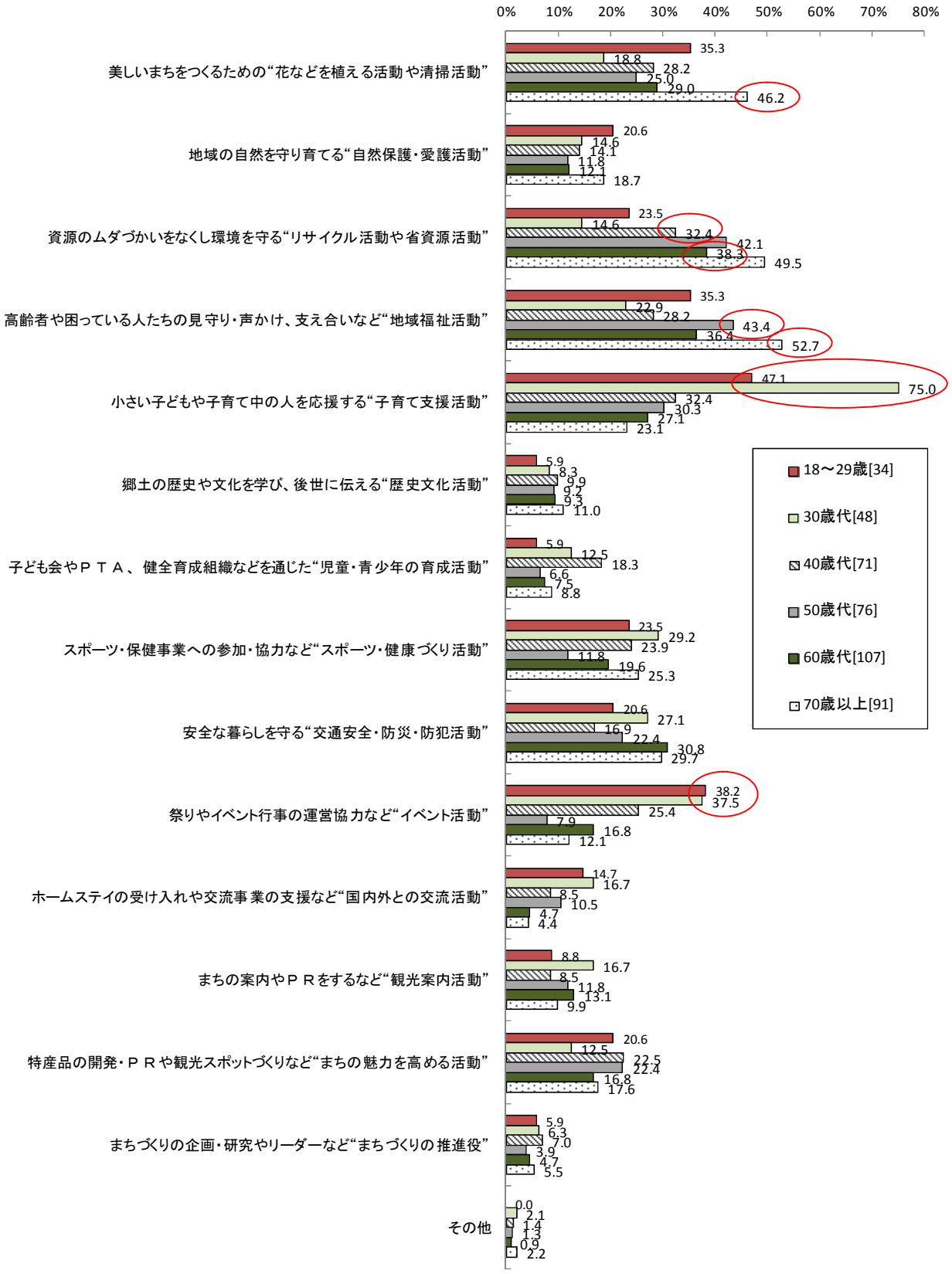
【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳と 30 歳代は「子育て支援活動」、40 歳代と 60 歳代は「リサイクル活動や省資源活動」、50 歳代と 70 歳以上は「地域福祉活動」をあげています。

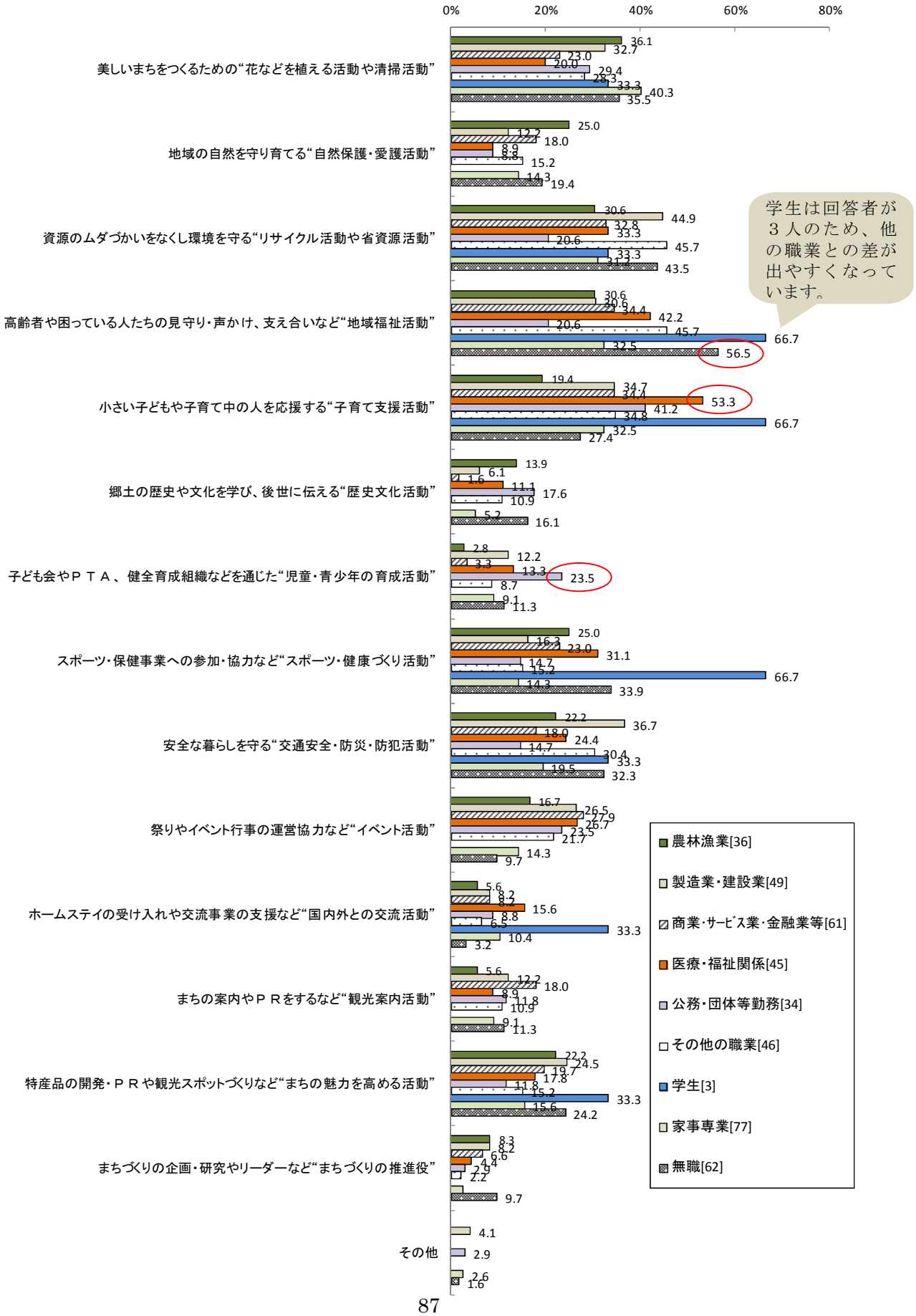
●「花などを植える活動や清掃活動」は 70 歳以上、「子育て支援活動」は 30 歳代、「イベント活動」は 18～29 歳と 30 歳代の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/年齢別）



●職業別でみると、「地域福祉活動」は無職、「子育て支援活動」は医療･福祉関係、「児童・青少年の育成活動」は公務･団体等勤務の回答率が高く、他との差がめだちます。

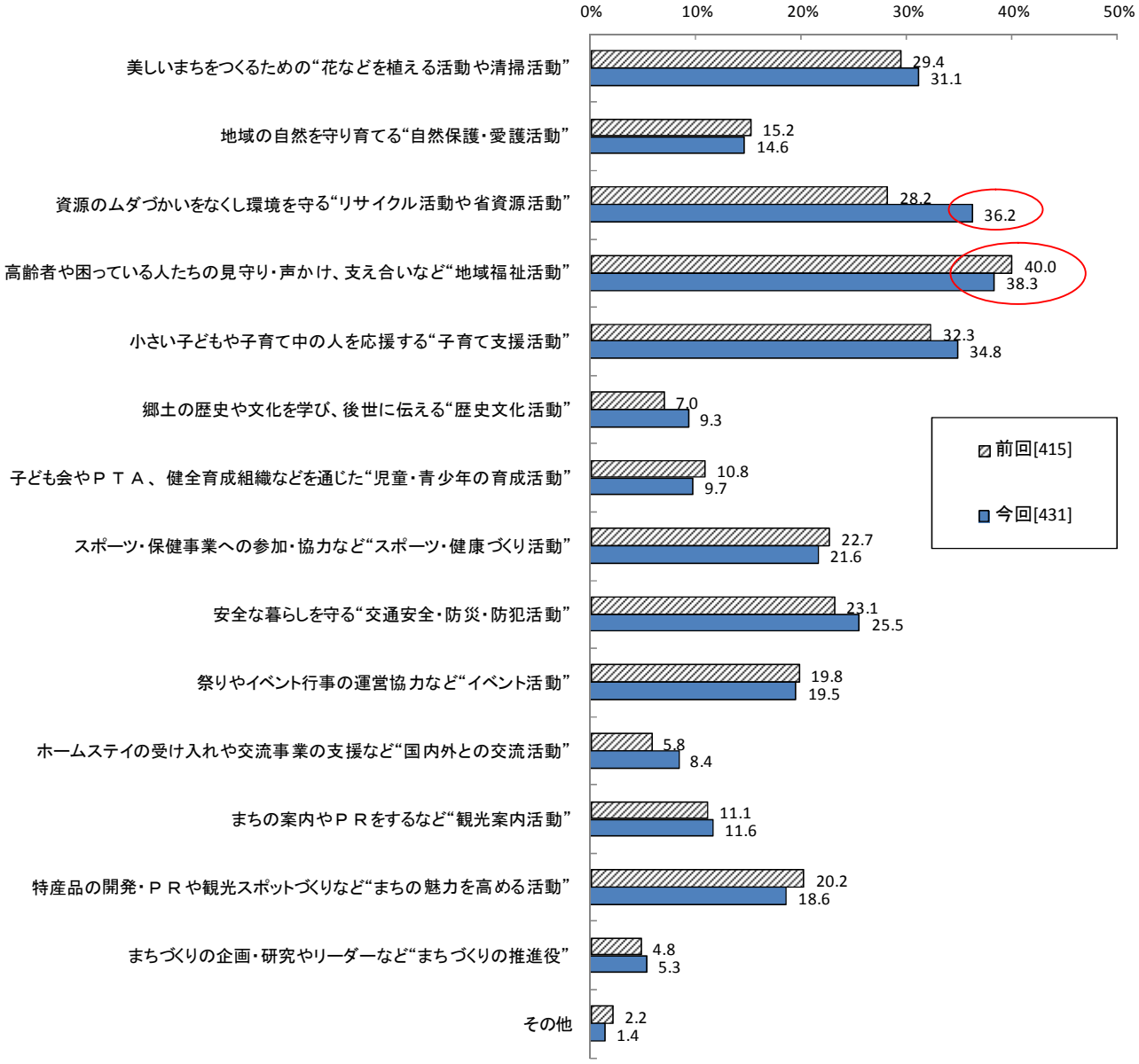
【問10】参加したい(している)まちづくり活動(あてはまるものすべて選択/職業別)



前回との比較

前回と同様、「地域福祉活動」が第１位ですが、第２位は、前回第４位だった「リサイクル活動や省資源活動」となり、前回よりも回答率が高くなっているのがめだちます。

【問10】参加したい（している）まちづくり活動（あてはまるものすべて選択/前回との比較）



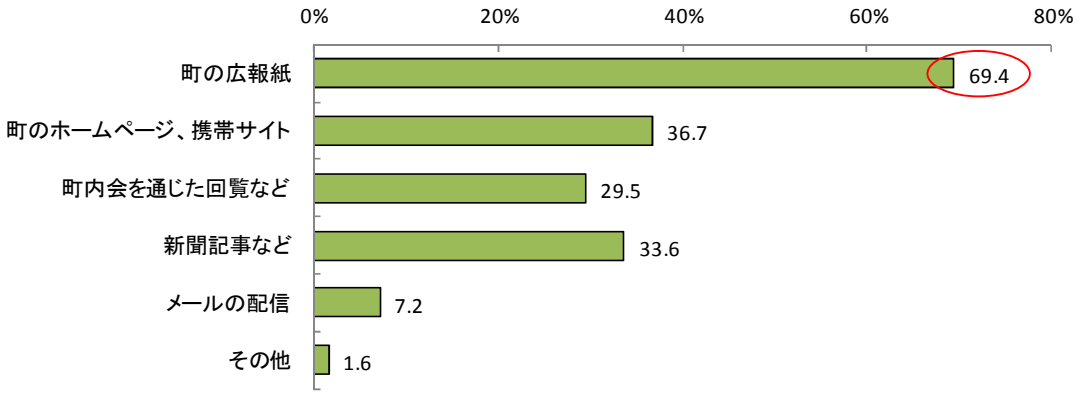
７　広報、情報提供（【問 11】【問 12】【問 13】）

（１）情報を伝える方法として充実すべきもの

【問 11】まちづくり（町政）や地域に関する情報を伝える方法として、何を充実（重視）すべきだと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「町の広報紙」（69.4%）が最も高く、間をあけて、「町のホームページ、携帯サイト」（36.7%）、「新聞記事など」（33.6%）、「町内会を通じた回覧など」（29.5%）、「メールの配信」（7.2%）と続きます。

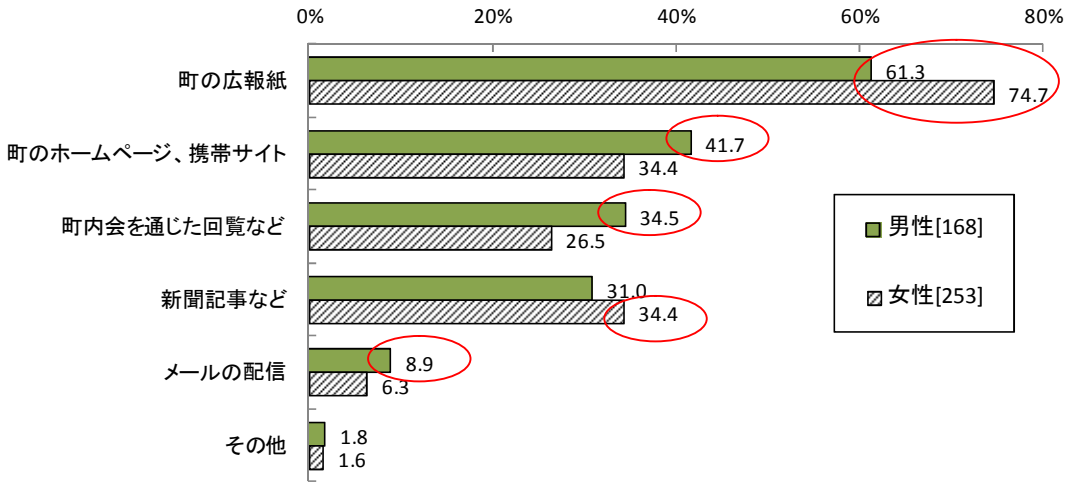
【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/431人）



＜「その他」の記載＞
・スーパーのポスター。　・パブリックコメント　・何でも「詳しくは、問い合わせはホームページで」が多く困ります。
・公共の場所での掲示。　・町の広報紙を小まめに出す。通信員は固定しないでできるだけ多くの人を起用する。
・ワークショップ等で面と向かって直接言葉で伝える。

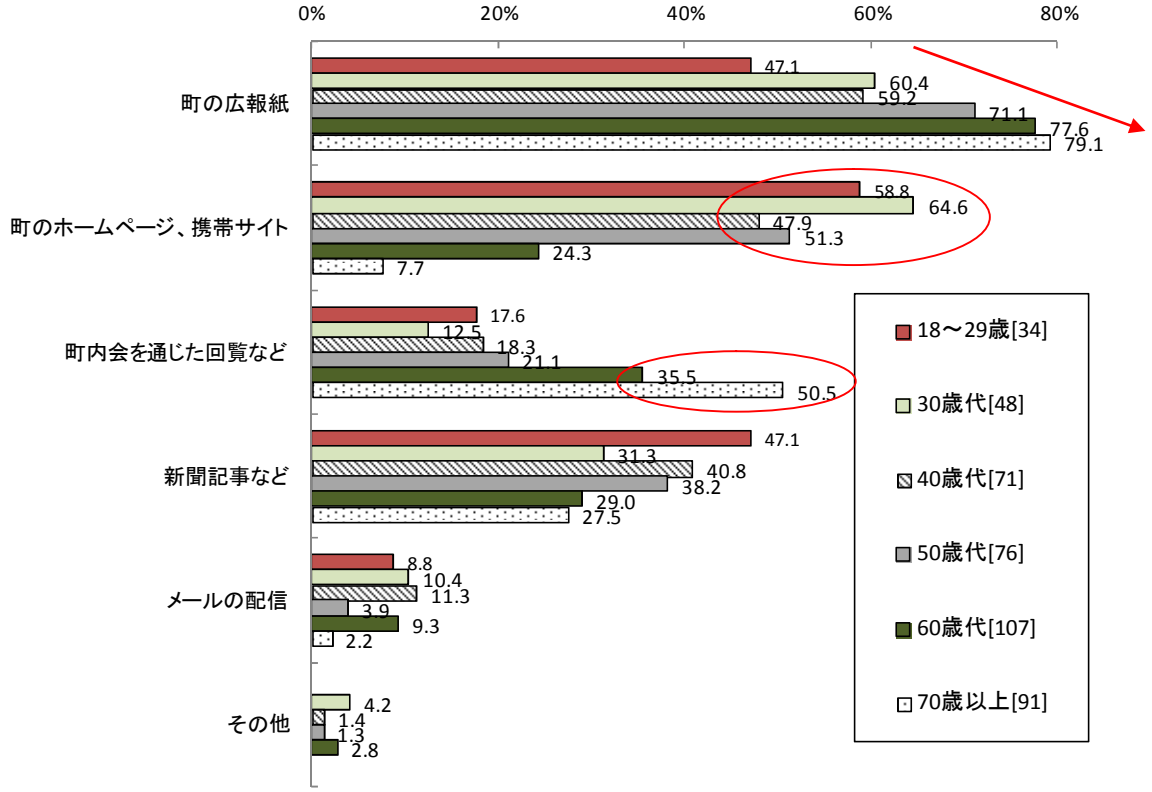
●性別でみると、男女とも「町の広報紙」が第１位です。「町のホームページ、携帯サイト」「町内会を通じた回覧など」「メールの配信」は男性、「新聞記事など」は女性の回答率が高くなっています。

【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/性別）



●年齢別でみると、いずれの年齢も「町の広報紙」が第１位で、年齢が高くなるほど回答率が高まる傾向にあります。第２位は、50 歳代以下の年齢は「町のホームページ、携帯サイト」、60 歳代と 70 歳以上は「町内会を通じた回覧など」をあげています。

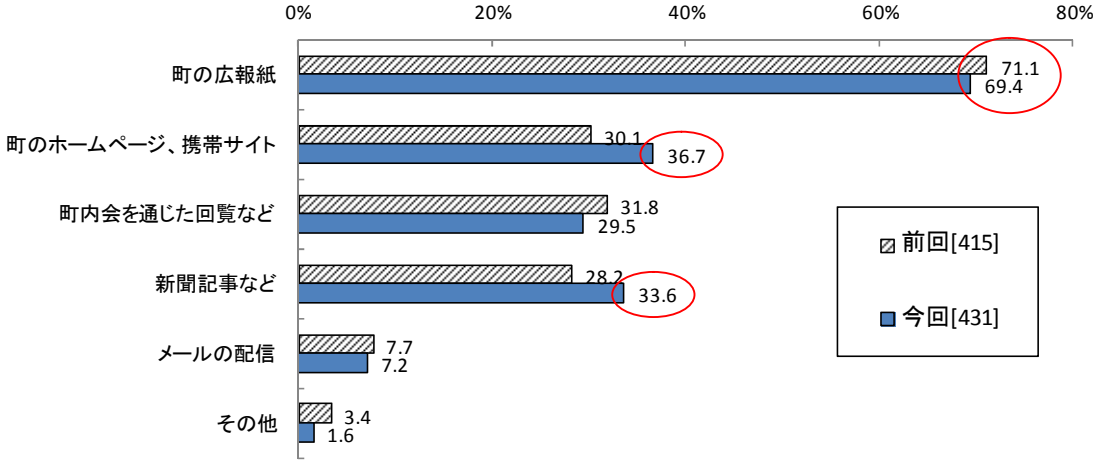
【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/年齢別）



前回との比較

前回と同様「町の広報紙」が第１位ですが、第２位は、前回第３位だった「町のホームページ、携帯サイト」、第３位は、前回第４位だった「新聞記事など」です。

【問11】情報を伝えるために重視（充実）すべき方法（2つまで選択/前回との比較）



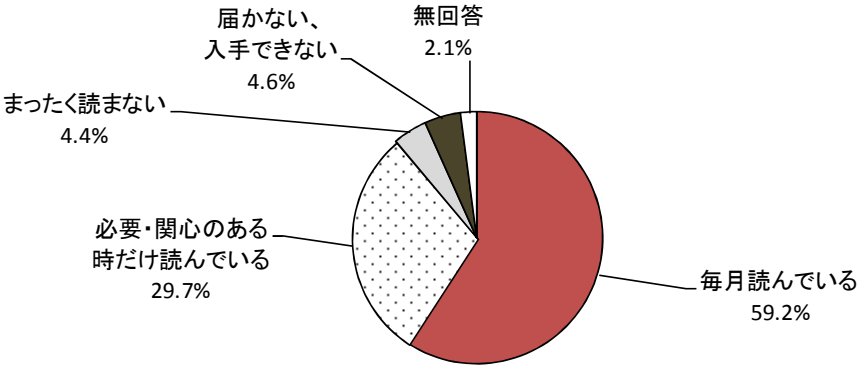
（２）「広報おとふけ」と町のホームページについて

【問 12】音更町では、毎月１回発行の「広報おとふけ」と町のホームページで、町に関する情報をお伝えしています。これらをどのぐらいの頻度でご覧になっているかお知らせください。（各項目○は１つ）

①「広報おとふけ」を読む頻度

○「毎月読んでいる」（59.2%）が約６割を占め、「必要・関心のある時だけ読んでいる」（29.7%）が続きます。「まったく読まない」は 4.4%で、「届かない、入手できない」は 4.6%です。

【問12】①「広報おとふけ」を読む頻度（431人）

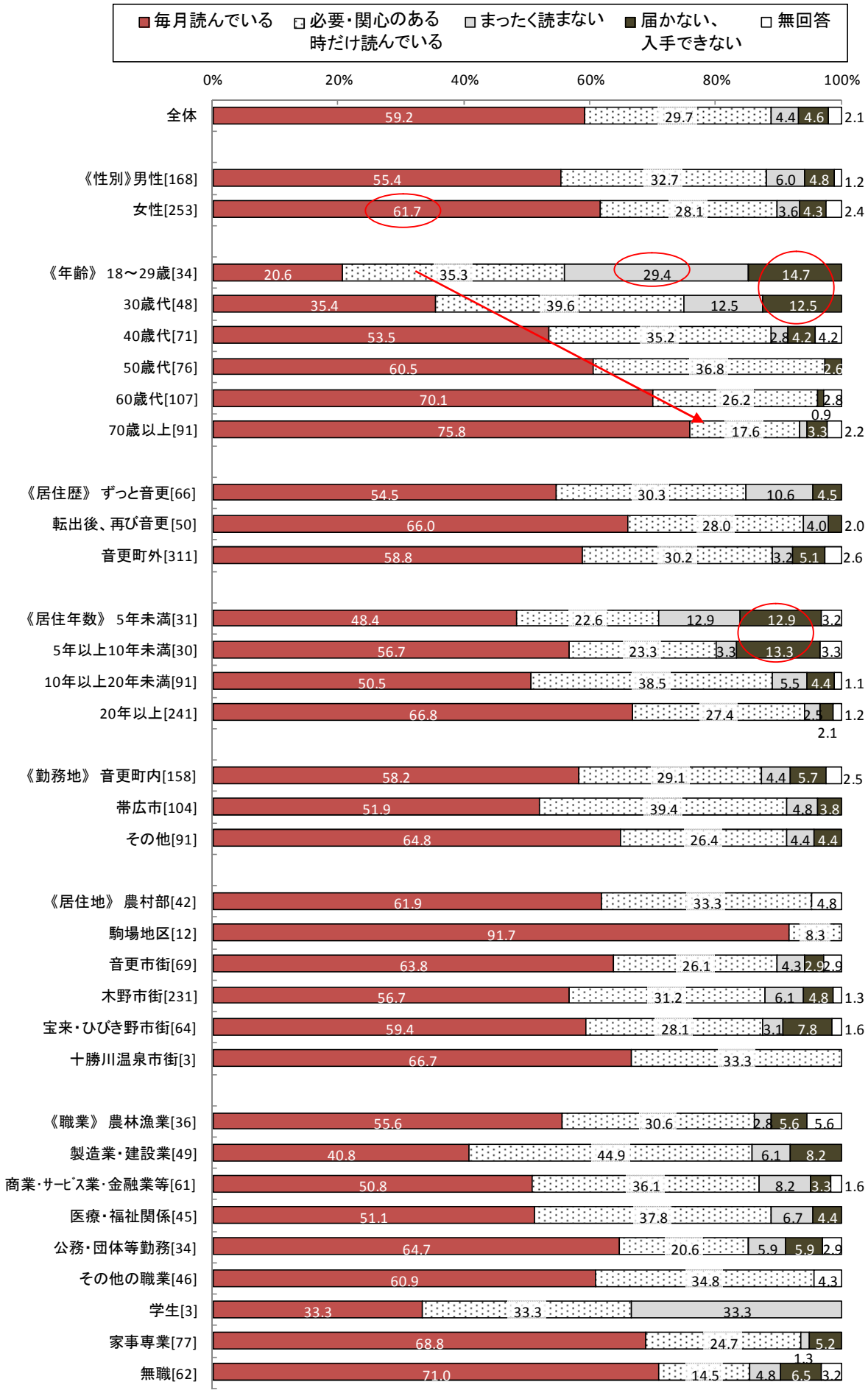


●性別でみると、「毎月読んでいる」は、女性の方が高くなっています。

●年齢別でみると、「毎月読んでいる」は年齢が高くなるほど高まります。一方、「まったく読まない」は 18～29 歳で約３割、「届かない、入手できない」は 18～29 歳と 30 歳代で１割以上を占めます。

●居住年数別でみると、「届かない、入手できない」は５年未満と５年以上 10 年未満で１割以上を占めます。

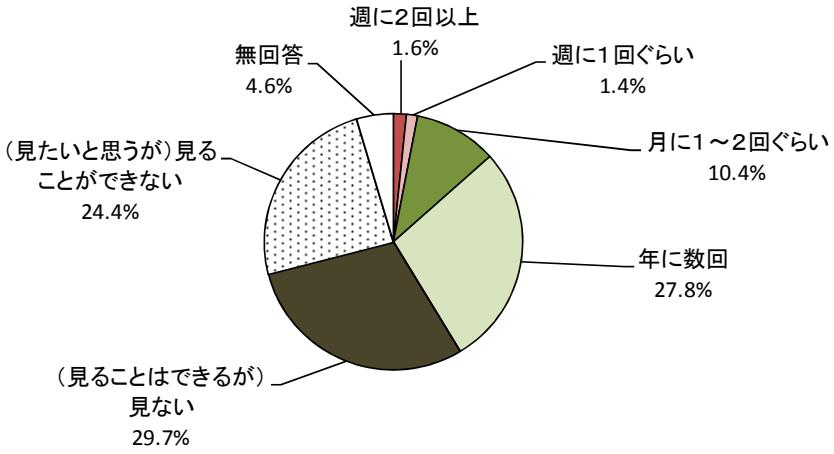
【問12】①「広報おとふけ」を読む頻度（属性別）



② 町のホームページを見る頻度

○「(見ることはできるが）見ない」が 29.7%で最も高く、「年に数回」（27.8%）が僅差で続きます。次に、「(見たいと思うが）見ることができない」（24.4%)、「月に１～２回ぐらい」（10.4%）と続きます。「週に２回以上」（1.6%）と「週に１回ぐらい」（1.4%）は僅かです。

【問12】② 音更町のホームページを見る頻度（431人）

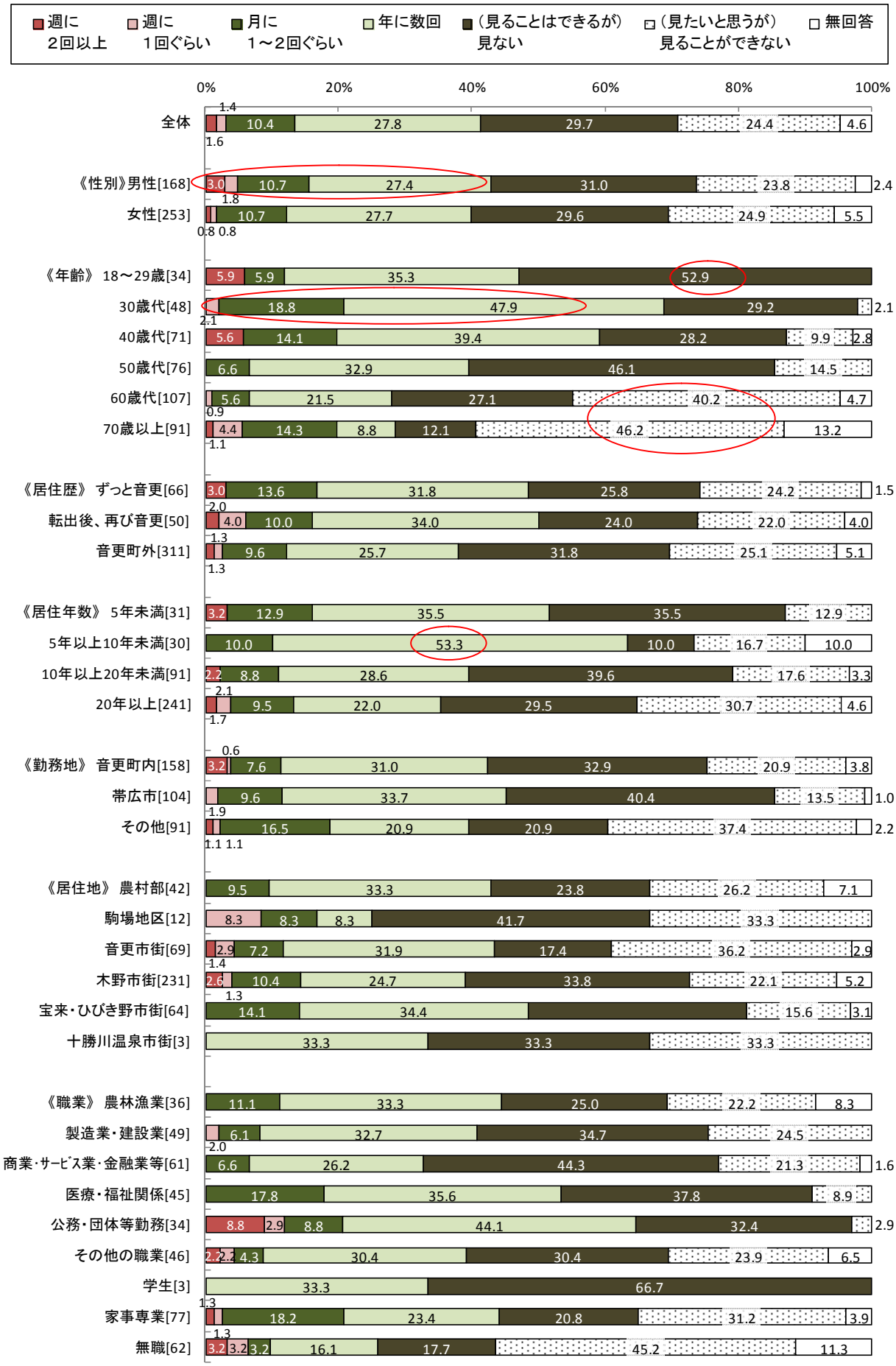


●性別でみると、「見ない」「見ることができない」以外の“見ている回答”の割合が高いのは男性です。

●年齢別でみると、“見ている回答”の割合が最も高いのは 30 歳代です。一方、18～29 歳は「見ない」が約半数を占めます。60 歳代と 70 歳以上は「見ることができない」が４割以上を占めます。

●居住年数別でみると、５年以上 10 年未満は「年に数回」が約半数を占め、“見ている回答”の割合が他の年代に比べて高く、差がめだちます。

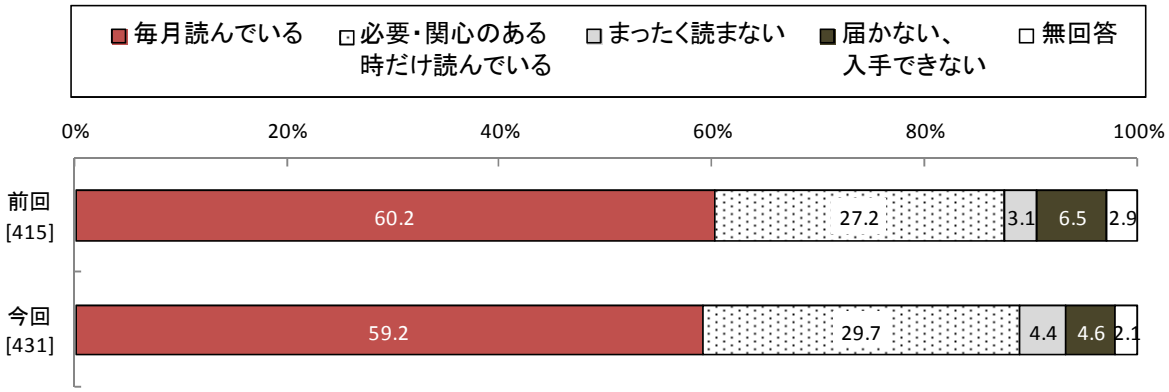
【問12】②音更町のホームページを見る頻度（属性別）



前回との比較（「広報おとふけ」について）

「必要・関心のある時だけ読んでいる」が前回よりやや高くなり、「届かない、入手できない」がやや低くなるなど、多少の差はありますが、前回とほぼ同様の回答傾向です。

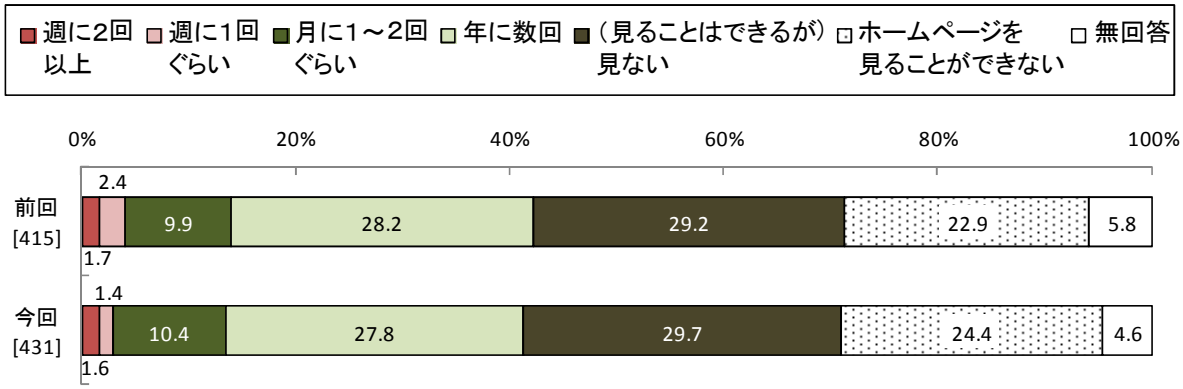
【問12】①「広報おとふけ」を読む頻度（前回と今回の比較）



前回との比較（町のホームページについて）

「ホームページを見ることができない」が前回よりやや高くなるなど、多少の差はありますが、前回とほぼ同様の回答傾向です。

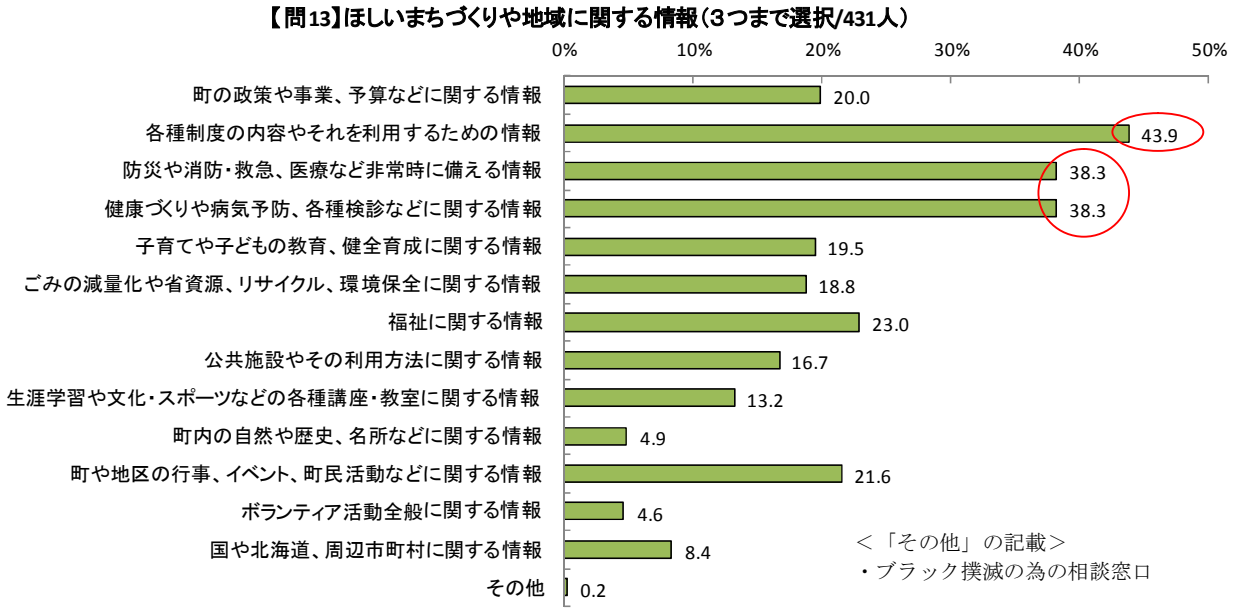
【問12】②音更町のホームページを見る頻度（前回と今回の比較）



（３）まちづくりや地域に関する情報で望む内容

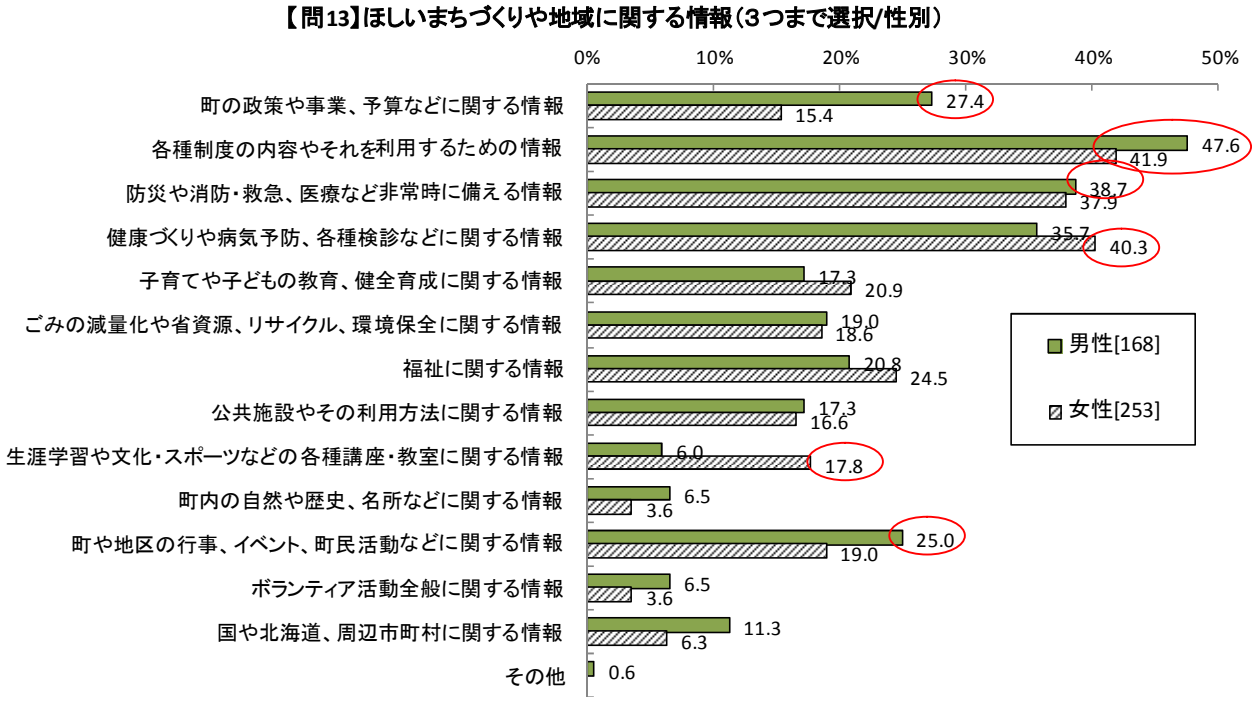
【問 13】まちづくり（町政）や地域に関する情報として、どのような内容を望みますか。次の中から３つ以内でお知らせください。（○は３つまで）

○「各種制度の内容やそれを利用するための情報」（43.9%）が最も高く、「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」と「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」（38.3%）が同率で続きます。



●性別でみると、男女とも「各種制度の内容やそれを利用するための情報」が第１位ですが、第２位は、男性は「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」、女性は「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」です。

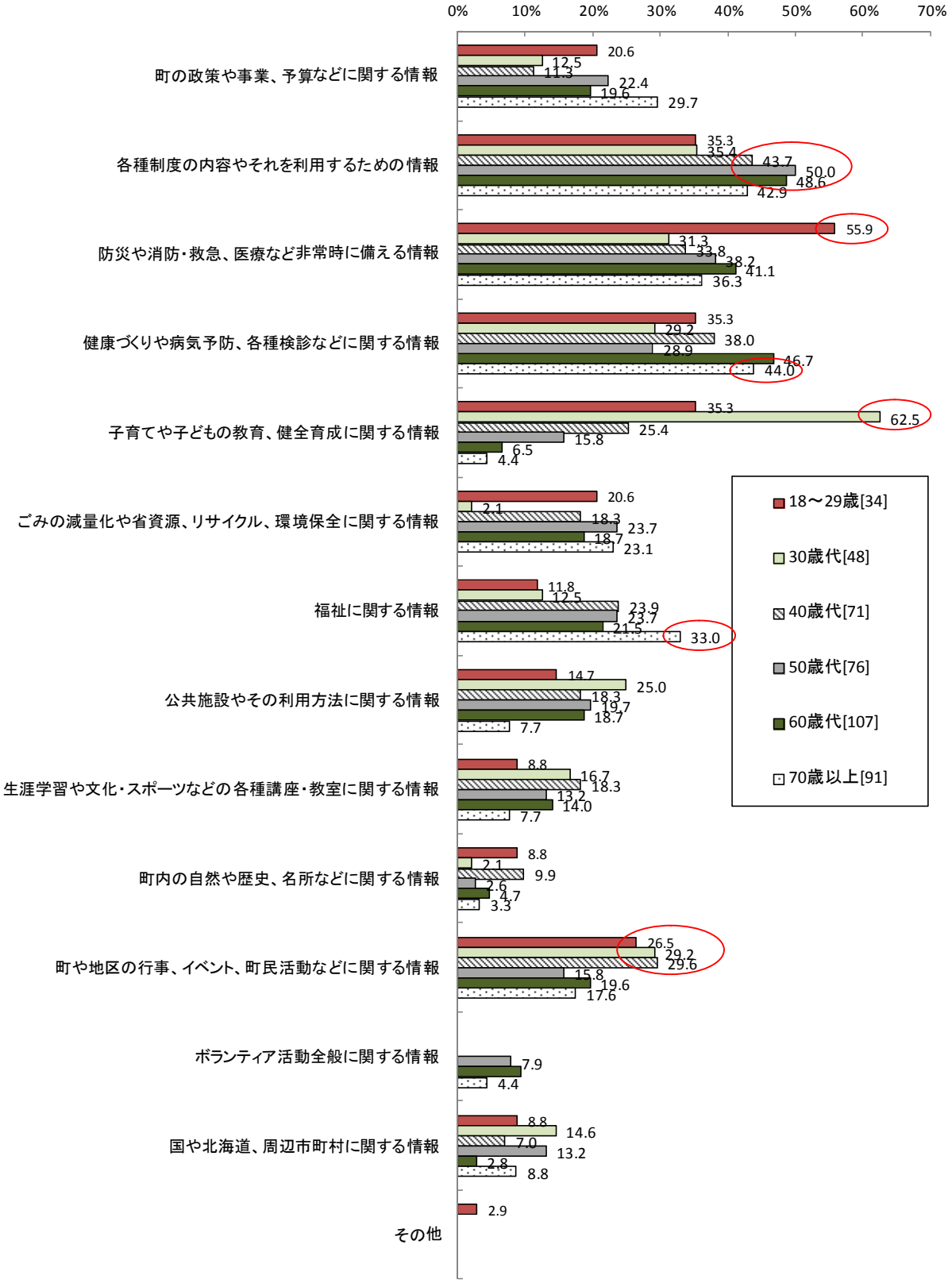
●「町の政策や事業、予算などに関する情報」「各種制度の内容やそれを利用するための情報」「町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報」は男性、「生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」、30 歳代は「子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報」、40～60 歳代は「各種制度の内容やそれを利用するための情報」、70 歳以上は「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」です。

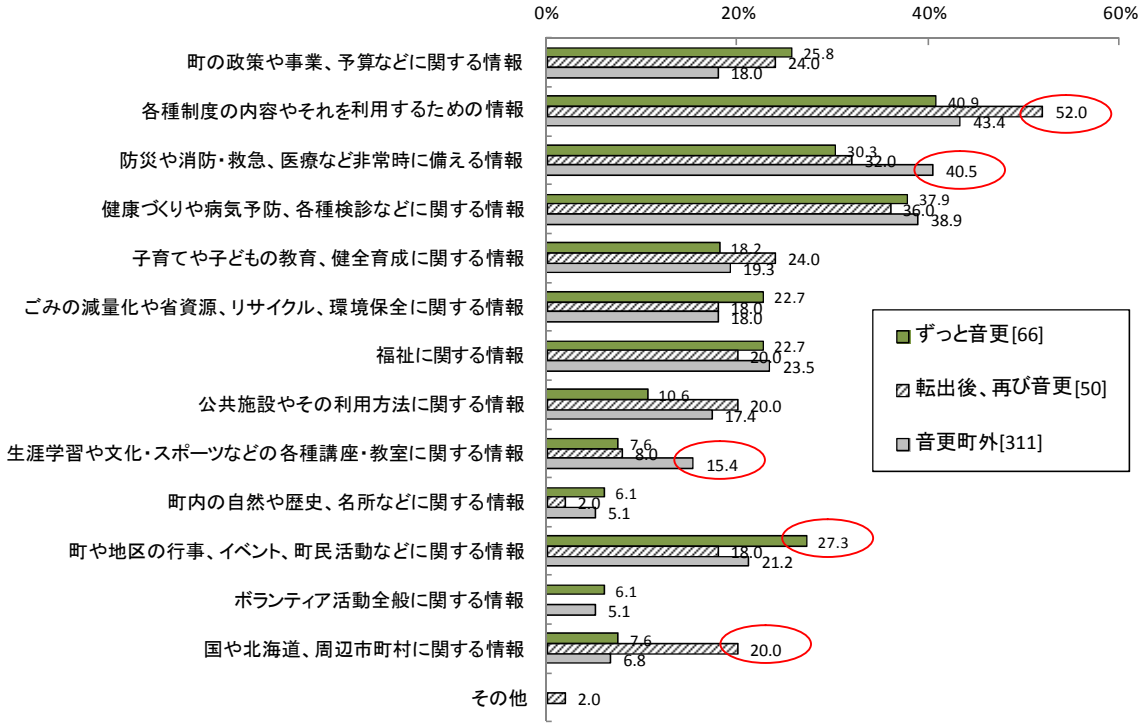
●「福祉に関する情報」は 70 歳以上、「町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報」は 40 歳代以下の年齢で高く、他との差がめだちます。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/年齢別）



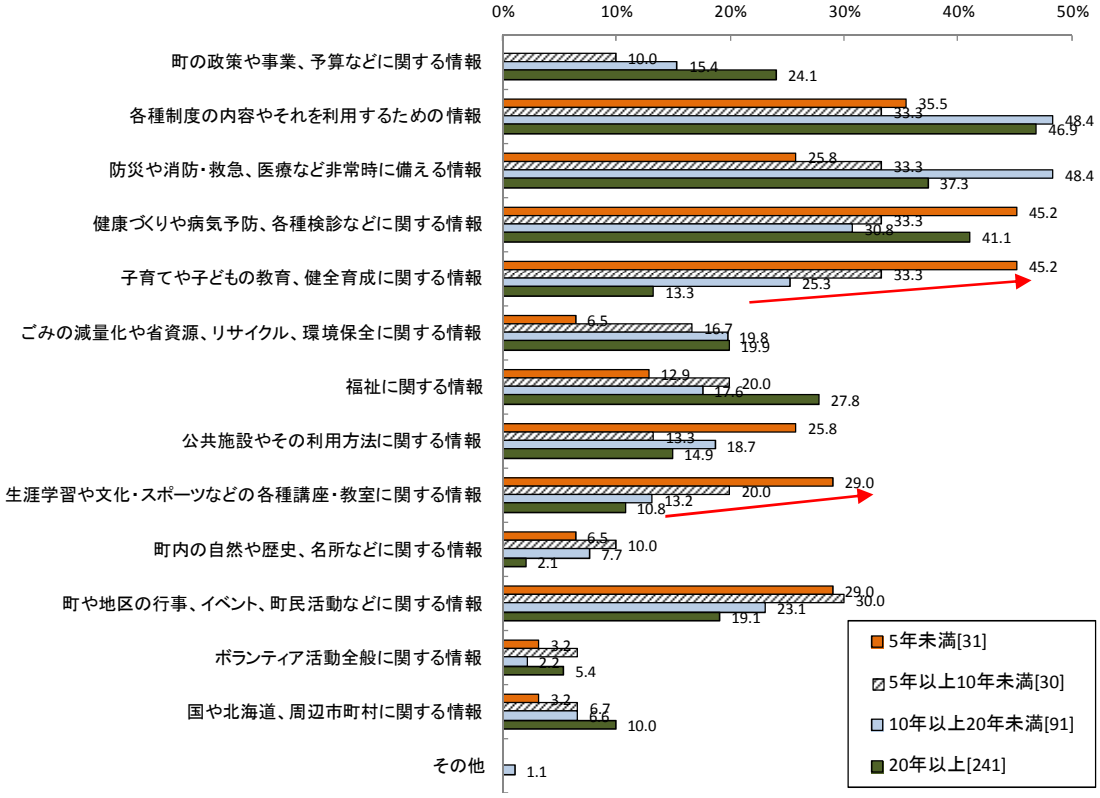
●居住歴別でみると「各種制度の内容やそれを利用するための情報」「国や北海道、周辺市町村に関する情報」は転出後再び音更、「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」「生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報」は音更町外、「町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報」はずっと音更町の回答者の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/居住歴別）



●居住年数別でみると、「子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報」や「生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報」は、居住年数が短いほど回答率が高まります。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/居住年数別）

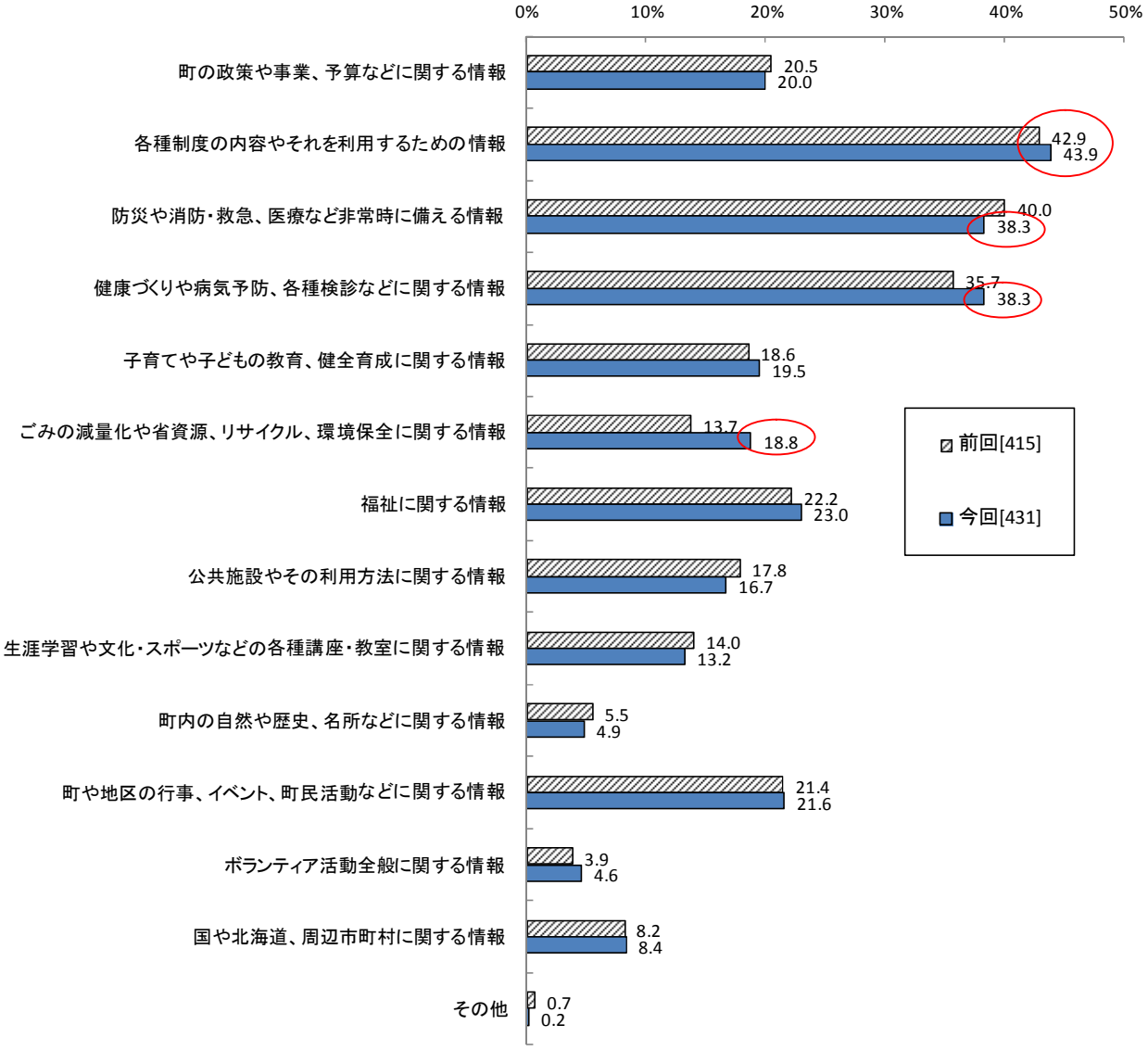


前回との比較

前回と同様「各種制度の内容やそれを利用するための情報」が第１位ですが、第２位は、「防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報」（前回第２位）と「健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報」（前回第３位）が同率であげられました。

また、「ごみの減量化や省資源、リサイクル、環境保全に関する情報」は前回に比べて高くなっており、差がめだちます。

【問13】ほしいまちづくりや地域に関する情報（3つまで選択/前回との比較）

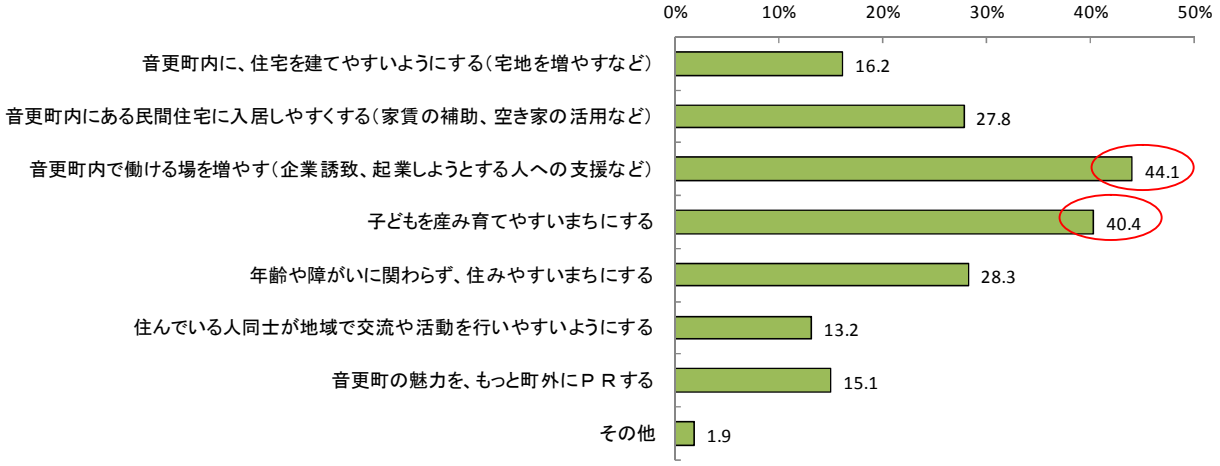


８　移住・定住（【問 14】）

【問 14】音更町では、「住み続けたい、住んでみたいまち」をめざし、住環境の整備や働く場の確保、コミュニティ活動の支援などを行っています。今後、さらに「本町への移住・定住」を促進するために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から２つ以内でお知らせください。（○は２つまで）

○「音更町内で働ける場を増やす（企業誘致､起業希望者への支援など）」（44.1%）が最も高く、「子どもを産み育てやすいまちにする」（40.4%）が続きます。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/431人）

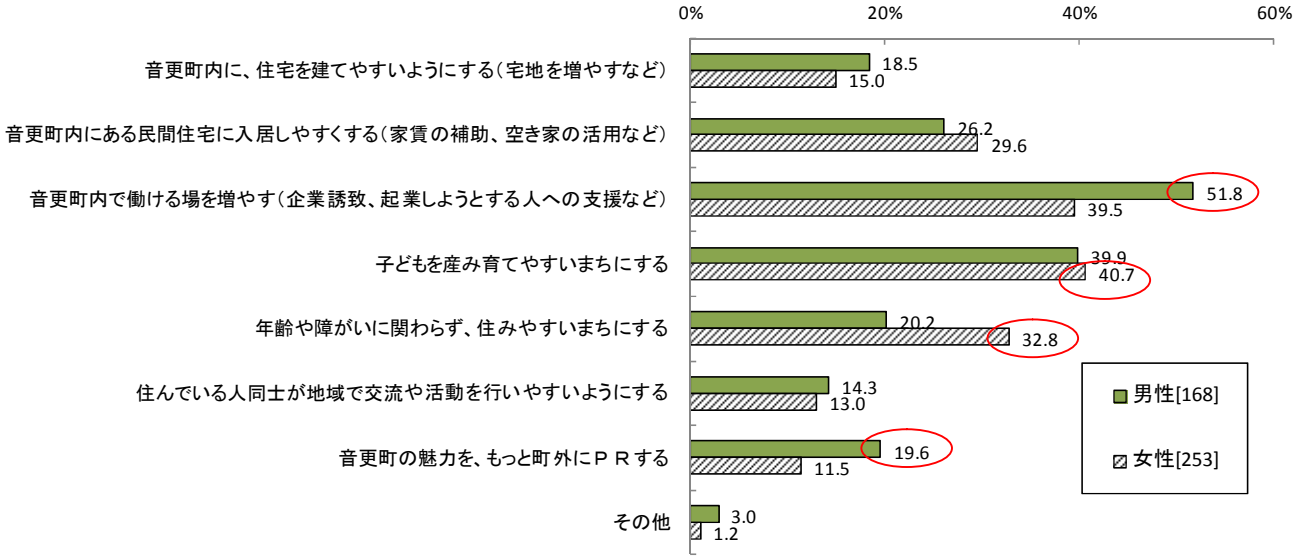


＜「その他」の記載＞
・町が先導できる空き地対策も必要（市街地、農村部含め）　・大型店舗の誘致　・光回線を拡大し若者の移住を防ぐ。
・町民の困り事を聞ける相談窓。口　・保育と介護の一体化。
・他の町村の真似をして移住者だけに目を向けるのではなく、今住んでいる人のために金を使ってその人達の満足度が高まれば、自然と外からも人は集まってくるのでは。　・音更町に住む人間が自分勝手をなおす。　・税金・年金を消費する人を減らす。

●性別でみると、男性は「音更町内で働ける場を増やす」、女性は「子どもを産み育てやすいまちにする」が第１位です。

●「年齢や障がいに関わらず、住みやすいまちにする」は女性、「音更町の魅力を、もっと町外にＰＲする」は男性の回答率が高く、男女の差がめだちます。

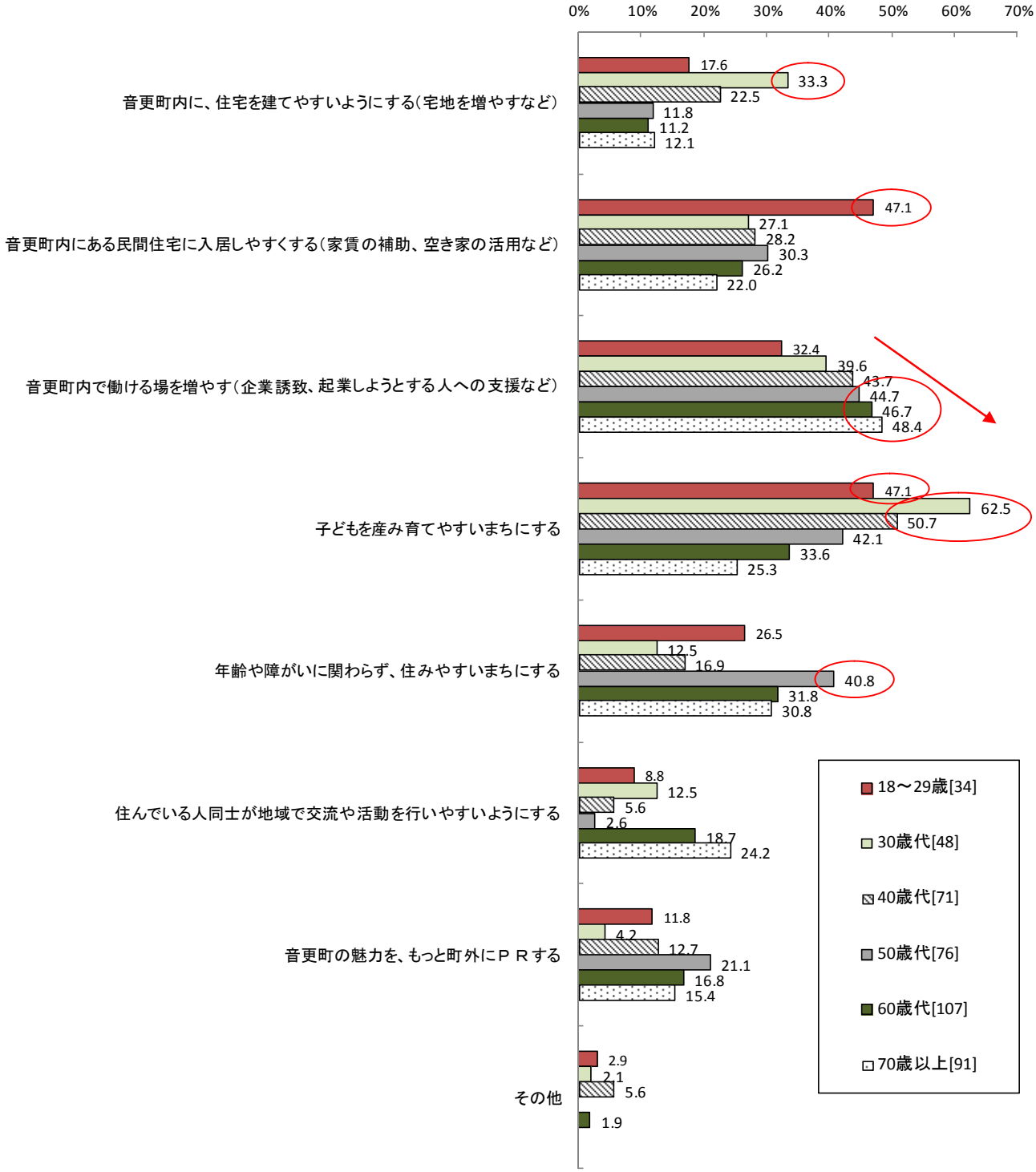
【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/性別）



●年齢別に第１位をみると、18～29 歳は「音更町内にある民間住宅に入居しやすくする」と「子どもを産み育てやすいまちにする」（同率）、30 歳代と 40 歳代は「子どもを産み育てやすいまちにする」、50 歳代以上の年齢は「音更町内で働ける場を増やす」です。

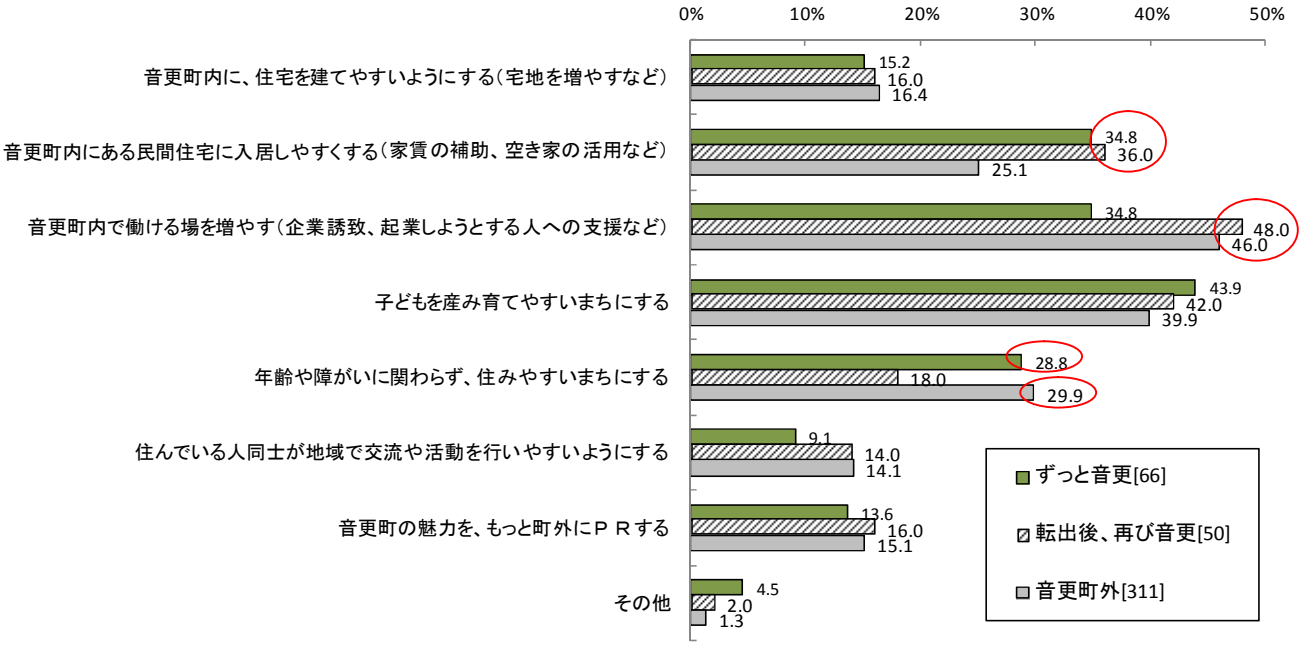
●「音更町内に、住宅を建てやすいようにする」は 30 歳代、「音更町内にある民間住宅に入居しやすくする」は 18～29 歳、「年齢や障がいに関わらず、住みやすいまちにする」は 50 歳代の回答率が高く、他との差がめだちます。また、「音更町内で働ける場を増やす」は、年齢が高くなるほど回答率が高まります。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/年齢別）



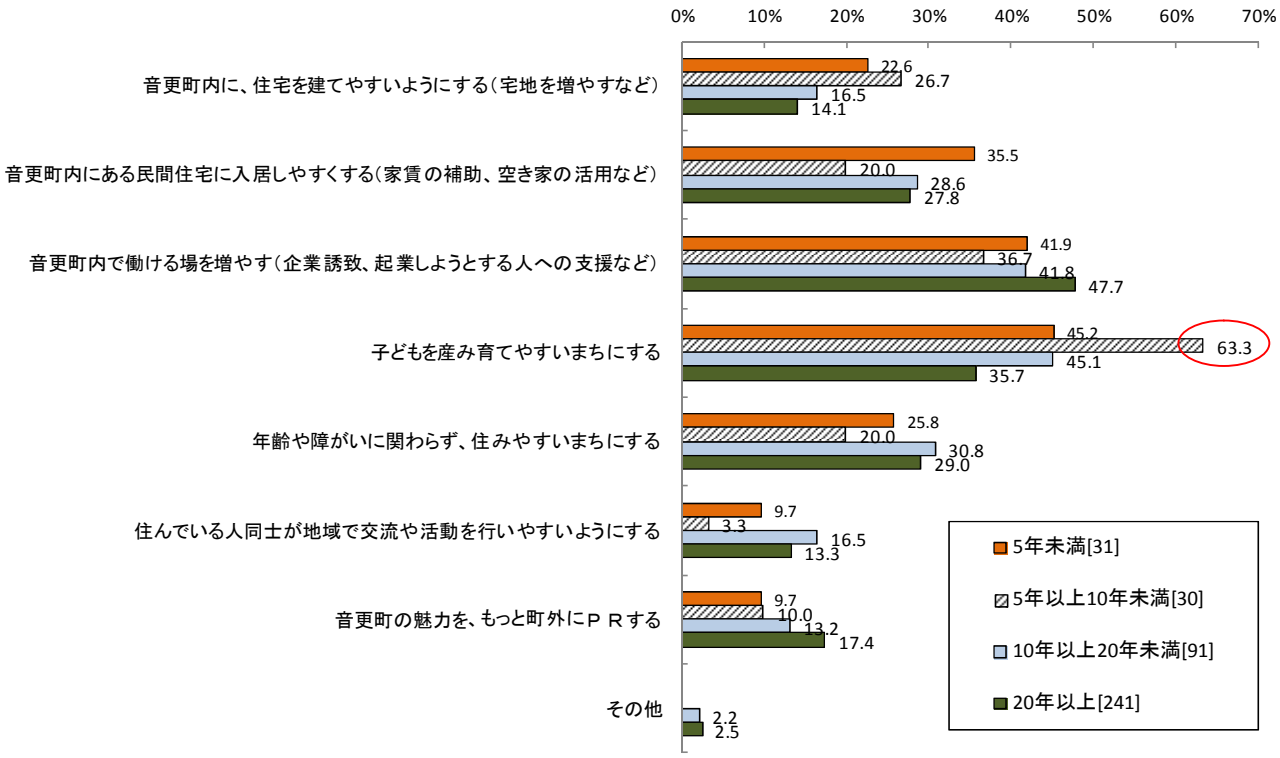
●居住歴別でみると、「音更町内にある民間住宅に入居しやすくする」はずっと音更や転出後再び音更の回答者、「音更町内で働ける場を増やす」は転出後再び音更や音更町外の回答者、「年齢や障がいに関わらず、住みやすいまちにする」はずっと音更や音更町外の回答率が高く、他との差がめだちます。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/居住歴別）



●居住年数別でみると、「子どもを産み育てやすいまちにする」は５年以上 10 年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

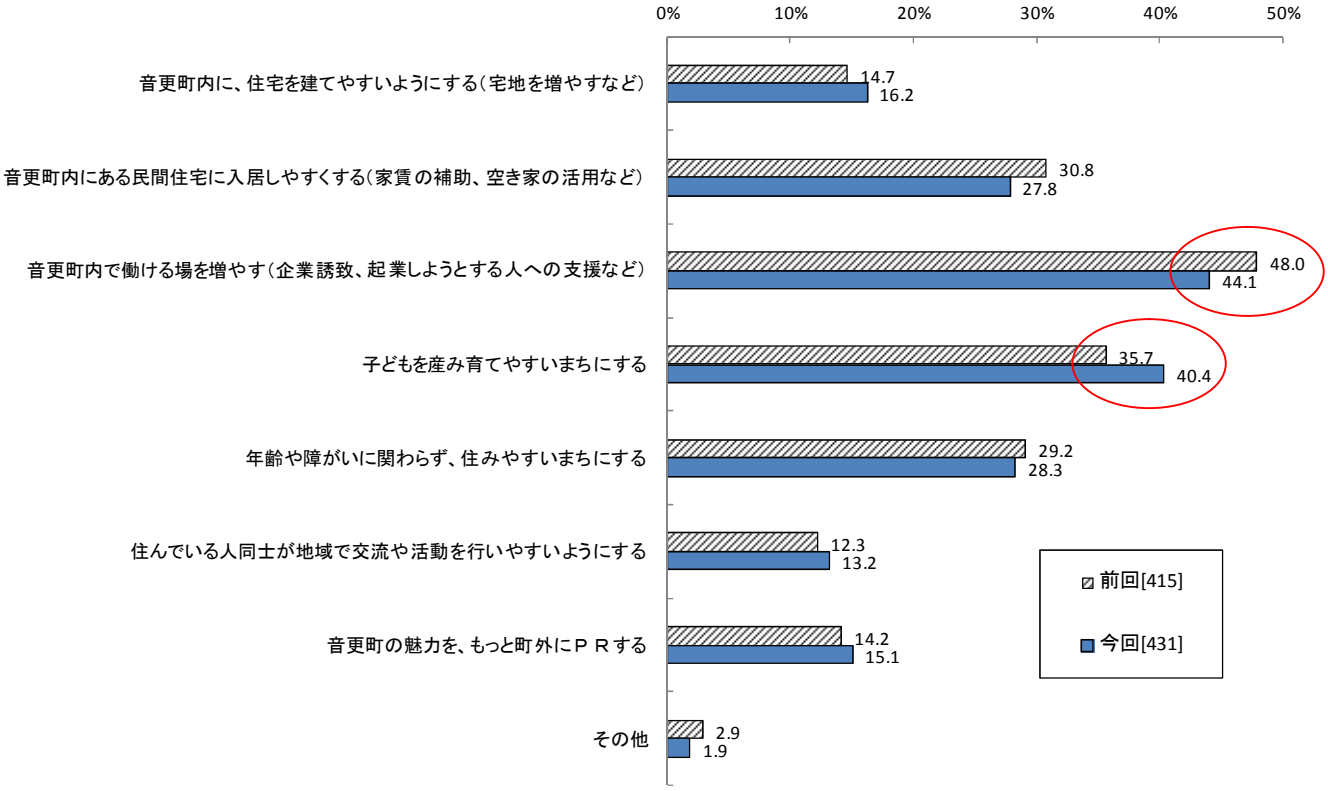
【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/居住年数別）



前回との比較

前回と同様、「音更町内で働ける場を増やす」が第１位、「子どもを産み育てやすいまちにする」が第２位ですが、前回よりも第１位と第２位の差が縮まっています。

【問14】移住・定住を促進するために重要なこと（2つまで選択/前回との比較）

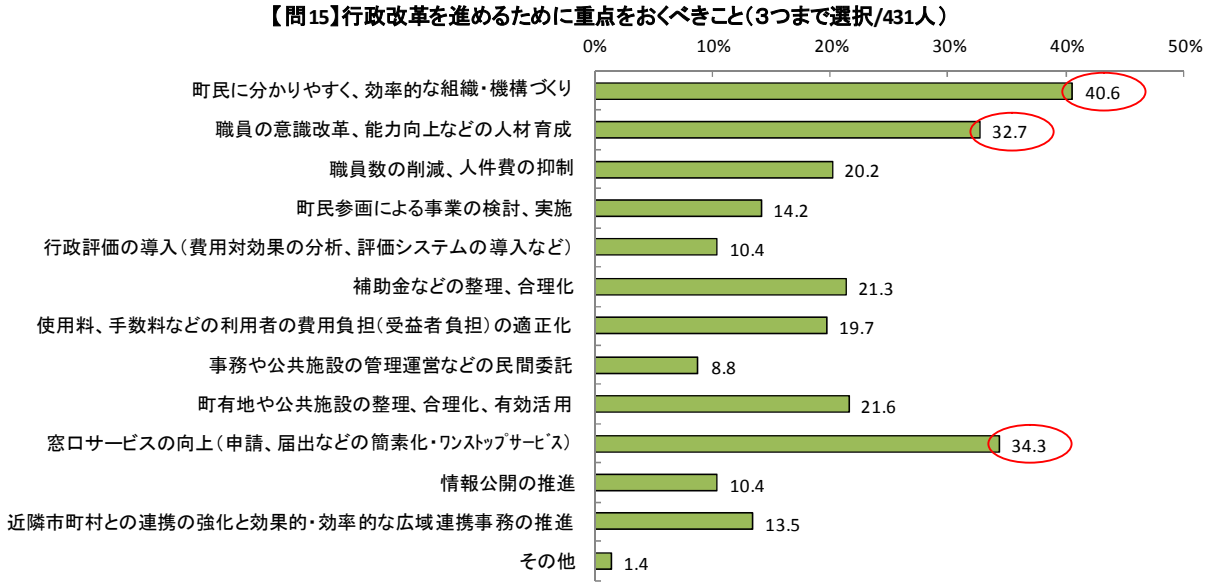


９　行政改革（【問 15】【問 16】）

（１）行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目

【問 15】音更町の行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目をお知らせください。（○は３つまで）

○「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」（40.6%）が最も高く、「職員の意識改革、能力向上などの人材育成」（32.7%）、「窓口サービスの向上（申請、届出などの簡素化・ワンストップサービス）」（34.3%）が続きます。

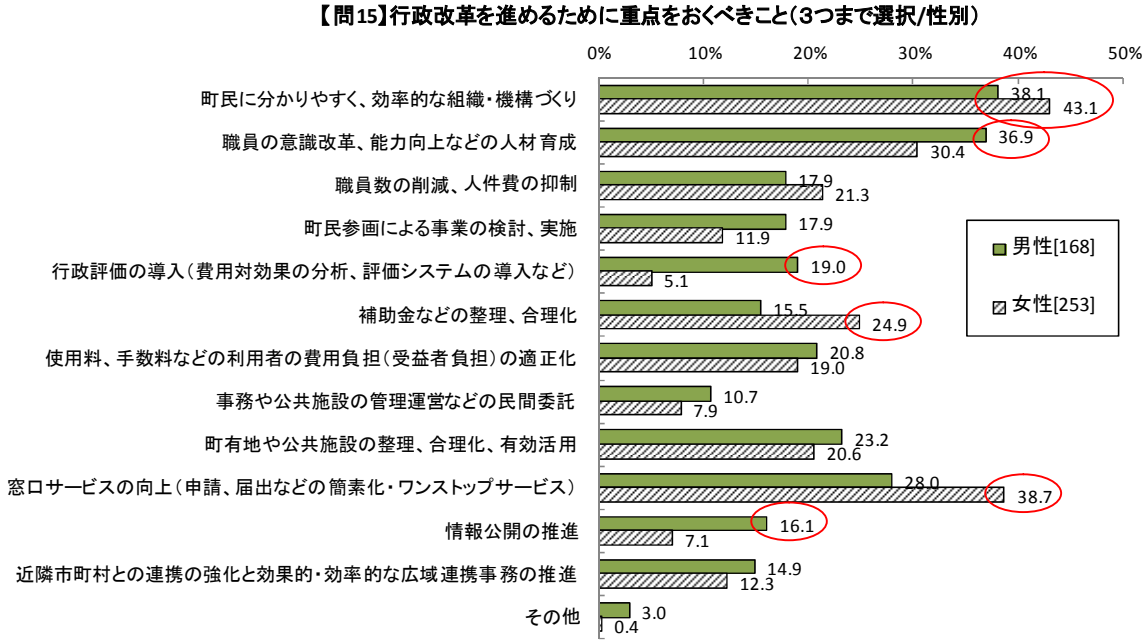


＜「その他」の記載＞

・マイナンバー管理のチェック、個人情報の流出はないか職務の有り方を明記。　・議員定数の削減。　・図書館の民間委託による開館時間、日の延長・拡大。　・役場の中が暗くて、殺ばつとしている。（朝からブラインドが閉じたまま）まずは明るいオフィスにして環境を変えてみてはどうですか？

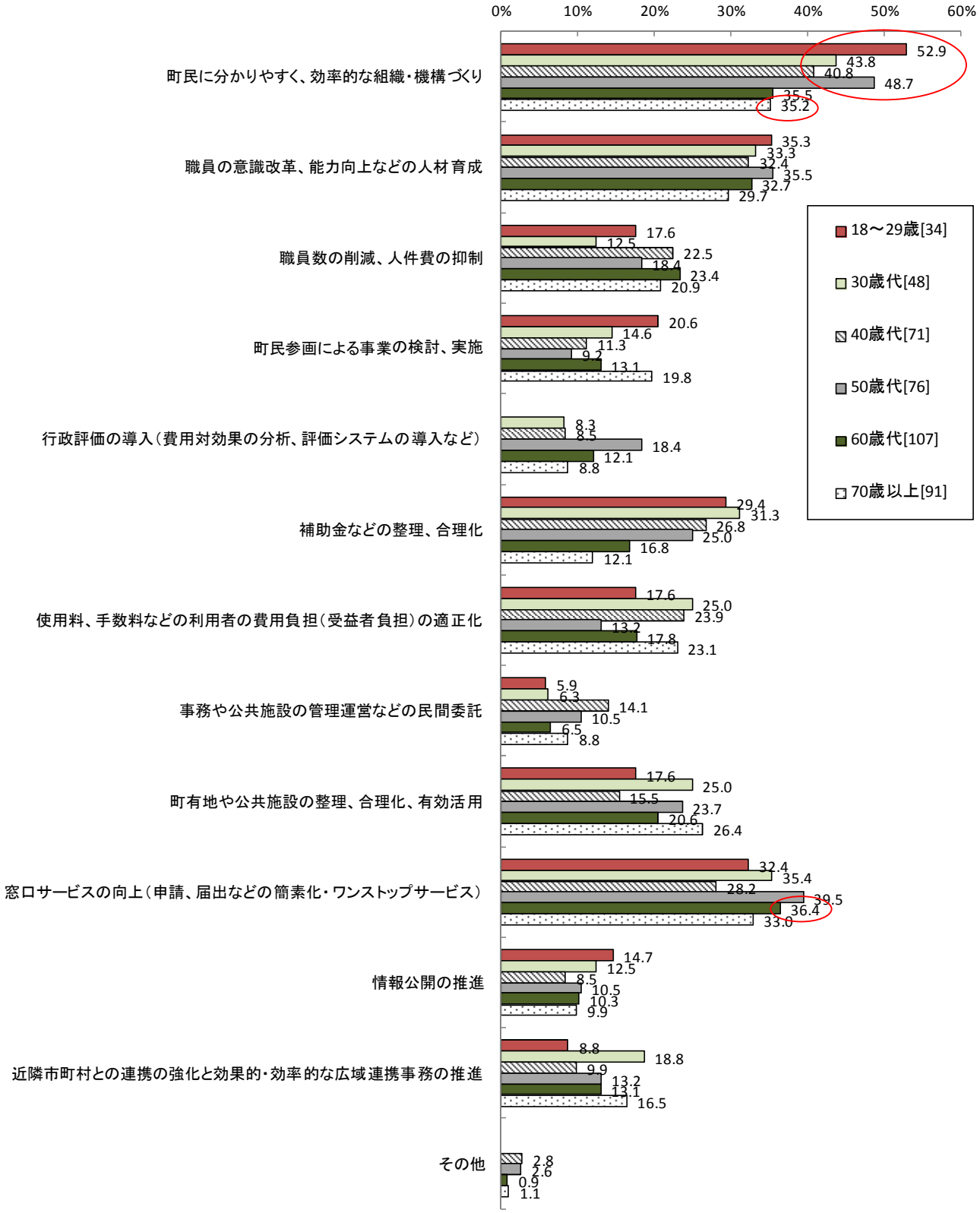
●性別でみると、男女とも「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」が第１位ですが、第２位は、男性は「職員の意識改革、能力向上などの人材育成」、女性は「窓口サービスの向上」です。

●「行政評価の導入」「情報公開の推進」は男性、「補助金などの整理、合理化」は女性の回答率が高く、男女の差がめだちます。



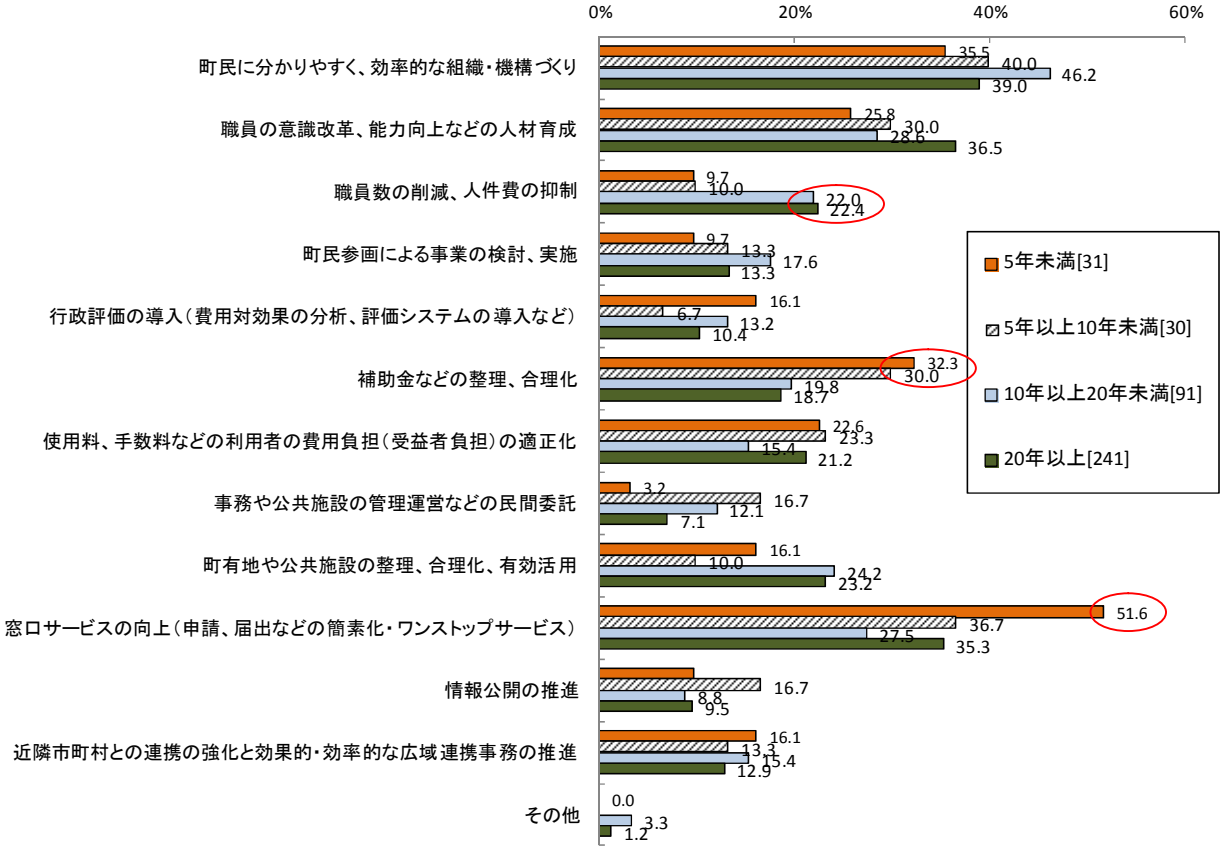
●年齢別に第１位をみると、60 歳代以外は「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」、60 歳代は「窓口サービスの向上」です。

【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/年齢別）



●居住年数別でみると、「職員数の削減、人件費の抑制」は 10 年以上 20 年未満と 20 年以上、「補助金などの整理、合理化」は５年未満と５年以上 10 年未満、「窓口サービスの向上」は５年未満の回答率が高く、他との差がめだちます。

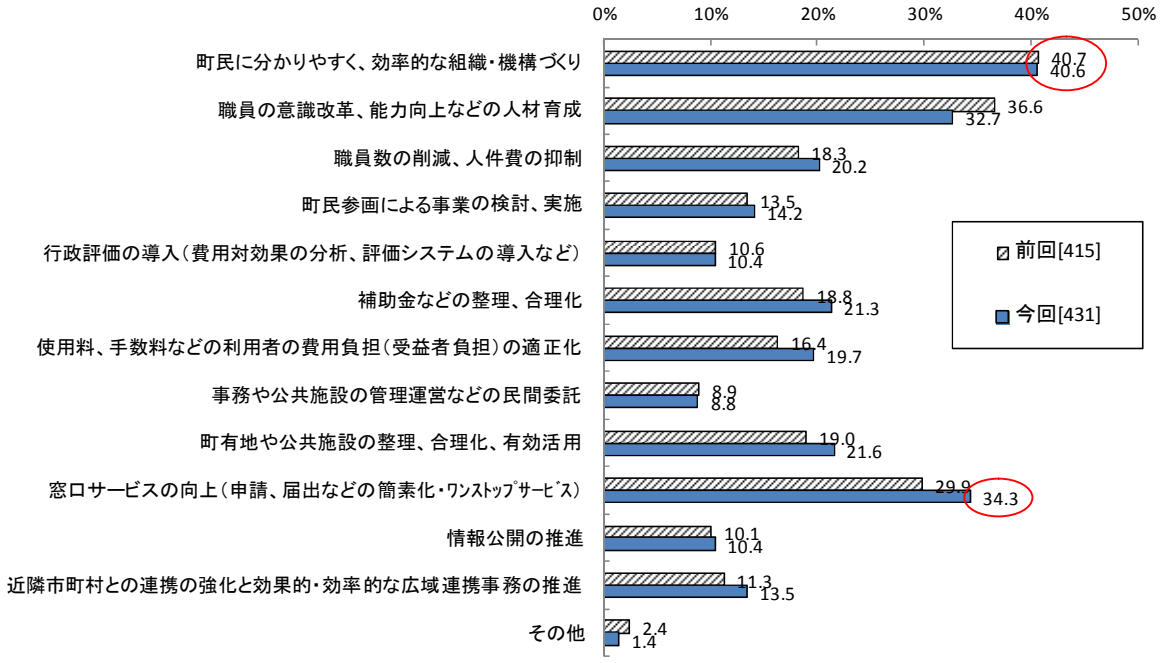
【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（3つまで選択/居住年数別）



前回との比較

第１位は前回と同様に「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」ですが、第２位は、前回３位だった「窓口サービスの向上」となり、前回よりも高くなっています。

【問15】行政改革を進めるために重点をおくべきこと（前回との比較）



（２）なくしたり廃止しても良いと思う制度や施設、事業など

【問 16】将来にわたり持続可能なまちづくり（行政運営）を進めるために、大胆な見直しも必要です。音更町の今の制度や施設、事業など、今後、なくしたり廃止しても良いと思うものがあれば、具体的にご記入ください。

分類	内　　容
役場・職員	・現在の役場を改修する計画で今年度から始まるが、予算が多額すぎるので、中止するべき。第２庁舎として、商業中心部（共栄台、緑陽台とか）に新築した方が効率的だと思う。 ・町の職員数の削減。 ・高額な給料、ボーナス等を一般水準に低くしてほしい。役所の方々の上から目線をやめてほしい。 ・民間からの経験者の中途採用は、民間を苦しめる場合があるので、やり方を考え直さなければならない。
議員	・町議員削減。 ・町議員と住民の乖離はないか。行政視察にしても、町議が主体的にテーマを見出し実施しているのか。住民の意向との乖離についてどの程度認識しているか。視察の実施―目的―実践―評価などの一連のプロセスが見えない。例えば、議会便りで何処へ誰と行ってきた程度でないか。
教育・文化	・少子高齢化の時代に成り、小中学校の統廃合を実施し、５年先、10 年先を見据え、子供達の競争力を高める。 ・自校給食を中止し、総合給食センターへと移行すべき。全体的な予算の抑制につながる。 ・音更町だけの問題ではありませんが、教育委員会制度を今一度深く考えてほしい。教育委員長の責任とは何ですか、委員長の権限って何ですか？正義感ってあるのですか？ ・教員住宅の空家が目立つようですが、今後教員を増やす予定が無いのであれば、民間に移す方法もありではないでしょうか。 ・適応教室（場所を移動か）。今の場所ではあまり活用されていない。職員の人件費と他で利用した方が有効では。他の言葉の教室学童等のそばであればもっと有効なのでは。 ・田舎の小学校の統合、廃止。 ・文化事業。 ・エコロジーパークの事業の縮小。
公共施設	・廃校になった施設を福祉に活かす。 ・あちらこちらにあるゲート・ボール場とパークゴルフ場の縮小か廃止。←維持・管理費の縮減。 ・ガーデンスパ十勝川温泉。一度行ったが、体を洗うことができないのでまた行きたいと思わない。料金も高い。 ・パークゴルフ場施設無料化。 ・音更町は、公園が多すぎると思います。その中には、子供がほとんど遊んでいない公園もあります。少し減らした方がいいと思います。 ・公共施設の統廃合による効率化、維持運営のための費用の削減。 ・使用頻度の少ない、施設や運動施設。 ・長流枝内のキャンプ場は無くしても良い。管理費のむだです。
交通	・コミニティバスは目的地まで時間がかかりすぎる。路線バスがあるので必要ないと思う。 ・交通量の少ない所の道路整備。

分類	内　　容
コミュニティ 福祉	・町内会運営のあり方。脱会者が増えている現実から、半世紀以上も変わらぬシステムでは、対応しづらい。グループ分けは必要だが、もっと簡素化した体制を考えたら良いと思っています。 ・どさんこカード。子供づれとかでないとダメとか、無いとレジでキレられてめんどうくさい。だから一括で 5 千円とかのギフト券の方にきり変えるなど一時金にして欲しい。 ・竹の子子供会の廃止か見直し。 ・老人福祉はある程度充実しているが、勤労者にとってはメリットが少ないと思う。子供の医療費（補助）引き上げとか、子育てがしやすいメリットがもっとあっても良いと思う。
その他	・百年の大計を考え進めてもらいたい。 ・何でもただにするのではなくやはり受益者負担は大切です。決して、タダが良い行政サービスとはこれからは言えないと思います。町民に理解を求めながら意識を変えてもらう努力を願いたい。 ・見直しではなく、むだのない能率化、効率化。 ・上からの政策をそのまま行うのではなく、地方自治にのっとり、音更町にふさわしい形にして独自性のある政策を行って欲しい。

10　まちづくりへのアイデアや提案（【問 17】）

【問 17】今後のまちづくりに対し、新たな取組み、重点的に行うべき取組み、アイデアやご提案、その他、ありましたらご記入ください。

○122 人の回答者から意見を頂戴しました。１人が複数記載されているものも多く、分野ごとに区分して示すと次のとおりです。

※問１の項目の区分、順番を基本に掲載しています。

［保健、医療、福祉］

子育て支援	・児童館など、子どもが放課後自由に出入りし活動できるところが近所にほしい。	女性	40 歳代
	・保育料を下げたり、補助が増えるとうれしい。	女性	30 歳代
	・保育園の無償化。個人の医療費の負担減。くわしくは一部無料になる様に。	女性	50 歳代
	・幼稚園等に入園される園児に対し、町からの補助金を少しでも支給してはいかがでしょうか。ぜひ御検討ください。	男性	60 歳代
	・子供の医療費を無料にしてほしいです（15 才まで）。せめてインフルエンザのワクチンの注射ぐらいは無料に。	女性	60 歳代
	・小学生からの医療費自己負担について。	女性	18～29 歳
	・医療費の負担をなくす。	女性	40 歳代
	・医療費無料化（せめて小学生まで）	女性	40 歳代
	・子育て支援が弱い。子どもの医療費免除の引き上げ。	女性	50 歳代
	・他の町村のように、子供の医療費を無料にするなどの取り組みがあったら、子育て世帯には住みやすい街になると思います。また、子育て世帯じゃない家庭は、その分ゴミ袋が無料とか、何か別のサービスが受けられたら良いかと思います。	女性	40 歳代
	・子育て（妊娠中ふくむ）中は何かとお金がかかります。働いていても、又は働きたくてもまだ働ける状況にないなどで困っている人は多いです。金銭的なものから物理的なものまで、補助できる事は多いです。子育てを始める人に対して、チャイルドシートやベビーベッド等大きなもので、リサイクルや貸し出し、補助などがあれば助かる人が多いのではないでしょうか。	女性	18～29 歳
	・他の市町村よりも子育てに対して優遇されている面が少ない。音更で子育てをするメリットがあれば良いと思います。”子育て”にやさしい町であってほしい。	男性	30 歳代
	・子供の教育にはお金がかかるので、塾等習い事も家計にひびくと思う。今、退職者が沢山いらっしゃるので、その方達が、持っている知識を子供達に教える様な制度もあって良いのかなあって。大人は頭を使い、ボケ防止。子供達にボランティアで学童保育もあるけど、勉強面で弱いところを補う様な面を持たせる。	女性	60 歳代
	・学童保育の充実など、児童・生徒の放課後の有意義な時間の過し方の指導など。	男性	60 歳代
	・片親に対してもっと住みやすい町にしてほしい。	女性	30 歳代
	・貧苦にある子供達への教育機会の援助をすすめてゆく。音更町が 50 年後に戻ってきたい町にしてほしい。	男性	60 歳代
保健健康づくり	・コミセンで行う事が出来る 60 才以上の人のストレッチ・体操教室・ヨガ教室を、ぜひつくってほしいです。夜ではなく、午前中で。みんなで楽しく体を動かせて、話も出来て、コミュニケーションがとりやすくなるので。普段家の中だけで過ごしている私達の年代（60 代～）には、待ちに待っている教室だと思います。いつも思っていましたが、音更にはありません。帯広での	女性	60 歳代

	教室行ってみましたが楽しかったです。近くでやってほしいです。		
	・スポーツ、ヨガなど外に出て健康促進できる取り組み。	女性	30 歳代
	・健康診断は毎年あるのと、２年に１回のもあるので、毎年受けられる様にしてほしい。	女性	60 歳代
	・健康推進ポイント制度。（高齢者の自立支援に繋がる）	女性	50 歳代
	・予防接種などが近隣の市町村でも受けられるようになるとありがたいです。	女性	60 歳代
医療環境	・産婦人科がありません。あると良いと思う。	男性	60 歳代
	・医療機関、ケア施設が多くあるが、音更町で老いを安心して重ねてゆけるモデルを立ち上げ、実施。管内で一足進んだ環境とアピールできたら町民も誇りに思うだろう。	男性	60 歳代
高齢者の自立支援	・年齢的にみて、医療、福祉、保健の分野に引き続き重点を置いてほしい…。	女性	60 歳代
	・高齢者や生活困窮者を守る為、年金を含む社会保障の充実を強く国に上申すると共に、町独自でも取り組みを強化し、町民の生活安定を計っていただきたい。	男性	70 歳以上
	・老人だけの世帯の保護。（金銭的と見守り）	女性	50 歳代
	・２年前から「社会福祉法人光寿会」が開講した認知症予防の「脳の健康教室」に通っています。くもん学習療法センターの教材を使い、週一回の教室通いと、自宅での毎日の学習で認知症への抵抗感や恐怖心を少しでも減らせることを願って続けています。十勝では、広尾町、池田町が自治体主催で行っているそうです。今後の超高齢化社会に向かって、足、腰だけが丈夫で認知症になると、徘徊老人が増え、より介護が大変になると思われます。健康寿命を延ばすには、「頭の体操」と「体の体操」のバランスが必要と考えられます。今後の高齢者教室の一つに加えていただきたく希望致します。	女性	60 歳代
	・各町内のお年寄りを対象とした交流の場（サロン）の創造。高齢者福祉の形でなく、中身の充実を図る。	男性	70 歳以上
	・まだまだ元気な男性・女性のお一人様がいらっしゃいます。介護や病院のお世話になるまでの間、助けあったり、集えたり、土いじりをしたりできる場所があるといいなと思います。	女性	60 歳代
	・定年退職者や老人、無職の人が参加できる事。（例）ボランティア、期間限定の仕事、朝・夕の子供の登下校時間の見守り。	女性	30 歳代
	・空き家、空き店舗を何かに利用できないか。お年寄りが安く住めるようなアパート、マンションなどがあるといい。	女性	18～29 歳
	・老人ホーム、入居しやすくする（公立）。	男性	60 歳代
	・健康な高齢者の職場の確保を是非お願いしたい。働きたくても働く場所の無い高齢者は沢山います。	男性	70 歳以上
	・年をとっても働ける仕事を世話してほしい。まだまだ体も動くので、仕事もしないで家にいたら体がおとろえると思う。	女性	60 歳代
障がい者(児)の生活支援	・発達障がい者が増えているので、就労の取組みや、積極的雇用など、将来的にスムーズにいくシステムは必要だと思う。収入＝納税率向上。人口減対策のためには必要。	女性	40 歳代
	・発達支援サービスの充実。特に、障がい児に対する相談･支援などは、芽室･幕別町に比べて決して満足できるものではない。日中一時サービスや放課後デイサービスの数を増やしたり「音更町はいいね」と言われるようになってほしい。	女性	40 歳代

［生活環境、安全・安心］

町民ボランティア	・高齢者と若者、それぞれが分離して活動している様にも見えますが、同じ様な取り組みがある場合には、相互が一体化してボランティア活動に取り組む方法もあるとは思いますが？	女性	70 歳以上
	・年配者が比率を増すなか、身近なボランティア活動の情報を一元化するモデルを立ち上げてみては。（芽室町の助け合いポイントのような）	男性	60 歳代

コミュニティ活動	・コミセン、会館を利用しやすくしてほしい。	女性	40 歳代
	・コミセンの有効活用。	女性	70 歳以上
	・各町内会を通して、高齢者の社会参加を促して欲しい。	男性	60 歳代
	・個人としては住み良いですが、年齢とわず、孤独な時代です。色々な事でコミュニケーションのとれる豊かな環境を作ってほしいです。親子が、一緒にたすけ合い、暮らして行ける地域環境の促進など。	女性	60 歳代
	・札幌市の町内会は全員入っています。それは、行政サービスを利用するために市が町内会に義務付けていると思われます。貸家でも貸料と合わせて町内会費を収めています。町内会組織の発展は、行政サービスに直結します。	男性	40 歳代
	・町内会の必要性が見えて来ない。	女性	50 歳代
	・音更＝年配の方が多い町のイメージが強く、若い人が集まりにくい。毎年行われているイベントも代わり映えせず、新しいイベントも少なく、主催側も若い年齢層が殆ど見られない。	男性	30 歳代
	・町民同士の交流を増やせるイベントを興す。大きな町なのに一体感があまりないと感じています。	女性	18～29 歳
交通安全	・宝来大橋の、宝来側に信号をつけてほしい。（時間帯によって、車が多く、大きな道路に出にくいし危険が多いため）	女性	50 歳代
防災	・災害対策。	女性	30 歳代
	・現実的に効果ある各種災害対応体制を早急に策定すべき。（町民の命と財産を守る）	男性	70 歳以上
	・災害の無い町づくり。音更川の水害から住民の生命財産を守る。生命安全最優先。	男性	70 歳以上
	・自然災害への対策。川沿いに住んでいるため、昨年の台風の影響が今後の不安になっている。	女性	40 歳代
	・川又は山でも、洪水で被害が出ないよう対処方法を考える。	女性	50 歳代
	・地球温暖化により、自然災害が多くなって来ている現代において、災害の時の訓練なり、備蓄はどの様に考えておりますか。実際に見る事は出来ないのですが、せめて広報なりでも読む事が出来、安心して住みやすい音更にしてほしいものだと望んでおります。	女性	70 歳以上

［環境保全］

環境美化	・ゴミが風などで道路の方まで飛んでいるのが気になる時があります。	女性	60 歳代
	・緑陽台の東側の鳳乃舞温泉周辺から北側にかけて、近年、プレハブ物置、大型倉庫が設置されています。これらの建物は、許可されていないはずです。ある不動産の方は、役場が休みの土日に設置すれば問題ないという始末です。更にブロックなど産業廃棄物が堆積している所が目立っています。このような所に「不法投棄禁止」など看板を設置するだけで良いものではありません。このような状況を見て見ぬふりして良いものでしょうか？きちっと撤去させるなど実効ある対応を望みます。役場の行動を町民は見ていますよ！	男性	60 歳代
ごみの収集、リサイクル	・ゴミの日（燃える生ゴミ）のキツネ、カラス対策。	男性	60 歳代
	・ごみ出しでトラブルになるのは、搬出者不明の不正ゴミと生ゴミのカラス被害です。ごみ出しは、各戸毎に家の前に出し、カゴをかける。そうする事により、各人が責任を持って後始末すると思います。例えば、数軒まとめてゴミを出している所は、網が電柱に巻き付けられ町の景観をそこねています。	男性	60 歳代
	・ゴミ出しをキチッとしているのに、カラスが荒らした後など、他の市町村はキチンと片づけて行ってくれるのに、音更は全く何もしていかなく、文句のプリント等はうるさいくらいポスティングしていく。	－	50 歳代
	・粗大ゴミを年に１回でもいいので回収に来てくれると助かると思う。	女性	18～29 歳
	・年に何回かフリーマーケットの様に家庭の不用品の交換会など場所を決めて、何か所かに。そしてゴミを減らして地球にもやさしく。ほしい人には快く使ってほしい。幕別町の全体の取り組みをモデルにして欲しい。	女性	50 歳代

［教育・スポーツ・文化・国際交流］

小中学校教育	・４千数百人の子供達の競争力の強化の為に、学校の統廃合を実施し、10 年先を見据える。他市町村の子供達から見ても、現在は”ゆったり”している。（地域振興だけの時代ではない）	男性	60 歳代
	・若い人達が、希望を持って生きることができるまちづくりをしていただきたいと思います。まずは、義務教育の中で、落ちこぼれる生徒が減るような教育の場を望みます。現場の教師が、雑用などの負担が減り、子供達とじっくり向きあえるような環境を整えて下さい。	女性	50 歳代
	・中学生のカバンが教科書で重すぎます。通学時間が長いため、部活動後は特に、ぐったりして帰宅します。置き勉等いわれていますが、子供が家でその日何を勉強すべきなのか考えて持ち帰る事の方が、子供が自ら判断し、勉強に向かわせます。是非一度検討して頂きたいです。	女性	40 歳代
障がいのある児童の教育	・環境適合できない子への育成。	女性	50 歳代
	・私達が子供の頃、子育てをしていた頃、クラスの中に必ずいた落ちつきのない子、変わった子…昔は別に気にしなかったのに、今はすべてではないけれど発達障害という病名（？）の中に入れられている事に驚かされる。最近テレビでも取り上げられているが、早い時期に本人も廻りの大人達もそれを自覚し支援していく事によって、その子の人生は生きやすくなるし豊かになって行くと思う。難しいかもしれないけれど、その子に合った支援の方法を学校の場でもとりあげてほしいと思う。	女性	70 歳以上
高校	・音更高校が何であんなに北にあるのか疑問。通学にバス代がかかり過ぎる。コンパクトシティ化を。	男性	50 歳代
	・音更高校の移転（緑陽台付近とか）や、私立高校の誘致等。又、大学でも良いと思うが、進学校が音更中心地に存在すると活性化して人口も増加する。特に農業科も必要と思う。	男性	50 歳代
	・音更町の人口から見ると、高校が１つ増加してほしい。	男性	60 歳代
芸術文化	・音更町文化センターの一般の有効活用。	女性	70 歳以上
	・図書館などの施設がありますが、活用方法を検討し、設備充実をはかり、町民が気楽に使用できたらと思っております。	女性	70 歳以上
	・美術館ができてほしい。	女性	40 歳代
スポーツ	・バークゴルフ場（PG）を無料にしてほしい。	女性	60 歳代
	・老人達が元気で生活出来る取り組みとして、パークゴルフのシーズン券を無料に出来るように希望します。病院に掛かる人が少なくなると思う。どうして音更町だけお金を取るのかわからない。	女性	70 歳以上
	・運動施設の充実。（陸上競技場など）	女性	18～29 歳
	・冬でもテニスができる施設がほしいです。	女性	18～29 歳
	・木野地区に体力維持の施設が有るといいと思う。冬期間、サンドーム・プールに行くのが大変。軽スポや学校開放がなされているのは知っていますが、団体等に所属できない人に施設がないと思います。	女性	50 歳代
	・町民マラソン～町民がだれでもできる、参加できるもの。	男性	50 歳代
青少年の健全育成	・町全体が子どもやお年よりに優しくなれたら、将来への考え方が変わったりするのかな。子供はお年よりとの関わりが少ない？昔の話や知恵を学ばせてもらえたら、何か感じないだろうか。町、社会、日本、世界、子どもが未来を切りひらいて行くのだから、教育、「育てる事」って大事だと思います。	女性	30 歳代
国際交流	・ホームステイや外国人留学生などを受け入れ、若者の活性化を図る。グローバル化した方が良い。交流の場がない。	女性	30 歳代

［都市環境、都市基盤］

公園や緑地	・子供向けの公園等。	女性	30 歳代
	・大型の遊具があったらいいと思います。	女性	60 歳代

	・大型遊具公園（音更のシンボルになるような）。忠類ナウマン公園や更別農村公園のような、広い土地に大型遊具、水遊び場、休憩スペース、広い駐車場、その一角に道の駅を造る。	男性	30 歳代
	・今子供が小さく（４歳と１歳）、遊べる場所がもっと充実していればと思います。一日中遊べる様な、大規模な遊具がある公園（更別にある様な）を作って欲しい。子供からお年寄りまでが楽しめるスポットにすれば、地域の交流も深まり良いと思う。子供の遊ぶ場所にもなり、お年寄りの体力作り（健康維持）にもなる様な施設。昼食などとれる場所を作り、そこに音更の農家さんが作った農産物等を使ったメニューをそろえる。雨天時にも使用できる様な環境であれば尚良いと思います。	男性	30 歳代
	・街路樹が大きくなり過ぎたとか落葉の問題等で切り倒したり（３号道路）、無雑作に頭を切り詰めたり（よつば乳業の裏）、せっかく植えて大きくなった街路樹をもう少し大切に知恵を出して管理してほしい。	男性	70 歳以上
	・町内全体に憩いの場（公園など）の充実。きめこまやかな施策を求めます。	男性	70 歳以上
	・市民農園があればと常々思っています。ぜひ整備・募集をお願いしたいです。	女性	40 歳代
公営住宅	・古い公営住宅は取り壊していくべきだと思う。景観も良くないし、防犯対策になると思う。空き家は、公営住宅や一般住宅、どちらもかわらないが、犯罪で使われる事もありそうなので、特に気を付けて生活はしているが、個人で出来る問題でもないので、町の方で良い方へ解決してほしい。	女性	30 歳代
上下水道	・上下水道使用料金の利用者負担軽減対策を行い、住みやすい町にしてほしい。家族が多いと、月１万以上の料金が発生する状況は、帯広市の倍額に近いと思うので、民間委託等で経費削減を実施して下さい。	男性	50 歳代
	・水道代が他の市町村より高いのは不満です。	女性	40 歳代
除排雪	・１人暮らしの高齢者が町内に沢山います。冬の除雪等すごく大変だと思います。そういう方々の事を考えて戴きたいと思います。	女性	60 歳代
	・市街地（住宅街）の除雪。ここ数年除雪が雑になって来ている。数年前は非常にきれいであったのに。	男性	60 歳代
	・除雪が遅く、勤務時間が早いため、車の運転が大変なので、もうすこし早く枝道も除雪してほしいです。	女性	50 歳代
	・除雪の時、雪のはね場所がないので大変にこまっています。	女性	50 歳代
	・除雪に対しては、音更はとてもきれいに除雪していると帯広の人は言っています。タクシーの運転手さんも、大橋こえると音更はきれいだ、運転しやすいと言っています。今後も、きれいに除雪をお願いします。	女性	60 歳代
道路、歩道	・国道 241 号の複線化の展望と計画を大きく浸透させてほしい。	男性	60 歳代
	・十勝大橋から音更に入る道路は車線がなく、渋滞をおこしています。車線を増やして渋滞を緩和して利用しやすい道路にしていただきたい。	男性	50 歳代
	・木野大通りの交通渋滞の解消。	男性	70 歳以上
	・帯広市へ通勤などしやすいように道路を整備する。	女性	18～29 歳
	・朝の通勤ラッシュの緩和。木野大通までに出るのが大変。それも時間がかかる（とくに冬）ので、道路整備等。	女性	40 歳代
	・生活道路が狭いので、子供達の事故が心配。	女性	50 歳代
	・アスファルトに切れ目があって走りづらい町道がある（体に振動が強い）。	男性	60 歳代
	・道路がわかりにくい。左折しかできないとか、右車線なのに直進だけとか、看板がある頃には割り込み、意外に車線変更が出来ないくらい混んでいる。	男性	30 歳代
バス	・長期休暇で天候不順時等、子供の移動手段としてコミバスを利用したいが、便が少ない。自分が高齢になった時、乗車時間に間に合うのか？	女性	40 歳代
	・コミバスの路線を考えてほしい。農家さんが多い地区や人が少ない地区にはバスが通ってないので、老人など車がなく、運転免許返納者などは足がないのでは？と思う。木野や宝来、音更本町などには路線があっても、通ってない地区の人はどうすれば良いのか？せめて、要望があれば週一回などの工夫	女性	50 歳代

	が必要だと思う。		
	・じいちゃんとばあちゃんが、コミバスの時間帯が少し不便だと言っています。	女性	18～29 歳
	・高齢者になれば、いずれ車を手放さなければなりません。そうなった時、ずっと車に頼って生活して来た私は、買物にも行けなくなりそうです。そんな時、コミバスよりももっと簡単で、自由に路線や時間が選べる交通システムがあれば、身体が動く限り一人で生活する事が可能になると思います。タクシーの様に玄関先から行けると良いのですが、代金が問題です。コミバスの帯広経由を作るとか、年間 10,000 円分のタクシーチケットを配布するとか。どこかの町が実施しているようですが、町に登録された車と運転して下さる方がいて、申し込むと決まった料金で遠距離でも行ってくれるとシステムも良いかと思います。高齢者が安心して車を手放せる"車システム作り"を考えて頂きたいと思います。高齢者の事故も減少します。	女性	60 歳代
	・高齢社会への対応や住みたい、住み続けたい音更にするためには、公共交通の整備が重要と考えます。特にコミュニティバスの運行については、利用者の声を取り入れて利用しやすいものに改善してゆく必要があります。その一つの案として、共栄コミセンを起点として、北周り、南周りにバスを分けて運行することで費用は現在と変わらずにして、本数を倍に増やすことが可能になると考えます。	男性	18～29 歳
	・高齢者が増加していくので、コミバスの効果的、効率的な運用の見直しが必要ではないか？	男性	70 歳以上
	・スクールバスの土･日・冬休みなどの一般活用。	女性	50 歳代
	・釧路・帯広間のバスを復活して欲しい。	男性	30 歳代
	・自家用車がなくても、音更町外（帯広市など）等に容易に移動できる交通手段。	男性	40 歳代
	・農村部から市街地への交通アクセス（免許のない人）を良くしてほしい。	男性	30 歳代
	・老人対策として、車の禁止（免許証の返納）に伴う、交通の確保。公務員の車での乗り合いタクシーを行う。	男性	40 歳代
情報通信	・ケーブルテレビがないので、帯広ケーブルテレビと連携できないでしょうか。	男性	50 歳代
	・農村地区での光回線が未だに復旧されていない、必要としている家庭までなど、少しでもいいので早急に対応して欲しい。スマホ、パソコン、ゲームなどをアップデートするとなると 1～3 日などありえないくらいの時間がかかってしまう。これは若者にとって非常に生活しにくい状況で、移住にも関わる重大なことだと思う。	女性	18～29 歳
まちの景観	・最近「グリーンインフラ」という用語を聞きかじりました（内容は良く分かりません）。広大な畑に取り囲まれた、市街地の私達に取りましても農村景観は我が事です。雑木林、防風林、この原風景を残すという事は文化だと思っています。若い人達（町職員、議員も）には町内外に視察に行ってほしいものです。（国内は音和の森から、海外も）彼らは開発の時代しか知りません。それに付けても、豊かな緑の河岸段丘の下に広がる音更本町は美しい町です。（春はこぶし並木の花見に出かけるほどです。）	女性	70 歳以上
	・木野西通り 18 丁目付近の残土、車輌の野積み等が目立ち、観光街道とうたっているが町内市街地域でもあのありさまである。ドローン等を利用して、空撮して現状を広く町民へ知らせるべきだ。音更川他町内の環境悪化は進んでいる。	男性	60 歳代

［産業］

商業、買い物環境	・イオンやユニクロ等、大型店を誘致すればもっと人が集まる。音更から出なくても暮らせるように。	女性	40 歳代
	・ハピオはものが高いので安くして欲しい。	男性	30 歳代
	・結婚を機に音更に越してきた者ですが、もう少し音更町内の商業施設や娯楽施設、飲食店などを充実させていただけると嬉しいです。若者が成人し、進	女性	30 歳代

	学しても地元に戻ってきたい、もしくは地元で就職したいと思えるような町になってくれるといいと思います。		
	・商業施設。フードコート等目立つたてものの建設。子供向けのお店。	女性	30 歳代
	・大手のカフェが音更にもできてほしい。イオンモールなどの大きなショッピングセンターができてほしい。	女性	40 歳代
	・複合（商業）施設がなく、イチイチ店から店へ移動するのが大変。旭川、釧路にあって、十勝にない店が多すぎる。買い物意欲が沸かない。	女性	30 歳代
	・駒場にお店がほしーい。	男性	40 歳代
	・本町の商業施設に取り組んでほしい。	男性	70 歳以上
	・本町の中に生鮮食品の店がＡコープ店しかありません。毎日の食事に足りないものが多々あります。また、買物で会う方々は年配の方が多く見られます。歩きの方、自転車の方など、自動車運転が出来なくなってきている人が多いのです。店が増える事によって街の中も活気が出てくると思われます。	男性	70 歳以上
	・買物に行ける体調でない時に、移動販売車等が近くまで来てくれると、産業、地産地消につながりそう。	女性	40 歳代
農業	・ＴＰＰ等の阻止。（関税引き下げ、外国からの農畜産物の輸入拡大阻止。）食料自給率の向上。	女性	60 歳代
	・音更産農産物の PR 不足を感じる。例として、STV ラジオ「日高晤郎ショー」に出演する等、帯広市や、広尾町の広瀬町長の様に道内外への PR に力を入れる！	男性	60 歳代
	・種子法廃止は絶対に許せません。日本一の小麦産地の音更町が、種子法廃止により、種子代が何倍にもなり、生産出来なくなります。又、遺伝子組換えの麦や大豆が、国内・道内で栽培される危険性が高まります。是非、音更町で対策して頂けるようお願い致します。	女性	60 歳代
	・土地改良事業に申し込んでも、面積坪が少ないので少面積しか出来なく、畑全体が一度に整備が出来ないので、一度に出来る様に枠を多くしてほしい。	男性	70 歳以上
	・農業に興味を持つ子供達が増える様な取り組み。	女性	18～29 歳
地産地消・食育	・ふつうのスーパーではあまりみかけない、インカのめざめとかヤーコンなどはクロスタウンに買いに行きます。価格がすごく高くなければ、地場産の食材は魅力的です。レシピがそえてあると助かり参考になります。町営のお店で買い物してスタンプ集めて、入浴割引などの特典があると良いなと思う。	女性	50 歳代
	・音更の道の駅の店。地産地消。他の町からも買いに来たいと思う店。とうきび狩りできる畑。大豆料理教室やレシピ作り。更葉園。障害者施設。ソーセージ販売。音更町の豚を使ってソーセージ作り。よつ葉から音更町民還元牛乳。人参料理教室、レシピ作り。ブロッコリー料理教室、レシピ作り。ごぼう堀り。体験講座。柳月、ケーキ作り、町民親子講座。	女性	50 歳代
	・音更町に来て４年。パン屋が少ないことに驚きました。小麦の産地であるのに、個人のパン屋さんがないこと、もっと支援をしたりして、おいしいパン屋さんがある町（スイーツだけではなく）としてＰＲにもなると思います。そして、農業王国であるのに物産が活発でないこと、新しいラララマルシェもいまいちです。高すぎます。もっと町を上げて町民がこぞって集まる物産館を希望します。それこそ地産地消につながると思います。もっと他町の活気のある物産館（芽室町や伊達市）の視察もされてはどうかと思います。	女性	40 歳代
	・直売所の充実。	男性	30 歳代
特産品	・町内で生産される農産物の加工品をブランド化。	男性	50 歳代
	・特産品などは、とてもおいしいし、でも高いですね。材料その他のことで安くは売れないです。おみやげとして、例えば、チーズ、プリン、ヨーグルト、一度は買っても２度目は買いません。他の地域の物もそうですが、すぐ飽きて買わなくなり、ブランドの名前も消えてしまいます。あの町へ行ったらあれが食べたいと思う物をどんどん開発していかないとならないと思います。例えば、十勝産の芋、あずきなどで、芋ワイン、あずきワイン、色々試行錯誤してはいかがでしょうか。難しいものもあると思いますが。今の時代、何でもありの時代ですから。	女性	50 歳代

企業誘致 起業支援	・ロボット開発など生産性向上に向けた実験都市の誘致。	男性	40 歳代
	・十勝の農産物を音更で加工する企業を誘致するため、国の力をかりて、補助金を付けてでも誘致した方が良い。農協の補助事業での施設整備並の事が出来ないか？働く場所も増え、音更町としての産業生産所得も大きく増えると思う。	男性	70 歳以上
観光地としての魅力づくり	・町内には、十勝川温泉以外に特に目立つ観光スポットは有りません。例えば紫築ガーデンのような、雪どけから、雪の降るまで長期間楽しめる花の観光一大スポットを造って欲しい。	男性	60 歳代
	・十勝川温泉の白鳥飛来地の開発について。鳥インフルの関連も有りますが、直接鳥にふれなくても餌やりができる高さ２ｍほどの展望台を造り、台の上から下のカモや白鳥に餌やりが出きたらと思います。	男性	60 歳代
	・高速道路の出入り口近くに、道の駅の様な充実した店舗で、わざわざそこに行って食べたい、買いたい、ただ行って見ても楽しいと思う様な、そこの店舗でしか食べられない、売ってない、既成的なものを売るのではなく新たな製品を開発して売り出す、それをして見たいと思う人材を集め、特産品を生み出す、雇用も生む様な繋がりにもなるのではないか？	女性	60 歳代
	・音更町はとても自然に恵まれた町です。そして、（廃れ気味ではありますが）温泉にも恵まれています。この自然、美味しい空気、温泉を楽しむための充実したサイクリングロードを造るとか。とっても中途半端なサイクリングロードは知っていますが、利用している人は居ますか？何か特色はありますか？中身がともなっていますか？	女性	60 歳代
	・メロディーラインの充実と、サブライン（キャンプ場に通じる道路）を整備して、サンデーウォーキングや歩くスキーをイベントとして取り組み、広く町内外に知らしめ、町内に多くの人が集まるような取り組もおもしろい。	男性	60 歳代
	・彩凛華など音更町が誇れるイベントをぜひ継続してほしいと思います。	女性	18～29 歳
	・夏の花火大会について。町民または町外の方が近くで見に来た時の駐車場の案内や、スペースの確保、臨時スペースなどの告知をして欲しい。	女性	30 歳代
	・音更の特産物などを使った食のイベントの開催。	女性	18～29 歳
	・音がつく町なので、音に関する取組が何か出来ないか？音更で音楽フェス開催誘致とか、観光や食の PR、経済効果もある。	女性	40 歳代
	・町内イベントの増加。毎年１回必ずある大きなイベントがあれば、毎年楽しみができるし、一つの所に町民だけではなく他の町の人も集まる。	女性	18～29 歳
	・十勝川のスパ施設等が活かされるような運営方法など、今後も期待したいです。	女性	50 歳代
	・泉質の良いモール温泉があっても、入浴料が高く、町民だが、なかなか行けない。もっと気軽に通年通して入浴して、そこで地場産のものを買ったり、飲食したり、ハナックなどももっと利用できると、良いかと思う。	女性	50 歳代
	・道の駅の改善（改築）。魅力的で、他市町村からの買物客であふれる希望に輝く道の駅にしてほしい。（参考～士幌町の道の駅を見学されたい）	男性	70 歳以上
	・道の駅の充実をはかってほしい。他の町の道の駅には行きたいと思うけれど、音更の道の駅は今まで２、３度しか行ったことがない。	女性	70 歳以上
	・道の駅は、キレに今らしくしてほしい。どの市町村も道の駅をキレに、発展させて、観光のひとつにしていると思う。高速道路の近くか、今ある場所がいいのでは。十勝川温泉のところは、ガーデンスパができたので。ガーデンスパにも子どもが遊べる遊具がほしい。	女性	30 歳代
	・道の駅は場所が良いので、拡大して、ドッグランや、野菜直売所、足湯、トッピングリクエストピザ、カフェ、料理教室のできるキッチンスタジオ、広いパーキングと美しいトイレ。いろいろ作れば、もっともっと人が集まれると思う！もったいない気がします。大型車は道路沿いにとめないようにしておくこと。泊まる人もいるし、道路～建物が見えなくなる。士幌のようなパーキングではなく、千年の森やエコパの様にしたほうがいい。旅感がでる。	女性	50 歳代
	・道の駅を老若男女が楽しめる様な憩いの場にし、特産物と新鮮な野菜など販売して欲しい。	女性	40 歳代

	・地域物産や特産品等の開発と観光スポット作り等、魅力ある町作りが重要かと思います。	男性	60 歳代
	・人寄せの音更町でなく、外部に発信する為に、観光に重点を置き、農業とのコラボ政策の検討。	男性	60 歳代
	・ベッドタウン的な印象が強いので、町民以外にも立ち止まってもらえる様な、あるいは、それを目的に音更に宿泊してもらえる様なイベントや施設があればいいな。（具体的には思いつけないけど。）道の駅や温泉街の物産店の強化や、イベントとか…温泉街って、さびしい感じになっているから、もっとキレになるといいな。	男性	40 歳代
働く場	・就職先（パート・アルバイトを含め）のあっせん、相談。内職や軽作業のあっせん。（実際、持病や妊娠中で働くことができないが、少しの収入でもあれば助かるという人は多いと思うので、そういった方をメインで）	女性	18～29 歳
	・若者の働く場。（企業誘致等）	女性	60 歳代
	・ブラック企業のぼくめつ。	男性	18～29 歳

［行政運営など］

広報紙やホームページ	・町内会に入っていないと広報を見ることができないしくみは、どうにかならないでしょうか。全戸配布は考えていないのでしょうか。	女性	30 歳代
	・広報紙がおもしろくありません。読みたくなるような広報紙を望みます。	男性	40 歳代
	・広報紙は遅いですが、行政区で回ってきていますので読ませて頂いております。	女性	60 歳代
	・行政側との懇談会の出席者は、どれ位いるのでしょうか。町内会に加入していない人は、その内容すら知り得ないことが多い様です。町の取り組みや懇談会の内容を映像化して、公共施設（コミセンや支所、図書館など）で流すのはどうでしょう。	女性	50 歳代
まちのＰＲ	・音更町の知名度が低いと思うので、インパクトのある PV（プロモーションビデオ）作成とか。いろんな音（音更の産業や町の音）を集めて曲にするとか。	女性	40 歳代
	・音更町の知名度をもっと上げる、そのためには温泉を利用すべき。	男性	60 歳代
移住、定住	・移住・定住について。帯広市に隣接し、医療・教育・福祉・消費が充実しているメリットをアピールして、農業を始めたいと思っている人に対し、①農地の貸与②技術の教育③初期投資への補助　などをＰＲすることにより、脱サラ、元気な老人が目を向けるのではと…	男性	60 歳代
	・空き家問題など出る前に、移住のアピールなどしてはいかがでしょう。	女性	70 歳以上
協働のまちづくり	・今後とも町内会と行政が頻繁に連携を計り、あらゆる面に新たな取り組みの意見の集約を。	男性	60 歳代
	・自分が町議会議員さんなどと仲良くして、意見を言わないのが悪いのですが、できれば話す機会を増やしたり、農業の発達と振興のため町独自の活動も考えて欲しいです。	男性	40 歳代
	・町内には色々な面で弱い立場の人が沢山います。例えば、身体障害者、病人（病人が家庭にいるため働けない人を含め）、離婚して、子供が小さいためフルタイム働く事が出来ない人等々。その様な人達は、声を上げたくてもあげられない人が多いです。そういう人の声を聞いて行政に反映させて下さい。経済的弱者を救済できない政治・行政は無意味です。町の有力者と云われる者は、”有力者とは真の意味を自身に問い直した方が良いのでは？”と思える人が居ますネ…。立派な人も勿論います。	男性	60 歳代
	・役場は自力で不可と感じたなら、町民からの意見を聴き入れて役場自体の活性化に勤めて頂きたいのです！！十勝で帯広市に次ぐ人口をかかえる我が音更町です。もっと活気を出して一丸となって町を盛り上げて頂きたい。役場内の活性化とやる気をふるい立たせて頑張って頂きたい。	男性	70 歳以上
役場窓口・	・窓口の土日祝対応を実現。職員を増やして対応は難しいと思うため、パート職員を増やしてサービスするか、”予約”の導入により実現しては？	男性	40 歳代

サービス	・役場の人達の態度がわるい。	男性	18～29 歳
	・役場の人達の教育を改めてもらいたい。初めて来た時にかなり雑な対応をされ、行くのが億劫になりました。	女性	18～29 歳
行財政運営	・町民税を低くする！	男性	18～29 歳
	・民間人や特に民間経営者（大手）等外部から人材を取り入れ、行政改革や職員能力向上の教育等を実施すべき！	男性	50 歳代
	・町議の人数が多すぎる。役場の職員が多すぎる。水道料金が高いと思う。こんなアンケートを 1,000 人に書いてもらって何がかわるのか。印刷代、郵便代の無駄ではないのか。回収率はどの位なのか。もっとやることはたくさんあるのではないか。職員の対応もとても悪い（特に電話）。	女性	50 歳代
	・農業振興の設問が多いが、農家さんはつぶれる事はないので、早期な対策は必要がない。やる事は、民営化や民間企業の誘致、ムダな経費等削減をしてほしい！	男性	50 歳代
	・限られた予算を如何に有効活用するか、視点の見直し図る。	男性	60 歳代
	・住みやすい町とは、住民の負担が少なくなること、すなわち福祉が充実していることだと思います。職員数の削減、人件費の抑制、補助金の整理、合理化、使用料、手数料の費用負担の適正化は、それに逆行する響があります。公共施設の民間委託や整理、合理化なども住民の立場に立ったものなら良いのですが、かえって住民負担が増える、使用が不便になるような方向なら、逆に住みづらい町になります。	女性	60 歳代
	・常時平凡な視点で町議会議員を見ているが、町民の意向を聴いて「課題」を設定、その一環として視察という実務場面を体験し、そのことが議会で論議し町民に結果を報告する…荒いプロセスではあるが、住民あっての町議、即ち間接民主主義に任じる代表であることを忘れないでほしい。この様な自治体におけるイロハのイが理解されていなければ、設問に答えることが自分としてはできない。	男性	70 歳以上
	・町の土木などの技術の継承が課題となってきています。昨年の災害の対応などを見ても技術的に経験の多い職員が少なくなってきていると思います。技術職員の採用は不可欠なのでしょうが、技術者を育成し、技術力を継承していくことが難しい時代になってきました。そこで官民の協働・連携として、行政から民間への出向制度を作るのはどうでしょうか？　入札の平等性など課題はありますが、民間の技術を学ぶことはプラスになると思います。これまで、国・道などは人手不足を理由に支援として民間が行政に出向している例はありますが、その逆の発想です。また、民間経験者の中途採用などを行っていますが、結局、音更町や十勝全体の技術力、技術者育成としては、プラスになりにくい。町で育成できないのであれば、育成する方法を考えなくてはならない時期だと思います。	男性	40 歳代
	・町政全体に形式を重視するのではなく、具体的、中身の充実を図る。	男性	70 歳以上
	・選挙の時に毎回思うことですが、無投票が当然のように続きますが、住民の立場に立つ代表を町政に送る大切な選挙でもあるので、なるべく無投票がおこなわれないよう、見直しなども必要かと考えます。	女性	70 歳以上

［その他］

その他の分野	・住んでいる自分の町をよく知ることで活気が生まれると思います。月別でのイベント（畑ツアー、温泉めぐり、十勝川生態観察など）を町民割のお得感を付加して開催する。時間も昼・夜（夕方）で開催して欲しい。	女性	50 歳代
	・これからは、人口を増やすことは難しいと思うが、現状を維持する努力をお願いしたい。市街化区域内の未利用地（農地）は宅地化するよう地主に働きかけるなど。	男性	70 歳以上
	・財政の為にはしかたがないのかも知れませんが、あまり団地をつくらないでほしい。（どこへ行くのも車で混雑）。	女性	60 歳代
	・音更町の住所は非常に分かりづらいです。たとえば、木野大通り西とは、未だに分かりません。音更町西・丁目・番地を分かりやすい住所にしていただ	男性	50 歳代

	きたい。		
	・コンパクトシティの形成。	男性	40 歳代
	・柳月スイートピアガーデン周辺にトラック運転手の休憩スペース（駐車場）も併設。	男性	30 歳代
	・高齢者なので、お金のかからない合同墓をお願いします。	男性	60 歳代
	・再生エネルギーを積極的に誘致し、町全体で北電に頼らないエネルギー対策の取組。	男性	40 歳代
	・都市ガスの整備。	男性	60 歳代
	・パーク場や運動施設を利用する人、公共施設を利用する人など人それぞれです。河川敷の緑の広場をながめて満足している人もいます。今迄整備をしたものを、利用する人が少ないとかで放置するのではなく、今迄通り管理願いたい。	男性	70 歳以上
	・国保の自由化（入らなくてもいいようにする）。国保の値段の見直し。	男性	18～29 歳
	・年金受取年齢を 70 才以上にする考えはやめてほしい。	女性	50 歳代
	・本町には重要な公共施設が多い。それに比較すると木野地区は少ない。住民の半数以上が住み、又、税関系収入も多い木野地区に、近代的な施設をつくるべき。	－	70 歳以上
	・木野には支所はあるが、各種機関が本町周辺に集中している。音更町であるがゆえに理由があると思えるが、より大きな町のほうにも、様々な新しくできるものを考えてもいいのではないか。不便を思う人も多いのでは。	男性	60 歳代
その他	・ここに住みたい、と思われる様なメリットを発信していかないと結局帯広に流れていくと思うので、親から、子供からしても住みやすい町づくりが重要だと思います。	女性	18～29 歳
	・どこへ行っても高齢者が多すぎます。もっと若い、町づくりを！	女性	30 歳代
	・どこを見てもどの商売も同様にですが、人手不足が深刻だと思います。学生のアルバイト募集の記事もよく目にします。私の職場（福祉）もそうですが、コンビニひとつみても、外食産業にしても、お店が忙しく手が廻らない状態をよく見かけます。活き活き活気ある町づくりにかかせないもの、明るい人間関係を築ける町づくりかと思います。人材育成に…人が集いたくなる環境づくりを望みます。	女性	40 歳代
	・どんな人（高齢者、障害者、子供、町民）にもやさしい町作りを、町長さんをはじめ、役場の方に期待したいです！！	女性	50 歳代
	・音更に住みたいと思う生活空間（仕事、教育、福祉）がある様にする。	男性	50 歳代
	・市でありながら人口２～３万人の空知地方の市や、どんどん過疎化している道内の各町村からみると、当地の住み良さは、きわ立っていると思います。これには、帯広の衛星都市であること、立地条件（十勝の中心）の良い事、平地が多い（農地も多い）、音更川、十勝川があること、極端な企業城下町でないこと等があると思います。まだまだ伸びしろがあると思いますが、消費することだけに特化することなく、無制限に成長することを突っ走るだけでなく、バランスの良い音更町になることを願っております。私は音更町で生活出来て、本当に幸せです。町の職員の皆様には感謝しております。	男性	70 歳以上
	・町民に「やさしい町づくり」だと心から思う。町民に愛されてこその町なので。せっかく音更は住み良い町。これからも住み続けたいのでどうぞよろしくお願いします。	女性	50 歳代
	・幼児から高齢者まで、全ての世代にそれぞれの役割と居場所がある。そのような温かで風通しの良い、交流がある町であることを音更の町づくりに望んでいます。全ての世代が混在して、迷惑をかけ合いつつも、手を差し伸べ合う健康で温かな町、音更。例えば今、学校に行きたくても行けない不登校児が数多いときいています。ふれあい教室をゆうゆうの傍に移し、その子達とデイサービスに通うお年寄りの交流、助け合い、育て合い等、社会の中で生き、辛さを感じている人々、子ども達が関り合う中で「自分も役に立つ」と確信していけるかもしれません。	女性	60 歳代

	・音更は好きな町なので、ぜひがんばってほしい。	女性	30 歳代
	・私自体高齢者の部類に入り、町政にどうこう云う事は、あまり深く考えないように過ごしています。これからの老後を普通に暮らせる行政に取組んでいただけたら幸せです。	男性	70 歳以上
	・他の市町村に比べて、異常に困窮世帯に対してきびしすぎる。優しさが全く感じられない。	－	50 歳代
	・地方から引っ越して来て、なかなか地域になじめない。一方、一旦外に出れば親しそうにして来る。このギャップはなんだろうと思う。広く意見を求めながらも、結局現状維持になってしまう。	女性	60 歳代
	・ぼう大なアンケートにギブアップ。老婆心の断片です。	女性	70 歳以上
	・アンケートの内容は、自分がわからない分野のことが多かったです。よくわからないところは全部「普通」に○をつけました。教育の事は自分のこととして考えました。生活や福祉の事をきかれても、よくわかりません。だからあまりあてにならないと思います。	女性	18～29 歳
	・このアンケート…。いかに自分が町政のことに、関心がうすいかを自覚しました。ABCDE の前に”わからない”ことが多かったです。	女性	50 歳代
	・返信日まで返送できなかったのでアンケートをポイしようと思いましたが、37,000 人の中の 1 人に選ばれたのですから、意見をまとめました。内容を読んでいて、今まで音更に縁があり長年住んでおりましたが、静かに、何事も強い不満もなく、暮らしておりました。これから、あらためて、音更町内の事に関心を持って行こうと思います。	女性	60 歳代

Ⅳ　調査票

まちづくり町民アンケート

町民の皆さまには、日ごろから町政に対するご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

音更町では、「第５期音更町総合計画」（※）をもとにまちづくりを進めており、この計画を推進していくうえで、町民の皆さまからご意見を頂きたく、「まちづくり町民アンケート」を送付させていただきました。

このアンケートは、町民の皆さまと行政が一体となってまちづくりに取り組んでいくため、皆さまの、まちづくりに対する将来の方向性や考え方をうかがう大変重要な機会であり、毎年実施しているものです。

この度、音更町にお住まいの１８歳以上の町民約３７,０００人の中から、無作為に１,０００人を選ばせていただきました。

時節柄お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ぜひこの機会にまちづくりに対するお考えをお聞かせいただきたく、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

平成２９年６月
音更町長　　小 野　信 次

※「第 5 期音更町総合計画」は、まちづくり全般にかかわる町の最上位計画です。この中で、まちの将来像を掲げ、産業の振興や環境、教育、福祉など、まちづくりの全分野にわたって取り組む内容を示しています。内容は、音更町のホームページでご覧いただけます。

http://www.town.otofuke.hokkaido.jp/town/zaisei-keikaku/keikaku/otofuke-soukei5-minaoshi.html

＜このアンケート・回答について＞

◆ 「名前」は不要です
回答はすべて統計的に処理します。個人が特定されることはありません。

◆ ご自身が回答できないとき
封筒の宛名の方がアンケートの対象ですが、その方が回答できない場合は、ご家族の方（１８歳以上の方）などが回答してください。

◆ ＊月＊＊日（＊）までにご回答ください
回答後は、同封の「返信用封筒」に入れて、郵送してください。切手は不要です。
このページの左右にある▶を目安に、３つ折りで封入してください。

◆ お問合せ先
音更町役場 企画財政部企画課企画調整係　TEL (0155)42-2111(内線 212･213)

【問１】音更町での暮らしについておたずねします。

（１）次の各分野について、「①現在の満足度」と、「②今後の重要度」を、選択肢（Ａ～Ｅ）から選んで、①②それぞれに○をつけてください。

「①満足度」「②重要度」のそれぞれに、○を１つ

《記入例》

項　　目	①現在の満足度					②今後の重要度				
	A 満足	B やや満足	C 普通	D やや不満	E 不満	A 重要である	B やや重要である	C 普通	D あまり重要ではない	E 重要ではない
各種イベント	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

保健・医療・福祉について

1. 子育ての環境や支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
2. 健康づくりや病気の予防	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
3. 病院・診療所などの医療環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
4. 高齢者の自立支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
5. 障がい者（児）の生活支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

生活環境や安全・安心について

6. 男女が等しく社会参加できる環境づくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
7. 町民ボランティア活動の育成・支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
8. 消費生活に関する情報提供や相談体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
9. 町内会活動などのコミュニティ活動	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
10. 交通安全への取り組み	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
11. 地域での防犯対策	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
12. 消防・救急体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
13. 自然災害などに対する防災体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

環境保全について

14. 自然環境の保全	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
15. 騒音・振動・悪臭などの公害防止	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
16. ごみの収集・リサイクル	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

教育・スポーツ・文化・国際交流などについて

17. 生涯学習の情報や機会の提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
18. 小・中学校の教育環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
19. 障がいのある児童などの教育環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
20. 芸術文化活動の促進	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
21. 芸術文化施設の充実	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
22. 文化財や史跡の伝承保存	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
23. スポーツ活動の推進	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
24. スポーツ施設の充実	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
25. 青少年の健全育成	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
26. 国際交流・都市間交流	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

項　　目	①満足度					②重要度				
	A 満足	B やや満足	C 普通	D やや不満	E 不満	A 重要である	B やや重要である	C 普通	D あまり重要ではない	E 重要ではない
都市環境や都市基盤の整備について										
27. 公園や緑地の整備・管理	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
28. 公営住宅環境の整備	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
29. 上下水道の整備	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
30. 道路や歩道の除排雪	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
31. 道路の整備・管理	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
32. バスの利用のしやすさ	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
33. まちの景観	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
産業の振興について										
34. 日常の買い物環境	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
35. 中心市街地のにぎわいづくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
36. 農業の振興	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
37. 地産地消・食育の取組	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
38. 企業誘致や企業活動の支援	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
39. 観光地としての魅力づくり	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
40. 働く場の確保	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
その他行政運営について										
41. 広報紙やホームページなどの情報提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
42. 町民と行政の協働によるまちづくり体制	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
43. 窓口での対応や窓口サービスの提供	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E

（２）これまでの全43分野の中で、今後のまちづくりに特に重要だと思うものを、優先順位の高いものから順に５つまで番号をお書きください。（　□「1～43」の番号を記入）

（３）また、（２）で選んだ分野（番号）について、特に実施すべきと思われることがあれば、具体的にお書きください。（　　に記入）

	番号（1～43）	左の番号に関する、具体的な内容
１番目に重要		
２番目に重要		
３番目に重要		
４番目に重要		
５番目に重要		

【問２】総合的にみて、現在の音更町の住み良さはいかがですか。次の中から１つだけ○をつけてください。

1. 住み良い
2. どちらかといえば住み良い
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい
5. 住みにくい

【問３】これからも音更町に住み続けたいと思いますか。次の中から１つだけ○をつけてください。

1. 今の場所に住み続けたい
2. 町内の別の場所に移りたい
3. 近くの市や町村に移りたい　⇒　［例えば：　　］
4. 道内のどこかへ移りたい　⇒　［例えば：　　］
5. 道外に移りたい　⇒　［例えば：　　］

【問４】前問（問３）で、３～５ に○をつけられた方におたずねします。
町外に移りたい理由は主にどのような内容ですか。次の中から３つまで○をつけてください。

1. 自分にあう仕事（職場）がないから（自分の力を発揮できる仕事をしたいから）
2. 商売や事業経営に不利だから。生計を保つ収入が得られないから
3. 勤務地や通学地が遠いから
4. 交通が不便だから
5. 自然条件が厳しいから（冬の寒さ、雪など）
6. 災害や交通事故、犯罪などが不安だから
7. 騒音・振動・悪臭などの公害が多いから
8. 住宅環境が悪いから
9. 土地代・家賃が高いから
10. 医療や福祉面が不安だから
11. 進学や子育て環境など、子どもの教育上の問題から
12. 人間関係や近所づきあいがうまくいかないから（今後不安だから）
13. 買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから
14. 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから
15. その他（　　）

【問５】音更町の産業を振興するために、どの分野に力を注ぐべきだと思いますか。次の中から２つまで○をつけてください。

1. 農業の振興
2. 商業の振興
3. 既存の製造業や建設業の振興
4. 工場などの企業誘致
5. 福祉や情報、教育など新たな事業所の誘致
6. 観光・交流関連産業の振興
7. 地域物産や特産品などの開発・振興
8. 起業の支援
9. その他（　　）

【問６】音更町の農業を振興するために、どのようなことに力を注ぐべきだと思いますか。次の中から３つまで○をつけてください。

1. 土地基盤の整備
2. 農村部の環境や景観の向上、保全
3. 経営の合理化や近代化
4. 低農薬・無農薬栽培、土づくりなどによる安全な食べ物づくり
5. 流通・販売対策の強化
6. ブランド化、製品開発など付加価値を高めるための取り組み
7. 観光・体験型農林業の育成
8. 後継者、農業労働力の確保、育成
9. 学校給食や飲食店などでの消費（地産地消）
10. 直売所などの、生産者と消費者が直接ふれあう環境の整備
11. その他（　　）

【問７】音更町で農業とのかかわりを深めるために、どのようなことがしたい（できる）と思いますか。次の中から２つまで○をつけてください。

1. できるかぎり地元の農畜産物を食べたい（家族や友人に食べさせたい）
2. 地元の農畜産物を贈答品などで利用したり、町外にＰＲしたい
3. 農地を借りるなどして、自分で耕作したい
4. 自分の経験や技術を、音更町の農業振興に役立てたい
5. 農業を体験したり、学びたい（体験させたり、学ばせたい）
6. その他（　　）

【問８】音更町のまちづくり（行政活動）や町民参加に関する、６つの項目について、それぞれどのようにお考えですか。選択肢（Ａ～Ｄ）から選んで、それぞれ１つ○をつけてください。

項　　目	Ａ そう思う	Ｂ やや思う	Ｃ あまり思わない	Ｄ そう思わない
１）音更町の行政活動に関心がある	A	B	C	D
２）音更町の行政活動には町民の意向が反映されている	A	B	C	D
３）音更町の行政活動は、町民の意見を聞く機会が充実している	A	B	C	D
４）音更町の行政活動は、町民に対する情報提供が十分に行われている	A	B	C	D
５）「町政声のポスト」やパブリックコメント（意見募集）などの機会を利用し、音更町の行政活動に意見を述べたい	A	B	C	D
６）審議会や町民会議など、音更町の行政活動に意見を提言する機会に参加したい	A	B	C	D

【問９】音更町では、「まちづくり基本条例」を定め、『町民協働によるまちづくり』を進めています。このような「町民協働によるまちづくり」を進めるうえで、重要だと思うものに○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

1. まちづくりへの提案や提言の機会を増やす（アンケートや意見提案など）
2. まちづくりに関する計画をつくる際に、町民が参加できる機会を増やす（町民と行政がまちづくりについて共に考える機会を増やす）
3. まちづくりに関する情報（行政からの情報・町民が持つ情報）を共有する
4. 町民協働によるまちづくりの考え方を広くＰＲするため、町民が参加できるイベント・事業を実施する
5. 町民や各種団体などの主体的なまちづくり活動の支援を拡大する
6. 町民が打ち合わせや作業のできる活動拠点を整備・充実する
7. 日頃から町民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める
8. その他（　　）

【問 10】まちづくり活動に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。現在参加されているものも含め、○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

1. 美しいまちをつくるための“花などを植える活動や清掃活動”
2. 地域の自然を守り育てる“自然保護・愛護活動”
3. 資源のムダづかいをなくし環境を守る“リサイクル活動や省資源活動”
4. 高齢者や困っている人たちの見守り・声かけ、支え合いなど“地域福祉活動”
5. 小さい子どもや子育て中の人を応援する“子育て支援活動”
6. 郷土の歴史や文化を学び、後世に伝える“歴史文化活動”
7. 子ども会やＰＴＡ、健全育成組織などを通じた“児童・青少年の育成活動”
8. スポーツ・保健事業への参加・協力など“スポーツ・健康づくり活動”
9. 安全な暮らしを守る“交通安全・防災・防犯活動”
10. 祭りやイベント行事の運営協力など“イベント活動”
11. ホームステイの受け入れや交流事業の支援など“国内外との交流活動”
12. まちの案内やＰＲをするなど“観光案内活動”
13. 特産品の開発・ＰＲや観光スポットづくりなど“まちの魅力を高める活動”
14. まちづくりの企画・研究やリーダーなど“まちづくりの推進役”
15. その他（　　）

【問 11】まちづくり（町政）や地域に関する情報を伝える方法として、何を充実（重視）すべきだと思いますか。次の中から２つまで○をつけてください。

1. 町の広報紙
2. 町のホームページ、携帯サイト
3. 町内会を通じた回覧など
4. 新聞記事など
5. メールの配信
6. その他（　　）

【問 12】音更町では、毎月１回発行の「広報おとふけ」と、町のホームページ（http://www.town.otofuke.hokkaido.jp）で、町の情報をお伝えしています。これらをご覧になる頻度(ひんど)について、あてはまる番号を選んで、１）と２）それぞれ１つ○をつけてください。

１）「広報おとふけ」を見る頻度(ひんど)（ペース）	1. 毎月読んでいる 2. 必要・関心のある時だけ読んでいる 3. まったく読まない 4. 届かない、入手できない
２）音更町のホームページを見る頻度(ひんど)（ペース）	1. 週に２回以上 2. 週に１回ぐらい 3. 月に１～２回ぐらい 4. 年に数回 5. （見ることはできるが）見ない 6. （見たいと思うが）見ることができない

【問 13】まちづくり（町政）や地域に関する情報として、どのような内容を望みますか。次の中から３つまで○をつけてください。

1. 町の政策や事業、予算などに関する情報
2. 各種制度の内容やそれを利用するための情報
3. 防災や消防・救急、医療など非常時に備える情報
4. 健康づくりや病気予防、各種検診などに関する情報
5. 子育てや子どもの教育、健全育成に関する情報
6. ごみの減量化や省資源、リサイクル、環境保全に関する情報
7. 福祉に関する情報
8. 公共施設やその利用方法に関する情報
9. 生涯学習や文化・スポーツなどの各種講座・教室に関する情報
10. 町内の自然や歴史、名所などに関する情報
11. 町や地区の行事、イベント、町民活動などに関する情報
12. ボランティア活動全般に関する情報
13. 国や北海道、周辺市町村に関する情報
14. その他（　　）

【問 14】音更町では、「住み続けたい、住んでみたいまち」をめざし、住環境の整備や働く場の確保、コミュニティ活動の支援などを行っています。今後、さらに「本町への移住・定住」を促進するために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から２つまで○をつけてください。

1. 音更町内に、住宅を建てやすいようにする（宅地を増やすなど）
2. 音更町内にある民間住宅に入居しやすくする（家賃の補助、空き家の活用など）
3. 音更町内で働ける場を増やす（企業誘致、起業しようとする人への支援など）
4. 子どもを産み育てやすいまちにする
5. 年齢や障がいに関わらず、住みやすいまちにする
6. 住んでいる人同士が地域で交流や活動を行いやすいようにする
7. 音更町の魅力を、もっと町外にＰＲする
8. その他（　　）

【問15】音更町の行政改革を進めるうえで、重点をおくべき項目を選び、３つまで○をつけてください。

1. 町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり
2. 職員の意識改革、能力向上などの人材育成
3. 職員数の削減、人件費の抑制
4. 町民参画による事業の検討、実施
5. 行政評価の導入（費用対効果の分析、評価システムの導入など）
6. 補助金などの整理、合理化
7. 使用料、手数料などの利用者の費用負担（受益者負担）の適正化
8. 事務や公共施設の管理運営などの民間委託
9. 町有地や公共施設の整理、合理化、有効活用
10. 窓口サービスの向上（申請、届出などの簡素化・ワンストップサービス※）

    ※ワンストップサービスとは、１つの場所で手続きなどが済むようにすることです。

11. 情報公開の推進
12. 近隣市町村との連携の強化と効果的・効率的な広域連携事務の推進
13. その他（　　）

【問 16】将来にわたり持続可能なまちづくり（行政運営）を進めるために、大胆な見直しも必要です。音更町の今の制度や施設、事業など、今後、なくしたり廃止しても良いと思うものがあれば、具体的にご記入ください。

【問 17】今後のまちづくりに対し、①新たな取組み、②重点的に行うべき取組み、③アイデアやご提案、④その他、がありましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
いただいた回答をより有効に活用するため、回答された方についておたずねします。
この回答から個人を特定することはありません。ご協力よろしくお願いします。
１）から７）までのそれぞれに１つ○をつけてください。

１）性別	ア．男性　　イ．女性
２）生まれたところなど	ア．音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる イ．音更町で生まれ、その後町外に引っ越したが、現在音更町に住んでいる ウ．音更町外で生まれたが、現在音更町に住んでいる
３）音更町に住んでいる年数	※一度町外に転出後、戻って来られた方は合計の年数で選んでください。 ア．5 年未満　　イ．5 年以上 10 年未満 ウ．10 年以上 20 年未満　　エ．20 年以上
４）勤務先又は通学先	ア．音更町内　　イ．帯広市　　ウ．その他
５）居住地	※この用紙の裏面（P.11）に「ア～カ」の詳しい行政区・町内会名を掲載しています。区分が分からない方は「キ」に○をつけて、（　　）に、行政区名や町内会名を直接お書きください。 ア．農村部 イ．駒場地区 ウ．音更市街 エ．木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区を含む） オ．宝来・ひびき野市街 カ．十勝川温泉市街 キ．区分が分からない（　　）
６）年齢	ア．18～24 歳　イ．25～29 歳　ウ．30～34 歳　エ．35～39 歳 オ．40～44 歳　カ．45～49 歳　キ．50～54 歳　ク．55～59 歳 ケ．60～64 歳　コ．65～69 歳　サ．70～74 歳　シ．75 歳以上
７）職業（複数ある場合は主なもの１つに○を）	※アルバイト・パート等の方も、仕事の業種で選んでください。 ア．農林漁業　　イ．製造業・建設業 ウ．商業・サービス業・金融業など　　エ．医療・福祉関係 オ．公務・団体等勤務　　カ．その他の職業 キ．学生　　ク．家事専業（主婦・主夫） ケ．無職

「居住地」の詳細（音更町内の行政区・町内会名）

※○は、このページではなく、裏面（P.10）の選択肢(ア～キ)のどれかにつけてください。

「ア．農村部」の行政区・町内会

（農村東部）豊秋、柏葉、東豊田、光、東平和、元林、北林、富士、忍、武儀、南武儀、勲、稲穂、瑞穂、南中新政、八千代、報徳、錦、稔、北昭和、西昭和、東昭和、中昭和、元昭和、昭和、福平、共和、音幌、長流枝、栄、北進、桜田、春日、相生、富丘、東旭、旭、栄進、栄進南

（農村西部）住吉、大和、東士狩、矢部、朝日、門前、東昭栄、昭栄、鎮錬、万年、高倉、鈴蘭、然別、南大和、（晩成園/東士狩）、上然別、北上、誉、東中音更、共進、大牧、西大牧、更生、共力、友進、西中、上牧、牧、北柏、南柏、大盛、下牧、北栄、光和

「イ．駒場地区」の行政区・町内会

中駒場、北駒場、西駒場、駒場、牧場、高校

「ウ．音更市街」の行政区・町内会

北開進、北明、新生、双葉、三交、親和、にこにこ、六新、七福、新緑、東新緑、東栄北、東栄南、東泉、泉、新泉、若葉、弥生、梢、花園、南花園、北花園、北陽台、柏寿台、桜が丘、雄飛が丘北、緑が丘、桜が丘西、雄飛が丘南区第１～３、雄飛が丘仲区第１・２、雄飛が丘中央団地、更葉園、東住吉、（老人ホーム）、桜が丘団地

「エ．木野市街（鈴蘭地区・緑陽台地区・共栄台地区を含む）」の行政区・町内会

大橋、千隆、木野２～９、木野西９～１１、木野新町、神田、すずらんの丘、中鈴蘭、清和、南鈴蘭、鈴蘭公園通、青葉、共栄、むつみ、共栄南、共栄高台、共栄団地、緑陽台北区第１・２、緑陽台仲区東・西、緑陽台南、緑陽、開進、９線大和、柳町北・仲、柳町南区東・西、緑街、（晩成園/緑陽台）、北蘭西・東・北・新町、すずらん台、あやめ、楓、共栄台北・南・東・中央

「オ．宝来・ひびき野市街」の行政区・町内会

藤ヶ丘、北藤ヶ丘、宝来第１～５、北宝来１～３、ひびき野西町第１・２、ひびき野仲町１・２丁目、ひびき野東町１・２丁目

「カ．十勝川温泉市街」の行政区・町内会

温泉